

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	口頭表現		口頭表現	
担 当 者	櫻木 紀子 <i>Noriko Sakuragi</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

発表力、即ち、まとまった内容を伝える能力を身につける。また会話力、例えば、発表時の質問に答える力を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

(1) 発表のための原稿作成。(2) インタビュ等、発音練習。(3) 発表練習。(小人数で又は2人一組で)(4) 全体への発表。

■成績評価方法・基準

原稿提出と授業中の作業課題の提出および発表で評価する。従って期末試験はなし。但し、いずれも60%以上であることが必須。

■授業の予習・復習

予習：原稿を準備持参する。

復習：各自、授業中与えられた注意点などを復習する。

■教科書

なし

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション。作文①	この授業への期待、決意等について考え書く
2	課題(1) 小人数に話す	添削された作文①の内容を話し、聞く練習
3	作文②面接を想定する	面接での問答集作成。小グループで。
4	課題(2) 作文②発表	2人一組で演じる。答える側は原稿なし
5	課題(3) 発表にコメントする	課題(2)の内容についてコメントを書く
6	課題(4) コメントを言う	・課題(3)を正確にしかも相手に配慮しながら言う
7	作文③問題提起練習	日常の事柄から問題提起をし、意見を述べる文を書く
8	課題(5) 発表(半数)	作文④を全体に話す。コメントを書き提出。
9	課題(5) 発表(半数)	作文④を全体に話す。コメントを書き提出。
10	作文④最終発表の原稿作成	発表原稿作成。
11	課題(6) 発表原稿推敲	添削された作文④を再度推敲する
12	課題(7) 発表(半数)	発表。コメントを書く。口頭でコメントする。
13	課題(7) 発表(半数)	発表。コメントを書く。口頭でコメントする。
14	課題(8) 発表を評価する	発表について自分で評価する
15	課題(9) 率直・婉曲に言う	教師に対する批判など言いにくい内容の言い方練習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	口頭表現		口頭表現	
担 当 者	中沢 佐企子 <i>Sakiko Nakazawa</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では、発表や質疑応答、ディスカッション等を通して、身近なテーマについて聞き手にわかりやすく話す練習を行う。話すだけでなく、内容を正確に聞くことも重視する。大学生にふさわしい質問の聞き方や敬語等の練習も行う予定である。

■授業の進め方（履修条件等）

テーマについて発表する。発表後には質疑応答がある。また、ディスカッションも行う。最後の発表のみ、前もって原稿を提出しフィードバックを受け、レジュメを作成してから発表する。毎回クイズを行う。

■成績評価方法・基準

テストはなし。発表、クイズ、コメントシートの提出、最後の発表の原稿提出とフィードバックを受けること、レジュメの作成、平常点の合計で評価する。

■授業の予習・復習

予習：次回の発表の準備しておく。

復習：授業で出てきた語彙を復習する。

■教科書

プリント教材

■参考文献

特になし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	説明する1	自己PRと質疑応答
2	説明する2	調べた内容について述べる
3	説明する3	調べた内容について具体的に述べる
4	感動を伝える1	自分の感動したものについて具体的に述べる
5	感動を伝える2	自分の感動したものについてわかりやすく述べる
6	ディスカッションとミニ発表	準備をしていないテーマについてディスカッションし、発表する
7	ロールプレイ1	敬語を使い、会話を作成する
8	ロールプレイ2	敬語を使った会話を発表する
9	意見を述べる1	自分の意見をわかりやすく述べる
10	意見を述べる2	自分の意見を具体的に述べる
11	意見を述べる3	自分の意見を簡潔にまとめて述べる
12	最後の発表1	レジュメを使い、わかりやすく発表する
13	最後の発表2	レジュメを使い、具体例を挙げて発表する
14	最後の発表3	レジュメを使った発表を聞き、質問する
15	口頭表現練習の総復習	ディスカッションとまとめ

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	口頭表現		口頭表現	
担当者	坂東 実子 Jitsuko Bando		対象学年	1年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

大学で学んで行くうえで必要な、口頭表現（スピーチ、プレゼンテーション、敬語劇）などを学ぶ。自分でテーマを決めて、アンケート調査・報告・考察したレポートを作成し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションする。作成したレポートやスピーチスクリプトをまとめた個人文集を完成させる。

■授業の進め方（履修条件等）

①「私のおすすめの本」の推薦文スピーチ。②敬語劇の台本作成と寸劇発表。③アンケート調査報告のプレゼンテーション。これらをまとめた個人文集を完成させる。

■成績評価方法・基準

上記の3つの課題への取り組みと、最後にまとめる個人文集の完成度で判定します。

■授業の予習・復習

予習は、授業で行っていることを考えてくる。復習は、返却された課題をPCで清書してメールで送る。

■教科書

教科書は使わず、毎回配られるプリントをファイルして持っていくこと。

■参考文献

特になし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業概要。課題①「私のおすすめの本」	メディアセンターで本を選び、紹介文を書く。A「だ・である体」
2 課題①B「私のおすすめの本」スピーチスクリプト	前週に書いた紹介文をB「です・ます体」のスピーチスクリプトに書きかえる。※A・BともにPCで清書してメールで提出。
3 課題①「私のおすすめの本」スピーチ練習課題③「アンケート調査レポート」導入	スピーチのポイント。練習。／アンケート調査レポートの計画書（テーマ・目的・動機）作成・提出。アンケート対象は敬愛大学国際学部1年生。
4 課題①「私のおすすめの本」スピーチ・審査課題③「アンケート調査レポート」研究計画書	順にスピーチし、審査用紙に記入・提出。／アンケート調査レポートの計画書見直し。
5 課題①「私のおすすめの本」スピーチ・審査続き課題③「アンケート調査レポート」質問項目作成	前週の続き。スピーチ・審査。／アンケート調査レポートの質問項目（4つの問いと各問の選択肢4〜6）作成。アンケートの結果を事前に考察する。
6 課題②「敬語劇」導入課題③「アンケート調査レポート」アンケート調査	敬語劇のグループ（4人程度）を決め、場面やシナリオを考える。／全員のアンケートに回答する。
7 課題②「敬語劇」シナリオ作成課題③「アンケート調査レポート」アンケート集計	グループごとに敬語劇のシナリオを作る。／アンケート集計結果から自分のテーマに関する解答を抽出し男女別の表にする。
8 課題②「敬語劇」練習課題③「アンケート調査レポート」アンケート結果考察	敬語劇のシナリオ修正・練習／アンケート結果と事前に考察したもの比べ、予想通りだったこと、予想外だったことを挙げ、その理由を考察する。
9 課題②「敬語劇」発表・審査課題③「アンケート調査レポート」レポート作成	敬語劇を発表し、それぞれの発表を審査する。／レポート・ハンドアウト作成
10 課題②「敬語劇」発表・審査続き課題③「アンケート調査レポート」レポート作成続き	敬語劇を発表し、それぞれの発表を審査する。※敬語劇台本をPCで清書しメールで提出。／レポート・ハンドアウト完成 ※メールで提出。
11 課題③「アンケート調査レポート」発表資料作成	PCのある教室で発表資料（パワーポイント）作成
12 課題③「アンケート調査レポート」発表資料作成続き	PCのある教室で発表資料（パワーポイント）作成。※メールで提出。
13 文集作成	PCのある教室で、文集（表紙、目次、課題①A・B、課題②シナリオ、課題③レポート・パワーポイント資料・あとがき）を作成する。
14 文集作成続き	PCのある教室で、文集（表紙、目次、課題①A・B、課題②シナリオ、課題③レポート・パワーポイント資料・あとがき）を完成させ提出する。口頭発表の練習をする。
15 口頭発表発表会、まとめの授業	パワーポイントを使って、アンケート調査レポートを口頭発表。／発表の後、完成した文集の返却を受ける。

シ
ラ
バ
ス

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	文章表現		文章表現	
担当者	櫻木 紀子 Noriko Sakuragi		対象学年	1年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

レポート作成能力を身につける。自分で書いた文章を添削・推敲する力を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

(1) 既習文法や語彙の使用条件等の復習。(2) 伝達内容の文章化、自ら添削。(3) 段落にまとめる練習。(4) 課題について作文。

■成績評価方法・基準

宿題提出と授業中の作業課題の提出。従って期末試験はしない。但し、いずれも60%以上であることが評価の必須条件。

■授業の予習・復習

予習：課題について考え、メモあるいは文章化したものを持参する。
復習：添削課題に注意する。課題の清書。各自自分の添削帳を作る。

■教科書

なし

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション。作文①	・情報収集と整理の練習。「他己紹介」を書く。
2 作文②の1：事実の整理	・普通体で書く事に慣れる。
3 作文②の2：復習練習	・教師の添削を参考に新しい課題について書きあげる。
4 作文③：自己紹介	自分の長所をアピールする表現を見つける。
5 作文④の1：3段落構成	段落を意識し書く練習。活用形のチェック
6 作文④の2：3段落構成復習	教師の添削を参考に新しい課題について書きあげる。
7 作文⑤の1：表作成。	表の分析をする。1文中の助詞のチェック
8 作文⑤の2：表作成復習	教師の添削を参考に新しい課題について書きあげる。
9 作文⑥の1：意見陳述練習	他者の意見に、理由をつけて賛否を述べる。
10 作文⑥の2：意見陳述復習	教師の添削を参考に新しい課題について書きあげる。
11 作文⑦の1：引用	「引用」の仕方の練習。
12 作文⑦の2：引用復習	作文⑦の1までを復習し、課題について書きあげる。
13 個人文集作成	これまでの原稿の最終見直し。
14 個人文集作成	印刷・提出
15 各自の文集について	反省などを発表する。級友及び教師からのコメント

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	文章表現		文章表現	
担当者	坂東 実子 <i>Jitsuko Bando</i>		対象学年	1年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

大学で学び、レポートや研究発表をする基礎となる文章表現の力を身につける。客観的分析と、主観的な判断も交えた考察をわけて、明快な文章が書けるようになる。大学二年生以降の学びに役に立つ個人文集を作成する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、当日のテーマの概要説明を受け、練習問題に取り組んだ後、作文設計図または、作文課題を授業時間内に書いて提出する。添削された作文を受け取ったら速やかにテキスト文書に打ち、教師にメール送信する。

■成績評価方法・基準

授業で書いた7本の作文が収録された「個人文集」の完成度と、毎回の授業や提出する課題への取り組みによって判定する。

■授業の予習・復習

予習は、授業で書く作文のテーマについて調べ、考える。復習は、添削・返却された自分の作文を、PCで清書し、教師にメールで送付。

■教科書

なし。毎回、ハンドアウトが出るので、ファイルしたものを持参すること。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業概要。作文①（説明文）作成。	客観的記述と主観的記述を書き分ける。三段構成の説明文を書く。
2 三段構成の意見文の導入。	作文①講評。作文②（意見文）の設計図を書く。
3 作文②。賛成・反対の意見文を書く。	作文②、自分の反対意見の側の主張にも理解を示し、それを踏まえつつ自分の意見を展開する作文を書く。
4 作文③（課題文を踏まえた意見文）設計図を作成する。	新聞記事などを読み、自分の反対意見にも理解を示しつつ、自分の意見を主張する作文③の設計図を作成する。
5 作文③（課題文を踏まえた意見文）を書く。	作文③の設計図返却。それをもとに作文を完成させる。
6 作文④ 敬語を使った手紙文	敬語の復習。手紙の書式、頭語と結語などを確認し、手紙（作文④）を書く。
7 作文⑤：履歴書を書く	履歴書を書く。欄の埋め方、志望動機の書き方、などを確認。作文⑤として作成・提出。
8 作文⑥「before/after（自分のこと）」の作文。設計図。	作文⑥「before/after（自分の変化）」導入。ある出来事を軸に、それ以前とそれ以後を対比させる作文。例：「大学生になる前/後」、「留学する前/後」など
9 作文⑥「before/after（自分のこと）」の作文を完成させる。	作文⑥「before/after（自分の変化）」の設計図をもとに作文を書く。四段構成。
10 作文⑦「before/after（社会のこと）」の作文。設計図。	作文⑦「before/after（社会の変化）」導入。ある出来事を軸に、それ以前とそれ以後を対比させ、社会が大きく変わったことを考察する作文。例：「東北大震災」、「成田エクスプレス」
11 作文⑦「before/after（社会のこと）」の作文を完成させる。	作文⑦「before/after（社会の変化）」。設計図をもとに作文を完成させる。
12 作文⑧時間軸と対立項のある作文。設計図。	これまで学習した、対立項のある作文、時間軸のある作文の両方の要素をもつ作文の設計図を作成する。例：国際比較の報告書のデータを参考にして、二国の10年前と現在を比較分析考察する。
13 作文⑧時間軸と対立項のある作文を完成させる。	作文⑧時間軸と対立項のある作文を、設計図をもとに完成させる。
14 個人文集作成。word文書の整え方。	情報処理の教室で、文集を完成させる。これまで授業で書き、清書をメールで送っていたものをまとめ、表紙・目次・あとがきも含めて、書式を整える。初心者でも大丈夫です。
15 個人文集を完成させ、提出。	文集完成に向けて作業。終わった人は、文集を提出。教師がチェックし、文集を返却。

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	文章表現		文章表現	
担当者	本多 久美子 <i>Kumiko Honda</i>		対象学年	1年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では、身近なテーマについて文章を書く練習をしながら、大学生活に必要なレジュメやレポートを書いたり、発表用のスライドを作ったりすることができる日本語力を身につけることを目標にしている。授業でパソコンを使うことがあるので、USBメモリーをいつも持つてくること。

■授業の進め方（履修条件等）

- （1）授業では、グループやペアを作り、身近なテーマについて自分の意見を述べたり、相手の意見を聞いたりする。
- （2）話し合った内容に基づいて作文を書く。
- （3）作文に書いた内容を発表する。

■成績評価方法・基準

- （1）毎回、作文課題を提出し、学期末に作文集を完成させる。
- （2）学期中に3回発表する。

■授業の予習・復習

予習：3回の発表内容について考えておく。
復習：授業中に書いた作文を、パソコンのワープロで清書する。

■教科書

講師作成の教材を使用。プリントは、なくさないようにファイルしておくこと。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 説明Ⅰ 自己紹介と他者紹介	作文課題 「自分を紹介する」
2 説明Ⅱ 意味を説明する	作文課題 「私の生まれた町」
3 説明Ⅲ 理由を説明する	作文課題 「〇〇はなぜ人気があるのか」
4 第1回発表会の準備	作文課題 「私の大切なもの」
5 第1回発表会	発表課題 「私の大切なもの」
6 説明Ⅴ 状態を説明する（1）	作文課題 感情形容詞を用いた短文作成50題
7 説明Ⅵ 状態を説明する（2）	感情形容詞の使用法に関するアンケート
8 第2回発表会の準備	発表用スライドの作成と発表準備
9 第2回発表会	発表課題 「私の生まれた町」
10 意見Ⅰ 短く自分の意見を述べる	作文課題 「〇〇と〇〇とどちらが重要か」
11 意見Ⅱ わかりやすく自分の意見を述べる	作文課題 「〇〇はなぜ〇〇なのか」
12 意見Ⅲ 段落構成を考えて自分の意見を述べる	作文課題 「〇〇の是非」
13 意見Ⅳ 対立する2つの意見を対比させる	作文課題 「〇〇の功罪」
14 第3回発表会の準備	発表用スライドの作成と発表練習
15 第3回発表会	発表課題は自由

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学
担 当 者	大月 隆成 Takashige Otsuki		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

数学が苦手（嫌い）という人は少なくないが、数学とは本来、美しく面白いものである。この授業の目的は、数学の魅力を十分に味わう機会がなかった人を対象に、数学を基本からやり直し、数学アレルギーを取り除くことである。また、就職試験で課される適性検査対策も随時行っていく。

■授業の進め方（履修条件等）

数学的なものの見方や考え方に慣れ、なぜそうなるのか理解することに主眼を置いて授業を行う。そのため、授業内で行うことのできる問題演習は限られるので、その分を課題で補ってもらうことになる。

■成績評価方法・基準

授業内で行うまとめテストおよび期末試験の結果に基づいて行う。

■授業の予習・復習

教科書の指定された箇所・気に入った箇所を繰り返し読む。問題を自分の頭で考えて解いてみる。

■教科書

何森仁・小沢健一『数学がまるごと8時間でわかる』明日香出版社 1994年

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	四則演算、正の数・負の数	四則演算の基本、負の数の考え方、負の数の計算
2	分数の計算	分数の考え方、分数の足し算・引き算、分数の掛け算・割り算、分数の応用計算
3	有理数と無理数	無理数とは？、平方根の計算
4	指数の基本	指数の考え方、指数の計算
5	さまざまな方程式（1）	文字式の計算、一次方程式の基本
6	さまざまな方程式（2）	連立方程式の基本、方程式の応用問題
7	さまざまな方程式（3）	展開と因数分解
8	さまざまな方程式（4）	二次方程式の基本と応用
9	比と割合	割合の考え方、比と割合の応用問題
10	関数とグラフ（1）	比例と反比例
11	関数とグラフ（2）	一次関数とグラフ
12	関数とグラフ（3）	二次関数とグラフ
13	図形の基礎と応用（1）	三角形と四角形、円と楕円、面積の計算
14	図形の基礎と応用（2）	空間図形、体積と表面積
15	図形の基礎と応用（3）	合同と相似、三平方の定理

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	基礎数学	基礎数学	基礎数学	基礎数学
担 当 者	越川 浩明 Hiroaki Koshikawa		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現代は数学的素養の必要性が目には見えないところで人間生活のあらゆる分野に要求されてきています。社会に出て数学を使う場面に会ったときにたじろがないような数学力をつけることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業では数学の基礎知識を身につけるために、中学校の数学の復習のあと、高校の数学の要点を文系の大学生にも分かる教科書にしたがって授業を進めます。

■成績評価方法・基準

毎回練習問題を解いてもらいます（40%）、定期試験（60%）。

■授業の予習・復習

予習：教科書やプリント教材をよく読み自力で解く練習をしておいて下さい。

復習：必ず習った範囲の練習問題を解いて下さい。

■教科書

『大学新入生の数学』、田沢義彦著、東京電機大学出版会

■参考文献

別途紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	実数について	自然数、整数、有理数、実数
2	2 次関数（1）	2 次関数、2 次方程式
3	2 次関数（2）	2 次不等式、複素数
4	整式について（1）	整式とその加法・減法
5	整式について（2）	因数分解、整式の除法
6	三角関数（1）	ピタゴラスの定理、弧度法
7	三角関数（2）	三角関数のグラフ、加法定理
8	指数関数	指数の拡張、指数法則、指数関数とグラフ
9	対数関数	対数の定義と性質、対数関数とグラフ
10	微分	微分係数、導関数
11	微分の応用	関数の増減、極大極小値、最大最小値
12	積分	不定積分と定積分
13	積分の応用	面積の求め方
14	数列	等差数列、等比数列、階差数列、漸化式、数学的帰納法
15	集合と論理	集合、命題と論理

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国際関係入門	国際関係入門	国際関係入門	国際関係入門
担 当 者	庄司 真理子 <i>Mariko Shoji</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

国際学部で学んでいく上で必要な、国際関係論の基本的な概念を、基礎から学びます。国際関係の成立、外交、パワー、主権、民族自決権、ナショナリズム、民主化、人権、グローバル化など、皆さんがこれから勉強する上で必須の用語を説明しながら、授業を展開します。最後に国際関係を超えて、今日のグローバル化の流れの中で、地球上の人類がどのような将来を展望していったらよいのかお話しします。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めます。授業の参加度を重視します。

■成績評価方法・基準

毎回書いてもらう授業内レポートと中間および期末試験で採点します。出席は重視します。

■授業の予習・復習

基本的には予習・復習は特に課しません。授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んでください。

■教科書

使用しない。授業中に配布する資料を大切にしてください。

■参考文献

適宜、本を紹介いたします。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	国際関係論とは	国際学部で学ぶ意味について
2	国際社会の成立と国家主権	主権国家の成立と国際社会の成立を歴史的に学ぶ
3	国際関係におけるパワーと外交	国際関係を学ぶ上で重要なパワーの概念を学ぶ
4	国民国家・ナショナリズム・帝国主義	ナショナリズム、民族自決の原則など
5	第一次世界大戦	第一次世界大戦とヴェルサイユ体制について学ぶ
6	戦間期と第二次世界大戦	帝国主義、世界恐慌、全体主義について学ぶ
7	植民地の独立・東西対立	冷戦の起源と南北対立について学ぶ
8	中間テスト	7回目までの内容をテストする
9	デタント・冷戦の崩壊	グラスノスチ、東西ドイツ統一、東欧革命
10	グローバリズムの時代	ブロック化現象・マイクロナショナリズム・相互依存
11	地球市民社会Ⅰ	地球市民社会の人権・民主化・NGO・CSO
12	地球市民社会Ⅱ	貧困の削減・開発援助・社会開発
13	地球市民社会Ⅲ	国連グローバルコンパクト 企業
14	世界の大国Ⅰ	アメリカ
15	世界の大国Ⅱ	EU

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国際関係入門	国際関係入門	国際関係入門	国際関係入門
担 当 者	高田 洋子 <i>Yoko Takada</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現代世界の仕組みを理解する上で、最も大切な基礎単位である「国民国家」について学びます。近代社会における国民国家システムの起源は西欧にあります。その概念の定義、歴史的展開、メリット・デメリット、現代的課題などの基礎的知識を身につけましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

世界地図を広げてみましょう。世界中が国境線で区切られています。これらの境界線はいつ、どのように決まってきたのでしょうか？ 授業では知識の習得と同時に、問題発見的なアプローチを重視します。

■成績評価方法・基準

授業への取り組みの真剣さ（出席回数、授業参加の態度、課題提出など）、期末試験の結果を通して、成績を評価します。

■授業の予習・復習

予習：国内外のさまざまな問題や紛争にも興味をもち、新聞を読みましょう。
復習：授業内容を十分に理解してもらうために、しばしば宿題の提出を求めます。

■教科書

指定しません。

■参考文献

百瀬宏著『国際関係学』東京大学出版会ほか。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	序：現代はどんな時代か	今、世界で何が起きているだろうか？
2	現代世界の課題	19世紀、20世紀、そして21世紀へ
3	近代の幕開け	近代国民国家の起源：フランス型（西欧型）
4	フランス革命の国	（ベルサイユ宮殿の一日）
5	ヨーロッパ世界の国際関係	国民国家の類型と国家の安全保障 勢力均衡の原理
6	ヨーロッパ近代の拡大	資本主義、植民地、移民国家アメリカ、移動する人びと
7	国民国家と民主主義	民主主義の起源、発展、そして逸脱
8	帝国主義とは何か	多様な非ヨーロッパ世界との対峙、侵略
9	帝国主義と民族（1）	植民地ナショナリズムと独立のための戦い
10	帝国主義と民族（2）	国民国家形成の課題 内なる帝国：多民族国家の課題
11	戦争はなぜ起こるのか	20世紀における2つの世界大戦 戦後の地域紛争
12	冷戦体制とその溶解	<核>を持った人類
13	世界システムの変化	グローバル化・新しい巨大国家の台頭
14	21世紀 国民国家の内部構造	グローバルとローカルの交錯 新しい地域主義・地域協力を求めて
15	まとめ：世界平和への貢献	変わりゆく国の姿 拡大する民主化 連携する市民社会

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国際関係入門	国際関係入門	国際関係入門	国際関係入門
担 当 者	櫛田 久代 Hisayo Kushida		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業では、第2次世界大戦後の国際関係を政治学、経済学、歴史学、社会学の観点から扱います。様々な意味でグローバル化が進行する今日の世界が抱える問題について多角的に理解するだけでなく、みなさんがこれから4年間本学部で国際学を学ぶ意味を考えることを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に授業を進めます。国際関係論は、国際学部の中でも数少ない必修科目です。そのため、履修条件を厳しくします。3分の2以上出席していない場合は、期末試験受験資格はありません。

■成績評価方法・基準

期末試験80%と授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

期末試験80%と授業内に適宜行う小レポート20%。

■教科書

なし

■参考文献

原 彬久編『国際関係学 講義[第四版]』（有斐閣、2011年）。他。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	国際関係を見る視点
2	国際関係のトピック	ビデオ鑑賞
3	国際関係理解の基礎(1)	国際関係のアクター
4	国際関係理解の基礎(2)	国際政治からみた国際関係
5	国際関係理解の基礎(3)	国際経済からみた国際関係
6	国際関係理解の基礎(4)	南北問題
7	国際関係理解の基礎(5)	国際法からみた国際関係
8	国際関係理解の基礎(6)	国際連合
9	国際関係理解の基礎(7)	人の移動からみた国際関係
10	冷戦という時代(1)	第2次世界大戦後の世界秩序
11	冷戦という時代(2)	米ソ対立
12	冷戦後の世界(1)	民主化と民族紛争
13	冷戦後の世界(2)	テロの時代
14	冷戦後の世界(3)	グローバリゼーション
15	まとめ	国際関係の今

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	敬天愛人講座	敬天愛人講座	敬天愛人講座	敬天愛人講座
担 当 者	教務部委員会 Kyoumubu linkai		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間と社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。

■授業の進め方（履修条件等）

「敬天愛人」に関する7つのテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。

■成績評価方法・基準

7つのテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について回答する。(論文形式)
出席：40%、筆記試験：60%。

■授業の予習・復習

メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の関連書物を読んでおくことが望ましい。(本学ホームページからのアクセスが可能)

■教科書

教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。

■参考文献

「野の花」長戸路 信行 著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	4月13日 講師 和田 良子	オリエンテーション
2	4月20日 講師 角田 勲	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 I
3	4月27日 講師 角田 勲	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 II
4	5月11日 講師 籠野 受男	人の品性、知性 I
5	5月18日 講師 籠野 受男	人の品性、知性 II
6	5月25日 講師 長戸路 政行	命の尊厳 I
7	6月1日 講師 長戸路 政行	命の尊厳 II
8	6月8日 講師 池谷 美佐子	人と社会のコミュニケーション 「道德教育の可能性」 I
9	6月15日 講師 池谷 美佐子	人と社会のコミュニケーション 「道德教育の可能性」 II
10	6月22日 講師 三幣 利夫	国際社会のいま ー ビジネスの最前線 ー I
11	6月29日 講師 三幣 利夫	国際社会のいま ー ビジネスの最前線 ー II
12	7月6日 講師 星 真実	格差社会はなぜ生まれるか I
13	7月13日 講師 星 真実	格差社会はなぜ生まれるか II
14	7月20日 講師 土井 修	敬天愛人のめざすもの I
15	7月27日 講師 土井 修	敬天愛人のめざすもの II

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	敬天愛人講座	敬天愛人講座	敬天愛人講座	敬天愛人講座
担 当 者	教育部委員会 <i>Kyoumubu linkai</i>		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本学の建学の精神である「敬天愛人」の具現化を図るために設けられたものである。「天を敬い、人を愛する」という言葉の持つ意味は極めて広く深い。人間関係のみならず、人間社会、人間と自然との関係にも関わってくる。従って、この理念の具体化もさまざまな形で行われることになる。この講座をきっかけとして、「敬天愛人」の精神が、学内はもとより、学外にも広く浸透していくことを期待している。

■授業の進め方（履修条件等）

「敬天愛人」にかなする7つのテーマを掲げ、各専門の先生方に講義していただく。

■成績評価方法・基準

7つのテーマのうち2つを選び、それぞれの問題について解答する。（論文形式）

■授業の予習・復習

メディアセンターにある「敬天愛人文庫」の中の関連書物をよんでおくことが望ましい。（本学ホームページからアクセスが可能）

■教科書

教科書は用いず、毎回レジュメを配布する。

■参考文献

「野の花」 長戸路 信行 著

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	9月28日 講師 和田 良子	オリエンテーション
2	10月5日 講師 角田 徹	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 I
3	10月12日 講師 角田 徹	敬愛学園の成り立ちと建学の理念 II
4	10月19日 講師 長戸路 政行	命の尊厳 I
5	10月26日 講師 長戸路 政行	命の尊厳 II
6	11月2日 講師 館野 受男	人の品性、知性 I
7	11月8日 講師 館野 受男 当初の予定を変更して、木曜日の5限目を実施	人の品性、知性 II
8	11月16日 講師 畑中 千晶	文芸を楽しむ 「西鶴のなかの天をめぐって」 I
9	11月23日 講師 畑中 千晶	文芸を楽しむ 「西鶴のなかの天をめぐって」 II
10	11月30日 講師 高田 洋子	戦争と平和 「ナガサキからのメッセージ」 I
11	12月7日 講師 高田 洋子	戦争と平和 「ナガサキからのメッセージ」 II
12	12月14日 講師 金子 林太郎	21世紀の環境問題 I
13	12月21日 講師 金子 林太郎	21世紀の環境問題 II
14	1月11日 講師 敬愛大学 学長	敬天愛人のめざすもの I
15	1月25日 講師 敬愛大学 学長	敬天愛人のめざすもの II

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	心理学	心理学	心理学	人と社会のコミュニケーション
担 当 者	田中 未央 <i>Mio Tanaka</i>		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

心理学の基礎的な理論を学び、我々の日常生活における行動の理解に役立てることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習やグループワークを求める場合がある。実習やグループワークを行った際にはリアクションペーパーやショートレポートの提出を求める。必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（60％）・授業内小テスト（20％）・リアクションペーパー（10％）・ショートレポート（10％）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：必要なし
復習：授業の内容を整理し、テキストの該当する箇所を読む。

■教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

■参考文献

心理学ってどんなもの（岩波ジュニア新書）/心理学・入門 -- 心理学はこんなに面白い（有斐閣アルマ）サトウタツヤ・渡邊芳之（著）有斐閣

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概要、授業の進め方、評価方法、受講マナーについて
2	パーソナリティ	類型論、特製論、パーソナリティの形成と変化
3	感覚・知覚	感覚、知覚、認知
4	学習	条件付け、集団や社会への参加
5	記憶	記憶のしくみ、長期記憶、短期記憶
6	行為	行為とは？認知の歪み、ヒューマンエラー、行為の転移
7	知能	知能とは何か？ 遺伝と環境、知能検査
8	対人関係	友人関係、恋愛関係、親子関係、対人関係におけるゲーム理論
9	対人認知	印象形成、セルフスキーマ
10	集団	集団の特徴、リーダーシップ、社会的ジレンマ
11	発達	発達の理論、子どもの発達、成人以降の発達
12	無意識	心の構造、心的外傷、防衛機制
13	心理的支援	心の異常、ストレス、心理的支援の方法
14	脳と心	神経系の活動、認知科学
15	まとめ	第2回～第14回で扱ったテーマのレビュー、質問への対応

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	歴史学入門	歴史学入門	歴史学入門	
担 当 者	山本 健 Takeshi Yamamoto		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本は、明治の開国期と大戦敗北後の2回、近代化（欧米化）を受け入れ、物質的に豊かになったが、精神的にはどうであろうか。この原因を、明治（1868年）以降から現代に至る長いスパンの中で探り、精神的な「自立」の処方箋を考えてみたい。そして歴史を批判的に見る目を身につけさせることが、本講義の目的である。

■授業の進め方（履修条件等）

日本の近代化の受容を基本的に学び、日本以外のアジア諸国の受容との比較にも言及しながら、その時代背景などを説明し、「協調」と「追随」の功罪などを解説する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート（感想文や課題文）などで評価する。なお、原則として、出席率が規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。

■授業の予習・復習

予習：前もって配布する「古典」の抜粋プリントを読んで、問題点などを整理しておくこと。
復習：課題文の作成のため、新聞やTVのニュースを見る習慣をつけること。

■教科書

加藤哲郎『戦後意識の変貌』（若波ブックレット、シリーズ昭和史No14、1989年）

■参考文献

- ①奥井知之『日本問題』（中公新書、1994年）
- ②富永健一『近代化の理論—近代化における東洋と西洋』（講談社学術文庫、1996年）
- ③野口悠紀夫『バブルの経済学—日本経済に何が起こったのか』（日本経済新聞社、1993年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 問題点の提示	大江健三郎『あいまいな日本と私』を音読させ、解説。
3 明治時代の近代化の受容①	日本の支配的価値観と近代化受容をめぐる問題点
4 同 上②	「外圧」としての近代化—帝国主義時代の背景
5 同 上③	「脱亜入欧」と第二次世界大戦
6 戦後の「アメリカ」受容	「脱亜入米」と変更されるアメリカの占領政策
7 「政治」から「経済」へ	戦争特需と所得倍増計画の意味
8 模倣国アメリカの変化	ベトナム戦争とアメリカ経済の衰退、相対主義の台頭
9 石油危機と不確実性の時代	エゴイズムとモデル不在の時代の到来
10 日米経済摩擦	経済大国日本の出現と日本異質論の台頭
11 バブル景気と躁状態の日本	平成バブルの発生メカニズムの分析
12 湾岸戦争と日本の対応	湾岸戦争の背景と「一國繁栄主義」の日本
13 小泉内閣の登場と民営化問題	市場経済の導入と食い荒らされる金融資産
14 中国経済の発展と日本の対応	日本の「工場」の移転と産業の空洞化・若者の失業問題
15 サブプライム問題と金融危機	恒常化したバブル経済とその背景

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	哲学入門		哲学入門	
担 当 者	壁谷 彰慶 Akiyoshi Kabeya		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

哲学において扱われてきた問題と議論を学びながら、他人の意見を批判的に吟味し、論理的に思考する練習をする。そのうえで、自分の意見を客観的に述べる技能の習得を目指す。今期は倫理学的話題を主眼的に扱う。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式だが、毎回小テスト・小レポートを課す。講義で紹介した議論を自分で再構成し、各自で意見を述べてもらう。いずれも各人に関係のある話題であると思うので、積極的な参加が望ましい。

■成績評価方法・基準

各回的小テスト・小レポート+学期末レポート（定期試験として実施する可能性もあり）の総合点。

■授業の予習・復習

予習：シラバスの授業項目と前回の講義内容に関して、身近な場面にあてはめて考えてみる。
復習：授業の内容を思い出しながら、疑問や意見を書き出す（各レポートで報告）。

■教科書

なし（資料は授業内で配布）。

■参考文献

授業内で紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の概要、受講方法、成績評価
2 「よさ」と価値（1）	善悪と快苦
3 「よさ」と価値（2）	中庸はよいか
4 神意と人間	主意主義と主知主義
5 社会契約と利己主義（1）	社会契約論の紹介
6 社会契約と利己主義（2）	社会契約論の検討
7 定言命法と自然的欲求（1）	カントの道徳論の紹介
8 定言命法と自然的欲求（2）	カントの道徳論の検討
9 理由の普遍化可能性	内在的理由と外在的理由
10 功利主義の目的と帰結（1）	功利主義の紹介
11 功利主義の目的と帰結（2）	功利主義の検討
12 現代正義論（1）	政治哲学における正義論の紹介
13 現代正義論（2）	政治哲学における正義論の検討
14 悪への自由	悪いことをなぜしてはいけないのか
15 まとめ	哲学・倫理学の意義と役割

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	社会学入門	社会学入門	社会学入門	
担 当 者	菊池 真弓 <i>Mayumi Kikuchi</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本授業では、社会的な理論や方法論、社会学の歴史を学ぶことを目的とする。また、家族、地域社会の基本的な視点を学び、わが国の少子高齢化、情報化といった社会変動の過程や背景を取り上げ、現代社会に起こっている虐待、介護、環境、ジェンダーなどの問題とその課題について考える力をつけることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業の進め方は、新聞や統計・世論調査、ビデオ教材などの資料に基づき、私達を取り巻く身近な人と人との関係、集団との関係、現代社会に起こっている様々な問題とその対策について考える。

■成績評価方法・基準

定期試験（70%）、授業内小レポート（20%）、授業態度（10%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：次回の講義までに指示するテキストを熟読して講義に臨むこと。

復習：①授業終了時に質問・感想をまとめる時間を設ける。
②次回授業で、質問に対する回答とともに復習を行う。

■教科書

久門道利他『スタートライン現代社会の諸相—社会学の視点』弘文堂、2008年

■参考文献

秋元・石川・羽田・袖井『社会学入門』有斐閣新書、1991年
森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版、2000年

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	社会学とは何か	社会的な視点・方法
2	社会的存在としての人間	社会集団と文化
3	社会学の歴史（1）	社会学の成立・確立期
4	社会学の歴史（2）	社会学の展開と今後
5	家族	家族とは、機能と役割
6	地域社会	都市と農村、コミュニティ形成
7	社会問題とは何か	社会問題の定義とその捉え方
8	現代社会の社会問題（1）	少子高齢社会の現状と課題
9	現代社会の社会問題（2）	社会福祉の現状と課題
10	現代社会の社会問題（3）	環境問題の現状と課題
11	現代社会の社会問題（4）	ジェンダーの現状と課題
12	情報化	メディアの変容と情報化
13	国際化	エスニシティと地域社会
14	運動・ネットワーク	ネットワーキングと社会運動
15	社会学を応用する	社会調査・社会計画とは

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	政治学入門		政治学入門	
担 当 者	櫛田 久代 <i>Hisayo Kushida</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

世の中を知り考えるための一つの方法論として政治学を学びます。授業では、政治学の基礎概念や政治の仕組みについての理論に重点を置いています。そして、この授業を通して、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的にしています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習として心がけてほしいのは、日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。
復習としては、授業でわからなかったことを自分で調べ、ノートに整理することを試みて下さい。

■教科書

指定無し。

■参考文献

久米郁男他編『政治学（New Liberal Arts Selection）補訂版』（有斐閣、2011年）他。
参考文献は、3階メディアセンターの「指定図書」櫛田コーナーにあります。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	政治を見る目（1）	日本政治の課題
2	政治を見る目（2）	日本政治の今を考える。
3	国家について（1）	権力と国家
4	国家について（2）	国家
5	ナショナリズム（1）	国民国家とナショナリズム
6	ナショナリズム（2）	民族のナショナリズム
7	ナショナリズム（3）	ビデオ鑑賞
8	民主政治（1）	民主政治の起源
9	民主政治（2）	民主政治の発達
10	民主政治（3）	民主政治の定義をめぐって
11	民主政治（4）	世界の民主的政治制度
12	選挙制度	選挙制度
13	政治組織（1）	政党制
14	政治組織（2）	利益集団
15	まとめ	現代の日本政治

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	法学入門	法学入門	法学入門	法学概論
担 当 者	寛正 豊和 Toyokazu Kakusho		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「社会あるところに法あり」の法格言に示されるがごとく、社会には無数の法が存在します。本講義は、社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論をととして法律学への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方 (legal mind) を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。それは、今日、とくとくと流れる国際化のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。

■授業の進め方 (履修条件等)

分かりやすい授業を展開するので、特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において、指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において、指示します。

■教科書

斎藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版

■参考文献

『六法』(岩波) (三省堂) (有斐閣) などを持参するとよいでしょう。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	導入	受講のガイダンス
2	法 の 概 念	法とはなにか
3	法 と 法 則、法 と 道 徳	法と法則の相違、法と道徳の相異、法と道徳の関係
4	法 の 構 造	規範構造からみた法と道徳の相異
5	法 の 目 的 1	正義、法的安定性
6	法 の 目 的 2	具体的事例の検討、比較法的考察
7	法 源 論	法の発現形式、法の存在形式
8	成 文 法	成文法とは
9	不 文 法	不文法 (慣習法、判例法) とは
10	法 の 分 類	法二分説、法三分説など
11	法 の 適 用 と 解 釈	法の適用と解釈の必要性について
12	法 の 実 質 的 効 力	規範的妥当性、実効性
13	法 の 形 式 的 効 力	時間、場所、人についての適用範囲
14	権 利 と 義 務	法律関係、権利、義務
15	総 括	まとめおよび質疑

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	憲法	憲法	憲法	憲法
担 当 者	寛正 豊和 Toyokazu Kakusho		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

憲法の概要は、すでに中学の「公民」や高等学校の「現代社会」「政治・経済」などで理解してきているように、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方について定めた基本となる法律です。したがって、憲法をさらに把握理解し、よりよい社会の創造にむけていくことは、国民としての必須の事柄です。本講義は、憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。

■授業の進め方 (履修条件等)

分かりやすい授業をこころがけていくつもりですが、法学入門を併せて履修することが望ましいです。

■成績評価方法・基準

初回の授業において、指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において、指示します。

■教科書

斎藤静敬・寛正豊和 共著『法学・憲法』八千代出版

■参考文献

初回の授業において指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	導入	憲法を学ぶ意義
2	憲法 の 概 念	憲法の意義・憲法の種類
3	日 本 国 憲 法 の 成 立 過 程	日本国憲法の内容の概観と理解
4	憲 法 の 制 定 ・ 改 正 お よ び 変 遷	憲法の制定・改正および変遷とは
5	憲 法 の 基 本 原 理	憲法の基本原理とは
6	国 民 主 権 主 義	国民主権主義とは
7	基 本 的 人 権 (1)	精神的自由 (思想、良心)
8	基 本 的 人 権 (2)	精神的自由 (信教、学問、表現、集会、結社)
9	基 本 的 人 権 (3)	経済的自由 (職業選択、財産権)
10	基 本 的 人 権 (4)	人身の自由
11	平 和 主 義	平和主義とは
12	統 治 機 構	統治機構とは
13	地 方 自 治	地方自治の基本原則、地方公共団体、地方自治特別法
14	判 例 学 習	憲法の判例学習の必要性について
15	総 括	まとめおよび質疑

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	世界の地理	世界の地理	世界の地理	
担 当 者	谷地 隆 <i>Takashi Yachi</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

地理は古くて新しい学問です。「風土記」や「東方見聞録」に見られるように諸国の名物産を知り、まだ見ぬ土地への憧れをかきたてるもが地理の役目であった。時は経て21世紀の現代、日常的に世界と接し、様々な地理情報を得ています。21世紀の世界観を知るために、現代こそ地理を新たに学ぶ意義があります。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に世界の諸地域（地誌）に関する基礎的な知識を習得します。各回ごとに世界の地域（国）を取り上げ、ビジュアル等の映像を用いて、世界の地域（国）の特徴を理解できるようにします。海外旅行において不可欠な知識・教養が身につくような講義を行います。

■成績評価方法・基準

平常点やレポートなどにより総合的に評価します。

■授業の予習・復習

平素から「世界の地理」に関心を持ち、対象となる地域に関して、新聞・テレビなどのマスメディアからも情報を得ておくのも効果的です。

■教科書

特に指定しませんが、授業毎にプリントを配布します。地図帳を持参して下さい。

■参考文献

授業中に資料を配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	自己紹介、講義の概要、受講方法、成績評価など。
2	世界の諸地域	世界の国あれこれ
3	東アジア	朝鮮半島、中国
4	東南アジア	タイ、インドネシアなど
5	南アジア	インド、ネパールなど
6	中近東・アフリカ	トルコ、ナイジェリアなど
7	西ヨーロッパ	ドイツ、ノルウェーなど
8	南ヨーロッパ	イタリア、スペインなど
9	東ヨーロッパ	ハンガリー、バルト3国など
10	CIS	ロシア、ウズベキスタンなど
11	北アメリカ	アメリカ合衆国、カナダ
12	中南アメリカ	メキシコ、ブラジルなど
13	オセアニア	オーストラリア、ニュージーランドなど
14	全世界	世界一周の旅
15	まとめ	総整理、疑問点の解明

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	世界の民族と宗教	世界の民族と宗教	世界の民族と宗教	世界の民族
担 当 者	田中 和彦 <i>Kazuhiko Tanaka</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義は、前半に民族文化を見る視点をいくつかの単元に分けて扱い、その上で、生業に基づいて具体的に民族を見ることによって世界の民族とその文化についての理解を深めることを目的とする。また、主に、東南アジアの事例を中心に4大宗教とその文化遺産についても取り上げる。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、適宜、リアクションペーパーを求める。

■成績評価方法・基準

リアクションペーパー20%及び学期末に課題本を読んだのレポート80%による。レポートは、原稿用紙10枚ほどのものを求める。また、学期中に短いレポートないし課題を複数回課し、その提出も評価に加味する。

■授業の予習・復習

予習：該当する地域の地図を見ておくこと。
復習：ノートをまとめ、見直しておくこと。

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	本講義に関する参考文献の紹介
2	民族調査法	フィールドワーク
3	親族と家族	定義、親族名称、親族関係記号、家族の類型分類
4	婚姻	定義、形式、規制、居住、要件
5	誕生に関わる習俗	忌避、擬娩、胎盤の処理
6	死に関わる習俗	葬制、複葬、屈葬、甕棺葬
7	採集狩猟民	フィリピンのネグリのトの特徴、分布、環境
8	狩猟採集民	フィリピンのネグリのトの生業、生活、一生
9	漁撈民	フィリピンの漂海民、サマ族の環境と生活
10	漁撈民	フィリピンの漂海民、サマ族の生業と一生
11	アニミズム	東南アジアの精霊崇拜
12	仏教とその文化遺産	タイの仏教寺院
13	キリスト教とその文化遺産	フィリピンのカトリック教会
14	ヒンズー教とその文化遺産	カンボジアのアンコール遺跡群
15	イスラム教とその文化遺産	フィリピンのモスク

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ユニバーサルコミュニケーション	ユニバーサルコミュニケーション		
担 当 者	国際教務委員会 Kyoumu linkai		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

共生社会を実現するために、障害を持つ人々への偏見や差別意識をなくし、共に手を携えて同じ場所に生活する深い意味や、全ての人々が参加し、平等に情報を得ることの意味について考える。その上で、実際に聴覚障害を持つ人々の日常的な接し方、バリアフリー・コミュニケーションの手段として、初歩的な手話・要約筆記の実技を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。授業はテキスト・配布プリントを中心に、適宜映像も使用する。手話実技に関しては学生一人一人の手話表現を確認、指導する。

■成績評価方法・基準

平常点（出席）を参考とし、学期末試験によって総合的に成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：ニュースや新聞等で障害者福祉に関心を持つこと。聴覚障害者の特性を理解し、聴覚障害者のバリア解消の実践を行なう。
復習：手話表現を正しく習得するため、繰り返し練習をする。

■教科書

「友だちをつくる手話」（改訂版）発行元：千葉聴覚障害者センター

■参考文献

- ・「新・手話教室（入門）」（財団法人全日本ろうあ連盟）
- ・「50年のあゆみ」（財団法人全日本ろうあ連盟）
- ・「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」（全国手話通訳問題研究会編纂）一ツ橋出版
- ・「要約筆記奉仕員養成講座 基礎課程」テキスト、「要約筆記奉仕員養成講座 応用課程」テキスト
- ・日本聴覚障害新聞

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義 1	手話を学ぶにあたり（手話とは・聴覚障害とは・聴覚障害者の生活）
2	実技 1	あいさつをしてみましょう
3	実技 2	名前を紹介しましょう
4	実技 3	家族を紹介しましょう
5	実技 4	趣味について話しましょう
6	実技 5	スポーツについて話しましょう
7	実技 6	数字を覚えましょう
8	講義 2	聴覚障害者の歴史と社会福祉の変遷
9	実技 7	時の表し方を学びましょう
10	実技 8	仕事について話しましょう
11	実技 9	住所について話しましょう
12	手話のまとめ	自己紹介してみましょう
13	講義 3	要約筆記とは
14	実技10	聞きながら書く
15	実技11	模擬実習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本の文学	日本の文学	日本の文学	日本の文学
担 当 者	畑中 千晶 Chiaki Hatanaka		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

人の「心の闇」を浮き彫りにしていく西鶴の短編小説を読みます。自分なりの視点で作品の謎に迫ることができるようになること、これが到達目標です。文学を学ぶということは、文学史を暗記することでも、有名な学説を覚えて唱えることでもありません。自分の力で作品に向き合い、「読む」力を鍛えることなのです。

■授業の進め方（履修条件等）

300年以上も前に書かれた日本語を読みます。つまり「古文」。しかし、恐れる必要はありません。やさしい現代語訳付きのテキストを用います。留学生は、日本語能力試験N1（1級）程度の日本語力を持つほうが望ましいでしょう。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：テキストに目を通して流れを理解しておく。特に留学生の場合は予習が必須です。

復習：クラスで出題されたタスクに取り組み、次回のクラスで提出する。

■教科書

西鶴研究会編（2004）『西鶴が語る江戸のミステリー』
ぺりかん社

■参考文献

- 江本裕/谷脇理史編（1996）『西鶴事典』おうふう
- 乾克己/小池正胤/志村有弘/高橋貢/鳥越文蔵編（1986）『日本伝奇伝説大事典』角川書店

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	講義の進め方、「読む」ということ
2	読み始める前に	江戸時代について
3	読み始める前に	西鶴について（映像資料を含む）
4	「一生にただ一人の男」	内容読解
5	「一生にただ一人の男」	空白（抜けている情報）を読む
6	「殺されたふたりの女商人」	内容読解
7	「殺されたふたりの女商人」	ファンタジーの構造、本当は怖い後日譚
8	「瓜ふたつの謀略」	内容読解
9	「瓜ふたつの謀略」	心の謎を読む
10	「口は禍の門」	内容読解
11	「口は禍の門」	謎絵が語っているものは
12	「逃げて追いつて来る怨霊」	内容読解
13	「逃げて追いつて来る怨霊」	容姿の美貌という裏テーマ
14	発展項目	江戸の人々と怪異
15	発展項目	江戸の人々と芝居

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本理解Ⅰ (日本の伝統文化と社会)			
担 当 者	土田 宏 Hiroshi Tsuchida		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本の伝統文化の代表とされる「茶道」を主に考察することで、日本および日本人の底流にある精神を探り出すことを目的とする。よりよく日本を知ること、日本を見る新しい視点を提示したいと願っている。

■授業の進め方 (履修条件等)

講義中心に進めるが、多くの人には馴染みのない「茶道用語」などが使われることになると思う。遠慮無く質問してほしい。適時、映像などを利用して、理解を深めたいと願っている。

■成績評価方法・基準

定期試験を評価基準とする。ただし、出席が70パーセントに満たない場合は、自動的に登録放棄と判断する。

■授業の予習・復習

毎回の授業のための予習は特に必要としないが、教科書は適時読み進めるように。毎回の授業の復習は必ずしておくこと。不明な点を残さないように。

■教科書

土田隆宏 『利休 最後の半年』 彩流社

■参考文献

田中仙翁 『茶道の美学 茶の心とかたち』 講談社学術文庫
田忠親 『茶道の歴史』 講談社学術文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	日本文化の基礎としての茶道
2 茶道の歴史 その1	室町時代まで
3 茶道の歴史 その2	武士から町人へ 戦国時代の発展
4 茶道の歴史 その3	元禄時代 (家元制度の確立) と明治維新時の存続の危機 (文明開化)
5 茶道の歴史 その4	現代まで 現在の生活に茶道は何を意味するか
6 千利休の茶 その1	町人の茶の完成 道具と精神性
7 千利休の茶 その2	茶室の工夫 1. 暗さの追求
8 千利休の茶 その3	茶室の工夫 2. 狭さの追求
9 千利休の茶 その4	茶禅一味 無の追求と「道」の完成
10 千利休と茶庭 (露地)	日本庭園の変貌の中で
11 茶懐石と日本料理	もてなしの心と食事作法 (マナー) を考える
12 茶会と茶事	文化の伝承を考える
13 日本の宗教 1	神道と伝統行事
14 日本の宗教 2	仏教の真理と仏像の見方
15 まとめ 奈良と京都	二つの都から見えるもの

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本理解Ⅱ (日本の現代カルチャー)			
担 当 者	土田 環 Tamaki Tsuchida		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

主として1950年代以降の日本映画史を大まかに学びつつ、映画を通した日本の政治・経済・社会の動向について考察する。講義は、基礎的な知識を学ぶための【歴史】と作品の見方について考えるための【テーマ】に分け、隔週ずつ、両者を交互に論じながら進めていく。映像を通して、その表現としての特殊性について考えることを目指す。

■授業の進め方 (履修条件等)

履修条件は特になし。授業は講義形式で進める。様々な映像を見せるつもりだが、作品を全編にわたって上映するわけではないので、各自、映画を多く見ること (シネコンからミニ・シアターまで作品を問わない)。

■成績評価方法・基準

出席および期末レポートによって評価する。

■授業の予習・復習

予習: 授業で取り扱う予定の映画作品をなるべく多く見ること。映画館に行くこと。
復習: 授業で指示した映画、DVDをなるべく多く見ること。

■教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

■参考文献

高峰秀子 『わたしの渡世日記 上・下』 (文春文庫、1998)、四方田彦彦 『日本映画史100年』 (集英社新書、2000)、日本映画専門チャンネル編 『踊る大捜査線』 は日本映画の何を変えたのか (幻冬舎、2010)

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	イメージを見ること/読むこと
2 【歴史1】映画の「新しさ」	現在の日本映画の概況
3 【テーマ1】「日本製」映画の作り方	「製作委員会」の役割
4 【歴史2】逆輸入の発想	1995の日本映画—映画にとつての「外部」
5 【テーマ2】自己と他者	映画における「日本人」の表象
6 【歴史3】「アイドル」の時代	「低予算」映画と日本映画の1980年代
7 【テーマ3】フォーマット・セールスとは何か	日本映画史における国際文化交流
8 【歴史4】撮影所の崩壊①	「ヌーヴェル・ヴァーグ」からATGへ—1960-70年代
9 【テーマ4】風景の変容	日本映画における「東京」および「郊外」の表象
10 【歴史5】撮影所の崩壊②	「真実」と「虚構」のはざまに—岩波映画製作所と「青の会」
11 【テーマ5】記憶の継承	映画における「記憶」の表象
12 【歴史6】翳りと輝きの波	「プログラム・ピクチャー」という概念—1960年代
13 【テーマ6】「模倣」と「盗作」の境界	映画における「引用」とは何か
14 【歴史7】「戦後」の映画	「撮影所」と日本映画の第二の黄金期—1950年代
15 【テーマ7】映画における「ジャンル」とは何か	日本映画における「幽霊」の表象

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	健康運動科学	健康運動科学	健康運動科学	健康運動科学
担 当 者	藤田 明男 Akio Fujita		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

スポーツを通して体力づくり、仲間づくり、健康づくりをめざす。

■授業の進め方（履修条件等）

学内（敬愛アリーナ）で行う各種スポーツ実技を通して上記の狙いの達成を図る。運動着および運動靴（赤い靴紐を右靴につけたもの）を必ず着用する。

■成績評価方法・基準

出席状況（50%）、実技テスト（50%）

■授業の予習・復習

予習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで予備知識を得ておくことが大切。

復習：メディアセンター内の指定図書コーナーやインターネットで学習内容を確認することが大切。

■教科書

なし

■参考文献

藤田明男『バドミントン教室』大修館書店

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業に関する詳細説明等
2	バトボンー（1）	ハーフコートシングルスー（1）
3	バトボンー（2）	ハーフコートシングルスー（2）
4	バトボンー（3）	ハーフコートシングルスー（3）
5	バトボンー（4）	ハーフコートシングルスー（4）
6	バトボンー（5）	オールコートダブルスー（1）
7	バトボンー（6）	オールコートダブルスー（2）
8	バトボンー（7）	オールコートダブルスー（3）
9	ミニバレーボール（1）	四人制バレーボール（1）
10	ミニバレーボール（2）	四人制バレーボール（2）
11	ミニバレーボール（3）	四人制バレーボール（3）
12	ミニバレーボール（4）	四人制バレーボール（4）
13	運動が人体に及ぼす影響ー（1）	運動が筋肉に及ぼす影響
14	運動が人体に及ぼす影響ー（2）	運動が骨に及ぼす影響
15	運動が人体に及ぼす影響ー（3）	運動が体脂肪に及ぼす影響

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	千葉学 I	千葉学 I	房総の自然と文化	房総の自然と文化
担 当 者	宿城 高興 Takaoki Yadoshiro		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

房総という身近な地域について学ぶことは、変化が激しい現在社会の中で具体的に物事を判断し、進むべき方向や生活していく心構えをつくりあげる一つの契機になると考えます。この授業は、房総半島の自然の特色を概観し、房総各地域の主な産業と自然・社会とのかかわりや主な歴史や文化等について理解します。一方、教師を志す学生にとっては、地理や歴史分野の地域素材の教材化をどう図ればよいか、基礎的な教材研究としても役立てます。

■授業の進め方（履修条件等）

遅刻や欠席は、他人に迷惑をかけるので、特に厳しく対処します。また、3分の2以上出席していない場合は、期末受験資格はありません。

■成績評価方法・基準

学習意欲、授業態度等平常点を40%、定期試験を60%としますが、この配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習：事前に本時のプリント資料を配布しますので必ず読み、疑問や問題を持って授業に参加してください。

復習：不明な点を残さないように、毎回必ず復習してください。

■教科書

プリント資料を配布して授業を進めますので、必ずファイルしてください。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	房総半島の概要	房総半島の成立や地域区分等
2	房総の自然と産業 1	房総半島の地形の特色
3	房総の自然と産業 2	房総半島の気候の特色
4	房総の自然と産業 3	房総半島の農業の特色
5	房総の自然と産業 4	房総半島の漁業の特色
6	房総の自然と産業 5	房総半島の工業の特色
7	房総の自然と産業 6	房総半島の観光業等の特色
8	房総の歴史や文化 1	先土器・縄文・弥生時代の房総
9	房総の歴史や文化 2	古墳・大和時代の房総
10	房総の歴史や文化 3	奈良・平安時代の房総
11	房総の歴史や文化 4	鎌倉時代の房総
12	房総の歴史や文化 5	室町時代の房総
13	房総の歴史や文化 6	江戸時代（前期）の房総
14	房総の歴史や文化 7	江戸時代（後期）の房総
15	房総の歴史や文化 8	明治・大正・昭和時代の房総

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	千葉学Ⅱ		千葉の経済構造	
担 当 者	小林 啓祐 Keisuke Kobayashi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本でも有数の工業地域である京葉工業地域を有し、農業生産額は日本で常に上位に入り続ける千葉県。さらに日本の空の玄関である成田空港や、来園者数が年2000万人を超えるテーマパークを県内に有する千葉県だが、この姿は最近できたものではない。講義では千葉県経済の歴史と現在を学び、その構造をつかむことを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義中に配るコメントシートよりえられる学生の興味関心に基づいた内容も適宜盛りこんでいく。

■成績評価方法・基準

全部で4回小テストを行う。すべての小テストの合計点、およびコメントシートをあわせて評価する。

■授業の予習・復習

予習：千葉県の公共図書館の郷土資料コーナーから、千葉県の経済に関する書籍を読了していることが望ましい。
復習：講義中に配布するレジュメ、講義ノートにより復習すること。

■教科書

特に使用しません

■参考文献

千葉県史料研究財団『千葉県の歴史』近現代編、三浦茂一『千葉県の百年』1990年 山川出版

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	本講義のガイダンスを行う
2	醤油の町ー商工業1	伝統的な産業である醤油生産について学ぶ
3	工業化する千葉ー商工業2	戦後の急速な工業化と劇的に変化する商業について学ぶ
4	商工業まとめ・小テスト1	まとめをしたのち、商工業に関するテストを行う
5	伝統的な農漁業と大都市近郊農業ー農漁業1	千葉県の伝統的な農漁業と、戦後に急成長する大都市近郊農業について学ぶ
6	多様化する農漁業ー農漁業2	昨今の多様化する千葉県農漁業について学ぶ
7	農漁業まとめ・小テスト2	農漁業のまとめを行ったのち、小テストを行う
8	人口増加と住宅団地ー人口1	戦後に急成長する千葉県の人口について、住宅団地を中心として学ぶ
9	宅地開発の新展開ー人口2	昨今の千葉県の人口動態について、経済状況の変化とあわせて学ぶ
10	鉄道と千葉ー交通1	千葉県内鉄道網の成り立ちについて学ぶ
11	開発と交通網整備ー交通2	最近の交通網整備について、開発動向の変化に関連させながら学ぶ
12	人口交通まとめ・小テスト3	人口と交通のまとめを行ったのち、小テストを行う
13	房総半島の観光ー観光1	千葉県の伝統的な観光業について房総半島を中心にして学ぶ
14	テーマパーク型の観光ー観光2	伝統的な観光とは違った、テーマパーク型の観光業について学ぶ
15	観光まとめー小テスト4	観光のまとめと小テストを行う

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	千葉学Ⅲ		千葉の経済特殊	
担 当 者	三幣 利夫 Toshio Sampei		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

国際ビジネスを展開する千葉県在の企業経営者から、経営戦略や実際の企業活動に関し直接話を伺い、県内の経済活動と国際ビジネスについての理解を深める。また、就職に向けてのキャリア教育も兼ねる。

■授業の進め方（履修条件等）

企業経営者によるオムニバス形式の講義を中心に、企業訪問も行う。これらを通じ学習したことを、レポートにまとめ、教室で発表し議論も行う。

■成績評価方法・基準

企業ごとにレポートを必ず提出する。また、授業における発表・議論を通じての参加度を重視する。(定期試験はない)

■授業の予習・復習

予習：経営者からの講義前に、各自で企業について調べ、質問も用意する。
復習：レポートを作成する。

■教科書

特になし。

■参考文献

特になし。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方の説明、千葉県経済の概要
2	空港関連ビジネス(1)	経営者の講義(成田国際空港)
3	空港関連ビジネス(2)	企業訪問
4	空港関連ビジネス(3)	レポート発表と議論
5	千葉港関連ビジネス(1)	経営者の講義(千葉共同サイロ)
6	千葉港関連ビジネス(2)	企業訪問
7	千葉港関連ビジネス(3)	レポート発表と議論
8	物流関連ビジネス(1)	経営者の講義
9	物流関連ビジネス(2)	教室でのまとめ
10	物流関連ビジネス(3)	レポート発表と議論
11	輸出関連ビジネス(1)	経営者の講義
12	輸出関連ビジネス(2)	レポート発表と議論
13	サービス関連ビジネス(1)	経営者の講義
14	サービス関連ビジネス(2)	教室でのまとめ
15	サービス関連ビジネス(3)	レポート発表と議論

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	1年基礎演習		1年基礎演習	
担当者	国際学科専任教員		対象学年	1年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

大学生活を円滑に送るための基本項目（行動規範・知識・スキル）を体得することが第一のねらいです。演習は本学の重要な教育体系に位置づけられており、必ず参加しなければなりません。学生一人一人が、大学生活の中に具体的な目標を見出し、それに向けて行動できるようにすること、これを到達目標にします。また今年度は、「文章を書くこと」を共通の課題として取り組む予定です。

■授業の進め方（履修条件等）

クラス担任制をとっています。担当教員の指導の下、クラスの仲間と協力しながら、学習を進めてください。学習指針（6つの柱）は全クラス共通ですが、毎週の具体的な学習項目はクラスによって異なります。6指針とは、(1) スタートアップ、(2) キャンパス・スキル、(3) アカデミック・スキル、(4) コミュニケーション力、(5) 基礎知識、(6) 2年次へのブリッジです。

■成績評価方法・基準

提出物（50%）、クラス内の諸活動の達成度（50%）を基本とし、出席状況、授業態度などを勘案して、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教員の提示した課題に取り組み。
復習：辞書などを用いて、理解不足を補う活動に取り込む。

■教科書

配布資料のほか、各担当教員が指定したものを用います。今年度は、共通の基礎問題集、資料等も活用します。

■参考文献

随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 スタートアップ (1)	ガイダンス、フレッシュマン・セミナーを受けて学んだことを確認する。履修登録の仕方について学ぶ。自己紹介などで、仲間をつくる。
2 キャンパス・スキル (1)	大学生活の基本を段階的に身に付ける。単位のとり方、掲示板の見方、諸手続の時期と方法、困ったときの対処法など。
3 キャンパス・スキル (2)	クラス別のキャンパス・ツアーを実施する。
4 アカデミック・スキル (1)	敬愛大学のことを知る。「野の花」を聞いてみよう。クラスメイトと一緒に、先生の話を聞く。
5 アカデミック・スキル (2)	大学で何を学ぶか考える。カリキュラムの見方、シラバスの読み方を学ぶ。
6 講演を聞く (1)	若者の薬物乱用防止する講話を、専門家を招いて聞く。
7 講演を聞く (2)	先生の講話をもとにクラスで話しあう。自分の感想を書きとめる。互いの意見を聞く。討論てみよう。
8 アカデミック・スキル (3)	メディアセンターのガイダンスに参加する。文献の探し方、図書館の利用の仕方学ぶ。2クラスずつ行う。
9 コミュニケーション (1)	みんなで楽しい時間を創ろう。クラスごとに、近隣への散歩、スポーツ、ゲームなど工夫する。
10 コミュニケーション力 (2)	身近なことを書いて、仲間に伝えよう。
11 コミュニケーション力 (3)	愛読書の紹介を通して、仲間の話を聞き合おう。
12 基礎知識 (1)	国際社会について書かれた新聞記事を読み、討論する。興味のあることを様々な方法で調べよう。
13 基礎知識 (2)	グループで調べたことを、レポートしてみよう。うまく伝えよう工夫しよう。
14 レクリエーション	クラス対抗スポーツ大会の企画と運営。
15 前期のまとめ、課題の総括	前期授業を振り返り、達成できたことを書いておこう。
16 スタートアップ (2)	前期の成績表をもとに個人面談を実施する。
17 アカデミック・スキル (4)	各自が後期学習の目標をそれぞれ考える。目標を書き記しておこう。
18 基礎知識 (3)	担当教員の専門研究について、分かりやすく教えてもらおう。
19 基礎知識 (4)	担当教員の専門研究をさらに聞く。適宜、合同ゼミの形態をとる。
20 基礎知識 (5)	取得できる資格、各自の将来を具体的にイメージしてみよう。
21 コミュニケーション力 (4)	大学祭に参加する準備をする。クラスで他者に伝えたい共通の「メッセージ」を企画しよう。
22 学外研修への参加	国立歴史民俗博物館のツアーに全員参加する。事前準備も行う。
23 学外研修を終えて	各自が博物館の視察から学んだこと、考えたことを文書化してみる。
24 レクリエーション	ゼミで企画したレクリエーションを実施。近隣施設の研修をかねた屋外での研修、ITを活用したアクティブラーニングなど。
25 2年次専門研究へのブリッジ(1)	各自が興味を持ったことを文書化し、リサーチを試みる。ゼミ選択につなげる。
26 2年次専門研究へのブリッジ(2)	2年ゼミ選択の留意点、専門研究の目的、取組みの準備を学ぶ。
27 基礎知識 (6)	本を読もう。担当教員が指定した文章を丁寧に読む。
28 基礎知識 (7)	本を読もう。詩を読もう。優れた文章に触れて考える習慣を身に付けよう。
29 講演を聞く (3)	国際学国際学協会主催の講演会に参加する。
30 1年間のゼミを学んで（発表会）	目標が達成されたか確認し、レポートをまとめる。

シラバス

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	College English I	College English I	College English I	英語 I
担当者	国際学部英語教員		対象学年	1年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

英語の4技能（読む、聞く、話す、書く）を伸ばすための基礎となる知識を固めることが目的です。クラスは3レベル（初級、中級、上級）6クラスに分かれ、受講者はそれぞれの英語運用能力に合った環境で学びます。上から3クラスは定期試験（年2回）としてTOEIC IPテストを受験します（学生負担無し）。1年次に受験する機会がなかった人も2年以降College English III・IVを受講することで、同じようにTOEIC IPテストを受けることができます。College English I・IIでしっかりと実力をつけ、卒業までに高得点を獲得できるようにしましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

小テストの方法や授業の内容、進め方はレベルにより異なりますが、初回の授業で担当教員が説明しますので、受講者はそれぞれの先生の指示に従ってください。なお、上級・中級クラスは各自教科書添付のCD-ROMで演習を繰り返し、文法の知識を確認してください。

■成績評価方法・基準

平常点（小テストなど）（40%）、中間試験（30%）、TOEIC IPテストのスコア（30%）

■授業の予習・復習

予習・復習：教科書のCD-ROMを使用し、指示に従って問題演習を終わらせ、小テストに備えること（上級・中級）。演習の量、範囲はレベルにより異なるため、担当教員の指示に従ってください。

■教科書

上級 Grammar in Use: Intermediate with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. 中級 Grammar in Use: Basic with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. 初級 担当者によるテキスト

■参考文献

Oxford Wordpower Dictionary for Learners of English. Oxford University Press; 3rd Revised edition版

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業の進め方について	教科書の概要。TOEIC IPテストについて。
2 Grammar①	Present Continuous and Simple Present
3 Reading Comprehension①	※テキストは各レベルにより異なります。受講者の上達の度合いに応じて随時適切な教材を配布。
4 Grammar②	Present Perfect and Past
5 Reading Comprehension②	※参照
6 Grammar③	Will
7 Reading Comprehension③	※参照
8 Grammar④	I will and I'm going to/Will be doing and will have done
9 Reading Comprehension④	※参照
10 中間試験 (50分)	要点について解説
11 Grammar⑤	Could (do) and could have (done), Must
12 Reading Comprehension⑤	※参照
13 Grammar⑥	May and might
14 Reading Comprehension⑥	※参照
15 Grammar⑦	Should, Would

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	College English II	College English II	College English II	英語 II
担 当 者	国際学部英語教員		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)を伸ばすための基礎となる知識を固めることが目的です。クラスは3レベル(初級、中級、上級)6クラスに分かれ、受講者はそれぞれの英語運用能力に適った環境で学びます。上から3クラスは定期試験(年2回)としてTOEIC IPテストを受験します(学生負担無し)。1年次に受験する機会がなかった人も2年以降College EnglishⅢ・Ⅳを受講することで、同じようにTOEIC IPテストを受けることができます。College EnglishⅠ・Ⅱでしっかりと実力をつけ、卒業までに高得点を獲得できるようにしましょう。

■授業の進め方(履修条件等)

小テストの方法や授業の内容、進め方はレベルにより異なりますが、初回の授業で担当教員が説明しますので、受講者はそれぞれの先生の指示に従ってください。なお、上級・中級クラスは各自教科書添付のCD-ROMで演習を繰り返し、文法の知識を確認してください。

■成績評価方法・基準

平常点(小テストなど)(40%)、中間試験(30%)、TOEIC IPテストのスコア(30%)

■授業の予習・復習

予習・復習:教科書のCD-ROMを使用し、指示に従って問題演習を終わらせ、小テストに備えること(上級・中級)。演習の量、範囲はレベルにより異なるため、担当教員の指示に従ってください。

■教科書

上級 Grammar in Use: Intermediate with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. 中級 Grammar in Use: Basic with CD-ROM. Raymond Murphy et.al. Cambridge University Press. 初級 担当者によるテキスト

■参考文献

Oxford Wordpower Dictionary for Learners of English. Oxford University Press; 3rd Revised edition版

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	TOEIC IPテスト結果について	教科書の概要。TOEIC IPテストについて。
2	Grammar①	If and Wish
3	Reading Comprehension①	※テキストは各レベルにより異なります。受講者の上達の度合いに応じて随時適切な教材を配布。
4	Grammar②	Passive
5	Reading Comprehension②	※参照
6	Grammar③	Reported Speech
7	Reading Comprehension③	※参照
8	Grammar④	Articles and Nouns, -ing and the Infinitive
9	Reading Comprehension④	※参照
10	中間試験 (50分)	要点について解説
11	Grammar⑤	Relative Clauses
12	Reading Comprehension⑤	※参照
13	Grammar⑥	Adjectives and Adverbs
14	Reading Comprehension⑥	※参照
15	Grammar⑦	Conjunctions and Prepositions

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	College English III		College English III	
担 当 者	小林 哲郎 Tetsuro Kobayashi		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

グローバル化(国際化)について学生用に分かり易く書きおろされた英語のエッセイを読み、その光と影を学び、国際化の本質を理解します。また、TOEICテストに準じた学生が取組みやすい教材を使い、リスニングや速読の演習を通して幅広い英語力を養います(定期試験はTOEICテスト(無料)を受験)。

■授業の進め方(履修条件等)

主として、グローバル化のテキストに沿って授業を進めていきます。また、TOEICテストに準じた学生が取組みやすいプリント教材もあわせて使用し、幅広い英語力を身につけます。

■成績評価方法・基準

小テスト、授業参加度、中間試験、定期試験(TOEICテスト)をもとに総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習:予告された箇所を予め読んでおくこと。
復習:学習した内容を復習し、完全な理解を図ること。

■教科書

What Globalization Really Means (成美堂)

■参考文献

授業の中で必要に応じて指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Guidance	Introduction of the Course
2	Unit 1	Introduction :Understanding Globalization
3	Unit 1	TOEICテストに準じたリスニングや速読演習(1)
4	Unit 2	Container:Making Transportation Cheap
5	Unit 2	TOEICテストに準じたリスニングや速読演習(2)
6	Unit 3	Outsourcing:Call Centers in India
7	Unit 3	TOEICテストに準じたリスニングや速読演習(3)
8	Unit 4	The Unglobalized World
9	Unit 4	TOEICテストに準じたリスニングや速読演習(4)
10	Unit 5	Knowledge:The Internet as Equalizer
11	Unit 5	TOEICテストに準じたリスニングや速読演習(5)
12	Unit 6	Universities
13	Unit 6	TOEICテストに準じたリスニングや速読演習(6)
14	Unit 7	Wikipedia
15	Unit 7	TOEICテストに準じたリスニングや速読演習(7)

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	College EnglishⅢ		College EnglishⅢ	
担 当 者	George Whalley		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

This class is designed for students who wish to further develop and apply the skills learned in College English I and II. The majority of class time will be spent building vocabulary, reviewing grammar, practicing conversations and reading short stories. Emphasis will be placed on improving students verbal and written communication skills. There will also be a portion of this class devoted to TOEIC test contents and strategies. Students are highly encouraged to take the TOEIC IP test free of charge as part of this course.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should have passed College English I and II to take this class.

■成績評価方法・基準

Grading will be equally based on participation, classwork and TOEIC test results.

■授業の予習・復習

Students will be asked to briefly explain current events in their lives and in the news to the instructor each class. Preparation for this task is required.

■教科書

The instructor will provide materials for this class. No textbook is assigned.

■参考文献

Students should bring a dictionary to each class.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Food Restaurants and Cooking	Food Q&A, Current Topics, Grammar (Questions)
2	Shopping Department Stores and Clothing	Shopping Q&A, Current Topics, Grammar (Questions)
3	Music Styles and Singers	Music Q&A, Current Topics, Grammar (Auxiliary Verbs)
4	Transportation Public Transportation and Travel	Transportation Q&A, Current Topics, Grammar (Tag Questions)
5	Work and Lifestyle	Work Q&A, Current Topics, Grammar (Verbs - ing)
6	Movie	Slumdog Millionaire
7	Slumdog Millionaire	Story Telling, Current Topics, Grammar (Verb- to)
8	Family Marriage and Children	Family Q&A, Current Topics, Grammar (Verb - Object - to)
9	Airports Airplanes and Destinations	Airport Q&A, Current Topics and Grammar (prefer vs rather)
10	Famous People Stars and Legends	Famous People Q&A, Current Topics, Grammar (Prepositions)
11	Sports Olympics and Games	Sports Q&A, Current Topics and Grammar (Be/Get used to)
12	Home and Housework	Home Q&A, Current Topics, Grammar (Purpose)
13	TOEIC Preparation	TOEIC Contents and practice questions
14	TOEIC Preparation	TOEIC Strategies, WH- Questions, Frequent Errors
15	TOEIC Preparation	TOEIC Practice Test and Review

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	College EnglishⅣ		College EnglishⅣ	
担 当 者	小林 哲郎 Tetsuro Kobayashi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

グローバルゼーション（国際化）について学生用に分かり易く書きおろされた英語のエッセイを読み、その光と影を学び、国際化の本質を理解します。また、TOEICテストに準じたリスニング演習や環境問題を扱ったVOA放送によるビデオを使用し、幅広い英語力を養います（定期試験はTOEICテスト（無料）を受験）。

■授業の進め方（履修条件等）

主として、グローバルゼーションのテキストに沿って授業を進めていきます。また、TOEICテストに準じた学生が取り組みやすいリスニング演習などを行ったり、環境問題のビデオを用い、幅広い英語力を身につけます。

■成績評価方法・基準

小テスト、授業参加度、中間試験、定期試験（TOEICテスト）をもとに総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：予告された箇所を予め読んでおくこと。
復習：学習した内容を復習し、完全な理解を図ること。

■教科書

前期と同じテキスト（What Globalization Really Means 成美堂）を使用します。

■参考文献

授業の中で必要に応じて指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Guidance	Introduction of the Course
2	Unit 8	Immigration: Integrating People across Borders
3	Unit 8	リスニング演習およびビデオ内容の理解（1）
4	Unit 9	Globalizing Our Diet
5	Unit 9	リスニング演習およびビデオ内容の理解（2）
6	Unit 10	The Brazilian Amazon Rainforest
7	Unit 10	リスニング演習およびビデオ内容の理解（3）
8	Unit 11	The Downside of Globalization
9	Unit 11	リスニング演習およびビデオ内容の理解（4）
10	Unit 12	Ethics and Standards
11	Unit 12	リスニング演習およびビデオ内容の理解（5）
12	Unit 13	Supply Chains: Bringing Peace
13	Unit 13	リスニング演習およびビデオ内容の理解（6）
14	Unit 14	Jet Airplanes: Challenges for Globalization
15	Unit 14	リスニング演習およびビデオ内容の理解（7）

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	College EnglishⅣ		College EnglishⅣ	
担 当 者	George Whalley		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

This class is designed for students who wish to develop and apply the skills learned in College English I and II. It is a continuation of College English III but can be taken as a separate course. The majority of class time will be spent on building vocabulary, reviewing grammar, practicing conversations and reading short stories. Emphasis will be placed on improving verbal and written communication skills. There will also be a portion of this class devoted to TOEIC test contents and strategies. Students are highly encouraged to take the TOEIC IP test free of charge as part of this course.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should have passed College English I and II to take this class

■成績評価方法・基準

Grading will be based equally on participation, classwork and TOEIC test scores.

■授業の予習・復習

Students will be asked to explain current events in their lives and in the news to the instructor each class. Preparation for this task is required.

■教科書

The instructor will provide all materials for this class. No textbook is assigned.

■参考文献

Students should bring a dictionary to each class.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Mental and Physical Health	Mental and Physical Health Q&A, Current Topics, Grammar (Adjective + to)
2	Entertainment Movies and Music	Entertainment Movies and Music Q&A, Current Topics, Grammar (See somebody do)
3	Pets and Animals	Pets and Animals Q&A, Current Topics, Grammar (Countable and Uncountable Nouns)
4	Weather Disasters and Seasons	Weather Disasters and Seasons Q&A, Current Topics, Grammar (Articles)
5	America People Places and Things	America People Places and Things Q&A, Current Topics, Grammar (Singular and Plural)
6	Forrest Gump (movie)	Movie
7	Forrest Gump Review	Forrest Gump Q&A, Current Topics, Grammar (Possessive Pronouns)
8	Religion Faith and Values	Religion Faith and Values Q&A, Current Topics, Grammar (Agreement)
9	Education University and Study	Education University and Study Q&A, Current Topics, Grammar (Relative Clauses)
10	Nations and Nationalities	Nations and Nationalities Q&A, Current Topics, Grammar (Comparisons)
11	Children and Parenting	Children and Parenting Q&A, Current Topics, Grammar (Word Order)
12	Choices in Life	Choices in Life Q&A, Current Topics, Grammar (Word Order con't)
13	TOEIC test preparation	TOEIC test review and practice test questions
14	TOEIC test preparation	TOEIC test strategies (Listening for key words)
15	TOEIC test preparation	TOEIC test strategies (key vocabulary)

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Writing I		Writing I	
担 当 者	増井 由紀美 Yukimi Masui		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

基礎的な文法事項をおさえ、正確な英文で自己表現ができることを目標にします。それを身につけるためのひとつの方法として、この授業ではTopic SentenceのあるParagraph Writingを導入します。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、テーマにそった読み物を読んで分析します。それに従い、クラスの中で作文をし、提出します。翌週、教員によるコメント付きで返却されますが、それを自分で訂正して、再提出します。

■成績評価方法・基準

提出された作文は成績が付けられて返却されます。これが基準になって成績がつきます。

■授業の予習・復習

返却された作文を訂正して、翌週提出します。基本的に毎週宿題が課されることになります。

■教科書

授業内配布資料を用います。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	自己紹介文の書き方	英語（口頭）で自己紹介の後、作文。
2	Topic Sentenceって何？	皆さんが先週書いた文章にTopic Sentenceがあるか話し合います。
3	Paragraphって何？	配布資料を基にParagraphとは何かを学びます。
4	暮らしの中での問題をとりあげます。	問題がある、ということ伝えるための効果的な書き方を学びます。
5	美しいものを描きます。	読み手が「美しい」という読後感を持つ文章を書きます。
6	類似しているものを比べてみます。	似ているものを比べるのに役に立つ表現を学びます。
7	違いを表現します。	違いを表現するための役に立つ言葉を学びます。
8	文法チェック（1）	これまでの作文にみられた「間違い」をとりあげ、文法の整理をします。
9	方法（遊び方／作り方）の書き方。	料理やゲームなどを説明します。
10	順序よく説明します。（時間）	時を基準にした書き方を学びます。
11	距離を意識した書き方。	空間をうまく伝えます。
12	文法チェック（2）	句読点の役割について学びます。
13	エッセイの仕組み。	配布資料を読み、導入部分、本文、締めめのパラグラフを分析します。
14	導入部分を書く。	本文のパラグラフとの違いを学びます。
15	まとめ	これまで書いた全作品を自己分析し、クラス内で発表します。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Writing I		Writing I	
担 当 者	山本 陽子 Yoko Yamamoto		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This class is for the students at pre-intermediate level who get used to writing English sentences. The purpose is to acquire functional writing skills with reviewing important English grammar for writing proper English. Students will learn various expressions through writing activities.

■授業の進め方（履修条件等）

- (1) Check your placement test score and class level.
- (2) Attend the first class for course registration.
- (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson.
- (4) Turn in the Task sheet at the end of each unit.

■成績評価方法・基準

- (1) Class participation (2) Exercises (3) Task and homework (4) Final Test

■授業の予習・復習

Read the textbook and prepare for the next lesson. Complete the exercises and the task sheet.

■教科書

New English Composition Workbook

■参考文献

Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Guidance	Introduction of lesson / warm-up writing
2	Unit 1	Self-Introduction (verbs)
3	Unit 2	My Family, My Friends (noun, article, adjective)
4	Unit 3	My Room (there, preposition)
5	Unit 4	Everyday Activities (present and present continuous tense)
6	Unit 5	Recipes (transitive and intransitive verbs)
7	Unit 6	Introducing My Town (adverb, comparative)
8	Unit 7	Asking Questions (wh-questions)
9	Unit 8	Diary (five sentence structures)
10	Unit 9	Making a Reservation (future tense, would like to)
11	Unit 10	Writing a Postcard (passive voice)
12	Unit 11	Job Hunting (can, be able to)
13	Unit 12	Writing a Letter (infinitive)
14	Unit 13	Giving Advice (auxiliary verbs)
15	Unit 14	Invitation (would)

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Writing I		Writing I	
担 当 者	Scot Hill		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This is a beginning course in English writing. We will study grammar, punctuation and simple writing techniques. We will work toward increasing student's writing fluency as we study different types of writing.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should have a basic level of ability in English (high school level).

■成績評価方法・基準

Evaluation will be based on: 1) attendance, classroom work / attitude and 2) tests.

■授業の予習・復習

Students should have an English dictionary.

■教科書

Get Ready to Write - Second Edition (Pearson/Longman) by Blanchard / Root

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Introduction	Class introduction
2	Punctuation	Punctuation / writing introductions
3	Classmates	Writing about a classmate
4	Family	Writing about your family
5	Conjunctions	And, so and but; paragraphs
6	Correspondence	Letters and postcards
7	When	Using 'when' ; review
8	Test	Test
9	Activities	Writing about activities
10	Time sequence	Writing in time sequence
11	Daily schedule	Writing about your daily life
12	Descriptions 1	Writing descriptions of people
13	Descriptions 2	Writing descriptions of things
14	Review	Review
15	Test	Test

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Writing II	英語Writing	Writing II	
担 当 者	Jayne Ikeshima		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

Guided writing practice on a wide variety of traditional topics is provided in this course. Vocabulary study is included in each topic.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should bring all previous printed material to class.

■成績評価方法・基準

Classroom participation will count heavily toward the final grade. Grading will be based on attendance, classwork, homework, and tests.

■授業の予習・復習

予習：
復習：Students should review the class material after each class and do the homework.

■教科書

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson 1	Introductions
2	Lesson 2	Introducing yourself
3	Lesson 3	Identifying Family and Home
4	Lesson 4	Describing a special place or event
5	Lesson 5	Describing a typical activity
6	Lesson 6	Describing an outing
7	Lesson 7	Review
8	Lesson 8	Test
9	Lesson 9	Describing locations
10	Lesson 10	Describing activities
11	Lesson 11	Describing future activities
12	Lesson 12	Describing future plans
13	Lesson 13	Describing past events
14	Lesson 14	Review
15	Lesson 15	Test

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Writing II	英語Writing	Writing II	
担 当 者	鈴木 英明 Hideaki Suzuki		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

今まで身につけた英語の知識を復習しながら、できるだけ誤りの少ない、書き手の意図が正しく伝わるような英文、身近なテーマでまとまりのある英文を書く力を養成します。

■授業の進め方（履修条件等）

まずモデルとなる英文パラグラフを読み、これに関する質問に英語で答えたりしながら、自己表現するための素材を整理し、最終的に身近なテーマに関して一定の長さの英文を書いてもらいます。

■成績評価方法・基準

授業への参加度・課題提出50%、定期試験50%の割合で評価します。

■授業の予習・復習

復習として、教科書で紹介されていた語句を書けるようにしてください。

■教科書

宮田学、Joseph Stavoy『Can't Stop Writing 英語で書いてみよう』（三修社、2005年）

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	授業の具体的な進め方について
2	Self-Introduction	自己紹介文を書く
3	My College	大学生活について書く
4	Family and Hometown	家族や故郷について書く
5	Pastimes and Hobbies	余暇の過ごし方や趣味について書く
6	Weekends	週末の計画について書く
7	Friends	友人を紹介する
8	High School Days	高校時代について書く
9	Part-time Jobs	アルバイトについて書く
10	My Future Plans	将来の希望・計画について書く
11	Travel and Shopping	買い物や旅行の経験について書く
12	Love and Marriage	恋愛や結婚に対す自分の考えを書く
13	My Opinion 1	自分でテーマを見つけて書く（1）
14	My Opinion 2	自分でテーマを見つけて書く（2）
15	概括	授業のまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Writing II	英語Writing	Writing II	
担 当 者	George Whalley		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This class is designed to build on the writing skills developed in Writing I. Emphasis will be placed on paragraph writing and composition skills.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should have completed Writing I.

■成績評価方法・基準

Grading will be equally based on the quality and completion of weekly written assignments, participation in class and a final written test.

■授業の予習・復習

The instructor will provide materials however students should bring a dictionary to each class.

■教科書

There is no textbook for this class.

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Class Introduction	Student Information Card, 10 Things About This Class
2	Understanding Paragraphs	The Topic Sentence, The Body, The Conclusion
3	Organizing Information	Explaining events based on relative importance
4	Organizing Information (continued)	Explaining events based on position
5	Organizing Information (continued)	Explaining events based on time
6	The Writing Process	Pre-writing, Writing, Correcting
7	Supporting Main Ideas	Facts and Opinions
8	Describing people, places and things	Using Adjectives and Adverbs
9	Writing Letters	Business Letter Form
10	E-mail	E-mail for Business
11	Comparing and Contrasting	Using Comparative and Superlative Forms
12	Reporting	Factual Reporting
13	Reporting (continued)	Opinionated Reporting
14	Creative Writing	Story Writing
15	Creative Writing (continued)	Story Writing (continued)

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Listening I		Listening I	
担 当 者	池嶋 保幸 Yasuyuki Ikeshima		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This course is to improve listening comprehension by studying the basic English sound system. Student are encouraged to listen to real world English.

■授業の進め方（履修条件等）

We will watch English dramas, listen to various songs and watch news from various sources.

■成績評価方法・基準

Small tests will be given frequently and the grades will be based on the tests, which means that students participation is strongly encouraged.

■授業の予習・復習

Students will be asked to recite a passage or practice a song.

■教科書

Printed materials will be used.

■参考文献

None

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson 1	Introduction
2	Lesson 2	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 1
3	Lesson 3	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 2
4	Lesson 4	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 3
5	Lesson 5	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 4
6	Lesson 6	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 5
7	Lesson 7	Listen to a song and practice dictation and pronunciation 6
8	Lesson 8	Listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 1
9	Lesson 9	Listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 2
10	Lesson 10	Listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 3
11	Lesson 11	Listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 4
12	Lesson 12	Listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 5
13	Lesson 13	Listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 6
14	Lesson 14	Listen to a part of a drama and practice dictation and pronunciation 7
15	Lesson 15	Overall review of the course

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Listening I		Listening I	
担 当 者	山本 陽子 Yoko Yamamoto		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This class is for the high beginners and pre-intermediate level students. The purpose is to acquire basic listening skill. Through the variety of exercises students will listen everyday spoken English and become familiar with correct English pronunciation, rhythm and intonation.

■授業の進め方（履修条件等）

- (1) Check your placement test score and class level.
- (2) Attend the first class for course registration.
- (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson.
- (4) Take review quiz of each unit.

■成績評価方法・基準

- (1) Class participation (2) Exercises (3) Review quiz (4) Final Test

■授業の予習・復習

Read the textbook and prepare for the next lesson. Practice what they learned in class and prepare for the review quiz.

■教科書

PRISM Listening red

■参考文献

Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Guidance	Introduction of lesson / What is listening? / warm-up
2	Unit 1	Do You Want to Be Famous?
3	Unit 2	Facebook Me
4	Unit 3	Breaking the Rules
5	Unit 4	The Sudoku Craze
6	Unit 5	Here's Your Allowance
7	Unit 6	Picky Eaters
8	Unit 7	Brain Training
9	Unit 8	Fact or Fiction
10	Unit 9	Green Cell Phones
11	Unit 10	Pet Talk
12	Unit 11	Stop Snoring
13	Unit 12	Spare Time
14	Unit 13	Street Art
15	Unit 14	Hurricane Warning

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Listening II	英語Listening	Listening II	
担 当 者	池嶋 保幸 Yasuyuki Ikeshima		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This is a continuation of Listening 1. Students who wish to take this course should have taken Listening 1 and/or should be able to understand English fairly well. Students will listen to real world English.

■授業の進め方（履修条件等）

Students will watch segments from movies, TV dramas, and documentary. They will be encouraged to learn vocabulary and expressions as well as sounds.

■成績評価方法・基準

Small tests will be given frequently. The grades will be based on the tests and class participation.

■授業の予習・復習

Students will be asked to study vocabulary and phrases so that they will be ready to listen to video segments.

■教科書

Printed materials will be used.

■参考文献

None

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson 1	Introduction
2	Lesson 2	watch segment 1
3	Lesson 3	watch segment 2
4	Lesson 4	watch segment 3
5	Lesson 5	watch segment 4
6	Lesson 6	watch segment 5
7	Lesson 7	Review
8	Lesson 8	watch segment 6
9	Lesson 9	watch segment 7
10	Lesson 10	watch segment 8
11	Lesson 11	watch segment 9
12	Lesson 12	watch segment 10
13	Lesson 13	watch segment 11
14	Lesson 14	watch segment 12
15	Lesson 15	Overall review

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Listening II	英語Listening	Listening II	
担 当 者	山本 陽子 Yoko Yamamoto		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This class is for the students at intermediate level. The purpose is to acquire four skills of English, focusing on mainly listening. Through the variety of exercises students will learn and practice many types of listening and speaking situations to communicate in English.

■授業の進め方（履修条件等）

- (1) Check your placement test score and class level.
- (2) Attend the first class for course registration.
- (3) Bring textbook and dictionaries to the lesson.
- (4) Take review quiz of each unit.

■成績評価方法・基準

- (1) Class participation (2) Exercises (3) Review quiz (4) Final Test

■授業の予習・復習

Read the textbook and prepare for the next lesson. Practice what they learned in class and prepare for the review quiz.

■教科書

AIRWAVES Basic -Developing Better Listening Skills- (Second Edition)

■参考文献

Reference books or study-aid materials will be indicated during lessons.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Guidance	Introduction of lesson / listening method / warm-up
2	Unit 1	It's Fun to Make Friends
3	Unit 2	We Like the Same Things
4	Unit 3	A Weekend to Enjoy
5	Unit 4	Your Family's Not Like Mine
6	Unit 5	An Interesting Date
7	Unit 6	A Good Day to Go Shopping
8	Unit 7	Here's a Good Restaurant
9	Unit 8	First Day at Work
10	Unit 9	I Need a Vacation
11	Unit 10	What a Beautiful Voice!
12	Unit 11	A Five-Year Plan
13	Unit 12	It's Only Money
14	Unit 13	Staying Stylish
15	Unit 14	Let's Watch a Movie

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Speaking I		Speaking I	
担 当 者	Thomas O'Leary		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This course will help students become re-introduced to basic English vocabulary and simple phrases for everyday conversation.

■授業の進め方（履修条件等）

We will slowly introduce key vocabulary and study points to build our skills.

■成績評価方法・基準

Students will need a notebook to copy our lesson material week by week.

■授業の予習・復習

Class attendance is very important.40% of the final score will be your attendance.

■教科書

The teacher will supply new prints each week.

■参考文献

Work with a good attitude and enjoy our course.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Introduction	We start with basic points.
2	Phrases of Location	We speak in English about a place.
3	Places you know	We group places in easy ways.
4	Talking about Home	We focus on talk of our homeland.
5	Review and Quiz	We test our basic vocabulary.
6	Word to Express Time	We think with verbs of time.
7	The Present	We use adverbs and contrast events.
8	The Future	We imagine a future time in life.
9	Quiz on Patterns	We review our time vocabulary.
10	Verb Families	We compare places with times.
11	Place and Things	We select 3 well-known places as topics.
12	Phrase Families	We list groups of words for mastery.
13	Using Description Well	We speak by relating two or more topics.
14	Review Test	We review the important things learned.
15	Final Appraisal	We sum up our initial goals.

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Speaking I		Speaking I	
担 当 者	Scot Hill		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This is a course for high beginners. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive, and students will be expected to work together in pairs as well as individually.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should have a basic high school level knowledge of English.

■成績評価方法・基準

Evaluation will be based on attendance, class participation and tests.

■授業の予習・復習

Reading lessons before class and bringing a dictionary are recommended.

■教科書

American HEADWAY 1-Second Edition (Oxford) by Liz and John Soars

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Introduction	Introductions / greetings
2	Questions	Question and answer practice
3	Meeting people	Meeting people / Family
4	Be verbs	Be verbs; negatives; possessives
5	Work	Work / occupations
6	Leisure	Leisure activities / hobbies
7	Review	Questions and negatives; review
8	Test	Test
9	Leisure 2	Leisure activities / hobbies
10	Present simple	Verbs - present simple tense
11	Prepositions	Locations; prepositions
12	Things and places	Household items / places; using some and any
13	Abilities	Abilities; can / can't
14	Past 2	Talking about the past; review
15	Test	Test

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Speaking II	英語Speaking	Speaking II	
担 当 者	Jayne Ikeshima		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This is a continuation of Speaking I. Students should be fairly confident with the basics of English conversation and be willing to speak up in class frequently. The course will be topic-oriented and students will practice conversing on a variety of topics. At the end of the course, students will be able to discuss all the topics listed in the weekly syllabus.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should attend the class on the first day for further explanation.

■成績評価方法・基準

Classroom participation will count heavily towards the final grade. Grades will be based on attendance/classroom work homework, and tests.

■授業の予習・復習

予習：Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

復習：Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson 1	Introductions
2	Lesson 2	Talking about work
3	Lesson 3	Talking about different countries
4	Lesson 4	Talking about experiences
5	Lesson 5	Talking about food
6	Lesson 6	Suggesting and Inviting
7	Lesson 7	Speaking Test
8	Lesson 8	Talking about the future
9	Lesson 9	Feelings and Emotions
10	Lesson 10	Requesting
11	Lesson 11	Giving advice and making suggestions
12	Lesson 12	Talking about movies and television
13	Lesson 13	Giving directions
14	Lesson 14	Making predictions
15	Lesson 15	Final test

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Speaking II	英語Speaking	Speaking II	
担 当 者	池嶋 保幸 Yasuyuki Ikeshima		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This is a continuation of Speaking I, so students who wish to take the course should have fairly good speaking ability. In other words, beginner level students are advised not to take the course. The course will be topic based and students will practice speaking on various topics.

■授業の進め方（履修条件等）

Students are expected to talk about various topics as a group or sometimes individually. Students who have taken Speaking 1 are eligible to take this course.

■成績評価方法・基準

The grades will be based on small tests which are given frequently. They are evaluated based on class participation. Therefore, good attendance is expected.

■授業の予習・復習

Students will be asked to prepare to talk about topics which are notified beforehand.

■教科書

Printed materials will be used. No textbooks will be used.

■参考文献

None

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson 1	Introduction
2	Lesson 2	Talking about work.
3	Lesson 3	Talking about different countries.
4	Lesson 4	Talking about environmental issues: pollution, natural disasters.
5	Lesson 5	Talking about peoples health.
6	Lesson 6	Talking about world economy.
7	Lesson 7	Talking about feeling and emotions.
8	Lesson 8	Talking about future of the world.
9	Lesson 9	Talking about movies and television
10	Lesson 10	Talking about religion.
11	Lesson 11	Talking about life and happiness
12	Lesson 12	Talking about aging
13	Lesson 13	Talking about peace and war
14	Lesson 14	Talking about nuclear power and its risk
15	Lesson 15	Overall review

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Speaking II	英語Speaking	Speaking II	
担 当 者	Thomas O'Leary		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This course will improve English speaking skills and give students confidence in better self-expression.

■授業の進め方（履修条件等）

We will concentrate on reviewing students vocabulary and understanding of structure.

■成績評価方法・基準

At first we will outline our communication goals and re-develop the student's speaking skills.

■授業の予習・復習

Attending class regularly is needed for a good score. Attendance will count as 40% of the final score.

■教科書

The teacher will supply the study materials.

■参考文献

Study with a good attitude and participate.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Introduction	We find out how much English we know.
2	The Topic of People	We begin with family member impressions.
3	Using Simple Description	We group our vocabulary for usefulness.
4	Vocabulary Work	We introduce some key new words.
5	Kinds of Occupations	We study people by the jobs they have.
6	Review Quiz	We test our review skills.
7	Words about Experiences	Events have a story to tell
8	Action and Performing	We speak about doing various actions.
9	How People Interact	We communicate with others about actions.
10	Second Quiz	We test vocabulary use.
11	Dialog Structuring	We consider conversation as a goal.
12	Playing Speaking Roles	We make a role by using definitions.
13	Practicing Roles	We make dialogs using creativity.
14	Review of Skills	We compare our new and former skills.
15	Final Appraisal	We assess how best to improve more skills.

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	Speaking II	英語Speaking	Speaking II			
担 当 者	Scot Hill		対象学年	1年	単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This is a course for high beginners continuing from Speaking I. It will include study in speaking, listening, vocabulary and grammar. Class work will be interactive and students will be expected to work together in pairs as well as individually.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should have a basic high school level ability in English.

■成績評価方法・基準

Evaluation will be based on attendance, classroom work and tests.

■授業の予習・復習

Students should prepare by reading lessons before class and bringing a dictionary to class.

■教科書

American HEADWAY 1-Second Edition (Oxford) by Liz and John Soars

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Introduction 1	Introductions / greetings
2	Introduction 2	Question and answer practice
3	Verbs 1	Past simple tense; irregular verbs
4	Verbs 2	Past simple tense; times and dates
5	Time	Time expressions / negatives
6	Nouns	Count / non-count nouns; a and some
7	Much / many	Using much and many; review
8	Test	Test
9	Verbs 3	Present continuous; clothes
10	Descriptions	Describing people and feelings
11	Weather	Weather / the future
12	Adjectives	Comparatives and superlatives
13	Verbs 4	Talking about things you have done
14	Adverbs	Using ever and never; review
15	Test	Test

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	World English I		World English I			
担 当 者	Jayne Ikeshima		対象学年	1年	単 位	1

■授業のねらいと到達目標

People all over the world have learned English from American songs. Students will learn and sing English songs in class every week, and then will practice using words and expressions from the songs. Students will also learn something about the singers and artists whose songs are studied. At the end of the course, students will be able to sing a variety of songs, and talk about the singers and artists who sang/wrote them.

■授業の進め方（履修条件等）

Students should attend the class on the first day for further explanation.

■成績評価方法・基準

Grades will be calculated on the basis of attendance and classwork, weekly quizzes, homework, and tests.

■授業の予習・復習

予習：Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

復習：Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson 1	Introductions
2	Lesson 2	Song # 1
3	Lesson 3	Song # 2
4	Lesson 4	Song # 3
5	Lesson 5	Song # 4
6	Lesson 6	Song # 5
7	Lesson 7	Review
8	Lesson 8	Test
9	Lesson 9	Song # 6
10	Lesson 10	Song # 7
11	Lesson 11	Song # 8
12	Lesson 12	Song # 9
13	Lesson 13	Song # 10
14	Lesson 14	Review
15	Lesson 15	Test

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	World English II		World English II			
担 当 者	Jayne Ikeshima		対象学年	1年	単 位	1

■授業のねらいと到達目標

People all over the world enjoy American movies. Students will study a scene from a movie every week. At the end of the course students will be able to understand and use the expressions they have learned from the movie scenes, and they will better understand the English in movies that they watch on their own.

■授業の進め方（履修条件等）

Class space is limited, so students should attend the class on the first day if they want to be in the class.

■成績評価方法・基準

Grades will be calculated on the basis of attendance and classwork, weekly quizzes, and tests.

■授業の予習・復習

予習：Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

復習：Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned

■教科書

Printed material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson 1	Introductions
2	Lesson 2	Movie Scene # 1
3	Lesson 3	Movie Scene # 2
4	Lesson 4	Movie Scene # 3
5	Lesson 5	Movie Scene # 4
6	Lesson 6	Movie Scene # 5
7	Lesson 7	Review
8	Lesson 8	Test
9	Lesson 9	Movie Scene # 6
10	Lesson 10	Movie Scene # 7
11	Lesson 11	Movie Scene # 8
12	Lesson 12	Movie Scene # 9
13	Lesson 13	Movie Scene #10
14	Lesson 14	Review
15	Lesson 15	Final Test

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	Debate I		Debate I（教職）			
担 当 者	庄司 真理子 Mariko Shoji		対象学年	1年	単 位	1

■授業のねらいと到達目標

There are two purposes in this debate course. One is to study the way how to develop effective debate skills. The other is to express your opinion logically and persuasively in English.

■授業の進め方（履修条件等）

Students must have good attendance and complete classwork for a passing score.

■成績評価方法・基準

Scores will depend on strong participation and attendance. Homework report.

■授業の予習・復習

Every week, homework sheets would be distributed, students should read and make vocabulary list for the discussing topic of the next week.

■教科書

Teacher will provide course materials week-by-week.

■参考文献

Teacher will make an advice case by case.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson One	Introductions; grading
2	Lesson Two	Expressing opinions, agreeing/ disagreeing
3	Lesson Three	Expressing opinions, opinion survey
4	Lesson Four	Expressing opinions, agreeing/ disagreeing
5	Lesson Five	Expressing opinions, agreeing/ disagreeing
6	Lesson Six	Explaining opinions, comparing and contrasting
7	Lesson Seven	Explaining opinions, comparing and contrasting
8	Lesson Eight	Mid Evaluation Title match of debate
9	Lesson Nine	Explaining opinions, finding reasons
10	Lesson Ten	Explaining opinions, comparing and contrasting
11	Lesson Eleven	Organizing opinions, giving supports
12	Lesson Twelve	Organizing opinions, giving supports
13	Lesson Thirteen	Organizing opinions, case study
14	Lesson Fourteen	Organizing opinions, giving supports
15	Lesson Fifteen	Title match of debate

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Debate I		Debate I (教職)	
担 当 者	村川 庸子 Yoko Murakawa		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

本講義のねらいは、物事を批判的に捉え、それを効果的に人に伝え、説得する技術を学ぶことにある。「ディベート」という、丁々発止、英語で意見を戦わせる場面だけを想像するかも知れないが、その前段階で問題の所在をつかみ、論拠となる資料を集め、これに基づいた議論を組み立てる能力を高めることを目指したい。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は次の3つのパートに分けて行うこととする。①講義・・・ディベートの概念、議論の仕方、ボキャブラリー等②資料収集③クラスの討論…分析方法に関する議論④スピーチの実践⑤ディベートの実践履修条件①出席重視 ②主体的参加 ③国際学科の学生向け ④人数 15～20名以内。

■成績評価方法・基準

講義への積極的参加（宿題を含む）20% 批判的思考力20%資料収集・分析 20% スピーチ実践20% ディベート実践 20%

■授業の予習・復習

相当量の英文を読むことになると思われる。予習・復習が不可欠である。嫌々でなく、楽しくこなして欲しい。

■教科書

植田一三『英語で意見を論理的に述べる 技術とトレーニング』（ベレ出版）

■参考文献

具体的なディベートの内容については新聞・雑誌の記事を用いる。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	テキスト 第1章 (14～21)
2	講義	第2・3章 (24～71) 論理的スピーキング力をつける！
3	グループ討論	グループ毎のディベートのテーマ設定に向けての討論
4	資料の検討	各自収集した資料の検討・議論の方向づけ
5	講義	第4章 (74～111) ディベートに効果的な英語表現
6	講義	第5章1-2 (114-141) 討論の実践例を検討する①
7	講義	第5章3-4 (141-169) 討論の実践例を検討する②
8	講義	第5章5-6 (160-192) 討論の実践例を検討する③
9	講義	第5章7 (193-241) 討論の実践例を検討する④
10	グループ討論	Pros and Consの議論の整理・検討
11	ディベート 第1回	ディベートの実践 (第1グループ) と全体による検討
12	ディベート 第2回	ディベートの実践 (第2グループ) と全体による検討
13	ディベート 第3回	ディベートの実践 (第3グループ) と全体による検討
14	ディベート 第4回	ディベートの実践 (第4グループ) と全体による検討
15	まとめ	総評

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	Debate II		Debate II (教職)	
担 当 者	Thomas O'Leary		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This course will introduce students to debate topics and review basic debate points. Later we will build new vocabulary and test skills.

■授業の進め方（履修条件等）

We will begin with the study of alive debate and each week learn to master its goals.

■成績評価方法・基準

Students will use a classroom notebook for recording key points and for homework.

■授業の予習・復習

Regular class attendance is important for a good final score - attendance counts for 40%.

■教科書

The teacher will supply the weekly study materials.

■参考文献

Effort and a good attitude are most important.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Introduction	We talk about debate basics.
2	How Debates Take Place	We describe an actual debate.
3	The Debate Team Members	We give each member tasks.
4	How a Team Prepares	We plan a debate performance.
5	Key Points about Skills	We group our objectives carefully.
6	First Test	We test our introductory points.
7	Reserch Strategies	We learn how to do research.
8	Making a Debate Speech	We draw up a model speech.
9	Organizing Well	We study how to debate by steps
10	The Role of the Judge	We try to discover our weak points.
11	Second Test	We describe a team's preparation.
12	Making a Presentation	We improve our thinking skills.
13	Checking Your Skills	We try to analyze our skill level.
14	Outlining a Project	We outline a full two-team debate.
15	Final Appraisal	We test our mastery of debate points.

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	English for Children I	English for Children I	English for Children I	English for Children I
担 当 者	Jayne Ikeshima		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This is a course to introduce students to the traditional rhymes, games, and songs played and sung by American children. At the end of the course, students will know understand, and be able to sing or recite all of the items listed in the weekly syllabus.

■授業の進め方（履修条件等）

Class space is limited, so students who want to be in the class should attend the class on the first day.

■成績評価方法・基準

Grading will be based on attendance and classwork, homework, quizzes, and tests.

■授業の予習・復習

予習：Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

復習：Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson 1	Introductions
2	Lesson 2	Eensy Weensy Spider
3	Lesson 3	Peanut Butter
4	Lesson 4	Head and Shoulders
5	Lesson 5	Rain Rain Go Away
6	Lesson 6	Bingo
7	Lesson 7	Review
8	Lesson 8	Test
9	Lesson 9	The Ants Go Marching
10	Lesson 10	Skinamarink
11	Lesson 11	Word Puzzles and Jokes
12	Lesson 12	There Was an Old Woman Who Lived in a Shoe
13	Lesson 13	U.S. Animated Cartoons
14	Lesson 14	Review
15	Lesson 15	Final Exam

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	English for Children II	English for Children II	English for Children II	English for Children II
担 当 者	Jayne Ikeshima		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

This course is a continuation of English for Children I. It will introduce students to more of the traditional rhymes, games, and songs played and sung by American children. At the end of the course, students will understand and be able to play/sing/recite a variety of games and songs.

■授業の進め方（履修条件等）

Class space is limited, so students who want to be in the class should attend the class on the first day.

■成績評価方法・基準

Grading will be based on attendance and classwork, homework, quizzes, and tests.

■授業の予習・復習

予習：Students should try to use as much English as possible in their daily lives.

復習：Students should review the class material after each class, and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Lesson 1	Introductions
2	Lesson 2	Counting Games
3	Lesson 3	Alphabet Games
4	Lesson 4	Songs
5	Lesson 5	Rhymes and Rhythms
6	Lesson 6	Poetry
7	Lesson 7	Reading Stories
8	Lesson 8	Test
9	Lesson 9	Jazz Chants
10	Lesson 10	Jokes and Riddles
11	Lesson 11	Word Puzzles
12	Lesson 12	Vocabulary and Hidden Pictures
13	Lesson 13	Television and Cartoons
14	Lesson 14	Review
15	Lesson 15	Final Test

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ビジネス英語		ビジネス英語	
担 当 者	嶋川 洋一 Youichi Shimakawa		対象学年	2年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

英語でビジネス・パートナーとコミュニケーションをとる際には、(1)自分の意図や考えを明瞭に伝える言動ができる必要と、(2)この場面ではなぜこのようにコミュニケーションするべきかという「相手の背景にある文化的前提や価値観、好みのコミュニケーションスタイル」を理解しておく必要があります。このコースでは、英語でビジネスをする際に誰でもが遭遇する場面を中心に重要英語表現の習得と効果的にコミュニケーションを図るうえでの文化的前提の理解向上を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

指定の教材を利用して授業を進めます。随所で英語の簡単なロールプレイ等を行い、学習者の積極的な参加を求めます。

■成績評価方法・基準

クラスでの参加度（30点満点）、小テスト5回（50点満点）、プロジェクト発表（20点満点）で総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：指定された課題のスキットの内容をCDを利用して予習しておくこと。
復習：各クラスで講師から出された課題を期日までにおこなうこと。

■教科書

ジョン・ギレスピー、嶋川洋一著『入門ビジネス英語ベストプラクティス1：自己紹介からプレゼンまで』（NHK出版2009）

■参考文献

エド・スミス他『ネイティブが教えるコミュニケーションテクニック60』NHKラジオ 入門ビジネス英語（NHK出版 2012）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Course Orientation & Self-Introductions	オリエンテーション、英語での自己PR、日英コミュニケーションの相違点
2	Unit 1, Unit 2	ファーストネーム、インフォマリティについて
3	Unit 3, Unit 4	プレゼンテーションの3Cs：Clear, Concrete and Concise
4	Unit 5, Unit 6	英語で積極的に聴くとは？
5	Unit 7, Unit 8	ビジネスにおいて人間味を出す、感情を表す
6	Unit 9, Unit 10	情報収集のための質問、オープンとクローズドな質問
7	Unit 11, Unit 12	チームメンバーに協力を依頼する際の文化的常識と英語表現
8	Unit 13, Unit 14	お客様と話す、「お客様はキング？パートナー？」
9	Unit 15, Unit 16	電話で話す際のポイント
10	Unit 17, Unit 18	ネットワーキングで情報収集する
11	Unit 19, Unit 20	誤解の原因を究明する
12	Unit 21, Unit 22	誤解を解くために
13	Unit 23, Unit 24	考え方の文化的相違点
14	Unit 25, Unit 26	相違点への対処法
15	Project presentations	調査プロジェクトの発表（英語）

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	中国語 I	中国語 I	中国語 I	
担 当 者	山影 統 Subaru Yamakage		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

中国語 I では、中国語の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、発音の学習を重点的に行い、併せて最も基本的な文法を同時に学んでいく。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には指定した教科書に沿って行う。履修条件：中国に興味があること。母語が中国語でない者。

■成績評価方法・基準

中間・期末テスト60%、平常点（授業参加度、小テスト等）40%

■授業の予習・復習

予習：付属のCDを聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。
復習：教科書に付録されている問題集をやること。

■教科書

竹島金吾 監修、尹景春・竹島毅 著
『<最新版> 中国はじめの一步』（白水社、2005年）

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	中国と「中国語」	オリエンテーション
2	発音①四声と母音	「四声」と母音の練習
3	発音②子音の発音	子音の練習
4	発音③鼻母音の発音	鼻母音の練習
5	発音④複合母音	複合母音の練習
6	発音学習の総復習	これまで学んできた発音の総復習
7	中間テスト	発音のテスト
8	教科書第一課「你贵姓？」	新出単語、文法（人称代名詞、「是」の文）
9	教科書第一課②	本文精読
10	教科書第二課「这是什么？」	新出単語、文法（指示代名詞、疑問詞疑問文）
11	教科書第二課②	文法の続き（「的」の用法、副詞）、本文精読
12	教科書第三課「你去哪儿？」	新出単語、文法（動詞の文、所有の「有」）
13	教科書第三課②	文法の続き（省略疑問文）、本文精読
14	教科書第四課「这个戒指多少？」	新出単語、文法（助数詞、指示代名詞②）、形容詞
15	教科書第四課②	文法の続き（数を問う疑問詞）、本文精読

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	
担 当 者	山影 統 Subaru Yamakage		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

中国語Ⅱでは、中国語Ⅰで身に付けた基本的な発音と文法の知識の底上げと共に、使用頻度の高い語彙と文法を習得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には指定された教科書に沿って行う。履修条件：中国語Ⅰを履修済みであること。

■成績評価方法・基準

テスト60%、平常点（含、小テスト）40%

■授業の予習・復習

予習：付属のCDを聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。
復習：教科書に付録されている問題集をやること。

■教科書

竹島金吾 監修、尹景春・竹島毅 著
『<最新版> 中国ははじめの一步』（白水社、2005年）

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	中国語Ⅰの復習①	復習
2	中国語Ⅰの復習②	復習
3	教科書第五課「你吃饭了吗？」	新出単語、文法（完了の「了」、所在の「在」）
4	教科書第五課②	文法の続き（助動詞「想」、本文精読）
5	教科書第六課「你晚上有事吗？」	新出単語、文法（数字、日付・時刻）
6	教科書第六課②	文法の続き（動作の時点の使い方）、本文精読
7	教科書第七課「你在哪儿住？」	新出単語、文法（介詞の「在」・「?」、所在の「有」）
8	教科書第七課②	文法の続き（反復疑問文）、本文精読
9	中間テスト	中間テスト
10	中間テスト②	中間テストの答え合わせ。
11	教科書第八課「你一个星期干几天？」	新出単語、文法（時間量、助動詞「得」）
12	教科書第八課②	文法の続き（介詞「从」）、本文精読
13	教科書第九課「你去过美国吗？」	新出単語、文法（経験の「?」、「是～的」の文）
14	教科書第九課②	文法の続き（介詞の「跟」・「?」）、本文精読
15	総復習	総復習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	中国語Ⅲ		中国語Ⅲ	
担 当 者	山影 統 Subaru Yamakage		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

中国語Ⅲでは、中国語Ⅰ、Ⅱで身に付けた発音と文法を基に、より実用的な中国語の習得を目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には指定された教科書に沿って行う。履修条件：中国語Ⅰ、Ⅱを履修済みであること。

■成績評価方法・基準

テスト60%、平常点40%

■授業の予習・復習

予習：付属のCDを聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。
復習：教科書に付録されている問題集をやること。

■教科書

竹島金吾 監修、尹景春・竹島毅 著
『<最新版> 中国ははじめの一步』（白水社、2005年）

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	中国語Ⅰ、Ⅱの復習①	復習
2	中国語Ⅰ、Ⅱの復習②	復習
3	教科書第十課「你酒量怎么样？」	新出単語、文法（助動詞「能」・「会」）
4	教科書第十課②	文法の続き（様態補語、動詞の重ね型）、本文精読
5	教科書第十一課「你在干什么呢？」	新出単語、文法（動作の進行の「在～?」、連動文「～しに来る、～しに行く」）
6	教科書第十一課②	文法の続き（選択疑問文、目的語の倒置）
7	教科書第十二課「北京的人口比上海多吗？」	新出単語、文法（比較の表現、類似の表現）
8	教科書第十二課②	本文精読
9	中間テスト①	中間テスト
10	中間テスト②	中間テストの答え合わせ。
11	教科書第十三課「祝你旅途愉快！」	新出単語、文法（二つの目的語をとる動詞、的の用法②）
12	教科書第十三課②	文法の続き（目的語が主述句の時）、本文精読
13	プリント教材	結果補語
14	プリント教材	方向補語
15	総復習	総復習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	中国語Ⅳ		中国語Ⅳ	
担 当 者	山影 統 Subaru Yamakage		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

中国語Ⅳでは、中国語Ⅰ～Ⅲで身に付けた発音と文法を基に、より本格的な応用可能な中国語の習得を目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には指定された教科書に沿って行う。また、中国語Ⅳは基礎をできているものとみなし、授業の進行速度を速める。
履修条件：中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みであること。

■成績評価方法・基準

テスト60%、平常点40%

■授業の予習・復習

予習：付属のCDを聞きながら教科書の本文を読んでおくこと。
復習：教科書に付録されている問題集をやること。

■教科書

竹島金吾 監修、伊景春・竹島毅 著
『中国つぎへの一步』（白水社、2010年）

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	中国語Ⅰ～Ⅲの復習	復習
2	中国語Ⅰ～Ⅲの復習②	復習
3	教科書第1課中国にこう！	本文精読と文法（助動詞、主述述語文、他）
4	教科書第2課ジャスミン茶を飲もう！	本文精読と文法（目的用法、助詞、他）
5	教科書第3課友達をつくらう！	本文精読と文法（連動文、他）
6	教科書第4課長城に登ろう！	本文精読と文法（了の用法、副詞）
7	教科書第5課卓球をしよう！	本文精読と文法（様態補語、他）
8	教科書第6課漢字を覚えよう！	本文精読と文法（結果補語、他）
9	中間テスト	中間テスト
10	教科書第7課街を歩こう！	本文精読と文法（存現文、～了～了、他）
11	教科書第8課中国語を見よう！	本文精読と文法（状態の持続、疑問詞の不定用法）
12	教科書第9課チャイナドレスを買おう！	本文精読と文法（方向補語、使役動詞）
13	教科書第10課中華を食べよう！	本文精読と文法（可能補語、強調表現）
14	教科書第11課西遊記を読もう！	本文精読と文法（結果補語②、受身の表現）
15	教科書第12課春節を祝おう！	本文精読と文法（快～了、他）

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ビジネス中国語		ビジネス中国語	
担 当 者	加島 潤 Jun Kajima		対象学年	2 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

中国でのビジネスに必要な基本知識、用語、話題などを学びつつ、さまざまなシチュエーションに対応できる中国語コミュニケーション能力（聞く・話す・読む・書く）の修得を目指す。特にビジネスの現場でよく使われる単語や会話表現を身につけることに重点を置く。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を中心に、関連する資料や映像等を交えつつ、各トピックの重要な単語や会話表現を学んでいく。履修者は中国語Ⅰ、Ⅱのいずれかを履修していること（応相談）。なお、母語が中国語の学生の履修は認めない。

■成績評価方法・基準

毎回の授業での小テストと定期試験（小テスト50%、定期試験50%）

■授業の予習・復習

予習では教科書の単語、本文をチェックしておく。
復習では教科書の付属CDで習った単語・会話表現を反復練習する。

■教科書

三浦正道・金子伸一『やさしいビジネス中国語』朝日出版社、2007。

■参考文献

守屋宏則『やさしくわかる中国語文法の基礎』東方書店、1995。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方を説明し、受講者のレベルをチェックする。
2	第1課 オフィスにて	オフィスでの仕事や機器に関する単語・表現を学ぶ。
3	第2課 レストランでの食事	レストランでの基本的なやりとりや注文の仕方を理解する。
4	第3課 銀行での手続き	銀行での手続きや関連する用語・表現について学ぶ。
5	第4課 商談をする	中国での商談でよく使われる単語・表現を身につける。
6	第5課 宴会をセッティングする	中国での宴会の予約やマナーについて学ぶ。
7	第6課 休暇の申請	休暇の申請を題材に、上司とのやりとりについて学ぶ。
8	第7課 空港にて	空港での搭乗手続きやトラブル対応に関する単語・表現を理解する。
9	第8課 アフターサービス	顧客からの苦情とその対応について学ぶ。
10	第9課 商品の輸送	海運輸送の事例を題材に、貿易に関する用語・表現を学ぶ。
11	第10課 雇用契約と待遇	雇用契約の締結に関するやりとりについて学ぶ。
12	第12課 国際入札	国際入札に関連する用語・表現を身につける。
13	第13課 財務	企業財務に関する基本的な用語・表現を学ぶ。
14	ビジネスレター・書類	ビジネスレターや書類の基本的な書式について理解する。
15	まとめ	第2～14回までの内容を振り返り、重要事項を再確認する。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日中翻訳			
担 当 者	家近 亮子 Ryoko lechika		対象学年	2年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

日本人にとっては、中国語能力を、留学生にとっては日本語の文章力を高めることを目標とします。到達目標は、中級程度の中国語の文章をなめらかで分かりやすい文章に訳すことができるようになることです。

■授業の進め方（履修条件等）

日本人学生と中国以外からの留学生は、1年の時に中国語を履修していることが条件となります。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加と取り組み。課題の提出状況によって評価します。

■授業の予習・復習

配付文章の予習、課題の完成と提出。

■教科書

特に定めません。『人民日報』などの記事や時事中国語の教科書から文章を選んで毎回配付します。

■参考文献

『漢日翻訳教程』（商務印書館、2008年）など。
必要に応じて紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、授業評価の方法についての説明。「翻訳とは何か？」について
2	翻訳の定義・基準と過程について	翻訳の国際的定義とその方法（準備・執筆・推敲）について
3	中国語と日本語の比較	日中の「形同義同」「形異義同」「形同義異」文字について
4	中国語の「多義詞」について	「多義詞」の使い分けの事例について。翻訳の実践。
5	簡単な文章の翻訳	逐語訳と意識、抄訳の実践
6	時事中国語の文章①の翻訳	逐語訳の実践
7	時事中国語の文章①の推敲	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成。
8	時事中国語の文章②の翻訳	逐語訳の実践
9	時事中国語の文章②の推敲	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成。
10	『人民日報』記事の翻訳―①	逐語訳の実践。
11	『人民日報』記事の翻訳―②	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成
12	『人民日報』記事の翻訳―③	完成原稿の意識、抄訳の実践
13	中国の小説の翻訳―①	逐語訳の実践
14	中国の小説の翻訳―②	翻訳原稿の発表と討論。推敲と完成
15	中国の小説の翻訳―③	完成原稿の意識、抄訳の実践

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	フランス語 I	フランス語 I	フランス語 I	
担 当 者	浅野 信二 Shinji Asano		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

はじめてフランス語を学ぶ人が、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを旨とする。同時にフランス文化について基本的な知識を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

AV教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験50%・平常点（授業中に行う小テストを含む）50%

■授業の予習・復習

短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。

■教科書

藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』（白水社）

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・アルファベットの発音
2	Leçon 1 (1)	国籍を言う（主語人称代名詞）
3	Leçon 1 (2)	国籍を言う（国籍を表す名詞）
4	Leçon 1 (3)	国籍を言う（êtreと-er動詞）
5	Leçon 2 (1)	名前・職業を言う（職業を表す名詞）
6	Leçon 2 (2)	名前・職業を言う（形容詞の性・数の一致）
7	Leçon 2 (3)	名前・職業を言う（名前の言い方）
8	発音と綴りのまとめ	フランス語の発音と綴りの読み方
9	Leçon 3 (1)	持ち物を尋ねる（名詞と不定詞）
10	Leçon 3 (2)	持ち物を尋ねる（指示代名詞）
11	Leçon 3 (3)	持ち物を尋ねる（形容詞の位置・avoir）
12	Leçon 4 (1)	趣味を語る（定冠詞）
13	Leçon 4 (2)	趣味を語る（疑問文）
14	Leçon 4 (3)	趣味を語る（疑問形容詞）
15	Exercices 1	Leçon 1～Leçon 4のまとめ・フランスの文化

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅱ	
担 当 者	浅野 信二 Shinji Asano		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

前期に続いて、日常よく使う簡単な会話表現を中心に、フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力をバランスよく総合的に習得することを目指す。同時にフランス文化について基本的な知識を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

AV教材を活用し、繰り返し「読む練習」「書く練習」を行う。また、教科書などの練習問題を解くことで、基礎文法と語彙力をつけていく。毎回の積み重ねを前提に授業を進めていくので、できるだけ欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

定期試験50%・平常点（授業中に行う小テストを含む）50%

■授業の予習・復習

短い文章の書きとりを毎回授業の冒頭で行うので、よく練習しておくこと。

■教科書

藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』（白水社）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方の説明・前期の復習
2 Leçon 5（1）	誰か尋ねる（否定文）
3 Leçon 5（2）	誰か尋ねる（関係代名詞qui）
4 Leçon 5（3）	誰か尋ねる（il y a）
5 Leçon 6（1）	したいことを尋ねる（前置詞と定冠詞の縮約）
6 Leçon 6（2）	したいことを尋ねる（指示形容詞）
7 Leçon 6（3）	したいことを尋ねる（否定疑問文の応答）
8 動詞の活用のおまけ	フランス語の動詞について
9 Leçon 7（1）	住んでいるところを言う（人称代名詞の強勢形）
10 Leçon 7（2）	住んでいるところを言う（所有形容詞）
11 Leçon 7（3）	住んでいるところを言う（connaître）
12 Leçon 8（1）	何をしているか尋ねる（疑問代名詞que）
13 Leçon 8（2）	何をしているか尋ねる（場所を表す前置詞）
14 Leçon 8（3）	何をしているか尋ねる（faire）
15 Exercices 2	Leçon 5～Leçon 8のおまけ・フランスの文化

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ポルトガル語Ⅰ	ポルトガル語Ⅰ	ポルトガル語Ⅰ	
担 当 者	高橋 慶介 Keisuke Takahashi		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

はじめての人を対象に、ブラジル・ポルトガル語の基礎の習得を目指します。語彙と初歩的な文法に加えて、日常会話でよく使われるフレーズも学習します。ほんのちょっとしたポルトガル語の知識が、ふと耳にするブラジル音楽の物悲しさや、インタビューに答えるサッカー選手の興奮を、より身近なものにしてくれるでしょう。

■授業の進め方（履修条件等）

指定のテキストにそって進めます。授業では、練習問題を通して「読む力」と「書く力」、テキスト付属のCDやその他の映像資料を通して「話す力」と「聞く力」をつけていきます。

■成績評価方法・基準

授業中の回答と学期末のテストの総合評価とします。

■授業の予習・復習

予習：テキストに目を通し、意味のわからない単語は辞書で調べておいて下さい。

復習：CDを繰り返し聞きながら発音の練習をしたり、授業でふれなかった練習問題を自主的に解いたりするとよいでしょう。

■教科書

兼安シルビア典子『生きたブラジルポルトガル語[初級]』（同学社、2006年）

■参考文献

辞書として、池上岑夫ほか編『現代ポルトガル語辞典[改訂版]』（白水社、2005年）を薦めます。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方や成績評価の説明
2 基本情報と挨拶表現	アルファベットとよく使うフレーズ
3 テキスト第1課	発音（母音）とアクセント
4 テキスト第1課	発音（子音）
5 テキスト第2課	ser動詞
6 テキスト第2課	名詞の性と数
7 テキスト第2課	疑問文と否定文
8 テキスト第3課	指示詞と場所の副詞
9 テキスト第3課	所有詞
10 テキスト第3課	練習問題
11 テキスト第4課	数と日付
12 テキスト第4課	複数形の作り方
13 テキスト第5課	形容詞
14 テキスト第5課	練習問題
15 学習内容の復習	第1課から第5課までの復習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅱ	
担 当 者	高橋 慶介 Keisuke Takahashi		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

「ポルトガル語Ⅰ」につづき、ブラジル・ポルトガル語の基礎を学びます。動詞の活用に慣れてゆくために、読解だけではなく、発音や聞き取りの練習も積極的に行なうことで、基本的な会話に役立つ文法を学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として「ポルトガル語Ⅰ」を履修してから受講してください。指定のテキストにそって進めますが、音楽や映像資料も使用する予定です。

■成績評価方法・基準

授業中の回答と学期末のテストの総合評価とします。

■授業の予習・復習

予習：テキストに目を通し、意味のわからない単語は辞書で調べておいて下さい。

復習：CDを繰り返し聞きながら発音の練習をしたり、授業でふれなかった練習問題を自主的に解いたりするとよいでしょう。

■教科書

兼安シルビア典子『生きたブラジルポルトガル語[初級]』（同学社、2006年）

■参考文献

辞書として、池上岑夫ほか編『現代ポルトガル語辞典[改訂版]』（白水社、2005年）を薦めます。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ポルトガル語Ⅰの復習
2 テキスト第6課	規則動詞
3 テキスト第6課	前置詞と疑問詞
4 テキスト第6課	練習問題
5 テキスト第7課	時刻と時間
6 テキスト第8課	estar動詞
7 テキスト第8課	現在進行形
8 テキスト第9課	不規則動詞1 (ter・querer・fazer)
9 テキスト第9課	練習問題
10 テキスト第10課	不規則動詞2 (ir・vir)
11 テキスト第10課	練習問題
12 テキスト第11・12課	不規則動詞3 (poder・conseguir)
13 テキスト第11・12課	不規則動詞3 (saber・conhecer)
14 テキスト第11・12課	練習問題
15 学習内容の復習	第6課から第12課までの復習と今後の学習アドバイス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	外国語特殊Ⅰ	外国語特殊Ⅰ	アラビア語Ⅰ	
担 当 者	Oudaimah Muhamad Abdalah		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

アラビア語に親しみをもち、簡単な挨拶や自己紹介、会話ができるようになることを目指す。文字の書き方も学習し、自分の名前をアラビア語で綴れるようにする。アラビア語は世界で21カ国の公用語、決して難しい言語ではありません。

■授業の進め方（履修条件等）

アラビア語をきちんと身につけるために、発音や書き方を重視しながら、基礎を繰り返し練習します。学生の習熟度に合わせ、確実かつ柔軟に授業を進めます。

■成績評価方法・基準

出席と積極的に授業に取り組む姿勢 約50%試験 約50%

■授業の予習・復習

授業を重視し、予習・復習の宿題はごく簡単なものにします。

■教科書

本田孝一『たのしいアラビア語』たまいらぼ（購入不要、コピー配布）

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 アラビア語の文字①	アラビア語28文字の独立形 発音と書き方
2 アラビア語の文字②	つなぎ文字
3 アラビア語の文字③	つなぎ文字、太陽文字、月文字
4 アラビア語の文字④	母音記号
5 挨拶と自己紹介①	「お名前は？」「私の名前は○○です」
6 挨拶と自己紹介②	一日の挨拶、アラビア語アルファベットの書きとり
7 挨拶と自己紹介③	一日の挨拶、定冠詞
8 復習	アルファベットの書き方、聞き取り・書き取り
9 名詞文①	主語・述語
10 名詞文②	疑問詞「これは何ですか？」 「これは誰ですか？」
11 人称代名詞①	単数
12 人称代名詞②	単数
13 名詞の男性形・女性形①	単数
14 名詞の男性形・女性形②	単数
15 アラビア語Ⅰの復習と定期試験準備	復習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	外国語特殊Ⅱ	外国語特殊Ⅱ	アラビア語Ⅱ	
担 当 者	Oudaimah Muhamad Abdalah		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

アラビア語圏のどの国に行っても、自分でコミュニケーションし行動できるようなアラビア語力を身につけることを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

アラビア語をきちんと身につけるために、発音や書き方を重視しながら、繰り返し練習します。学生の習熟度を確かめながら授業を進めます。

■成績評価方法・基準

出席と積極的に授業に取り組む姿勢 約50%試験 約50%

■授業の予習・復習

授業を重視し、予習・復習の宿題はごく簡単なものにします。

■教科書

本田孝一「たのしいアラビア語」たまらいぼ
(購入不要、コピー配布)

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 挨拶と自己紹介①	男性形・女性形に気をつけながら会話練習
2 挨拶と自己紹介②	書き方、読み方
3 肯定文・否定文①	「～です」「～ですか？」 「～ではありません」
4 肯定文・否定文②	書き方、読み方
5 指示代名詞①	「これは」「あれは」
6 指示代名詞②	「はい、これは○○です」 「いいえ、あれは○○ではありません」
7 復習	復習
8 接尾代名詞	「彼女の名前は～」「私の家は～」
9 能動分詞①	「～する人」「～するところ」
10 能動分詞②	書き方、読み方
11 数詞①	数の数え方、「何歳ですか？」 「いくらですか？」
12 数詞②	書き方、読み方
13 「空港で」	会話の練習、書き方、読み方
14 「買い物」	会話の練習、書き方、読み方
15 アラビア語Ⅱの復習と定期試験準備	復習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	総合日本語Ⅰ			
担 当 者	銅直 信子 Nobuko Dobeta		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

アカデミックな場面で必要とされる基礎的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。教科書の各テーマに関して「知っていることを話す」「資料からの情報をまとめる」ことを中心に学ぶ。コンテキストの中での文法的、意味的關係の捉え方を学習することによって、読む力、書く力を養っていく。また、ビデオ・DVDを視聴し、内容や意見を発表することで聞く力、話す力を養っていく。加えて漢字力・語彙力・文法力の強化を図る。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語能力試験N2レベルの日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。各課の重要文型を学習した後、各自短文を作成し授業後に提出する。添削して返却するので、正しい表現を確認する。文法を中心とした授業では教科書に沿って各課の文法項目の理解を深め、上級文法へと繋げていく。また、口頭発表のモデルを聞き、レジュメを完成し各自発表する（練習は家庭学習）。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、レポート・クラス内テスト30%、クラス活動点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙の中の漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。文法の教科書の各課のポイントを読んでおく。

復習：返却された小レポート類の正しい表現をよく復習する。本文の音読を繰り返し行う。文法問題で正答と違った答えを出した場合は、なぜ間違えたかを必ず確認する。

■教科書

「中・上級日本語教科書 日本への招待 第2版」東京大学出版会 2,400円＋税
「中級日本語文法要点整理ポイント20」友松悦子 スリーエーネットワーク 2,000円＋税

■参考文献

「大学で学ぶための日本語ライティング」佐々木瑞枝 The Japan Times
「聴解・発表ワークブック」犬飼康弘 スリーエーネットワーク
「小論文への12のステップ」友松悦子 スリーエーネットワーク

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス・記述文作成	ガイダンス後、「記述文」を400字以内で書く。
2 ガイダンス・文法テスト	ガイダンス後、文法テスト（オリジナル）を行う。
3 イメージの日本・日本人	語彙の確認。ステレオタイプについて話し合う。
4 1課	助詞の問題
5 「女性の生き方」資料1・2	文型を使って短文作り。本文を精読し、設問に答える。
6 2課	話題の取立て
7 資料3	本文を精読し、グラフからわかることをまとめる。
8 3課	助詞の働きをする言葉1
9 資料4・5	語彙の確認。文型を使って短文づくり。
10 4課	助詞の働きをする言葉2
11 「子どもと教育」資料1・2	語彙の確認。文型を使って短文作り。DVDを見て、内容をまとめる。
12 5課	助詞の働きをする言葉3
13 資料3・4	教育問題について話す。新聞教材を読む（ビザ到達度テスト）。
14 メモを取る	CDを聞いてメモを取り、重要点を発表する。
15 資料5・6	本文を精読する。各自の考えをまとめる。漢字小テスト
16 6課	名詞の他方法「こと」と「の」
17 「若者の感性」資料1・2	語彙の確認。文型を使って短文作り。
18 7課	複文構造—複文の中の「は」と「が」・時制
19 資料3・4	データから分かった特徴をまとめる。
20 8課	名詞修飾 小論文の書き方
21 資料5	分析による説明に使われる表現を学ぶ。本文を精読し設問に答える。漢字テスト
22 レジュメ完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成させ発表する。
23 課題文を書く。	3つのテーマから一つ選び、課題文を書き提出する。
24 9課	複文を作る言葉 1— 時間
25 グループで	各グループでテーマを決め、レジュメを作成する。
26 10課	複文を作る言葉 2— 仮定の言い方
27 ブックレポート	プレゼンテーションの技法と作法を学ぶ。
28 レジュメ完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成させ発表する。
29 ブックレポート	各グループ発表→質疑応答→ディスカッションブックレポートの発表内容をまとめて提出する（各自宿題）。
30 総合問題	課題 グラフを分析して考察する。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	総合日本語 I					
担 当 者	中沢 佐企子 Sakiko Nakazawa		対象学年	1年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では、社会的・文化的な知識を利用しながら、論理的な文章を読んだり書いたりするだけでなく、聞いたり話したりできるようになることを目標にしている。

■授業の進め方（履修条件等）

- 1) 授業では、いくつかのテーマに沿って文章を読み進めながら、その内容について議論する。
- 2) 読解や表現のための語彙力を養成するために、系統的に語彙を学習する。
- 3) 聴解と文法の練習も行う。

■成績評価方法・基準

1課ごとにワークシート、語彙・漢字等のクイズを行う。学期中に2回、総合復習のための時間を設ける。

■授業の予習・復習

予習：各回の本文を予習してから授業に臨むことが望ましい。
復習：毎回、語彙クイズを行うので、授業のあとで復習しておくこと。

■教科書

講師作成の教材を使用。
プリントは、なくさないようにファイルしておくこと。

■参考文献

特になし

■授業内容

授業項目	授業内容
1 聴解練習と文法練習1-(1)	既知の語彙を正確に聞き取る
2 学生生活について考えるI	「弁当男子とキッチン男子」内容把握とまとめ
3 聴解練習と文法練習1-(2)	既知の語彙を正確に書く
4 学生生活について考えるII	「大学で「弁当の日」広がる」内容把握とまとめ
5 聴解練習と文法練習2-(1)	同音異義語から正しく選ぶ
6 学生生活について考えるIII	「大学生の朝食は今」内容把握とまとめ
7 家族について考えるI	「頑張り イクメン」内容把握とまとめ
8 聴解練習と文法練習2-(2)	カタカナを正確に聞き取る
9 家族について考えるII	「ただいま婚活中」内容把握とまとめ
10 聴解練習と文法練習3-(1)	カタカナを正確に書き取る
11 家族について考えるIII	「いまどきの結婚」内容把握とまとめ
12 聴解練習と文法練習3-(2)	未習の語彙を正確に聞き取る
13 就活について考えるI	「就活—いつ何をするのか」内容把握とまとめ
14 聴解練習と文法練習4-(1)	未習の語彙を正確に書き取る
15 就活について考えるII	「就活—インターンシップとは」内容把握とまとめ
16 聴解練習と文法練習4-(2)	意味を考えながら聞き取る
17 就活について考えるIII	「就活—ミスマッチとは」内容把握とまとめ
18 聴解練習と文法練習5-(1)	聞き取ったものを正確にメモする
19 就活について考えるIV	「就活—エントリーシートに何を書くか」内容把握とまとめ
20 聴解練習と文法練習5-(2)	聞き取った内容とメモを合わせる
21 先端技術について考えるI	「電子ブックは読書を変えるか」内容把握とまとめ
22 聴解練習と文法練習6-(1)	メモが正しく取れたか確認する
23 先端技術について考えるII	「植物工場で野菜を作る」内容把握とまとめ
24 聴解練習と文法練習6-(2)	内容を正しく理解する
25 先端技術について考えるIII	「2020年のロボットハウス」内容把握とまとめ
26 聴解練習と文法練習7-(1)	質問に正しく答える
27 先端技術について考えるIV	「ゲーム革命」内容把握とまとめ
28 聴解練習と文法練習7-(2)	答えの書き方を工夫する
29 先端技術について考えるV	「AR技術の応用」内容把握とまとめ
30 聴解練習と文法のまとめ	苦手なところを自覚する

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	総合日本語 II					
担 当 者	銅直 信子 Nobuko Dobeta		対象学年	1年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

アカデミックな場面で必要とされる応用的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。特に話すこと、書くことにおいて、説得力をもつにはどのような技法や作法が必要であるかをグループ学習を通して学び、最後にディベートマッチを行う。また、文法力の向上を図り上級文法へと繋げていく。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書に沿って授業を進めていく。各課の重要文型をモデルに短文を作り、授業終了後提出する。添削して返却するので、正しい表現を確認する。また、ビデオやDVDを視聴し内容をまとめたり、意見を述べたりする。各課の終了時に漢字小テストを実施する。ディベートマッチ終了後、各自の意見文を提出する（800字）。文法の授業ではクラス内テストを実施し既習項目の定着を図る。

■成績評価方法・基準

定期試験60%、レポート・クラス内テスト30%、クラス活動点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙リストの漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙の意味は授業中に確認する。文法の教科書の各課のポイントを読んでくる。
復習：返却されたレポート類の正しい日本語表現をよく復習する。本文を繰り返し音読する。文法問題で正答と違った答えを出した場合、なぜ間違えたかを必ず確認する。

■教科書

「中・上級日本語教科書 日本への招待 第2版」東京大学出版会 2,400円+税
「中級日本語文法要点整理ポイント20」友松悦子 スリーエーネットワーク 2,000円+税

■参考文献

「ストラテジーを使って学ぶ文章の読み方」一橋大学留学生センター スリーエーネットワーク
「聴解・発表ワークブック」犬飼康弘 スリーエーネットワーク
「小論文への12のステップ」友松悦子 スリーエーネットワーク

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「仕事への意識」資料1	語彙の確認。ことわざを学ぶ。
2 読解・文法テスト	読解・文法テストを行う。
3 資料2・3	DVDを見て、内容をまとめる。
4 11課・12課	決まった使い方の副詞 1・2
5 資料4・5	正規社員と非正規社員。オランダの例を考える。
6 13課・14課	接辞の言葉 1・2
7 資料6	年功序列・終身雇用制度漢字小テスト
8 15課	語彙を広げる 1
9 「日本の外国人」資料1	在日外国人について
10 レジュメを完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成し発表する。
11 資料2・3	定住外国人子弟の日本語教育
12 16課	語彙を広げる 2
13 資料4・5	本文を精読し設問に答える。漢字小テスト
14 17課	語彙を広げる 3
15 「多様化する日本・日本人」	キーワードをマークする。
16 18課	硬い文章 1
17 脱ステレオタイプとは	本文を精読し、設問に答える。漢字小テスト
18 19課	硬い文章 2
19 外国人の参政権	読解のストラテジーについて学ぶ。
20 20課	丁寧な言い方 1・2
21 環境税導入の是非	譲歩を示す言葉マークする。
22 20課	丁寧な言い方 3
23 ディベート教育	肯定的意見と否定的意見をまとめる。
24 レジュメを完成	CDを聞いて口頭発表のレジュメを完成させ発表する。
25 死刑制度	賛成の意見と反対の意見をまとめる。
26 ディベート	各グループのテーマを決め立論を考える。
27 死刑制度	新聞教材を読む。
28 ディベート	反論の練習。反論を予想し答えを考える。
29 夫婦別姓制度	新聞教材を読む。各自意見文をまとめて提出する(800字)。
30 ディベートマッチ	ディベートマッチ→質疑応答→ディスカッション

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	総合日本語Ⅱ			
担当者	中沢 佐企子 Sakiko Nakazawa		対象学年	1年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では、新聞やインターネットの記事を利用しながら、社会的・文化的な問題について読んだり聞いたりするだけでなく、自分の意見を書いたり話したりできるような日本語力を身につけることを目標としている。また、ニュース等聴解教材を正確に聞き取ったり文法を正確に使う練習も行う。

■授業の進め方（履修条件等）

- (1) 授業では、少人数のグループを作り、話し合う。
- (2) 内容を自分のことばで話したり書いたりする。
- (3) プレゼンテーションで、自分の意見を発表する。
- (4) 聴解や文法の練習も行う。

■成績評価方法・基準

1 課ごとにワークシートを課す。毎回、語彙・漢字、聴解、文法のクイズを行う。学期末に最終発表会を行う。

■授業の予習・復習

予習：各回の本文を予習してから授業に臨むことが望ましい。
復習：毎回、語彙クイズを行うので、授業のあとで復習しておくこと。

■教科書

講師作成の教材を使用。
プリントは、なくさないようにファイルしておくこと。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 聴解練習と文法練習 8-(1)	正しい文法を選ぶ
2 環境について考えるⅠ	「カーボンフットプリント」内容把握とまとめ
3 聴解練習と文法練習 8-(2)	正しい文法を選んだか確認する
4 環境について考えるⅡ	「水足迹」内容把握とまとめ
5 聴解練習と文法練習 9-(1)	文法の意味を正しく理解する
6 環境について考えるⅢ	「低炭素社会とは」内容把握とまとめ
7 聴解練習と文法練習 9-(2)	文法の意味を正しく理解したか確認する
8 環境について考えるⅣ	「自転車で暮らす町」内容把握とまとめ
9 聴解練習と文法練習 10-(1)	文法を正確に使い、文を書く（短文）
10 環境都市について考えるⅠ	「UAEマスタートールシティ」内容把握とまとめ
11 聴解練習と文法練習 10-(2)	文法を正確に使い、文を書いたか確認する（短文）
12 環境都市について考えるⅡ	「天津工コシティ」内容把握とまとめ
13 聴解練習と文法練習 11-(1)	文法を正確に使い、文を書く（段落）
14 環境都市について考えるⅢ	「スマートシティとは」内容把握とまとめ
15 聴解練習と文法練習 11-(2)	文法を正確に使い、文を書いたか確認する（段落）
16 この人の生き方を考えるⅠ	「バングラデシュで教育支援」内容把握とまとめ
17 聴解練習と文法練習 12-(1)	文法を正確に使い、わかりやすく書く
18 この人の生き方を考えるⅡ	「カタリバで高校生と語り合う」内容把握とまとめ
19 聴解練習と文法練習 12-(2)	文法を正確に使い、わかりやすく書いたか確認する
20 この人の生き方を考えるⅢ	「D1D——暗闇でぬもりを伝える」内容把握とまとめ
21 聴解練習と文法練習 13-(1)	文法を正確に使い、事実を書く
22 コミュニケーションについて考えるⅠ	「敬語とは」内容把握とまとめ
23 聴解練習と文法練習 13-(2)	文法を正確に使い、事実を書いたか確認する
24 コミュニケーションについて考えるⅡ	「ポライトネスとは」内容把握とまとめ
25 聴解練習と文法練習 14-(1)	文法を正確に使い、自分の考えを書く
26 コミュニケーションについて考えるⅢ	「自分を伝える、表現する」内容把握とまとめ
27 未来の私を考えるⅠ	プレゼンテーションを学ぶ
28 聴解練習と文法練習 14-(2)	文法を正確に使い、自分の考えを書いたか確認する
29 未来の私を考えるⅡ	「最終発表会」
30 聴解練習と文法のまとめ	更なる上達のために注意点をまとめる

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	実践日本語Ⅰ		日本語Ⅰ / 日本語Ⅱ	
担当者	銅直 信子 Nobuko Dobeta		対象学年	2年
			単位	1

■授業のねらいと到達目標

アカデミックな場面で必要とされる実践的な口頭表現能力・文章表現能力を習得することを到達目標とする。新聞の論説文や新書本の文章を読み、考える力を身につけていく。また、ビデオ・DVDを視聴し、内容や意見を発表することで聞く力、話す力を養っていく。最後に各グループでテーマを決め調べたことを発表し、ディスカッションにつなげていく。調べたこと、各自の意見を小論文にまとめる（800～1000字）。加えて日本語能力試験N1対策も随時行う。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語能力試験N1レベルの日本語能力を有する学生を想定して授業を進める。新聞教材を読んだり、DVDを視聴した後、内容や意見をまとめて発表終了後、提出する。添削して返却するので、正しい日本語表現を確認する。リーダーに頼らず全員が協力してグループ活動を行う。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、レポート・クラス内テスト30%、発表点10%、クラス活動点10%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：語彙リストの中の漢字の読み方・意味を事前に調べておく。わからない語彙は授業中に確認する。
復習：返却された小レポート類の正しい日本語表現をよく復習する。

■教科書

教科書は使わず、プリントを配布する。各自ファイルしていつでも使えるように準備しておく。

■参考文献

「大学・大学院 留学生の日本語」③論文読解編
「大学・大学院 留学生の日本語」③論文作成編
アカデミック・ジャパニーズ研究会
アルク『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘
スリーエーネットワーク

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス・読解文テスト	ガイダンス後、読解文（オリジナル）の試験を行う。
2 貧困問題	試験の確認。論文を読む①
3 貧困問題	マイクロレジットとは。
4 社会的起業家	ビデオを視聴し、内容をまとめる。有識者の意見をまとめ、それに対する各自の意見を書く。
5 日本における社会的起業家NPOとは何か。	インターネットで調べたことを発表する。
6 NGOとは何か。	新聞教材を読む。論文を読む②
7 ペシャワール会	DVDを視聴し、内容をまとめる。
8 国際関係におけるNGO	本文を精読し、問題点を整理する。論文を読む③
9 リーダーの資質とは何か。	ユニクロの店舗拡大
10 リーダー	DVDを視聴し、内容をまとめる。
11 消費者の求めているもの	本文を精読し、要約文を書く。論文を読む④
12 フェアトレード	新聞教材を読む。
13 プレゼンテーション	各グループでテーマを決める。
14 レジュメの作成	レジュメを作る。プレゼンテーションの技術と作法を復習する。
15 グループ発表	各グループ発表→質疑応答→ディスカッション各自小論文を提出する（800～1000字）。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻	
科 目 名	実践日本語 I		日本語 I / 日本語 II		
担 当 者	本多 久美子 Kumiko Honda		対象学年	2年	単 位 1

■授業のねらいと到達目標

この授業では、現代社会のさまざまな問題について読んだり話したりする練習をしながら、大学生生活に必要なレポートやレジュメを書いたり、発表したりすることができるような日本語力を身につけることを目標としている。授業でパソコンを使うことがあるので、USBメモリをいつも持ってくること。

■授業の進め方（履修条件等）

(1) グループやペアで課題について調べて、レポートにまとめる。(2) 口頭で発表する。(3) 他の人の発表について、自分の意見を述べる。

■成績評価方法・基準

毎回、様々なテーマの調査・作文課題を提出し、学期末に作文集を完成させる。学期中に3回発表する。

■授業の予習・復習

予習：3回の発表内容について調査をし、発表の準備をしておく。

復習：発表した内容をワープロで清書する。

■教科書

講師作成の教材を使用。プリントは、なくさないようにファイルしておくこと。

■参考文献

特になし。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	要約Ⅰ 意味を調べてまとめる	課題 「スマートシティとは」
2	要約Ⅱ 内容と問題点をまとめる	課題 「少子化問題とは」
3	要約Ⅲ 様々な視点の意見をまとめる	課題 「教育の役割とは」
4	第1回発表会の準備	発表用スライドの作成と口頭練習
5	第1回発表会	発表課題 「現代社会の問題を考えよう」
6	アンケート調査Ⅰ	アンケート調査のテーマとグループ決定
7	アンケート調査Ⅱ	アンケート調査用紙の作成と実施
8	アンケート調査Ⅲ	アンケート調査結果レポートの作成
9	アンケート調査Ⅳ	アンケート調査発表会のスライドとレジュメ作成
10	第2回発表会	発表課題 「アンケート調査発表会」
11	レポートⅠ わかりやすいレポートを書く	課題 「環境問題について考えよう」
12	レポートⅡ 具体性のあるレポートを書く	課題 「世界の人口問題について考えよう」
13	レポートⅢ 説得力のあるレポートを書く	課題 「働くことの意義について考えよう」
14	第3回発表会の準備	発表用スライドとレジュメの作成
15	第3回発表会	発表課題は自由

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻	
科 目 名	情報処理 I (情報基礎)		情報処理 I (情報基礎)		
担 当 者	佐竹 勇子 Yuko Satake		対象学年	1年	単 位 1

■授業のねらいと到達目標

大学生生活や日常においてコンピュータを扱うために必要なリテラシー（活用能力）を身につけることを目標とする。MS Office ソフトを活用して、文書作成（Word）および表計算（Excel）を実習し基礎力修得を目指す。資格取得を目指す学生のために、毎年ライセンス講座を開催している。この講義を基礎力としてMOS対策講座への参加および資格取得を期待する。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書および配布プリントをもとにインターネットやメール、Word2007、Excel2007を実習する。

■成績評価方法・基準

平常点及び課題提出（40%）・定期試験（60%）

■授業の予習・復習

予習：タイピング練習を心がけてください。

復習：教科書を見直して操作方法を覚えてください。

■教科書

『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2007』実教出版

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法・パスワード管理
2	OS	Windowsの基本操作とタイピング
3	インターネット	ブラウザと情報倫理、情報セキュリティ
4	電子メール	Grace Mailの使い方
5	Word- (1)	Word2007の画面構成・ファイル管理
6	Word- (2)	文書の作成と表の作成
7	Word- (3)	文書の編集
8	Word- (4)	表現力をアップするツール
9	Word- (5)	長文作成をサポートするツール
10	Excel- (1)	Excel2007の画面構成・データ入力
11	Excel- (2)	表の作成 (1)
12	Excel- (3)	表の作成 (2)
13	Excel- (4)	計算式と関数の入力
14	Excel- (5)	WordとExcelの活用
15	まとめ	復習と試験対策

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	情報処理Ⅱ (プレゼンテーション演習)		情報処理Ⅱ (プレゼンテーション演習)	
担 当 者	佐竹 勇子 Yuko Satake		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

情報処理Ⅰに引き続き情報処理Ⅱにおいてもコンピュータリテラシーを身につけることを目標とする。プレゼンテーション (Power Point) 表計算 (Excel) を実習し基礎力修得を目指す。資格取得を目指す学生のために、毎年ライセンス講座を開催している。この講義を基礎力としてMOS対策講座への参加および資格取得を期待する。

■授業の進め方 (履修条件等)

教科書および配布プリントをもとにPower Point2007, Excel 2007を実習する。

■成績評価方法・基準

平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)

■授業の予習・復習

予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。

復習：教科書を見直して操作方法を覚えてください。

■教科書

『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2007』実教出版

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の概要と評価方法
2 Power Point-(1)	画面構成とプレゼンテーションの操作
3 Power Point-(2)	スライドの作成とデザインの適用
4 Power Point-(3)	図表・グラフ・表の挿入と編集
5 Power Point-(4)	特殊効果の設定とスライドショー
6 Power Point-(5)	配布資料の作成と印刷
7 Power Point-(6)	プレゼンテーション実習 (1)
8 Power Point-(7)	プレゼンテーション実習 (2)
9 Excel-(1)	相対参照と絶対参照
10 Excel-(2)	いろいろな関数の利用
11 Excel-(3)	グラフ作成
12 Excel-(4)	グラフと図形
13 Excel-(5)	データベース機能
14 Excel-(6)	Power PointとExcelの活用
15 まとめ	復習と試験対策

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	情報処理Ⅲ (データベース)		情報処理Ⅲ (データベース)	
担 当 者	佐竹 勇子 Yuko Satake		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

コンピュータを利用した情報の管理、整理方法としてデータベースがある。この講義では、MS Officeソフトのリレーショナル型データベースAccessを習得することを目的とする。資格取得を目指す学生のために、毎年ライセンス講座を開催している。この講義を基礎力としてMOS対策講座への参加および資格取得を期待する。

■授業の進め方 (履修条件等)

教科書および課題ファイルをもとにAccess 2007を実習する。

■成績評価方法・基準

平常点及び課題提出 (40%)・定期試験 (60%)

■授業の予習・復習

予習：タイピングが苦手な学生は、タイピング練習を心がけてください。

復習：教科書を見直して操作方法を覚えてください。

■教科書

『30時間でマスター Access2007』実教出版

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の概要と評価方法
2 Accessの基本操作	画面構成・Excelとの違い
3 テーブル-(1)	データの検索・選択フィルタ
4 テーブル-(2)	フォームフィルタ・レコードの並べ替え
5 テーブル-(3)	外部データ・データ型・画像
6 フォーム	作成とデータ入力
7 クエリー-(1)	作成方法と集計
8 クエリー-(2)	パラメータの利用・クロス集計
9 クエリー-(3)	アクションクエリ
10 クエリー-(4)	SQL
11 データベースの設計	テーブル作成・リレーションシップ
12 レポート	レポートでの計算・印刷
13 総合演習	新規データベースの構築
14 マクロ	メニュー画面の作成
15 まとめ	復習と試験対策

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	アジアの歴史と社会	アジアの歴史と社会	アジアの歴史と社会	アジアの歴史と社会
担 当 者	家近 亮子 Ryoko Iechika		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

冷戦終結後、国際社会においてはグローバル化が進むと同時に地域統合の動きが活発化しました。EUはその典型的な例といえます。アジアにおいてもアジア統合について盛んに論議されるようになりましたが、現実にはむずかしい問題を抱えています。アジアには世界の人口の60%以上が生活し、また、中国やインドを始めとして経済発展を続けている国も多く存在します。21世紀はアジアの時代であるということができそうです。本授業においては「アジア共同体」の主要な構成メンバーとなる「ASEAN+3（日本・中国・韓国）」の歴史と現在の政治・経済・社会、及びその相互関係について論じていきます。到達目標はこれらの国の地理と歴史を知り、その国情と日本との関係を理解することにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。授業は、授業用に作成した講義ノートと資料を授業の進行に合わせて配布し、進めていきます。必要に応じて、映像資料も使っていきます。

■成績評価方法・基準

小テスト・・・30%、期末テスト・・・70%

■授業の予習・復習

予習：配布資料を事前に読んでおくこと。アジアに関するニュースに関心を持つこと。
復習：配付資料とノートの整理。白地図の完成など。疑問点をまとめて提出すること。

■教科書

本授業の内容は、他分野にわたるため、教科書は指定しません。授業用に作成した講義ノート及び資料を配布し、教科書の代わりとします。

■参考文献

それぞれの単元ごとに、専門の本を紹介していきます。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義の内容と進め方、評価の方法の説明「アジアとは何か?」「世界の中のアジア」について
2	アジアの近現代史①	アジアにおける近代の共通点と相違点
3	アジアの近現代史②	ヨーロッパ諸国のアジア進出の歴史
4	アジアの近現代史③	イギリスのアジア進出と植民地支配ーインド、マレー半島を中心として
5	アジアの近現代史④	フランスのアジア進出と植民地支配ーインドシナ半島
6	アジアの近現代史⑤	日本の植民地支配ー朝鮮、台湾を中心として
7	映像資料と小テスト	歴史単元の映像資料と確認テストの実施
8	東南アジア諸国の地理	白地図による国の確認と地理的特徴
9	東南アジア事情①	東南アジアの政治・経済・社会・外交①
10	東南アジア事情②	東南アジアの政治・経済・社会②
11	東南アジア単元の小テスト、東アジアについて	東南アジア単元の確認テスト+東アジアとは?
12	東アジアの地理	白地図の作成と完成
13	東アジア事情①	中国・台湾・香港・マカオの政治・経済・社会
14	東アジア事情②	日本・韓国の政治・経済・社会・外交
15	アジアの人口と教育問題	アジアの人口問題の特徴と学校制度の比較

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	アメリカの歴史と社会			
担 当 者	土田 宏 Hiroshi Tsuchida		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

ジェファソン、リンカン、ケネディの三人の大統領とその時代に焦点を当てて、アメリカ合衆国の歴史を概観し、その在り方を考える。造られた国アメリカの本質を理解することを目標としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

講義が中心となるが、授業中の積極的な質問や発言などを期待したい。上に述べた三人の大統領に関しては彼らの演説などを読むことになるだろう。

■成績評価方法・基準

定期試験（筆記）を主な評価基準とする。出席が70パーセントに満たない場合は、自動的に登録放棄と判断する。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読んでおくこと
復習：毎回の授業内容を確認しておくこと。不明な点は次回の授業で質問すること。

■教科書

斎藤眞著 『アメリカ政治外交史』 東大出版会 1975年

■参考文献

明石紀雄 『トマス・ジェファソンと「自由の帝国」』 ミネルヴァ
土田 宏 『ケネディ その神話と「実像」』 中公新書
『リンカン 神になった男の功罪』 彩流社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	アメリカ合衆国の意義 独立に至る道
2	独立宣言書 1	宣言書の目的と内容 自明の真理
3	独立宣言書 2	独立宣言書の意義：その後の世代への影響
4	ジェファソン大統領 1	その生涯と人間観：平等と権利
5	ジェファソン大統領 2	農業への強い思いと教育観
6	ジェファソン大統領 3	合衆国観と大統領としての業績
7	「1830年代」の風潮	「コモンマン」と新しい価値観
8	リンカン大統領 1	その生涯と黒人奴隷観
9	リンカン大統領 2	南北戦争の指揮官としての問題点
10	リンカン大統領 3	奴隷解放宣言の真の意味とは？
11	リンカン大統領 4	ゲティスバーグの演説 赦しの精神
12	リンカン大統領 5	第二次就任演説 国家再統合への呼びかけ
13	1950年代 冷戦	対ソ封じ込め政策 ヨーロッパとアジアと
14	ケネディ大統領 1	その生涯と就任演説
15	ケネディ大統領 2	政策と夢 新しい世界の構築に向けて

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ヨーロッパの歴史と社会	ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパの歴史と文化
担 当 者	山本 健 Takeshi Yamamoto		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現在、世界は経済成長に伴ない消費ブームを迎えています。このような経済現象は、歴史的に見ると、19世紀のイギリスに現れていました。そこで、19世紀の経済的な発展過程の分析から、私たちが直面している諸問題（経済格差の問題、国家観など）を検討し、現代社会の方向性を考える素材を提供したいと思えます。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、要点を記したプリントを配布します。また2回のビデオ（「オリバー・ツイスト」と「チャップリン」）を鑑賞し、その感想文の提出を義務とします。20分以上の遅刻は認めません。

■成績評価方法・基準

レポート（感想文と課題文）を点数化し、これらと試験の3点で評価します。なお原則として、出席率の規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。

■授業の予習・復習

予習：政治経済・社会分野のニュースに目を通し、問題点を整理しておいて下さい。
復習：学習内容と現在の先進国と中進国の発展状況との比較を考えて、整理しておいて下さい。

■教科書

長島伸一『大英帝国』（講談社現代新書、1998年）

■参考文献

- ①Ch. ティケンズ（小池滋訳）『オリバー・ツイスト』（上・下）（ちくま文庫、2002年）
- ②J. ロンドン『どん底の人びとーロンドン1902』（岩波文庫、1995年）
- ③平岡敏夫編『漱石日記』（岩波文庫、1992年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明と問題点の提示
2 「19世紀の世界」の誕生	資本主義経済と民主権を結合した新システムの登場
3 競争原理を正当化する進化論	資本主義の正当化とその欠陥を埋める社会主義の登場
4 19世紀前期の貧困問題	農村出身労働者の貧困状態の分析：中国の民工との比較
5 ビデオ鑑賞①	オリバー・ツイストに見る都市内での社会的弱者の状態
6 19世紀中期の繁栄	「世界の工場」と労働者の生活上策（穀物法の撤廃）
7 19世紀中期の大家社会の出現	鉄道時代と消費者としての労働者の再評価
8 チャーチスト運動の行方	都市労働者への選挙権の付与と社会正義の目覚め
9 19世紀後期の不況問題	イギリスの経済衰退と植民地帝国への転換
10 第二次産業革命と帝国主義化	世界的な過剰生産に伴う各国の海外植民地争奪戦
11 豊かなイギリスの都市問題	出生率の低下と若者の身体的な水準低下
12 禁酒運動と健全な娯楽の提供	労働者を飲酒から遠ざけ、兵士の育成健全化
13 ミュージック・ホールの意義	大衆の大国意識（愛国主義）の高揚させる手段
14 ビデオ鑑賞②	Ch. チャップリンの生涯に見る大衆心理の表現
15 マトメ	世界の工場から世界の銀行へ。その背後に金融資本主義の存在

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	アフリカの歴史と社会	アフリカの歴史と社会	アフリカの歴史と社会	アフリカの歴史と社会
担 当 者	大月 隆成 Takashige Otsuki		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

アフリカは日本人やアジア各地からの留学生にとって、最もなじみの薄い地域である。現在はアフリカに関する情報も溢れているが、日常生活の中でそれらに接する機会は限られている。この授業では、アフリカをほとんど知らない者が、アフリカに関心を持ち、その歴史と社会、問題について理解するようになることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、アフリカを舞台にした映画やドラマ作品を見て学んでいく、「アフリカ初心者」に配慮した授業を実施する予定である。

■成績評価方法・基準

課題の提出状況と期末試験の結果に基づいて評価を行う。

■授業の予習・復習

予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。
復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

- 伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社
- 大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「ようこそNo.1 レディース探偵社へ」(1)	アフリカの日常風景
2 「ようこそNo.1 レディース探偵社へ」(2)	アフリカの民族と言語
3 「ようこそNo.1 レディース探偵社へ」(3)	ボツワナってどんな国？
4 「ルーツ」(1)	アフリカの伝統社会
5 「ルーツ」(2)	奴隷貿易とは？
6 「ルーツ」(3)	奴隷貿易の残したものの
7 「ブラッド・ダイヤモンド」(1)	天然資源があるのはいいことか？
8 「ブラッド・ダイヤモンド」(2)	アフリカの内戦
9 「ブラッド・ダイヤモンド」(3)	少年兵を知っていますか？
10 「インビクタス」(1)	南アフリカのアパルトヘイト
11 「インビクタス」(2)	ネルソン・マンデラの人物と生涯
12 「インビクタス」(3)	アパルトヘイト後の南アフリカ
13 「ER緊急救命室X」第22話キサンガニ	アフリカの医療事情
14 「ナイロビの蜂」(1)	製薬会社の陰謀
15 「ナイロビの蜂」(2)	背景にある貧困問題

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ラテンアメリカの歴史と社会			
担 当 者	高橋 慶介 Keisuke Takahashi		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

ラテンアメリカの歴史をとおえたうえで、現代のラテンアメリカ社会を概説します。ヨーロッパ人による植民地化以降、ラテンアメリカは、常にほかの地域と密接に結びついてきました。したがって、ラテンアメリカの歴史と社会を知るということは、同時に、ヒト・モノ・コトバのグローバルな流通を知ることになります。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを配布して進めます。映像資料もできるかぎり使用する予定です。ラテンアメリカ地域に関心があれば、予備知識は必要ありません。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）と授業中のリアクション・ペーパー（50%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献に目を通して下さい。また、日頃からラテンアメリカについてのニュースを意識しておく、より具体的なラテンアメリカ像を想像する助けとなるでしょう。復習：授業で配布するプリントや自分で書き込んだメモを再度見直して、わからない点や興味深い点を調べておきましょう。質問も歓迎します。

■教科書

テキストは指定しません。

■参考文献

国本伊代・中川文雄編『ラテンアメリカ研究への招待』（新評論、2005）、国本伊代『概説ラテンアメリカ史』（新評論、2001）。他の参考文献についてはガイダンスで紹介しています。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	「ラテン」と「アメリカ」
2 現代ラテンアメリカ	今何が起きているのか
3 歴史 1	先住民社会とヨーロッパ人による征服
4 歴史 2	20世紀と民主化
5 歴史 3	不況と「失われた10年」
6 映像資料 1	「ミッション」（1986年、18世紀の新大陸におけるキリスト教布教）
7 政治	政治体制と国際関係
8 暴力	暴力と治安
9 文化	文化と人種の多様性
10 映像資料 2	「モーターサイクル・ダイアリーズ」（2004年、チェが見た南米大陸）
11 経済 1	産業と貿易
12 経済 2	格差と貧困
13 ラテンアメリカと日本 1	ラテンアメリカの中の日本
14 ラテンアメリカと日本 2	日本の中のラテンアメリカ
15 まとめ	さらにラテンアメリカを知るために

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	イスラムの歴史と社会			
担 当 者	水口 章 Akira Mizuguchi		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

今日の「世界史」の観点では、かつて「中洋」といわれた地域の歴史の欠落がしばしば見られます。本講義では、そこを埋め、バランスのとれた歴史認識を身につけてもらうため、イスラム商業圏やモンゴル帝国の歴史を取り上げます。そのことで、新たな「世界史」の起点について考え、歴史観を形成することを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

各回授業は基本的には講義形式をとります。また、講義スケジュールに合わせて授業内容のレジュメ作成と重要点の発表を受講者に分担して行ってまいります。

■成績評価方法・基準

学習態度（課題レポート、討論参加、出席状況）40%、定期試験60%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べて理解を深めてください。

■教科書

宮崎正勝『世界史の誕生とイスラーム』原書房、2009年3月

■参考文献

タミム・アンサーリー（小沢千重子訳）『イスラームから見た「世界史」』紀伊國屋書店、2011年9月
三木巨『世界史の第二ラウンドは可能か』平凡社、1998年9月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	「世界史」における西アジア史のとらえ方
2 イスラムの成立	イスラムの教義について
3 教団の発展	イスラム共同体について
4 世俗的イスラム王朝 1	大征服運動の世界史的意義
5 世俗的イスラム王朝 2	ウマイヤ朝について
6 世俗的イスラム王朝 3	アッバース朝について
7 巨大商業圏の成立	交易路について
8 巨大商業圏の実態	商業ネットワークについて
9 巨大商業圏の拡大	海が結ぶ商業圏について
10 イスラム文明の国際性	文明の交流について
11 騎馬遊牧民の支配 1	トルコ人の台頭について
12 騎馬遊牧民の支配 2	モンゴル帝国のユーラシア世界の再編について
13 騎馬遊牧民の世界 3	モンゴル帝国崩壊後の世界について
14 騎馬遊牧民の支配 4	オスマントルコについて
15 まとめ	「世界史」の起点とは

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アメリカの政治		アメリカの社会と政治		移民と現代社会	
担 当 者	村川 庸子 Yoko Murakawa		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

アメリカは伝統的な移民国家である。移民は時代毎にアメリカの都市や農村の景観、人種間関係を構築・再構築し、労働市場、家族、教育、文化、宗教、政治など社会のあらゆる部分に影響を与えてきた。本授業ではアメリカの移民政策とこれをめぐる政治について歴史的・現代的視点から考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

事前に配布する資料に基づき、授業開始時に小テストを行う。コーネル式ノート作成法を活用する。積極的な授業への参加を期待する。

■成績評価方法・基準

成績評価は次の方法で行う。①小テスト 40% ②ノート（特にコメント部分を中心に）60%尚、自主的な学習を奨励する意味で、提出されるレポートなどについては加点の対象とする。

■授業の予習・復習

予習：配布資料を読み、概要をまとめること、共感する部分、疑問に思う部分を抜き出しておくこと。
復習：ノートの「コメント」欄を中心にまとめておくこと。

■教科書

特に無し

■参考文献

論文や新聞雑誌記事を事前に配布する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	導入	授業の進め方、成績評価の方法、等[移民国家であることの意味]
2	講義①	アメリカの歴史と移民政策——18-19世紀
3	講義②	アメリカの歴史と移民政策——20世紀
4	講義③	移民に関する理論—ブッシュ=プル仮説
5	講義④	移民に関する理論—つぼ、同化、サラダボール
6	講義⑤	移民に関する理論—差別と偏見
7	講義⑥	移民に関する理論—エスニック・アイデンティティ
8	ビデオ	アメリカの公民権運動
9	講義⑦	アメリカの市民権制度—外国人、市民、不法入国者
10	講義⑧	不法入国者政策
11	講義⑨	難民受入政策
12	講義⑩	移民と福祉政策
13	講義⑪	戦争と移民
14	講義⑫	9.11後の移民政策—ナショナル・セキュリティとの関連で
15	総括	まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	アメリカの政治		アメリカの社会と政治		移民と現代社会	
担 当 者	櫛田 久代 Hisayo Kushida		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業では、世界の中でも代表的な民主国家であるアメリカの政治を多方面から取り上げます。その際、アメリカの政治文化、代表制の確保、選挙、議会政治、政党政治を通して、現代アメリカの社会と政治の相互作用を理解することを目標としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントを中心に進めます。授業参加者の規模にもよりますが、少人数の場合は、時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で行います。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。
復習：授業内でわからなかったことは、解決するようにして下さい。

■教科書

なし。

■参考文献

渡辺 靖編『現代アメリカ』有斐閣、2009年。他。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	アメリカの今
2	アメリカ人（1）	2010年の国勢調査とアメリカ国民
3	アメリカ人（2）	移民と不法移民
4	アメリカ人（3）	移民政策
5	テロとの戦い（1）	9.11同時多発テロ
6	テロとの戦い（2）	テロと戦争
7	テロとの戦い（3）	国内におけるテロとの戦い
8	大国の動揺（1）	9.15リーマンショック
9	大国の動揺（2）	没落する中産階級
10	大国の動揺（3）	人々の怒りと政治活動
11	2012年大統領選挙（1）	大統領選挙の仕組み
12	2012年大統領選挙（2）	大統領選挙の結果分析
13	2012年大統領選挙（3）	大統領選挙後の課題
14	2012年大統領選挙（4）	まとめ
15	今後の展望	オバマ大統領の時代

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	ヨーロッパの政治		ヨーロッパ I	
担当者	金子 新 Shin Kaneko		対象学年	2年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

2008年のリーマン・ショック以来、ヨーロッパ政治経済は大きな危機を迎えています。そんなヨーロッパの現在を観察するには、EU（ヨーロッパ連合）の理解が不可欠です。戦後、冷戦環境の中で、いかにしてEU諸国は市場統合を目指したのか。冷戦後、グローバル化が進む中で、どのように共通通貨ユーロを形成したのか。この授業では、特に経済的観点にウエイトを置いて、劇的に変化する戦後のヨーロッパの政治経済に迫ります。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書とレジュメを用います。また映像などを使って、内容をよりリアルにイメージできるようにします。戦後の国際関係についての予備知識があると分かりやすいでしょう。国際政治学も合わせて履修することをお勧めします。

■成績評価方法・基準

成績の評価は、授業での発言、レポートまたは期末試験で行います。

■授業の予習・復習

予習：次の授業内容について参考図書やインターネットなどで調べてみよう。

復習：レジュメと教科書を読み返し、ヨーロッパ政治の特徴的な政策や制度を理解しよう。またそれらが日本・アジアにどんな参考になるか考えてみよう。

■教科書

パンジャマン・アンジェル他『ヨーロッパ統合』（創元社、2005年）

■参考文献

渡邊啓貴（編）『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣、2008年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	戦後ヨーロッパ政治と特質と欧州統合の理念
2 戦後復興とヨーロッパ統合	第二次大戦後の経済復興はどのように始まったか？
3 石炭鉄鋼共同体の形成	アメリカの経済援助とフランスのリーダーシップ
4 防衛共同体と経済共同体	ドイツ再軍備をめぐる攻防、関税同盟への挑戦
5 EECからECへ	共通の貿易政策vs 共通の農業政策？
6 ドーゴールとイギリスの対立	政治同盟構想とイギリスの加盟問題
7 ふたつのショックの影響	ドル危機と石油危機がヨーロッパ政治経済に与えた影響
8 対日貿易摩擦の激化	台頭する日本と不況に苦しむヨーロッパの貿易戦争
9 通貨統合の挑戦と挫折	貿易と金融の国際化にどう対応するのか？
10 ドロールと単一欧州議定書	カリスマ欧州委員長による市場統合へのアクセル全開
11 冷戦の終結とEUの発足	「一つのヨーロッパ」の設計図、マーストリヒト条約とは何か？
12 通貨統合への再挑戦	単一通貨ユーロ、妥協の産物が抱える希望と不安
13 グローバル・リーダー EU	民主主義、開発援助、環境保護、研究開発で世界をリードせよ！
14 世界同時不況とEU経済	リーマン危機後の経済危機、財政危機、ユーロの危機
15 これからのヨーロッパ政治経済	未来に向けたヨーロッパ政治経済の羅針盤は何か？

シ
ラ
バ
ス

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	中国の政治		中国 I	
担当者	家近 亮子 Ryoko Ichika		対象学年	2年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

中国は1978年12月以降「改革・開放」政策を実施し、経済成長を続け、2010年には国別GDPが世界第2位になりました。これは、経済において資本主義を導入した結果であります。政治的には社会主義を堅持し、共産党の単一支配を続けています。授業においては、格差の拡大する中国の抱える諸問題を歴史的視点から分析し、その原因を探っていきます。到達目標は、建国以来の中国の歴史を理解し、その上で現状を知ることにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。中国の社会、政治、国際情勢などのニュースを解説しながら、教科書・配布プリントを中心に、適宜映像資料を使いながら授業を進めていきます。

■成績評価方法・基準

小テスト30%、期末試験60%、平常点10%

■授業の予習・復習

予習：教科書を読んでくること。新聞・ニュース等で中国の動向に関心をもつこと

復習：教科書による復習。授業で配布した資料とノートの整理。疑問点の提出

■教科書

家近亮子・唐亮・松田康博編著『改訂版 5分野から読み解く現代中国 一歴史・政治・経済・社会・外交一』（晃洋書房、2009年）

■参考文献

授業では、詳細なプリントを配布します。授業項目に応じて、適宜紹介していきます。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容と進め方、評価の方法の説明中国に関する基礎知識
2 中華人民共和国史①	建国期の政治・経済・社会・外交
3 中華人民共和国史②	社会主義建設期の政治・経済・社会・外交
4 中華人民共和国史③	経済調整期の政治・経済・社会・外交
5 中華人民共和国史④	文化大革命期の政治と経済
6 中華人民共和国史⑤	文化大革命期の社会と外交
7 中華人民共和国史⑥	改革・開放政策の導入とその特徴
8 中国の政治体制①	中国の国家制度の特徴……人代制度と不完全な三権分立
9 中国の政治体制②	中国共産党の単一支配の構造
10 中国の政治体制③	民族政策と軍事制度
11 中国の社会問題①	人口問題―「一人っ子政策」の特徴と問題点
12 中国の社会問題②	教育制度の変遷と現状
13 中国の社会問題③	格差の要因としての戸籍制度
14 中国の社会問題④	社会保障制度の崩壊と再構築……医療問題
15 中国の外交政策	国連中心主義と大国化外交への転換

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	朝鮮		朝鮮 I	
担 当 者	小林 聡明 Soumei Kobayashi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

韓国は、歴史的な関係だけでなく、現在の政治、経済、文化にいたるまで、あらゆる側面において、日本と密接な関係を持っています。本授業は、隣人である韓国を知るために必要な知識の習得を目的とするものです。特に本授業では現代韓国に焦点をあてるものとし、歴史的な背景や知識については科目「日韓関係」で講述します。

■授業の進め方（履修条件等）

本授業では、できるかぎり多様な視聴覚教材（映画やドキュメンタリー、音楽）を使用することで、現代韓国に関する知識と理解の定着を目指します。そして、講師が一方向的に講義をするのではなく、インタラクティブな授業形態を採用し、講師と学生がともに「考える」というプロセスを大切にしたいと考えています。なお、可能な限り科目「日韓関係」とあわせて受講してください。

■成績評価方法・基準

出席状況（7割以上が必須）や授業後に提出してもらったコメント内容、レポートで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎日、必ず新聞に目を通して下さい。
復習：各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについて、たくさん議論してください。

■教科書

授業時に詳細なレジュメ（プリント）を配付します。

■参考文献

木宮正史『韓国—民主化と経済発展のダイナミズム』ちくま新書、2003年
石坂 浩一、館野 哲（編著）『現代韓国を知るための55章』明石書店、2000年
石坂 浩一（編著）『北朝鮮を知るための51章』明石書店、2006年
上記以外については、授業の際に随時紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	授業の目的とすすめ方
2	「韓国」を考える（1）	歴史のなかの韓国、世界のなかの韓国
3	「韓国」を考える（2）	日韓世論調査から見る相互認識
4	政治（1）	権威主義体制と民主主義体制
5	政治（2）	選挙と地域感情
6	政治（3）	韓国政治の特徴
7	経済（1）	開発独裁と冷戦
8	経済（2）	財閥と経済成長
9	経済（3）	韓国経済の特徴
10	社会（1）	メディアと権力
11	社会（2）	学歴社会と階層問題
12	社会（3）	徴兵制度と南北分断
13	北朝鮮（1）	北朝鮮の社会
14	北朝鮮（2）	日朝、日韓関係
15	まとめ	講義全体を通じたまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	東南アジアの地誌		東南アジア I	
担 当 者	高田 洋子 Yoko Takada		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

東アジアと南アジアの中間にある「東南アジア」は日本と密接な関係を持ち、そのプレゼンスをますます高めつつあります。この地域（とりわけ大陸部インドシナ）の地誌、歴史・文化・政治・経済・国際関係についての基礎知識を習得します。

■授業の進め方（履修条件等）

トピック毎に基本的な講義をした上で、学生は与えられた課題についてグループによる IT を活用したプレゼンテーションを積極的に行い、問題発見型の授業形態をとる予定です。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な取り組みと、プレゼンテーションの内容によって評価をつけます。

■授業の予習・復習

予習：日頃から東南アジアに関するニュースやドキュメンタリーを多く見るようにして下さい。
復習：理解度を確認するために、授業内にしばしば小テストを実施する予定です。

■教科書

高田洋子「フランス植民地時代のベトナム」共著『もつと知りたいベトナム』弘文堂。
高田洋子「東南アジア」共著『国際学入門』創文社。

■参考文献

Milton Osborne, Southeast Asia, An Introductory History, Sydney, 1979.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	序：「東南アジア」を学ぶ前に	受講する前の「東南アジア」に関するイメージをまとめる
2	「東南アジア」の地域概念について	領域、規模、諸国家、地域の類似性、アイデンティティーほか
3	東南アジアの自然と人びと	東南アジアの自然環境、土地利用、多民族構成、社会類型ほか
4	前近代の歴史と文化	インドシナの古代文化 ささまざまな遺跡群
5	信仰・日常世界	一例としての上座仏教：信仰概要とその政治社会学
6	近代：ヨーロッパ勢力による侵略	インドシナはなぜ植民地になったのか？
7	仏領インドシナ植民地(1)	1. 軍事侵略の過程
8	仏領インドシナ植民地(2)	2. 統治体制の構築
9	仏領インドシナ植民地(3)	3. 経済開発と輸出経済の進展
10	仏領インドシナ植民地(4)	4. ナシオナリズムの高揚と独立
11	近代東南アジア国家と都市の起源	ハノイ、サイゴンの都市史
12	領域国家の紛争と避難民	第1次～第3次インドシナ戦争と国際社会（1946年～1989年）
13	インドシナを「戦場から市場へ」	社会主義国の改革開放とASEANへの統合
14	大国の周辺としての Geopolitics	大メコン経済開発圏構想と日本
15	世界のなかの「東南アジア」	6億人のプレゼンス ASEAN 地域協力の展望

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	中東イスラム圏		中東イスラム圏	
担 当 者	水口 章 Akira Mizuguchi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本授業では、中東・イスラム諸国の社会空間の特性を学びます。そのことで、同地域を取り巻く国際環境の今後の動向を分析できる基礎能力を養うことを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を2区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出してください。

■成績評価方法・基準

学習態度（課題レポート、討論参加、出席状況）40%、定期試験60%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。
復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。

■教科書

水口章『中東を理解する』日本評論社、2010年3月

■参考文献

山崎孝史『政治・空間・場所―「政治の地理学」にむけて』ナカニシヤ出版、2011年1月

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	社会空間の考え方	人間生活と空間について
2	人間行動と空間の特性	人と基層文化の関係について
3	メンタル・プログラム	人の発達と社会化について
4	情報と人間行動	ソーシャル・ネットワークの発達について
5	法と生活規範	イスラム法について
6	国家を超える連帯意識	アラブ主義、イスラム主義について
7	イスラム過激思想	文明の衝突論について
8	グループ討論「社会空間の特性とは」	「高度情報通信社会がもたらす変化」を考える
9	東南アジア地域のイスラム	インドネシア、マレーシアなど
10	アラビア半島地域のイスラム	カタール、サウジアラビアなど
11	東地中海地域のイスラム	シリア、ヨルダンなど
12	北アフリカ地域のイスラム	チュニジア、リビアなど
13	中央アジア地域のイスラム	カザフスタン、キルギスタンなど
14	グループ討論「経済発展と中東・イスラム諸国」	「イスラム諸国の特性」を考える
15	まとめ	21世紀の中東・イスラム社会の課題について

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	アフリカ		アフリカ I	
担 当 者	大月 隆成 Takashige Otsuki		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本から見た場合、アフリカという地域は最もなじみが薄く、様々な面でかけ離れた存在であるため、偏った情報に基づく歪んだイメージが形成されやすい。この授業の狙いは、こうした関係の特殊性に注意しながら、アフリカについての基本的な知識とバランスの取れた見方を身に付けてもらうことである。

■授業の進め方（履修条件等）

ドラマや音楽、文学作品、ドキュメンタリーなどを手がかりに、「アフリカ初心者」にも配慮した「敷居の低い」授業を実施する予定である。

■成績評価方法・基準

課題の提出状況および学期末試験の結果に基づいて行う。

■授業の予習・復習

予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。
復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社
大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	アフリカ入門（1）	アフリカの多様性と共通性
2	アフリカ入門（2）	北アフリカとサハラ以南アフリカ
3	アフリカ入門（3）	共通性の起源～共通の歴史的経験
4	アフリカの歴史を知る（1）	「ルーツ」～アフリカの伝統社会
5	アフリカの歴史を知る（2）	「ルーツ」～大西洋奴隷貿易
6	アフリカの歴史を知る（3）	「不可思議な国境線」～アフリカ分割
7	アフリカの歴史を知る（4）	「シャーロック・ホームズとアフリカ」～植民地支配
8	アフリカの歴史を知る（5）	「地図のない国」～ギニアの独立
9	アフリカの現在を知る（1）	「ルワンダの義足工房」～アフリカの内戦（1）
10	アフリカの現在を知る（2）	「ブラッド・ダイヤモンド」～アフリカの内戦（2）
11	アフリカの現在を知る（3）	「ブラッド・ダイヤモンド」～天然資源の「恵み」
12	アフリカの現在を知る（4）	「ブラッド・ダイヤモンド」～少年兵
13	アフリカの現在を知る（5）	「ディマクコンダ」～深刻なエイズ問題
14	南アフリカを知る（1）	「インビクタス」～アパルトヘイトとネルソン・マンデラ
15	南アフリカを知る（2）	「インビクタス」～アパルトヘイト後の南アフリカ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ラテンアメリカ		ラテンアメリカ I	
担 当 者	高橋 慶介 Keisuke Takahashi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

ラテンアメリカの大国であり、近年の著しい経済発展によって国際関係において重要さを増すブラジルを概説します。まず、現代ブラジルの政治経済の基礎を学びます。ついで、ラテンアメリカ諸地域と比較をしながら、ブラジル社会の特徴を捉えます。その上で、国際的関心の高い環境問題への取り組み、国際関係におけるブラジルの立場や役割、結びつきの強い日本との関係を見ていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを配布して進めます。映像資料もできるかぎり使用する予定です。ブラジルやラテンアメリカ地域に関心があれば、予備知識は必要ありません。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）と授業中のリアクション・ペーパー（50%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：参考文献に目を通して下さい。また、日頃からブラジルやラテンアメリカについてのニュースを意識しておくとういでしょう。

復習：授業で配布するプリントや自分で書き込んだメモを再度見直して、わからない点や興味深い点を調べておきましょう。質問も歓迎します。

■教科書

テキストは指定しません

■参考文献

アンジェロ・イシ『ブラジルを知るための56章』（2010、明石書店）、金七紀男『ブラジル史』（2009、東洋書店）。他の参考文献についてはガイダンスで紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガンダンス	未来の国と経済成長
2 ブラジルの概説	地理と歴史
3 現代ブラジルの政治	軍事政権から労働者党政権まで
4 現代ブラジルの経済	ブラジル経済の基礎知識
5 映像資料 1	「ジンガ」（2005年、サッカーとリズム）
6 ブラジルの社会 1	三つの人種と民主主義
7 ブラジルの社会 2	カトリックと宗教
8 ブラジルの社会 3	ジェンダーと男らしさ
9 映像資料 2	「シティ・オブ・ゴッド」（2002年、都市と治安）
10 ブラジルの自然	自然と環境問題
11 ブラジルの国際関係 1	ラテンアメリカにおけるブラジル
12 ブラジルの国際関係 2	ラテンアメリカ以外の地域とブラジル
13 ブラジルと日本	日系とニッケイ
14 ブラジルと日本	在日ブラジル人とデカセギ
15 まとめ	さらにブラジルを知るために

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国際協力入門	国際協力入門	国際協力入門	国際協力入門
担 当 者	水口 章 Akira Mizuguchi		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本授業では、国際協力の基本認識を深め、国際協力の仕組みや動向について学びます。そのことで、国際協力が身近なものであるとの認識を持ち、実践するための基礎的知識を修得することが到達目標です。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出してください。

■成績評価方法・基準

学習態度（課題レポート、討論参加、出席状況）40%、定期試験60%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。

復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。

■教科書

特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。

■参考文献

高木保興編『国際協力学』、東京大学出版会、2004年6月
内海成治編『国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社、2005年1月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 今なぜ国際協力が必要か	国際社会に生きる者としての責任と分担について
2 国際政治・経済システムの潮流	「フラット化」「パワー・シフト」について
3 貧困問題	貧困と経済成長の関係について
4 環境問題	開発と環境の関係について
5 グループ討論「自分ができる国際協力」	「思いやり」という社会行動を考える
6 ジェンダーと開発	ジェンダー差別意識について
7 教育開発	人間開発の考え方について
8 保健医療	保健医療協力に関する動向について
9 人口問題	人口増加と貧困の関係について
10 グループ討論「国際機関の役割の限界」	NGO組織の現状と問題点を考える
11 政治協力	政府間援助の仕組みについて
12 文化協力	文化協力の考え方について
13 民間ベースの国際協力	民間の貿易、投資、援助での役割について
14 国際協力のマネジメント	異文化組織マネジメントのあり方について
15 グループ討論「国際協力の意義」	どのような国際協力が望ましいかを考える

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国際協力の理念と実践		国際協力の理念と実践	
担 当 者	清水 俊弘 Toshihiro Shimizu		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。この講座では政府、非政府の立場で行われている国際協力活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタンなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。

■成績評価方法・基準

レポート提出。平常授業の課題など。

■授業の予習・復習

各授業の前に予備知識として必要な事柄を説明し、事前の準備をしてもらう。

■教科書

日本国際ボランティアセンター著『NGOの選択』めこん 2005年

■参考文献

『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008年

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	本講座受講に際して	オリエンテーション
2	世界各地の紛争と国際協力①	アフガニスタンにおける「対テロ戦争」と復興協力の実際について考える。その1.
3	世界各地の紛争と国際協力②	アフガニスタンにおける...、その2.
4	世界各地の紛争と国際協力③	イラク戦争と国際社会の関わり、その1.
5	世界各地の紛争と国際協力④	イラク戦争と... その2.
6	世界各地の紛争と国際協力⑤	パレスチナ問題と国際社会の関わり
7	紛争予防を考える	東アジアにおける平和と私たち
8	紛争後の開発協力を考える①	カンボジアの復興過程と開発、その1
9	紛争後の開発協力を考える②	カンボジアの...、その2
10	紛争後の開発協力を考える③	ラオスにおける開発問題、その1
11	紛争後の開発協力を考える④	ラオスにおける...、その2
12	国際的課題に取り組む①	ミレニアム開発目標とHIV / AIDs①
13	国際的課題に取り組む②	南アフリカにおけるHIV / AIDsとNGOの取り組み
14	無差別兵器の廃絶と国際社会①	対人地雷禁止条約の成立過程における市民社会の役割
15	無差別兵器の廃絶と国際社会②	クラスター爆弾禁止条約の成立過程と市民社会の役割

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国際法		国際関係法 I	
担 当 者	庄司 真理子 Mariko Shoji		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

法とは何か？法概念と歴史などの視点を織り込みつつ、法のなかでも国際法に焦点をあてて考察します。国際法とは何か？国際法はどのような形をした法律であるか？などの観点から考察を深めていきます。次に国際法の主体、特に国家についてどのように捉えているかを考察します。最後に、外交関係と国際法の関連についても言及します。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めます。講義への参加度、各自が自分で主体的にもの考えているかを確認しながらすすめます。

■成績評価方法・基準

講義の最中に毎回、授業内レポートを書いてもらう。そのほかに試験をします。

■授業の予習・復習

特に予習は必要ないが、可能ならば教科書を読んできて下さい。基本的に授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んで欲しいと思います。

■教科書

中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ

■参考文献

大沼・藤田編『国際条約集』有斐閣。
門広・船尾・降矢・松田『INVITATION:法律学入門』不磨書房。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業のガイダンス	この授業の内容を概観する
2	法源論の基本的考察	法とは何か？
3	国際法とは何か	国際法の法源について考察します。
4	条約 I	成文法としての条約について、条約の定義について学ぶ
5	条約 II	条約の成立プロセス、留保などを学ぶ。
6	国際慣習法	不文法としての国際慣習法：国際慣習法について学ぶ
7	国際法の主体	国際社会の多様なアクター
8	国家	国家をめぐる国際法上の諸問題、国家承認論
9	承認論	政府承認論、交戦団体の承認
10	国家承継論	国家承継について学ぶ
11	国家と国際関係	外交使節と領事：外交使節、外交特権
12	領事について	その職務内容は何か。外交特権、領事特権
13	主権、平等、国内事項不干涉	国家主権、平等、国内事項不干涉
14	国際法と国内法の関係	国際法優位説、国内法優位説など
15	国際社会の新たな法源	ソフト・ロー

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国際政治史		国際政治史	
担 当 者	家近 亮子 Ryoko Ichika		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

20世紀以降の国際政治史を概説します。20世紀は帝国主義と民族主義、社会主義と資本主義などという二極分離的対立が特徴的な時代でありました。また、二つの世界大戦を経験した時代でもあり、国際連盟や国際連合などの国際的安定システムを導入、確立した時代でもありました。授業においては、現在の国際社会がどのような歴史を経て形成されたのかを明らかにしていきます。到達目標は、国際政治の歴史の流れを知り、なぜ現在のような世界ができあがったのかを理解することにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。授業は配布プリントを中心に適宜、映像資料を使いながら進めていきます。

■成績評価方法・基準

平常点10%、小テスト30%、学期末試験60%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：ニュースや新聞等で国際政治に関心をもつこと。次週の授業内容の予習

復習：配付資料・ノートの整理。疑問点を書いて提出すること

■教科書

教科書はありません。毎時間配布するプリントが教科書代わりになります。全部で30頁になります。欠ける頁がないように注意してください。

■参考文献

授業内容をすべてカバーする参考文献はないため、授業項目に合わせて、適宜紹介していきます。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の概要と授業の進め方の説明、20世紀
2 20世紀の国際政治の特徴	帝国主義、社会主義、ファシズム、民族主義の説明
3 第一次世界大戦への道①	産業革命とアジア・アフリカの植民地化
4 第一次世界大戦の勃発	バルカン半島情勢と第一次世界大戦の拡大と特徴
5 ロシア革命	ロシアの情勢とレーニン革命、社会主義国の誕生
6 アメリカの台頭	アメリカの外交戦略（モンロー主義）と第一次世界大戦
7 日本の参戦と中国進出	「対華二十一条の要求」と中国の対応
8 第一次世界大戦の戦後処理	ウィルソンの民族自決主義と国際連盟の設立
9 第一次世界大戦後の国際政治	対ドイツ賠償問題とアメリカ中心経済体制の確立
10 第二次世界大戦への道	イタリア・ドイツにおけるファシズムの台頭
11 第二次世界大戦の勃発	戦争の展開と終息
12 第二次世界大戦の戦後処理	国際連合の成立と冷戦構造の創出
13 冷戦下の国際政治	朝鮮戦争とベトナム戦争
14 冷戦の終結	ソ連邦解体と東欧の民主化、独立
15 冷戦後の国際社会	グローバリズムとリジョナリズム—その問題点

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国際連合の仕組みと活動	国際連合の仕組みと活動	国際連合の仕組みと活動	
担 当 者	庄司 真理子 Mariko Shoji		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

国連をはじめとする国際機構について考えます。本講義では、国連の組織構造を考察することに重点を置きながら、国連に私たちがどうコミットしていったら良いのかを考えます。国連は国際機構だから、国家間関係中心の組織構造で、などと堅く考えずに、地球上に住む人を中心に据えた組織構造を考えていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めます。授業の参加度を重視します。

■成績評価方法・基準

毎回書いてもらう授業内レポートと期末試験で採点します。出席は重視します。

■授業の予習・復習

基本的には予習・復習は特に課しません。授業中が勝負です。授業に真剣に取り組んでください。

■教科書

使用しない。

■参考文献

横田洋三編著『新国際機構論』国際書院

■授業内容

授業項目	授業内容
1 国連を疑似体験	ビデオをとおして国連を疑似体験。
2 国際機構の誕生と歴史	国際機構の誕生の歴史を学ぶ
3 国際機構の定義	国際機構、国連システム、国連の定義を学ぶ
4 国際連盟の成立	国際連盟の成立までの歴史を学ぶ
5 国連の創設	国連の創設と第二次世界大戦後の世界秩序。
6 国連の目的および原則	国連の目的および原則と、国連加盟。
7 国連総会	世界の議会をめざす国連総会
8 安全保障理事会	安全保障理事会と大国による平和。
9 経済社会理事会	機能強化が望まれる経済社会理事会。
10 国際司法裁判所	国際司法裁判所と真の司法機関への展望。
11 事務局	機構改革の要としての事務局。
12 国連事務総長	世界で最も難しい役割、国連事務総長。
13 人権理事会と平和構築委員会	21世紀の新しい組織、人権理事会と平和構築委員会
14 国連と難民問題	国連と難民問題
15 国連と企業	地球市民社会と国連 企業との関係

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国際連合の仕組みと活動	国際連合の仕組みと活動	国際連合の仕組みと活動	
担 当 者	庄司 真理子 <i>Mariko Shoji</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

This course studies the United Nations (UN) as well as the International Organizations. The main objective of this course is to study the structure of the United Nations. From the viewpoint of the UN structure, we will discuss how we can access this world organ. The UN is not out of reach for the common people but it is an important factor in all our lives. "We the people of the United Nations", this one sentence is written in the preamble of the UN Charter. The UN is the organization for us, civil society.

■授業の進め方（履修条件等）

Lecture, Class participation will be strongly required.

■成績評価方法・基準

- 1) Class Participation 2) in class short Reports
- 3) Final examination

■授業の予習・復習

Basically, preparations and reviews are not required. Class participation is the most important. Students are required to take active role in the class.

■教科書

Teacher will distribute materials.

■参考文献

United Nations, *United Nations Today*, United Nations (August 10, 2008)
Linda Fasulo, *An Insider's Guide to the UN*, Yale University Press; 2 edition (June 9, 2009)

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Video of the UN	Simulated experience of the UN by Video
2	History and birth of the IO	History and birth of the International Organizations
3	Definition	Definition of the International Organizations
4	The League of Nations	The birth of The League of Nations
5	The birth of the UN	The birth of the UN and the World Order after WWII
6	Purposes and Principles	Purposes and Principles of the UN: accession
7	The UN General Assembly	The UN General Assembly as the World Congress
8	The Security Council	The Security Council and the Peace by the Powers
9	ECOSOC	Functional enhancement of Economic and Social Council
10	The ICJ	The International Court of Justice: Real judicial organ
11	The Secretariat	The Secretariat; center of the reform
12	The Secretary-General	The SG: The most difficult role in the world
13	The HRC and the PBC	The Human Rights Council and the Peacebuilding Commission
14	The UN and refugees	The UN and refugees
15	The UN and corporations	The UN, Global Civil Society and Corporations

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	現代日本入門			
担 当 者	小林 聡明 <i>Soumei Kobayashi</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

私たちが暮らす「日本」とは、どのような社会であり、いかなる構造をもっているのでしょうか。本授業では、これについて、外国の状況を随時参照しながら、考えてみたいと思います。それは当たり前の「日常風景」を見つめ直すための社会科学的な発想と眼差しを身につけることとなります。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では皆さんの理解を助けるために、できるだけ多くの視聴覚教材（映画やドキュメンタリー）を活用するつもりです。可能な限り、皆さんとの対話を重視したインタラクティブな授業を目指したいと思っています。

■成績評価方法・基準

出席状況（7割以上が必須）や授業後に提出してもらうコメント内容、レポートで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎日、必ず新聞に目を通して下さい。
復習：各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについて、たくさん議論してください。

■教科書

授業で詳細なレジュメ（プリント）を配付します。

■参考文献

各授業時に紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	講義の概要と進め方
2	「日本」を考える	日本の現状と直面する問題
3	政治（1）	敗戦と占領
4	政治（2）	日本国憲法
5	政治（3）	戦後民主主義
6	経済（1）	高度経済成長とバブル崩壊
7	経済（2）	日本経済の現状
8	外交（1）	日米関係
9	外交（2）	日韓関係
10	外交（3）	日朝関係
11	社会（1）	メディアの歴史的展開
12	社会（2）	メディアの直面する諸問題
13	社会（3）	現代の社会問題
14	アジアのなかの日本	「歴史」と未来
15	おわりに	講義全体のまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	政治学概論Ⅱ (日本の政治)		政治学概論Ⅱ/日本の政治	
担 当 者	榎田 久代 Hisayo Kushida		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では、日本の政治過程を扱います。政治学入門あるいは政治学概論Ⅰで学んだ政治の基礎概念や基礎理論が、日本政治の中でどのように展開しているのかを主眼に、政治の実態を具体的に理解し政治的知識を増やすことを目的としています。国際学部の社会科学教職科目でもありますから、しっかりと知識を身につけてもらいたいと思います。

■授業の進め方 (履修条件等)

配布するプリントを中心に授業を進めます。時折、みなさんの理解を確認するために演習形式で行うときもあります。なお、社会科学関係の教職課程の学生は必修です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持つようにして下さい。
復習：授業中わからなかったことは、授業後解決するようにして下さい。

■教科書

なし。

■参考文献

久米郁男他編『政治学 (New Liberal Arts Selection) 補訂版』(有斐閣、2011年) 他。
※参考文献は、3階メディアセンターの榎田「指定図書」コーナーにあります。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	日本政治の今
2	政治を見る目 (1)	日本政治の課題
3	政治を見る目 (2)	外交と国内政治
4	日本の政治制度	議院内閣制と政党
5	行政部 (1)	内閣と行政部
6	行政部 (2)	行政部の現状と問題点
7	立法部 (1)	国会
8	立法部 (2)	立法過程
9	立法部 (3)	立法の現状と問題点
10	司法部 (1)	裁判所の役割
11	司法部 (2)	市民の司法参加
12	マスメディアと世論	第4の権力
13	地方自治 (1)	地方自治の推進
14	地方自治 (2)	地方自治が抱える課題
15	まとめ	日本政治の現状再考

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本の経済		現代日本経済論	
担 当 者	三幣 利夫 Toshio Sampei		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

第二次大戦後からの日本経済の成長と停滞の過程を振り返ると共に、現在の日本が抱える問題を取り上げ、今後の対策についても考える。

■授業の進め方 (履修条件等)

毎回配布するレジュメに沿って、講義を進める。随時に質問したり、意見を求めることも行う。

■成績評価方法・基準

出席 (授業への参加度合を含む) 30%
中間期 (小テスト) 30%
定期試験 (または、レポート提出) 40%

■授業の予習・復習

日頃の新聞・ネット等を通じ、経済関連の動きを確認すること。

■教科書

特になし。

■参考文献

日本経済新聞「ゼミナール日本経済入門」 日本経済新聞出版社
金森久雄他「日本経済読本・第18版」 東洋経済

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義の進め方、日本経済新聞の読み方
2	日本経済の歩み (1)	戦後復興から高度成長
3	日本経済の歩み (2)	石油ショックとその克服
4	日本経済の歩み (3)	円高不況からバブルへ
5	日本経済の歩み (4)	バブル崩壊とその後の低成長
6	日本経済の歩み (5)	世界同時好況期と日本経済
7	最近の日本経済	リーマンショックから現在まで
8	日本の産業構造	経済成長と円高による構造変化
9	日本経済を取り巻く環境	世界経済の動向
10	日本経済の課題	デフレ
11	日本の課題 (1)	少子高齢化
12	日本の課題 (2)	財政赤字と公的債務の増大
13	日本の制度改革	社会保障と税の一体改革
14	日本経済の活路 (1)	経済連携協定と地域経済統合
15	日本経済の活路 (2)	地球環境問題への取り組み

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本の歴史			
担 当 者	家近 亮子 Ryoko Iechika		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

幕末から現代に至る日本の近現代史を学びます。日本がどのような過程を経て現在の政治、経済、社会、国際関係を構築するようになったかを解明します。到達目標は、日本の近現代史の基本的な流れをつかみ、その特徴を理解し、問題の所在を考え、日本の現状を正しく知り、将来像を分析することができるようになることにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。授業は、教科書と配付資料を中心に適宜映像資料を取り入れながら進めていきます。

■成績評価方法・基準

平常点10%、小テスト30%、期末試験60%

■授業の予習・復習

予習：教科書を読んでくること。
復習：授業の内容をまとめておくこと。新聞やニュースでの日本の歴史に関することに関心を持つこと。

■教科書

宮地正人監修、大日方純夫・山田朗他著『日本近現代史を読む』、新日本出版社、2010年。

■参考文献

家近亮子『日中関係の基本構造』、晃洋書房、2004年。
テーマごとにその都度紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の方法の説明。今日の日本の政治、経済、社会、外交について。
2	江戸という時代	江戸時代の政治・経済・社会・対外関係
3	開国への道	幕末の政治と思想
4	明治維新	日本の近代化はどのようにして行われたのか？明治の三大改革について
5	大日本帝国憲法（明治憲法）の成立	明治憲法の成立過程と特徴、解釈の問題点について
6	明治時代の政治と思想、文化	自由民権運動—民衆の政治参加
7	近代日本の対外認識と政策	福沢諭吉の「脱亜論」と日清・日露戦争
8	大正時代	経済発展と大正デモクラシー
9	第一次世界大戦と国際関係	「対華二十一カ条の要求」と中国進出、世界大恐慌
10	「暗い昭和」への道	軍部の台頭とファシズム
11	日中戦争の勃発と戦時体制	戦時下の社会と人々の生活、思想、文化
12	太平洋戦争	戦争の要因、経過、戦後処理
13	戦後の日本—①	GHQによる占領政策と「日本国憲法」
14	戦後の日本—②	戦後の政治と社会の変容
15	戦後の日本—③	経済発展と外交、思想、文化

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	刑法		刑法	
担 当 者	覚正 豊和 Toyokazu Kakusho		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現代社会におけるさまざまな犯罪現象に対して、刑法がどのように対応しているかについて明らかにしていきたいと思えます。一般的に刑法の講義は、「刑法総論」と「刑法各論」に分かれています。刑法総論は犯罪の成立要件と刑罰の内容を説明する部分で、刑法各論は法律上犯罪とされる行為はどのようなものであるかについて各条文を一つ一つ検討していくものです。この講義では、公務員試験をはじめとする各種試験に向けた入門としての役割をも持たせようと考えています。よって、刑法の全体的概要、基本的しくみ、理念、解釈などについてわかりやすく説明していくつもりです。ぜひ、興味をもって受講されることを望んでいます。

■授業の進め方（履修条件等）

特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において、指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において、指示します。

■教科書

斉藤静敬・覚正豊和 共著『刑法（総論）への招待』 創成社
斉藤静敬・覚正豊和 共著『刑法（各論）への招待』 創成社

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	導入	受講のガイダンス
2	刑法の意義と機能	刑法の内容、構造、犯罪と刑罰、刑法解釈など
3	刑法の基本原則	罪刑法定主義、謙抑主義、学派の対立、適用範囲など
4	構成要件該当性	構成要件論、行為論、不作為犯論、因果関係論、故意論、錯誤論、過失論
5	違法性	違法性の本質、正当行為、緊急行為、安楽死など
6	有責性	責任の本質、責任能力、期待可能性など
7	未遂犯・不能犯	実行の着手、中止犯、不能犯など
8	共犯	共同正犯、教唆犯、幫助犯など
9	個人的法益に対する罪	生命・身体に対する犯罪
10	個人的法益に対する罪	自由、プライバシー、名誉・信用に対する犯罪
11	個人的法益に対する罪	財産に対する犯罪
12	社会的法益に対する罪	放火罪、通貨・有価証券・文書偽造罪・風俗罪
13	国家的法益に対する罪	公務執行妨害罪、偽証罪、賄賂罪
14	基本知識チェック	練習問題
15	総括	まとめおよび質疑

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	行政学			
担当者	関 英男 <i>Hideo Seki</i>		対象学年	2年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、行政に関する議論を判断する手がかりを与えることである。実際の行政は、俗にいう単調なお役所仕事という批判とは対照的に、実に複雑である。それゆえに、行政への一面的な批判や擁護は問題が多い。行政を通じて多角的な見方を身に付けることが、この授業の目的である。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストを使用することで予習と復習を容易化する。講義では最初にテキストの該当箇所の特徴を述べ、次にこれに即してテキストにない多角的な議論を展開する。板書を多用し、ノートをとりをよくする。

■成績評価方法・基準

定期試験のみを原則とし、任意提出である行政に関する指定した新書の感想文により加点する。

■授業の予習・復習

インターネットで不明な用語を検索するなど、攻めの姿勢で受講されることを強く期待します。

■教科書

『改訂版 現代の行政』（放送大学教材）森田 朗著
放送大学教育振興会（2000年）

■参考文献

『行政学 新版』西尾 勝著 有斐閣（2001年）、
『行政学』真淵 勝著 有斐閣（2009年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 現代国家における行政活動、行政国家の成立	行政学と政治学や経営学など周辺学問との違い、および行政学的前提にある行政国家と福祉国家について解説する。
2 行政学の発展	公務員試験に頻出する、アメリカ行政学説史について解説する。
3 行政改革	行政学説史としても重要なNPMの特徴と問題点、そして民営化、独立行政法人など近年の行政改革の基本的動向について解説する。
4 現代の政府体系、内閣制度と政官関係 1	連邦制などについて基本的な解説を行った上で、明治初期の太政官制、大日本帝国憲法下の内閣制度と政官関係について解説する。
5 内閣制度と政官関係 2	日本国憲法下における政官関係すなわち政治家と官僚の関係について、自民党政権下と民主党政権下を対比しつつ解説する。
6 地方自治と分権改革 1	プリントを多用しつつ、日本の地方自治制度の歴史と特徴について解説する。
7 地方自治と分権改革 2	近年の分権改革、道州制、大都市制度について解説する。
8 官僚制の理論	行政組織を理解する上で不可欠であり、公務員試験にも頻出する官僚制組織理論について多角的に解説する。
9 現代組織論	公務員試験に頻出する、アメリカ発の意思決定・組織の作用についての基礎理論を解説する。
10 日本の行政組織と行政改革	なぜ省益至上主義になるかといった、日本の行政組織の基本的行動原理について、自治体も含めて多角的に解説する。
11 公務員制度と人事システム	日本の公務員制度すなわち人事システム、給与システムと労働組合について、自治体も含めて解説する。
12 行政活動と政策	行政が、どのようにして社会をコントロールするかについて解説する。
13 政策過程	政策過程のモデルなどを解説する。
14 政策の執行と評価	行政の専管領域である政策執行、近年の流行である政策評価について解説する。
15 行政責任と行政の民主的統制	一般市民が主権者として行政の暴走を監視しコントロールする手段と、公共性について役所が独占できなくなってきた近況を解説する。

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	経済学入門		経済学入門	
担当者	小林 啓祐 <i>Keisuke Kobayashi</i>		対象学年	1年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義は経済学を勉強するにあたり、その入門となる内容を学ぶものである。具体的には基本的な経済学の歴史、日本経済の歴史・現状、ミクロ経済学、マクロ経済学の知識を学ぶ。講義では、その概念が必要となった背景についても学ぶことで、その理論がなぜ経済の分析に必要とされたのかについても考えていきたい。

■授業の進め方（履修条件等）

全部で3回的小テストを行う。すべて受けることが前提となるので注意すること。

■成績評価方法・基準

小テストの結果とコメントシート（出席含む）をあわせて評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書の該当箇所を読んでいることが望ましい。
復習：講義中に記るレジュメ、自筆ノートで復習すること。

■教科書

塩澤修平『経済学・入門 第2版』有斐閣アルマ 2003年

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本講義のガイダンスを行う
2 経済学の歴史	およそ200年間の経済学の歴史、経済学が射程としていることについて学ぶ
3 高度経済成長と日本－経済史 1	高度経済成長長期の日本経済について学ぶ
4 失われた20年の日本－経済史 2	バブル経済、その崩壊後の日本経済について学ぶ
5 経済学・経済史小テスト	経済学と経済史の小テストを行う
6 ミクロ経済学 1	消費者行動と生産者行動について学ぶ
7 ミクロ経済学 2	市場について学ぶ
8 ミクロ経済学 3	国際貿易について学ぶ
9 ミクロ経済学 4	不確実性について学ぶ
10 ミクロ経済学小テスト	ミクロ経済学の小テストを行う
11 マクロ経済学 1	国民所得について学ぶ
12 マクロ経済学 2	IS-LM分析について学ぶ
13 マクロ経済学 3	インフレと景気循環について学ぶ
14 マクロ経済学小テスト	マクロ経済学の小テストを行う
15 まとめ	本講義の総復習、まとめを行う

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	経営学入門		経営学入門	
担 当 者	三幣 利夫 Toshio Sampei		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

経営に関する基本的な用語・理論を理解し、2年次以降で国際ビジネスに関連する専門科目を学習するための基礎を作る。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回配布するレジュメに沿って、講義形式で進めるが、初心者にも分かりやすい内容で行う。

■成績評価方法・基準

出席30%
中間期（小テスト）30%
定期試験（または、レポート提出）40%

■授業の予習・復習

事前準備は特に必要ないものの、ビジネス関連の時事ニュースには関心を持って、読み、かつ聞くこと。

■教科書

特になし。

■参考文献

伊丹敬之著「ゼミナール経営学入門」 日本経済新聞出版社
上林憲雄他「経営学入門」 有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の進め方、経営学の概要
2 会社の経営	会社とは何か、経営資源とは
3 会社の役割	会社はどのように社会に役立っているか
4 会社の形態と統治	誰が会社を動かしているか
5 企業統治	所有と経営の分離、ガバナンス改革
6 経営理念	会社はどのような方針で動いているか
7 経営戦略	会社の戦略、事業戦略
8 競争戦略	ポーターの競争戦略
9 企業の組織	組織と役割分担
10 モチベーション	社員はなぜ働くか
11 リーダーシップ	人を動かすリーダーの役割
12 マーケティング	どのようにモノを売るか
13 国際経営	海外でどのように経営するか
14 企業会計	財務諸表の読み方
15 企業の社会的責任	企業文化とCSR

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	経済学概論 I (マクロ経済学)	経済学概論 I	経済学概論 I / マクロ経済学	
担 当 者	小林 啓祐 Keisuke Kobayashi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義は前・後期の講義を通して、経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学）の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。前期は主にマクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

小テストを3回行うので、すべて受けること。

■成績評価方法・基準

毎講義中に配るレスポンスペーパー、および3回の小テストを合わせて評価する。

■授業の予習・復習

シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。

■教科書

辻正次・八田英二『What's 経済学』（第三版）、有斐閣、2010年。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本講義のガイダンスを行い、経済学が射程とする問題領域について学ぶ
2 GDPと景気変動	GDPがどのような指標であるか、またなぜ景気変動がおこるのかについて学ぶ
3 金融政策と経済	金融市場の特徴と金融政策が同市場に与える影響について学ぶ
4 為替と経済	為替がなぜ変動するのかについて学ぶ
5 第1回小テスト	第2回から4回までの講義内容の小テストを行う
6 貿易と国際収支	貿易黒字・赤字が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ
7 バブル経済	バブル経済と言われる経済状況がなぜ起こるのかについて学ぶ
8 貯蓄と経済	貯蓄率の変動が持つ意味について学ぶ
9 第2回小テスト	第6回から8回までの内容の小テストを行う
10 国債と経済	国債が政府の財政、経済に与える影響について学ぶ
11 インフレとデフレ	物価があがる、さがるという変化が経済に与える影響について学ぶ
12 様々な経済成長のかたち	経済成長をすることはどのようなことなのか、様々なケースを用いて考察する
13 経済構造の変化	日本を事例として、なぜ経済構造に変化が必要なのかについて学ぶ
14 第3回小テスト	第10回から13回までの内容の小テストを行う
15 まとめ	マクロ経済学のまとめと総復習を行う

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	経済学概論Ⅱ(ミクロ経済学)		経済学概論Ⅱ/ミクロ経済学			
担 当 者	小林 啓祐 Keisuke Kobayashi		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義は前・後期の講義を通して、経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学）の知識、およびその知識を用いて日本経済の構造を理解することを目的とする。後期は主にミクロ経済学について学ぶ。講義では、時事問題を扱うことにより、現代の日本経済がどのような構造にあるのかを理解することを目標としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

小テストを3回行うので、すべて受けること。

■成績評価方法・基準

毎講義中に配るレスポンスペーパー、および3回の小テストをあわせて評価する。

■授業の予習・復習

シラバスを事前に確認し、教科書にて予習をすること。

■教科書

辻正次・八田英二『What's 経済学』（第三版）、有斐閣、2010年。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 価格と市場	価格決定のメカニズムについて学ぶ
2 所得の変化と経済	所得の変化が価格や賃金などにどのように影響を与えるのかについて学ぶ
3 企業の供給行動	企業が様々な条件のもとでどのような生産を行うのかについて学ぶ
4 価格変動のメカニズム	価格が様々な条件のもと、どのようにして変化していくのかについて学ぶ
5 第4回小テスト	第1回から4回までの内容について小テストを行う
6 独占の功罪	独占企業の存在が経済にどのような影響を与えているのかについて学ぶ
7 不完全競争	市場における不完全競争がどのような結果をもたらすかについて学ぶ
8 公共財と経済	国などが管理する公共財が経済活動にどのような意味をもっているのかについて学ぶ
9 第5回小テスト	第6回から8回までの内容について小テストを行う
10 外部性の発生	他人の経済活動からなんらかの影響をうけることが、どのような変化をもたらすかについて学ぶ
11 情報と市場	情報の不足が市場にもたらす影響について学ぶ
12 日本型経営システム	世界的にみて特殊ともいえる日本型の経営システムがどのような特徴をもっているのかについて学ぶ
13 様々な市場と経済	具体的な事例を用いて、いろいろな市場・価格について考察する
14 第6回小テスト	第10回から13回までの内容について小テストを行う
15 まとめ	ミクロ経済学のまとめを行ったのち、総復習を行う

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	経営学					
担 当 者	岸本 太一 Taichi Kishimoto		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、大きく2つあります。一つは、経営学の基礎的な内容を理解することです。ただし、時間の関係上、経営学の全ての分野に触れることはできません。もう一つは、学んだ理論を用いて現実の企業を分析するための初歩的なスキルを身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

講義内容は大きく2つに分かれます。一つは、理論に関するレクチャーです。もう一つは、紹介した理論に関連する企業の事例を紹介するという内容です。この二つの内容を交互に進めていきます。

■成績評価方法・基準

中間レポート（40%）、期末レポート（40%）、出席（20%）で評価します。

■授業の予習・復習

予習：予習は特に必要ありません。
復習：講義で板書したノートを再読することをお勧めします。

■教科書

伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門 第3版』
日本経済新聞社

■参考文献

講義にて、適時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	今後の授業の見取り図など
2 経営学とは	経営学の全体像
3 マーケティング①	理論編
4 マーケティング②	事例編
5 経営戦略①	理論編
6 経営戦略②	事例編
7 ビジネスシステム	理論編&事例編
8 中間レポートセッション	優秀レポートを用いた発表セッション
9 資本構造のマネジメント	理論編&事例編
10 雇用構造のマネジメント①	理論編
11 雇用構造のマネジメント②	事例編
12 人材マネジメント①	理論編
13 人材マネジメント②	事例編
14 組織構造①	理論編
15 組織構造②	事例編

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	金融論		金融論	
担 当 者	織井 啓介 Keisuke Orii		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

金融の基礎知識を平易に講義します。①金融の役割、②家計・企業の金融ニーズ、③銀行業務と金融機関の種類、④中央銀行の役割が主な内容です。近い将来社会人となる皆さんが、経済活動を営むのに不可欠な「金融」について包括的な知識が得られます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義とプリントによる簡単な演習が中心です。ノートをしっかり取り、章ごとに整理・復習しましょう。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%、②平常点50%が評価の目安です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントを予習するとともに、TV・新聞で経済ニュースに親しみましょう。

復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

藤田康範『よくわかる金融と金融理論』学陽書房、2004年。
日本銀行金融研究所『日本銀行の機能と業務』有斐閣、2011年。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	「金融論」講義の概要	講義スケジュール等を説明
2	第1章：金融の役割	直接金融と間接金融
3	第2章：家計と金融①	金利の種類と利回り計算
4	第2章：家計と金融②	株式投資の指標と投資信託
5	第3章：企業と金融	資金繰と銀行融資の役割
6	第4章：銀行業務①	預金・貸出業務
7	第4章：銀行業務②	為替・付随業務
8	第5章：金融制度①	民間金融機関
9	第5章：金融制度②	公的金融機関
10	第6章：中央銀行	日本銀行の組織と役割
11	第7章：貨幣①	現金通貨と預金通貨
12	第7章：貨幣②	貨幣の需要と供給
13	第8章：金融政策①	金融政策の概要
14	第8章：金融政策②	日本銀行の金融政策
15	「金融論」講義のまとめ	総括と補遺事項

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	簿記会計基礎		簿記会計基礎	
担 当 者	佐竹 勇子 Yuko Satake		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義は、初めて簿記を学ぶ人に簿記のしくみを理解してもらい、実務で使用されている会計ソフトを利用してコンピュータによる簿記会計の基礎知識を修得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書と配布プリントをもとに簿記の一定のルールを学習しながら、会計ソフト弥生を実習する。

■成績評価方法・基準

平常点及び課題提出（40%）・定期試験（60%）

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
復習：教科書を見直して用語を覚えてください。

■教科書

『図解でわかる簿記入門』実教出版

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法
2	簿記のしくみ	複式簿記と管理会計について
3	貸借対照表	資産・負債・資本
4	損益計算書	収益・費用
5	勘定と取引	5つの勘定と勘定科目・取引の2面性
6	伝票と会計帳簿	伝票の種類と仕訳帳・元帳
7	試算表と決算	決算整理と8桁精算表
8	仕訳～精算表	取引をもとに精算表作成まで
9	会計ソフト（弥生1）	起動と環境設定・保存方法
10	会計ソフト（弥生2）	勘定科目と補助科目の作成および修正
11	会計ソフト（弥生3）	開始残高の入力
12	会計ソフト（弥生4）	仕訳入力画面の基本操作
13	会計ソフト（弥生5）	帳簿や伝票からの入力方法
14	会計ソフト（弥生6）	集計表と会計情報の活用
15	まとめ	復習と試験対策

年度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	中小ベンチャー企業論		中小ベンチャー企業論			
担当者	川西 正己 Masami Kawanishi		対象学年	2年	単位	2

■授業のねらいと到達目標

昨今では、企業全体の7割が赤字経営であり、しかも、勝ち組といわれる企業は、全体の1割程度という厳しい市場環境・経営環境にある。新規創業にあっても、創業後3年以内には半数が消滅し、10年後には2割程度しか存続していないという「多産多死」の状況にある。そのような前提に立って、学生自身が起業する、あるいは会社内に新規事業を立ち上げる（社内ベンチャー）という場合において、勝ち残れるだけの「力相応に勝てる場と勝ち残れる条件」を備えた経営法について学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

「大きな会社」と「小さな会社」の経営法はまるで別物であるということを認識しながら、起業の準備段階から「事業計画書」（マーケティングプラン、マネジメントプラン）の作成までを、段階的かつ具体的に授業を進める。

■成績評価方法・基準

ケース・スタディによる定期試験の結果および授業態度、出席状況等を総合的に評価する。

■授業の予習・復習

「予習」は特に必要はない。「復習」は授業内容を復習して理解することをもって足りる。

■教科書

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

必要に応じて参考文献・関連資料のコピーを配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 経営の現場からの視点とメッセージ	「2極化の傾向」にあるデフレ不況の経営。後世の「1番企業」は不況期に創業しているという現実に注目。
2 「儲かる業種」と「儲かる人間」とは	この世に「儲かる業種」、「損する業種」のパターンはないが「儲かる人間」、「損する人間」のパターンはあるようだ。
3 「高い」とは	「自分良し、相手良し、世間良し」という「三方良しの経営」こそが本物の経営法。
4 経営の基本は「不易流行」にあり	「創業の志」を踏まえて、「時流に適應すること」および「経営の原理・原則を踏まえること」の2つの条件を同時に満たすこと。
5 消費者は商品を通じて「経営理念」を見抜く	企業も団体も人間も「必要な者は、この世に存在しえない」という。逆に、「必要あるところビジネスチャンスあり」ともいう。
6 生き残る者は「時流」に適應しえた者①	消費者が「何を基準にして商品やサービスを選択するか」は時代によって移り変わる。
7 生き残る者は「時流」に適應しえた者②	質の良い「下限商品・サービス」は消費者に強いインパクトを与える。安さは品質・サービスの劣化の言い訳にならない。
8 生き残る者は「時流」に適應しえた者③	「世のため、人のため、自分のため」というソーシャルビジネスが目指されている。
9 「経営の原理・原則」①	中小企業の経営戦略では「1点突破全面展開法」（小さくても何かで1番のものを持つこと）が原則。
10 「経営の原理・原則」②	小さくても1番になるための視点は、頭文字をとって「ODSR」の4点が切り口となる。
11 「経営の原理・原則」③	小さくても何かで1番をつくるための「地域1番商品戦略」を目指すための絞込みの方法とは。
12 商品開発のアイデア発想法	既存市場の中から差別化を図るアイデア発想法。既存の要素を合体させるアイデア発想法。
13 事業スタイルと狙うマーケット	ニッチ市場でのトップを目指すという「ニッチトップ戦略」が中小企業の基本戦略（鶏口牛後の戦略発想）。
14 起業・新事業を成功させるには	起業・新事業は「小さく産んで、大きく育てる」のが原則。事業を起こす3つの相性判断とは。
15 「事業計画書」のつくり方	「マーケティングプラン」および「マネジメントプラン」のそれぞれのプランを作成するに当たった主な留意点について。

年度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名	マーケティング		マーケティング			
担当者	黄 和秀 Kazuhide Ko		対象学年	2年	単位	2

■授業のねらいと到達目標

マーケティング論は、企業活動における最も実践的な要素を含んでおります。特に、企業経営が厳しい市況の中では、よりマーケティング的な発想が強調されます。本講義では、マーケティングの本質に充実し、マーケッターが外部市場に対する持つべき考え方や、基本的な戦略思考を主として解説していきます。本講義を通じて、学生諸君が、将来、競争社会の1人として明確な思考能力を持って、適応能力を高められることに主たる目的を有するのである。

■授業の進め方（履修条件等）

当科目が半期であることを考慮し、基本的な考え方に対する説明は可能な限り省略し、戦略的な実践能力が高められる実務的な要素を中心として講義を進めることになる。特に、履修条件は設けていないのであるが、授業を妨害するような学生がいるとすれば、厳しく対応していく。

■成績評価方法・基準

試験70%、出席30%ただし、出席が50%に満たない学生は評価しない。

■授業の予習・復習

特に、予習や復習はありませんが、ノートをしっかり整理していくことと、その内容を応用的に理解することが重要である。

■教科書

特に指定なし。

■参考文献

特に指定なし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 第1課	マーケティングの定義
2 第2課	マーケティング・コンセプト
3 第3課	マーケティング環境
4 第4課	市場細分化
5 第5課	製品戦略
6 第6課	製品戦略
7 第7課	製品戦略
8 第8課	価格戦略
9 第9課	価格戦略
10 第10課	価格戦略
11 第11課	プロモーション戦略
12 第12課	プロモーション戦略
13 第13課	プロモーション戦略
14 第14課	チャネル戦略
15 第15課	チャネル戦略

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	マーケティングリサーチ I		社会調査のためのデータ解析	
担 当 者	中嶋 励子 Reiko Nakajima		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、社会調査で収集されるデータの分析方法を、社会科学統計パッケージソフト (SPSS) を用いて学ぶことです。到達目標は、授業で扱うデータを用いて、自分達で、単純集計、クロス集計 (χ^2 検定を含む)、相関係数などの分析が行えるようになること、それぞれの分析に適切なグラフを示すことができるようになること、分析の結果について適切な解釈とレポートにまとめる力をつけることです。

■授業の進め方 (履修条件等)

履修条件は特にありませんが、パソコンによる基本操作 (エクセル、ワードなど) はできるようにしておいてください。統計用語の知識は、授業の中で適宜説明していきますので、特に必要ありません。

■成績評価方法・基準

平常点 (小課題レポートを含む) 40%
最終レポート 60%

■授業の予習・復習

予習: 特に必要はありません。
復習: 毎回の授業で得られる知識を確実に身につけるために、自習時間を利用して、授業内容や課題について理解し、分析や解釈を身につけるようにしてください。特に、授業内に提出する課題については、講師のコメントや解説をよく見聞きし、十分に復習しておくこと。

■教科書

『読む統計学 使う統計学』広田すみれ著
慶應義塾大学出版会 2005年

■参考文献

『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』小塩真司著
東京図書 2004年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業のねらいと到達目標、評価方法など
2 データ入力・編集	エクセルでのデータ入力、統計ソフト SPSS用 (sav.) 変換
3 データの変換と尺度	質的・量的変数、尺度の種類
4 分析のための基礎統計用語	データ分析を行うための基礎的な統計用語の説明
5 データの単純集計	データの単純集計表の作成と見方の説明
6 単純集計のまとめ方	変数の種類などに適したグラフの作成の仕方
7 基本統計量	度数分布に関する基本統計量
8 クロス集計 (2 変数)	質的データ 2 変数のクロス集計表の作成とその解釈
9 χ^2 検定	χ^2 検定とその解釈
10 クロス集計 (3 変数)	質的データ 3 変数のクロス集計表の作成とその解釈
11 相関係数	散布図、相関係数、はずれ値、疑似相関
12 平均値の検定	t 検定
13 複数回答のデータ	複数回答の集計表の作成と解釈
14 新しい変数の作成、ケース選択	複数カテゴリのまとめ方、必要なケースの選択
15 データ分析のまとめ	データ分析を適切にまとめる方法

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	世界の食と農	世界の食と農 (旧 世界の農業)	世界の農業	
担 当 者	原山 浩介 Kosuke Harayama		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義は、食と農業をめぐって、広い視野の下でその問題点と可能性を探っていく。日本および世界の農業の現状を、世界政治・経済の動向との関連から読み解くとともに、「食の安全」や農村の過疎化、都市と農村の経済格差といった、今日的なトピックスにも目配りしつつ、それが世界の政治・経済の潮流とどう絡むのかを見ていく。

■授業の進め方 (履修条件等)

概論的な講義の中に、適宜、具体的な事例やニュース、あるいはマンガなどを織り込み、多角的に食と農業が見えるような講義にしたいと考えている。受講生には、農業や食に興味を持ちながら講義に参加してほしい。

■成績評価方法・基準

提出物とレポートによって評価を行う

■授業の予習・復習

予習: 特になし。
復習: 各回の講義内容に関する新聞記事や書籍を探し、情報収集に努め、知識の定着を図ること。

■教科書

池上甲一・原山浩介編『食と農のいま』ナカニシヤ出版、2011

■参考文献

随時指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の方針と、進め方に関する説明。
2 原発事故と農業	事故の推移に即して、農業と食の観点から原子力災害を考える。
3 ファストフードとグローバルイゼーション	ファストフードの世界への浸透とその問題点
4 食品の安全性	食の安全に関わる身近な制度と諸問題
5 世界の食料市場	穀物メジャーとGMOをキーワードに考える
6 バイオ燃料	新たな農産物需要の現状と問題点
7 移民と農業労働 1	植民地支配と開拓・入植の歴史
8 移民と農業労働 2	今日の移民労働力と農業の関係
9 農地と水の奪い合い	グローバルに展開する農地の農業用水をめぐる攻防を起点に、世界の食料需給を考える
10 中国の農村・農民	社会主義体制から市場経済化までの流れのなかに置かれる農業、ならびに農民差別の構造を考える
11 国民経済とグローバルイゼーション	日本をモデルに食と農をめぐる政府の役割とその限界を考える
12 農業問題と有機農業	農業の近代化の弊害と、これを克服しようとする試みとして考える
13 食のローカライゼーション	地産地消・スローフードなど、日本の内外の取り組みを概観する
14 農業の担い手	農業から離れる人、農業に飛び込む人、「儲かる農業」の可能性と問題を考える
15 まとめ	講義の総括をする

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	環境科学	環境科学	環境科学	環境科学
担 当 者	中村 圭三 Keizo Nakamura		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

今日、地球環境は急激に変化しつつある。我々の豊かな生活を育んできた美しい地球は、この先一体どうなるのだろうか。本講義では、実際の研究事例を通して、環境を科学するための基礎力を養成する。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に各週の授業内容に関する基礎事項をテキストの「基礎技法」で学習する。その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開する。

■成績評価方法・基準

授業態度と、定期試験で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストの「基礎技法」を学習しておくこと。
 復習：学習した授業内容に関連する環境問題に関心を持って生活すること。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	環境科学概説
2	環境と気象・気候（1）	山の気象・気候
3	環境と気象・気候（2）	海岸の気象・気候
4	環境と気象・気候（3）	平地の気象・気候
5	環境と気象・気候（4）	都市の気候
6	気候と生物	生物季節
7	地球温暖化（1）	地球温暖化の発生原因
8	地球温暖化（2）	地球温暖化の影響と対策
9	オゾン層の破壊	オゾン層の破壊と対策
10	酸性雨（1）	酸性雨の発生原因
11	酸性雨（2）	酸性雨の現状
12	酸性雨（3）	酸性雨の影響と対策
13	生活と環境（1）	水質
14	生活と環境（2）	水の利用
15	まとめ	総括

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	生物と環境		生物と環境	生きものと私達のくらし
担 当 者	工藤 佳菜子 Kanako kudoh		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

46億年という長い歴史の中で、地球には多様な生命が誕生した。地球上の生き物たちは、様々な環境で複雑に関わり合いながら生きている。人間活動が生態系の平衡をみだし、短時間で地球全体の環境を変化させていく問題に目を向け、生物と生物の関係、生物と環境の関係から自然の中での人間のあり方を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

授業ではパワーポイントやVTRを用いる。2／3以上出席していない場合は、定期試験受験資格はありません。

■成績評価方法・基準

毎回の授業態度（35%）、提出物・レポート（30%）、定期試験（35%）により評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に指定はしないが、授業中に課題を課すことがある。
 復習：毎回講義ノートを整理すること。

■教科書

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、講義概要
2	地球と生命の歴史-1	地球・生命の誕生
3	地球と生命の歴史-2	生物の絶滅と進化
4	地球と生命の歴史-3	大陸移動と生物、気候変動
5	生態系-1	無機的環境・食物連鎖・生物濃縮
6	生態系-2	水環境、湖の生態系
7	生物多様性-1	種の多様性・生態系サービス
8	生物多様性-2	干潟の生態系と役割・ラムサール条約
9	生物多様性-3	マングローブ林、森林の生態系
10	生物多様性の保全-1	在来種・外来種
11	生物多様性の保全-2	絶滅危惧種・ワシントン条約
12	生物多様性の保全-3	野生動物の現状と保護、世界遺産
13	自然環境と人間-1	ビオトープ・学校教育における実践例
14	自然環境と人間-2	河川環境の整備と保全、土砂災害
15	まとめ	宇宙船地球号、私たちにできること

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	アグリ・フードサイエンス		アグリサイエンス&ビジネス	
担 当 者	平井・八島・鈴木		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日々の生活の中で我々が食している農産物および加工食品の特性、生理機能、製造・開発、衛生管理などに関する知識の習得を通じて、食品ビジネスにおいて重要な、食の安全・安心の問題や、食品の製造・開発等について自ら考える力を習得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。

■成績評価方法・基準

学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50:30:20の割合で総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。

復習：講義時間内に指示する。

■教科書

オリジナルプリントを配付する。
参考図書は講義時間内に適宜紹介する。

■参考文献

なし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	アグリ・フードサイエンス概要	講義内容、講義の進め方など（平井）
2	食品材料とビジネス1	肉・卵（平井）
3	食品材料とビジネス2	穀類（江頭）
4	地球環境とビジネス1	アグリカルチャーの経済効果（八島）
5	食品の科学と生理機能1	アミノ酸（江頭）
6	食品材料とビジネス3	乳製品（平井）
7	地球環境とビジネス2	排出権取引ビジネス（八島）
8	食品の科学と生理機能2	脂質（平井）
9	食品の科学と生理機能3	ビタミン（江頭）
10	地球環境とビジネス3	水質汚染浄化ビジネス（八島）
11	地球環境とビジネス4	汚染土壌浄化ビジネス（八島）
12	加工食品と食品開発1	食品添加物概論（江頭）
13	加工食品と食品開発2	食品添加物各論（平井）
14	地球環境とビジネス5	緑化ビジネス（八島）
15	加工食品と食品開発3	栄養機能食品（平井）

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	環境と農業		環境と農業	
担 当 者	梅田 克樹 Katsuki Umeda		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

野菜のフードシステムは、かつて狭い地域内で完結していたのが、1980年代以降は急速なグローバル化を遂げた。グローバル化によって野菜産地がどのように変化したのかを、多角的視点から検証する。地域の自然環境や、地域をとりまく人文・社会環境が、地域農業のあり方とどのように関係しているのかを理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

適宜プリントを配付するほか、映像教材を使用することがある。

■成績評価方法・基準

平常点（出席や受講態度）50%と、定期試験50%によって判定する。

■授業の予習・復習

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

高柳長直『フードシステムの空間構造論』筑波書房
Erik Millstone・Tim Lang『食糧の世界地図』丸善

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	野菜生産の位置付け	日本農業に占める野菜生産の変化
2	野菜流通のグローバル化1	野菜輸入の量的・質的变化
3	野菜流通のグローバル化2	韓国における日本向けトマト輸出産地の成立と変容
4	野菜流通のグローバル化3	中国沿海部における冷凍野菜産地の展開
5	野菜流通のグローバル化4	日本商社による野菜の開発輸入
6	国内野菜流通の変容1	日本国内における生鮮野菜流通の外延的拡大
7	国内野菜流通の変容2	北海道における地熱利用型施設トマト産地の展開
8	国内野菜流通の変容3	国内かぼちゃ産地地域の二極化とその要因
9	国内野菜流通の変容4	千葉県における施設園芸産地の地理的拡大
10	国内野菜流通の変容5	施設園芸産地において農村社会システムが果たす役割
11	野菜フードシステムの変貌1	卸売市場流通の歴史と市場外流通の急増
12	野菜フードシステムの変貌2	小売業界の寡占化によるBuying Powerの遷移
13	野菜フードシステムの変貌3	外食業界におけるM&Aの急増とその影響
14	野菜フードシステムの変貌4	有機農産物市場の拡大とその要因
15	野菜流通の展望	あるべき野菜フードシステムの姿をめざして

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	大気・水環境論	大気・水環境論	大気・水環境論			
担 当 者	中村 圭三 Keizo Nakamura		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義では、都市域における大気環境および水環境について、理論と測定法を講義する。特に、都市の大気環境に関しては、本学周辺における『ヒートアイランド』についての観測を実施し、講義内容を体験させる。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に各週の授業内容に関する基礎事項について説明し、その上で、調査事例を中心とした授業内容を展開する。

■成績評価方法・基準

授業態度と定期試験で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：テキストの「基礎技法」を学習しておくこと。
復習：学習した授業内容に関連する環境問題に関心を持って生活すること。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	大気・水環境論概説
2 都市の大気環境(1)	都市の大気環境の成り立ち
3 都市の大気環境(2)	大気環境観測法
4 都市の大気環境(3)	ヒートアイランド 観測
5 都市の大気環境(4)	都市大気環境図の作成(1)
6 都市の大気環境(5)	都市大気環境図の作成(2)
7 都市の大気環境(6)	都市大気環境図の作成(3)
8 山岳と海洋	長野の山岳気候とオホーツク海の海水
9 水環境(1)	都市の水環境
10 水環境(2)	雨水の利用
11 水環境(3)	河川の汚染
12 水環境(4)	湖沼の汚染
13 水環境(5)	地下水の汚染
14 水環境(6)	水の汚染と環境問題
15 まとめ	総括

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	環境資源エネルギー論		資源エネルギー論			
担 当 者	松本 太 Futoshi Matsumoto		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現代の大量生産、消費が地球温暖化など環境問題の原因となる一方、石油、石炭などの化石エネルギーの枯渇が懸念されます。この講義ではこれらの対策としてクリーンエネルギーの有効性や、省資源やリサイクルなどの可能性について考えつつ、持続可能な社会の実現のために何が出来るかを講義します。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件等は特にありません。授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがあります。進行状況により授業内容が変更になることがあります。

■成績評価方法・基準

レポート、試験、学習意欲、授業態度により、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習、復習は特に必要ありませんが、宿題を出すことがあります。

■教科書

テキストは使用しません。

■参考文献

特にありません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義全体の内容やすめ方について概説
2 世界のエネルギー需給	世界のエネルギー消費の現状や資源の有限性について講義
3 日本のエネルギー問題	日本のエネルギー消費と抱える問題について講義
4 地球規模の環境問題①	地球規模の森林破壊や砂漠化について講義
5 地球規模の環境問題②	地球規模の酸性雨やオゾン層の破壊について講義
6 地球規模の環境問題③	地球規模の生態系の変化や食料資源について講義
7 地球温暖化とその影響	地球温暖化のメカニズムや、人間や生態系に及ぼす影響について講義
8 地球温暖化への国際的な取り組み	地球温暖化防止のための温室効果ガス削減などについて講義
9 自然(クリーン)エネルギー	風力発電、太陽光発電など環境負荷の少ないエネルギーについて講義
10 エネルギーの有効利用	省エネルギーやコージェネレーションなどについて講義
11 高効率エネルギーの技術開発と普及	高効率なエネルギー供給(給湯器や燃料電池等)について講義
12 ゴミ問題とリサイクル	国内外におけるゴミ問題やリサイクルの有効性について講義
13 環境マネジメントの必要性	省資源やリサイクルのための環境マネジメントの必要性について講義
14 地域的な省資源への取り組み	自治体や家庭などでの身近な省資源の取り組みについて講義
15 低炭素社会の実現に向けて	エネルギー論から見た持続可能な社会の実現の可能性について講義

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	地図学					
担 当 者	松尾 宏 Hiroshi Matsuo		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

地域調査に欠かせない地図学の基本について学習する。本講義では、地図学を系統的に学び、今後の調査・研究に活用するための基礎力を養成する。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に各週の授業内容に関する基礎事項を学習する。授業の中では、できるだけ作業を取り入れ、学生参加型の授業内容を展開する。

■成績評価方法・基準

課題整理と期末テストなどを総合して成績を評価する。

■授業の予習・復習

各回講義の整理と地図に関する情報収集（生活や街中の地図情報など）を行う。

■教科書

「地形図の手引き（五訂版）」日本地図センター 2005年

■参考文献

「地図を学ぶ」菊地俊夫・岩田修二 二宮書店 2005年

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	地図の概念	地図、地図表現のいろいろ
2	地図の歴史	世界と日本の地図の歴史
3	地図投影法と座標系	地図の作成と地球、方位、位置
4	地形図Ⅰ（縮尺と投影法）	地形図の縮尺と地形図の作成
5	地形図Ⅱ（図式と記号）	地形図の図式変化、地図記号と読図
6	地形図を読むⅠ（等高線）	地形図の読図…等高線、平野、山岳地
7	地形図を読むⅡ（地形）	地形図の読図…地形を読む、知る
8	地形図を読むⅢ（土地利用）	地形図の読図…土地利用と地域性を読む
9	地形分類図	地形分類の方法と作成
10	自然条件を対象とした主題図	地形、地質、気候などの主題図と自然の状況を探る
11	人文条件を対象とした主題図	都市、人口、産業、交通などの主題図と人文条件を探る
12	メッシュマップ	メッシュマップについて、メッシュマップのいろいろ
13	統計地図	統計地図のいろいろと作成
14	地図の利用	市販地図、インターネット地図情報の活用
15	まとめ	地図の応用、野外調査

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	日本地誌	日本地誌	【教職科目】日本地誌			
担 当 者	戸田 真夏 Manatsu Toda		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本の人々が生活する地域・風土・環境の基本的な地理的特徴について学びます。各地域に広がる景観について講義し、地域にある特徴の見方・捉え方を学びます。対象として日本を取り扱うが、環境と人間活動の関わりについて理解するとともに、世界と日本の地理的関わり・位置づけについても理解することを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

PowerPoint（パワーポイント）を使用して講義を行います。

■成績評価方法・基準

レポートで評価を行います。出席および授業の取り組みも重視します。

■授業の予習・復習

普段から日本の各地域について関心を持ち、新聞・インターネット・テレビ等から様々な地域情報を得ることを心掛けること。

■教科書

教科書は特に指定しませんが、地図帳を持参して下さい。

■参考文献

必要に応じて、授業内に適宜紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	講義予定内容の紹介と地理学、地誌学の説明
2	日本の領土・領域	日本の地域区分について
3	日本の風土と環境	湿潤変動帯
4	日本の自然観	日本人と自然環境について
5	日本の自然と人間活動	日本の自然と人々の関わり合いについて
6	平野・台地の人々の生活	平野・台地の地形と土地利用について
7	山地の人々の生活	中央高地の地形と生活
8	川・海の水と産業	三陸の自然環境と生活
9	都市の人間活動	都市部の生活
10	地域の環境と開発	秘境黒部 観光ルートと電源開発
11	地域と産業	水をめぐる産業立地
12	地域と観光	観光地の明と暗
13	風土と食	名物にうまいもの・・・
14	交通	機上から見た日本
15	房総の地方誌	地質と水と生活

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	自然地理学		【教職科目】自然地理学	
担 当 者	谷地 隆 Takashi Yachi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

21世紀は環境の世紀と言われています。地形・気候・生物などの地球上の自然環境に関わる基礎的な知識を理解した上で、種々の環境問題や自然保護を地域から地球規模までのスケール別の視点で考察していきます。これらを理解する上では、まずは自然地理学の基本的理解にあります。自然地理学を学習することにより周囲の自然環境が身近になります。

■授業の進め方（履修条件等）

最初に自然地理学に関する基礎的な知識を習得します。ビジュアルなどの映像を用いて、地形・気候・水環境などを紹介し、自然地理学を多面的・立体的に理解できるようにします。毎時間の講義が、バーチャルラベルが体験でき、海外旅行において不可欠な知識・教養が身につくような講義を行います。

■成績評価方法・基準

積極的な授業参加、レポートなどにより評価します。

■授業の予習・復習

平素から自然地理・自然環境に関心を持ち、新聞・テレビなどのマスメディアから情報を得ておくのも有効な参考書となりますので、これらを通して予備知識を得ておくことが授業をより一層理解が深まります。

■教科書

特に指定しませんが、授業毎にプリントを配布します。地図帳を持参して下さい。

■参考文献

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	自己紹介、講義の概要、受講方法、成績評価など
2 大地形	地球のすがた、プレート
3 小地形 1	山地、火山
4 小地形 2	平野、海岸
5 気候 1	気温、風、降水量
6 気候 2	世界の気候区分
7 気候 3	植生、土壌
8 水環境	陸水と海洋
9 自然・環境保護 1	自然災害
10 自然・環境保護 2	環境問題（地球温暖化・森林破壊）
11 自然・環境保護 3	環境問題（酸性雨・砂漠化・オゾンホール）
12 自然・環境保護 4	生態系・生物多様性
13 世界自然遺産 1	世界の自然遺産
14 世界自然遺産 2	日本の自然遺産
15 まとめ	総整理・疑問点の解明

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	情報概論	情報概論	コンピュータ概論	コンピュータ概論
担 当 者	高橋 和子 Kazuko Takahashi		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現代社会に不可欠なコンピュータやコンピュータネットワークシステム、さらにはインターネット上で、情報がどのように扱われ、処理されるのかについて解説します。到達目標は、高度情報社会に対応できる基本的な情報知識を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありませんが、日頃からIT関連のニュースに注意するようにしてください。

復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。

■教科書

『コンピュータと情報システム』草雄信照著 サイエンス社 2007年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 コンピュータの基礎知識	コンピュータの歴史、種類、基本構成
2 情報とデータ	情報の単位、補助単位、論理演算
3 ハードウェア（1）	中央処理装置
4 ハードウェア（2）	周辺処理装置、インタフェース
5 ソフトウェア（1）	OS、アプリケーション
6 ソフトウェア（2）	プログラム言語
7 情報の表現（1）	数値情報、2進数と10進数の相互変換
8 情報の表現（2）	数値情報の演算、テキスト情報
9 情報の表現（3）	画像情報、音声情報、情報圧縮と解凍方法
10 コンピュータネットワークシステム	LAN、WAN、通信回線
11 インターネット（1）	インターネットのしくみと利用方法
12 インターネット（2）	インターネットにおけるセキュリティ
13 情報倫理	情報倫理
14 ITにおける現在の動向（1）	クラウドコンピューティングなど
15 ITにおける現在の動向（2）	教育におけるIT利用など

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	プログラミング言語		情報処理Ⅳ (C言語)	
担 当 者	井手 雅哉 Masaya Ide		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

プログラミングの入門編と位置づけ、道具立てや作業の流れの把握から説き起こし、変数の形式や基本的な命令文の理解、それらを組み合わせて簡単な内容の処理を実現に取り組んでいく。これらの作業を通じて筋道だった思考力を身につけてほしい。

■授業の進め方 (履修条件等)

C++というプログラミング言語を用い、例題について作業を進めることで要点をつかみ、その後の練習問題を通じて定着を試みる。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題 (60%)・取組姿勢 (40%)

■授業の予習・復習

復習：関連書籍が多数出版されているので、それらを用いて同様な問題に取り組んでみる。

■教科書

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

■参考文献

M.T.Skinner著/春木良且訳、『C++基礎講座』、インプレス、1994.2.1.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容・進め方・評価に関する説明
2	プログラミングの概要	作業環境の整備、ソースファイルの形式、作業の流れ
3	C++の基本的な事項	文字セット、識別子、キーワード
4	変数の種別	実数、整数、文字列など
5	入力と出力	キーボード入力、画面出力、ファイルへの入出力
6	練習問題 1	3～5の復習
7	繰り返し文 1	for文
8	繰り返し文 2	while文
9	関数	複数処理のパッケージ化
10	練習問題 2	7～9の復習
11	条件文 1	if文
12	条件文 2	switch文
13	配列とポインタ	変数の連携的利用
14	練習問題 3	11～13の復習
15	まとめ	練習問題の解答例

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	アルゴリズム論 I		アルゴリズム論 I	
担 当 者	高橋 和子 Kazuko Takahashi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、コンピュータによる問題解決法であるアルゴリズムの基本的な手法について解説することです。また、アルゴリズムと深い関係をもつデータ構造についても解説します。到達目標は、これらの知識を得ることで、論理的な思考法を身につけることです。

■授業の進め方 (履修条件等)

基本的には教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。理解を確実にするために、毎回、授業の途中でクイズ (小テスト) を2～3問出して平常点とします。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト (毎回) 40%
定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要なし
復習：人間にとって慣れ親しんでいる問題解決法と全く異なる手順が多く、最初とはまどいがあると思う。授業中および復習をよくして新しい考え方の理解に努めること。

■教科書

『アルゴリズムとデータ構造』 藤原暁宏著 森北出版 2006年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	アルゴリズムとデータ構造	アルゴリズムとは、データ構造とは
2	アルゴリズムの表現方法	記述表現、図的表現 (フローチャート、PADなど)
3	データ構造 (1)	配列、連結リスト
4	データ構造 (2)	スタック、キュー
5	データ構造 (3)	木構造、グラフ構造
6	基本的な探索アルゴリズム (1)	線形探索
7	基本的な探索アルゴリズム (2)	2分探索法
8	高速な探索アルゴリズム (1)	ハッシュ法 (ハッシュ関数、ハッシュ表)
9	高速な探索アルゴリズム (2)	ハッシュ法 (コンフリクトの解決法)
10	探索アルゴリズムの比較	探索アルゴリズムの性能比較
11	基本的なソートアルゴリズム (1)	選択ソート
12	基本的なソートアルゴリズム (2)	挿入ソート
13	基本的なソートアルゴリズム (3)	バブルソート
14	基本的なソートアルゴリズムの比較	基本的なソートアルゴリズムの性能比較
15	総括	アルゴリズムの基本とデータ構造のまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	システム設計論 I		システム設計論 I	
担 当 者	高橋 和子 Kazuko Takahashi		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、企業をはじめ官庁や教育機関など社会のあらゆる場で運用されている情報システムの設計を行う上で必要な基礎的知識を解説することです。到達目標は、これらの知識を身につけることで、将来、担当するであろうどのような業務に対しても、高度な情報技術を活用できる能力を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的に教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありませんが、日頃から情報システムに関連するニュースに注意してください。

復習：専門用語が多いので、授業中によく理解し、復習に努めるようにしてください。

■教科書

『ソフトウェア開発の基本』 谷口功著 秀和システム 2011年

■参考文献

『情報システム基礎』 神沼靖子著 オーム社 2006年

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	情報システムとは	情報システムとコンピュータ、情報システムの形態
2	情報システムの事例(1)	社会基盤としての情報システム、生活基盤としての情報システム
3	情報システムの事例(2)	行政と情報システム、ビジネス戦略と情報システム
4	システム開発の工程	システムのライフサイクルと開発モデル
5	システム開発(1)	開発計画、工数の見積り
6	システム開発(2)	要求分析と要求定義
7	システム開発(3)	外部設計
8	システム開発(4)	ファイル設計
9	システム開発(5)	内部設計
10	システム開発(6)	プログラム設計
11	システム開発(7)	単体テスト、結合テスト、システムテスト
12	システム開発(8)	システムの運用管理と評価指標
13	データベース設計	概念設計、論理設計、物理設計
14	オブジェクト指向によるシステム設計	オブジェクト指向とは
15	開発環境と開発ツール	統合開発環境、CASEツール、コンポーネントウェア

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	アルゴリズム論 II		アルゴリズム論 II	
担 当 者	高橋 和子 Kazuko Takahashi		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、「アルゴリズム論 I」で学んだ基本的なアルゴリズムより高度なアルゴリズムについて解説することです。到達目標は、アルゴリズムについてより深い知識を得ることで、プログラミング能力と論理的な思考法を高めることです。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には教科書にしたがって講義を進め、不足する部分は配布プリントで補います。理解を確実にするために、毎回、授業の途中でクイズ（小テスト）を2～3問出して平常点とします。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要なし

復習：復習をよく行って、新しい考え方の理解に努めること。

■教科書

『アルゴリズムとデータ構造』 藤原暁宏著 森北出版 2006年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	基本的な探索アルゴリズム	線形探索、2分探索
2	高速な探索アルゴリズム	ハッシュ法
3	基本的なソートアルゴリズム	選択ソート、挿入ソート、バブルソート
4	高速なソートアルゴリズム(1)	クイックソート
5	高速なソートアルゴリズム(2)	マージソート
6	高速なソートアルゴリズム(3)	ヒープソート
7	アルゴリズムの設計手法(1)	分割統治法
8	アルゴリズムの設計手法(2)	グリーディ法
9	アルゴリズムの設計手法(3)	バックトラック法、分枝限定法
10	グラフアルゴリズム	最短経路問題
11	文字列照合アルゴリズム(1)	単純文字列照合
12	文字列照合アルゴリズム(2)	ポイヤール・ムーア法A
13	文字列照合アルゴリズム(3)	ポイヤール・ムーア法B
14	アルゴリズムの限界	問題のクラス、解くことのできない問題
15	総括	アルゴリズムの総まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英語学概論	英語学概論	英語学概論	
担 当 者	伊藤 礼子 Reiko Ito		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「英語」を客観的に分析し、「英語」の知識を深めることを目的とします。もっとも小さい単位である「音」の分類、「語」の内部構造、「文」の構造と分析方法、そして実際の英語使用について具体例を通して学びます。また英語がどのように発達し、世界の中でどのように使用されているのかも理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には講義形式で進めますが、言語を科学的に分析することを学ぶため、授業に対する積極的な参加が必要です。毎回の課題提出も求められます。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）と課題の提出（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

新出事項は必ず復習してください。

■教科書

石黒昭博他著 「現代の英語学」 金星堂

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業の展望	英語学を学ぶ意義
2 世界の中の英語	世界における英語使用状況（BBCビデオ）
3 音声学	英語音の分類
4 音韻論 1	音素と異音
5 音韻論 2	音の強勢と連結
6 形態論 1	形態素と異形態
7 形態論 2	語形成
8 統語論 1	科学的伝統文法とアメリカ構造主義
9 統語論 2	生成文法 ①句構造規則
10 統語論 3	生成文法 ②樹形図
11 意味論	意味役割・成分分析
12 語用論	発話行為
13 英語の歴史 1	インド・ヨーロッパ祖語と古英語
14 英語の歴史 2	中英語と近代英語
15 英語の歴史 3	英国英語とアメリカ英語・これからの英語

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英文法	英文法	英文法	英文法
担 当 者	大山 中勝 Nakakatsu Ohyama		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

題材は国際情報関連の英文であり、その内容を英文法に注目しながら学習できるように練習する。さらにそれぞれのテーマについてディスカッションをし、総合英語能力を養成することを主眼に講義を進める予定である。受講生には文法力を客観的に測定する手段としてのTOEIC IP（TOEIC Institutional Program）を利用し、この授業履修中に具体的な学習目標の設定ができるようにすることも重要なことである。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業は受講対象者の興味ある分野について焦点を絞り、国際情報関連の英文を文法力を生かしながら興味あるテーマについて自分で調査し、その内容についてプレゼンテーション能力の向上も目標とする。その結果TOEICの得点も上げることができるようになる。また、インターネットやビデオなどを利用する予定である。

■成績評価方法・基準

出席、積極的な参加、宿題、テストを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：必ず予習して授業に参加すること。
復習：復習の結果を小テストで確認します。

■教科書

プリントを使用する。
TOEIC IP（TOEIC Institutional Program）を利用し、この授業履修中に具体的な学習目標の設定ができるようにするし、可能であれば模擬試験を実施する予定です。

■参考文献

TOEIC IP（TOEIC Institutional Program）関連の参考書を自分にあうものを購入すること。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 動詞の基礎	動詞についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
2 動詞の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
3 準動詞の基礎	準動詞についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
4 準動詞の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
5 仮定法の基礎	仮定法についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
6 仮定法の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
7 複文の基礎	複文についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
8 複文の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
9 重文の基礎	重文についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
10 重文の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
11 時制の基礎	時制についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
12 時制の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
13 名詞句の基礎	名詞句についての基礎。この文法項目について簡潔に説明し、基礎的な問題を解きながら基礎力を養成する。
14 名詞句の応用問題の分析	この具体的な文法項目の資格試験を解きながら実践力を養成する。
15 試験	試験を実施する。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英語史	英語史	英語史	
担 当 者	新堀 司 Tsukasa Niibori		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいはイギリスの歴史・文化を学びながら、英語という言葉に関する理解を深めることである。到達目標は英語の歴史（古英語期、中英語期、近代英語期、現代英語期）に関する基礎的な知識を身につけることである。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を用いて解説を行い、その後問題演習（提出）を実施する。問題演習の内容はその都度指示する。なお、必要に応じてプリントを配布する。

■成績評価方法・基準

提出物（問題演習、35%）、学期末の試験の結果（65%）による総合的評価。

■授業の予習・復習

予習：指定した教科書の部分を読んでくること。
復習：必要に応じて指示。

■教科書

中尾俊夫・寺島逸子、『図説 英語史入門』、大修館書店。

■参考文献

授業中に指示。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業内容などの説明
2	英語の始まりー古英語期①	時代背景、方言、借入語
3	英語の始まりー古英語期②	アルファベット、発音
4	英語の始まりー古英語期③	古英語の語形など
5	中英語期①	時代背景、方言、借入語
6	中英語期②	チョーサーの英語、発音
7	中英語期③	中英語の語形など
8	近代英語期①	時代背景、借入語
9	近代英語期②	シェークスピアの英語など
10	近代英語期③	アメリカ英語、発音など
11	19世紀から現代英語期へ①	時代背景、借入語
12	19世紀から現代英語期へ②	意味の変化、語形成
13	主な文法的発達①	否定文など
14	主な文法的発達②	完了形など
15	まとめ	授業内容の総まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英語の音声	英語の音声	英語の音声	英語の音声
担 当 者	柳原 由美子 Yumiko Yanagihara		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

英語の音声についての基礎的な知識を学ぶことを目的とします。日本語の音声との比較を考慮しながら、特に英語教育への実践的応用ができるようにすることも目的とします。英語の発音、および聞き取りに関する実際の練習も重点的に行います。

■授業の進め方（履修条件等）

基礎的な知識に関しては、教科書に沿って授業を進めていきます。したがって、履修者は必ず教科書を購入してください。

■成績評価方法・基準

- 1) 筆記試験（中間・期末） 80%
- 2) 英語の音声に関する英語文献の読解とプレゼンテーション、または発音記号の読解 20%

■授業の予習・復習

予習：次回の授業予告があった単元を読んでおくこと
復習：毎回配布されるレジュメのタイトルの下に書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

佐藤 寧/佐藤 努 著 『現代の英語音声学』 金星堂

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	1) クラス・オリエンテーション 2) 音声学とは？	1) 授業の進め方・評価、プレゼンテーションなど 2) なぜ音声学が必要か、音声学の3分野など
2	発生のメカニズム	発音器官の名称と場所、発声過程など
3	音声表記	RPとGAの相違、IPAとは何か、精密表記と簡略表記
4	母音の調音 1	母音の特徴と分類の仕方、母音の音声記号を用いての表記
5	母音の調音 2	母音の正しい発音練習とその聞き分け
6	子音の調音 1	子音の特徴と分類の仕方、子音の音声記号を用いての表記
7	子音の調音 2	子音の正しい発音練習とその聞き分け
8	子音の調音 3	子音表の作成
9	中間試験	試験の解説（復習）
10	音節	音節の切れ目のルール、音節に分ける、音節構造
11	語強勢	語強勢の生成と知覚、強勢の有無と音節、強勢と品詞
12	イントネーション	ピッチとイントネーション、音調句、音調核、核音調
13	音変化 1	音の短縮、音の消失、発音と聞き取り練習
14	音変化 2	音の脱落、音の連結、発音と聞き取り練習
15	音変化 3	音の同化、音の弱化、発音と聞き取り練習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	実践英語Ⅱ		実践英語Ⅱ	
担 当 者	George Whalley		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

This is an elective English course. It is designed for students with an interest in improving their health, fitness and basketball skills through the medium of English. Each class will be divided into a physical activity part and a classroom part. Students will go through a variety of physical activities and learn about healthy lifestyles each class. It is open to both female and male students.

■授業の進め方（履修条件等）

Students must wear clothing appropriate for physical activity, including clean sports shoes to each class.

■成績評価方法・基準

Grading will be equally based on the participation and effort in the activity part of class and a report based on material covered in the classroom.

■授業の予習・復習

The instructor will provide all materials.

■教科書

There is no book for this class.

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	Introduction	Ten Things About This Class, Survey
2	Gym + Living to 100	Core Training + Aging Factors
3	Gym + Cancer Prevention	Stretching + Reducing your cancer risk
4	Gym + Smoking	Aerobic activity + Tobacco Facts
5	Gym + Passive Smoking	Aerobic Activity (jump rope) + Effects of passive smoking
6	Gym + Exercise	Strength Training + The Benefits of Exercise
7	Gym + Exercising the Brain	Strength Training + Increasing Brain Power
8	Gym + Food	Speed Training + Movie (Supersize Me)
9	Gym + Food	Quickness Training + Movie (Supersize Me)
10	Gym + Super Foods	Endurance + 8 Super foods
11	Gym + Alcohol	Endurance + Dangers of Alcohol
12	Gym + Stress	Yoga + Fighting Stress
13	Gym + Obesity	Relays + Dieting
14	Gym + Healthy Teeth	1 on 1 basketball + Good oral hygiene habits
15	Presentations	Student Report Presentations

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英語学特講Ⅰ		英語学特講Ⅰ	
担 当 者	伊藤 礼子 Reiko Ito		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現代英語に対する認識を深めるために、英語文法の変化を考察します。現代英語の発音や綴り字、語彙、名詞、動詞、語順、否定文、疑問文、動名詞の成り立ちや変化を理解し、英語の「不思議」を説明します。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には講義形式で進めますが、授業に対する積極的な参加と毎回の課題提出が求められます。「英語学概論」、「英語の音声」、「英語史」を履修していることを望みます。

■成績評価方法・基準

期末試験（60%）と課題の提出（40%）で評価します。

■授業の予習・復習

新出事項は必ず復習してください。

■教科書

家入葉子著 『ベーシック英語史』 ひつじ書房

■参考文献

中尾俊夫・寺島迪子著 『図説英語史入門』 大修館

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	授業の概観	英語の歴史と言語変化
2	英語の祖先語	インド・ヨーロッパ語と英語
3	英語の外面史	ゲルマン民族の英国移動
4	英語の借入語	ケルト語、ラテン語、古ノルド語、フランス語
5	語彙の歴史	意味変化
6	文字と綴り字	アルファベット
7	発音の変化	綴り字と発音の不一致・大母音推移
8	名詞の発達 1	単数形と複数形
9	名詞の発達 2	代名詞と関係代名詞
10	語順の確立	語形変化の衰退がもたらしたものの
11	接続詞の発達	主節と従属節
12	動詞の発達	規則変化動詞と不規則変化動詞
13	時制と相の発達	進行形、完了形、受動態
14	準動詞の発達	不定詞、分詞、動名詞
15	否定文と疑問文の発達	doの挿入

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻	
科 目 名	アメリカの文化と社会	アメリカの文化と社会	アメリカの文化と社会		
担 当 者	増井 由紀美 Yukimi Masui		対象学年	1年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

アメリカ社会は常に変化し続けています。今あるアメリカ社会／文化はどのようにして作られてきたのでしょうか。植民地時代から現代までを通史的に見て行くことにより、歴史が過去のものではなく現在に生きていることが理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

講義が中心となりますが、テーマによっては、授業内討論会、ビデオ鑑賞、リサーチ及び発表が課されます。

■成績評価方法・基準

授業内提出物が2点（それぞれ20%）。期末試験（60%）。

■授業の予習・復習

授業に関連するテーマの読み物／ビデオが与えられます。それについての感想文が求められます。

■教科書

授業内配布資料。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 アメリカって何？	授業の進め方の説明及びアンケート。
2 アメリカ史のはじまりは？	インディアンと入植者、その関係について学びます。
3 ビューリタンと現代	17世紀のアメリカ社会を映像を用いながら見て行きます。そして、ビューリタンのものが現代アメリカにどのような形で残されているかを考えます。
4 アメリカ建国期の絵画／工芸品	歴史的な人物の顔は、どのように記憶されて行くのでしょうか。機械と文化がどのように紹介されていたか1876年のフィラデルフィア万国博覧会について学びます。
5 南北戦争、及びその語られ方	リンカーン大統領、「風と共にさりぬ」と外国人にも馴染みのある時代です。当時「人種」がどのように議論されていたのかを見て行きます。
6 再建の時代（工業化と万国博覧会）	近代化のはじまりはどのように起こったのでしょうか。機械と文化がどのように紹介されていたか1876年のフィラデルフィア万国博覧会について学びます。
7 工業化と移民	「都会」がどのように作られて行き、移民がどのようにコミュニティを作っていたかを見て行きます。
8 人権問題と女性活動家	近代化がもたらしたものは、「市民」の意識改革があります。女性及びマイノリティを焦点に世紀転換期の価値観の変遷を見て行きます。
9 都会の問題	20世紀になると写真や映像で記録が残されています。それらを用いながら、20世紀初めの子供の労働やストライキ、都市の腐敗などを見て行きます。
10 理論でみる人権問題	アメリカは「るつぼ」「サラダホール」「オーケストラ」「モザイク」？議論をしながら考えます。
11 文学に描かれた人権問題（1950年代）	バーナード・マラマッドの作品を用いながらユダヤ性について考えます。
12 文学に表された人権問題（1980年代）	アリス・ウォーカーの作品を用いながらアフリカ系アメリカ人の社会について考えます。
13 作られ続ける記念碑	アメリカの記念碑について各人が調べて、授業内で報告します。
14 変わり続けるアメリカ	1990年代からマルティ・カルチャリズムの教育が盛んになりました。20年経った今、どのような変化が見えるでしょうか。教育、宗教、祭り、コマーシャルなどを取り上げながら、21世紀のアメリカを分析します。
15 まとめ&復習	この講義を受ける前と後で、あなたのアメリカ観に変化が生まれましたか。意見交換をしながら今学期の学びを振り返ります。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻	
科 目 名	イギリスの文化と社会		イギリスの文化と社会		
担 当 者	新堀 司 Tsukasa Niibori		対象学年	1年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

この授業のねらいは、イギリスの文化と社会の諸相を学習することを通じて、イギリスという異文化社会に対する理解を深めることである。到達目標としては、イギリスの文化と社会に関する基礎的な知識を身につけることである。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、異なるテーマ（多様性など）にそって解説を行う。その際、Power Point などを用いる。授業の最後に、まとめとして問題演習（プリント、提出）を行う。

■成績評価方法・基準

提出物（問題演習、35%）、学期末の試験の結果（65%）による総合的評価。

■授業の予習・復習

予習：必要に応じて指示。 復習：必要に応じて指示。

■教科書

プリントを使用する。

■参考文献

授業中に指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容、進め方などの説明
2 多様性	イギリスの各地域の概要など
3 イギリスとヨーロッパ	イギリスとヨーロッパの関わり
4 ロンドン	ロンドンの形成など
5 王室	王室の概要など
6 政治	政治システムなど
7 教育	教育制度など
8 祭り	主だった祭りなど
9 スポーツ	サッカーなど
10 食生活	紅茶など
11 交通	鉄道など
12 環境保護	ナショナル・トラストなど
13 神話・伝説	アーサー王など
14 芸術	絵画など
15 まとめ	授業内容の総まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英米文学概論	英米文学概論	英米文学概論	英米文学概論
担 当 者	有馬 容子 Yoko Arima		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

優れた文学作品には時代と国境を越えた普遍的なテーマが描かれています。この講義では特に英米の現代的なテーマを扱った古典的作品とそれから影響を受けて書かれた現代作品を読み、具体的に鑑賞します。将来的には原文で読めるようになることを目標に、主な作品については適宜、原文の一部を配布し精読してもらいますので、受講者はある程度の英語力が必要です。

■授業の進め方（履修条件等）

授業中に配布するプリントは学期末試験の範囲となります。プリントの配布は各授業時間中に限られるので欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

毎回実施の小テスト（英文訳）（40%）、定期試験（60%）。第1回、第2回の授業の両方を欠席した場合は平常点合計の20%を減点する。

■授業の予習・復習

復習：プリントの内容および作品の一部（英語）を熟読する。興味を持った作品は全体を読み定期試験に備える。

■教科書

プリントおよび作品リストを配布

■参考文献

『サロン・ドット・コム——現代英語作家ガイド』
ローラ・ミラー著 柴田元幸訳 研究社
その他、参考文献リストを配布

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義概要	取り上げる作家の概要とその作品の特徴について
2 ホーゾーン Nathaniel Hawthorne (1)	『ヤンググッドマン・ブラウン』
3 ホーゾーン (2)	『ウェイクフィールド』
4 キング Stephen King	『黒いスーツの男』
5 オースター Paul Auster	『幽霊たち』
6 メルヴィル Herman Melville	『代書人バートルビー』
7 トウエイン Mark Twain	『不思議な少年44号』
8 ヴォネガット Kurt Vonnegut (1)	『スローターハウス 5』(前半)
9 ヴォネガット (2)	『スローターハウス 5』(後半)
10 ヘンリー・ジェームズ Henry James	『友だちの友だち』
11 カズオ・イシグロ (1)	『わたしを離さないで』(前半)
12 カズオ・イシグロ (2)	『わたしを離さないで』(後半)
13 ウエルズ H.G.Wells	『タイム・マシン』
14 クロウリー John Crowley	『時の偉業』
15 総括筆記試験	解説

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	アメリカ文学史		アメリカ文学史	
担 当 者	有馬 容子 Yoko Arima		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

17世紀の植民地時代からはじまって、アメリカ文学が成熟する20世紀初頭までの歴史をそれぞれの時代を代表する作品とともに概観します。取り上げる作品はいずれも時代を越えて評価され続けているアメリカを代表する古典ばかりです。古典という敬遠されがちですが、映画やドキュメンタリーなど視覚教材を適宜用いて親しみやすく紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業中に配布するプリントは学期末試験の範囲となります。プリントの配布は各授業時間中に限られるので欠席しないこと。

■成績評価方法・基準

平常点（毎回作品の内容について自分の意見を提出）（50%）、学期末レポート提出（50%）。第1回、第2回の授業の両方を欠席した場合は平常点合計の20%を減点する。

■授業の予習・復習

復習：興味を持った作品について全体を読み、学期末レポートに備える。

■教科書

プリントおよび作品リストを配布

■参考文献

『はじめて学ぶアメリカ文学史』板橋・高田編著 ミネルヴァ書房
『アメリカ文学史講義』(1)～(3) 亀井 俊介著 南雲堂
『講義 アメリカ文学史』第1巻～Ⅲ巻 渡辺利雄著 研究社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義概要	アメリカ文学の背景
2 植民地時代	ベンジャミン・フランクリン『自伝』
3 アメリカ文学の独立期 (1)	①アーヴィング Washington Irving 『スリーピー・ホロー伝説』
4 アメリカ文学の独立期 (2)	②クーパー James Fenimore Cooper 『モヒカン族の最後』
5 アメリカ文学の開花 (1)	①ソーロー Henry David Thoreau 『ウォールデン』
6 アメリカ文学の開花 (2)	②ポー Edgar Allan Poe 「アッシャー家の崩壊」
7 アメリカ文学の開花 (3)	③ホーゾーン Nathaniel Hawthorne 『緋文字』
8 アメリカ文学の開花 (4)	④メルヴィル Herman Melville 『白鯨』
9 リアリズムと自然主義 (1)	①トウエイン Mark Twain 『ハックルベリー・フィンの冒険』
10 リアリズムと自然主義 (2)	②ヘンリー・ジェームズ Henry James 『ある貴婦人の肖像』
11 リアリズムと自然主義 (3)	③ロンドン Jack London 『野生の呼び声』
12 リアリズムと自然主義 (4)	④ドライザー T. Dreiser 『アメリカの悲劇』
13 アメリカ文学の成熟 (1)	①フィッツジェラルド F. Scott Fitzgerald 『偉大なるギャツビー』
14 アメリカ文学の成熟 (2)	②スタインベック John Ernst Steinbeck 『怒りの葡萄』
15 アメリカ文学の成熟 (3)	③ヘミングウェイ Ernest Hemingway 『老人と海』

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	イギリス文学史		イギリス文学史	
担 当 者	新堀 司 <i>Tsukasa Niibori</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では、イギリスの中世文学期からヴィクトリア朝文学期ぐらいまでをとりあげる。授業のねらいは、それぞれの文学期の概要、主要作家・作品などを学習することによって、イギリスの文学に関する理解を深めることである。到達目標は、各文学期の概要、主要作家・作品、用語などに関する基礎的な知識を身につけることである。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書を通じて、イギリスの中世文学期からの各文学期の特徴、主要作家・作品、用語などを学び、その後各文学期に関連した作品の原文（英文）を読み、最後にまとめとして問題演習（プリント、主要作家・作品などの穴埋め、用語の説明）を行う。一部、画像などを用いる予定である。

■成績評価方法・基準

提出物（問題演習プリント：35%）、試験の結果（65%）による総合的評価。

■授業の予習・復習

予習：毎回1つの章程度進むので、それに応じて教科書を読んでくること。
復習：必要に応じて指示。

■教科書

川崎寿彦、『イギリス文学史入門』、研究社、およびプリント。

■参考文献

授業中に指示。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の内容、進め方などの説明
2 古期から中世へ	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
3 ルネッサンスが花ひらく	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
4 演劇の時代の到来	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
5 そしてシェイクスピア登場	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
6 シェイクスピアの劇場	ルネッサンス期の劇場、名台詞など
7 時代は清教徒革命に向かう	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
8 清教徒革命の後	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
9 十八世紀の散文、詩、そして劇	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
10 小説時代の到来	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
11 ロマン主義の光と影	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
12 ヴィクトリア朝の詩と散文	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
13 ヴィクトリア朝の小説	概要、主要作家・作品、用語、原文、問題演習
14 20世紀文学	主要作家・作品など
15 まとめ	授業内容の総まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション
担 当 者	田村 孝 <i>Takashi Tamura</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

学校の教室に異なる文化的背景をもった子どもたちが入ってきた場合にどのようなことが起こるのかを、フランスを例にとりて学ぶことを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

簡単なオリエンテーションの後、映画「パリ20区僕たちのクラス」（原作フランソワ・ベゴドー）を教室で見る。ついで移民社会フランスの抱えている諸問題を検討する。これらの問題が将来日本の学校の教室に現れる可能性があるからである。

■成績評価方法・基準

試験による。評価基準は、講義内容をどれぐらい理解しているか、またどの程度明快な日本語で書けているかによる。

■授業の予習・復習

どちらも特に必要とはしないが、日常、新聞・TVなどの記事や報道で移民の動向などを見ておくことが望ましい。

■教科書

特になし

■参考文献

フランソワ・ベゴドー『教室へ』早川書房 1500円税
増田ユリヤ『移民社会フランスで生きる子どもたち』岩波書店 1900円税
宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店 2800円税

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講上の注意
2 映画「パリ20区僕たちのクラス」鑑賞（1）	簡単な説明ののち鑑賞
3 同 上（2）	同 上
4 19世紀ヨーロッパ史	列強の植民地獲得競争について
5 フランスという国	地誌、民族、産業、学校制度
6 移民とフランス社会	移民受け入れの変遷
7 移民とフランス社会（2）	フランス国家の理念
8 移民とフランス社会（3）	統合と多様性
9 移民とフランス社会（4）	平等と失業
10 移民とフランス社会（5）	宗教
11 移民とフランス社会（6）	スカーフ事件
12 移民とフランス社会（7）	ライシテと排除
13 フランスの学校	小学校の例
14 フランスの学校（2）	教育困難な中学校
15 総括	まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション
担 当 者	嶋川 洋一 Youichi Shimakawa		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

国内外で多様化する生活、教育、そして労働環境下で、異なる考え方や行動様式を持つ人々と協働し、共生していくために必要な異文化コミュニケーション能力の育成を目的としています。この異文化コミュニケーション力の長期的育成に必要な基本技能、知識、態度（異文化コミュニケーション・モデル、適応のプロセスの理解、異文化に起因する誤解の解消法、価値観とコミュニケーションスタイルの関係など）の習得を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

講義だけでなく、シミュレーションや体験学習を通して異文化で受けるカルチャーショックや行動様式及び価値観の衝突を疑似体験し、問題や誤解の解決に必要な「効果的異文化コミュニケーション及び異文化適応に必要な知識、技能、考え方」について学生が気づき、気づいたことを話し合い、認識していくプロセスを重視しています。そのため、欠席が多いとプロセスから学ぶことができませんので、十分注意していただきたいと思ひます。

■成績評価方法・基準

クラスでの参加度（30点満点）、クラスや中間での提出物（30点満点）、チームプロジェクト調査発表（20点満点）及び調査レポート（20点満点）を総合して評価します。個人個人が提出するものとコースの最初からチームの一員となってチームで発表、提出するものがあります。異文化コミュニケーションについて話し合ったり、分析したり、レポートを書いたりしますので、日本語の4技能及びコミュニケーション能力は必須です。

■授業の予習・復習

予習：指定された課題やリーディングを必ずしてきてください。
復習：各自、ジャーナルを用意して、毎事業での気づきを記録するようにしてください。

■教科書

教科書を読んではくことはクラスに参加するための必要条件です。
八代京子他『異文化コミュニケーション・ワークブック』（三修社 2001）

■参考文献

徳井厚子「多文化共生のコミュニケーション」(アルク 2002)
久米昭元・長谷川典子「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション」
(有斐閣選書 2007)

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	コース概要説明、自己紹介、異文化学習プロセスについて、チーム構成
2	シミュレーション	体験学習と振り返り
3	異文化コミュニケーションとは？	ワークブック第1章を中心にを行います
4	異文化コミュニケーション調査チーム	調査トピックのブレンストーミング
5	コミュニケーションスタイル	ワークブック第2章を中心に
6	コミュニケーションスタイル	調査トピックの発表
7	言語コミュニケーション	ワークブック第3章を中心に
8	シミュレーション2	異文化体験学習その2
9	異文化体験振り返り	異文化体験に関する振り返り、中間提出物締切
10	非言語コミュニケーション	ワークブック第4章を中心に
11	非言語コミュニケーション	異文化コミュニケーションビデオ分析
12	文化的価値観	ワークブック第5章を中心に
13	文化的価値観	異文化適応のプロセス、価値観及びコミュニケーションスタイルの変容
14	チームプロジェクト発表1	各チームによる異文化コミュニケーション調査の発表とディスカッション
15	チームプロジェクト発表2	各チームによる異文化コミュニケーション調査結果の発表とディスカッション及び総括

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	比較文化論	比較文化論	比較文化論	比較文化論
担 当 者	村川 庸子 Yoko Murakawa		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

今年度は、日米戦争中に戦略的な目的で書かれた、日米比較文化論の古典とも言える『菊と刀』(R.ベネディクト)と、これを厳しく批判した、日本在住の政治思想家D.ラミスらの論説を読み比べてみたい。まずは「文化を比較する」という場合の主体の立ち位置の違いを意識すること、批判的に読み解くこと、最終的には受講者それぞれの目から見た文化論を展開することを目指したい。

■授業の進め方（履修条件等）

事前にテキストを読み、簡単に内容と、共感する部分、疑問に思う部分をまとめておくことを前提に授業を進める。コーネル式ノート作成法を用いた成績評価を行う。

■成績評価方法・基準

コーネル式ノート作成法を用いて成績評価を行う。
(予習 30%；ノートの取りまとめ(コメント部分を中心に) 40%；ラミス氏の論説に対する批判 30%)

■授業の予習・復習

事前にテキストを読み、簡単に内容と、共感する部分、疑問に思う部分をまとめておくことを前提に授業を進めていきたい。授業後はノートの「コメント」欄を中心にまとめておくこと。

■教科書

ルース・ベネディクト『菊と刀 日本文化の型』
(講談社学術文庫)

■参考文献

ダグラス・ラミス (2007) 『ふつうの国にならしましょう』

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	導入	文化とは何か？文化を比較するとはどういうことか？
2	講義	日本論・日本人論の系譜
3	講義	第1章「研究課題ー日本」 …文化人類学という学問
4	講義	第2章「戦争中の日本人」 …戦争と日米の相互イメージ
5	講義	第3章「各々其ノ所ヲ得」 …日本の階層制度
6	講義	第5章「過去と世間に負目を負う者」 第6章「万分の一の恩返し」…「恩」
7	講義	第7章「義理ほどつらいものはない」 …「義理」と「義務」
8	講義	第8章「汚名をすすぐ」 …「堪へ難キヲ堪へ忍ビ難キヲ忍ブ」
9	講義	第9章「人情の世界」…自己犠牲
10	講義	第12章「子供は学ぶ」…日本人は14歳？
11	講義	第13章「降伏後の日本」 …「多過ぎもせず少な過ぎもしない寛大さ」
12	講義	D.ラミス『菊と刀 再考』を読む
13	グループ討論	私の『菊と刀 再考』
14	全体討論	私の『菊と刀 再考』
15	まとめ	総括

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英米児童文学 I	英米児童文学 I	英米児童文学 I	英米児童文学 I
担 当 者	佐藤 佳子 Keiko Sato		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

イギリスとアメリカの児童文学について学んでいきます。英語圏で書かれた代表的な作品とその作者の紹介を通して、児童文学の魅力を探っていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

初回の授業にて各回の発表者を決め、テキストを丁寧に読んでいきます。分担して読むので、必ず予習してきてください。映画のDVDを適宜使用します。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、発表内容、学期末試験を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

毎回必ず予習してから授業に出席してください。

■教科書

Children's Stories from England and America
（『総合・英米児童文学への招待』 英宝社）

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方・分担について
2	Mark Twainについて	Chapter 1: Huckleberry Finn
3	Jack Londonについて	Chapter 2: The Call of the Wild
4	L. M. Montgomeryについて	Chapter 3: Anne of Green Gables
5	R. L. Stevensonについて	Chapter 4: Treasure Island
6	A. A. Milneについて(1)	Chapter 5: Winnie-the-Pooh
7	A. A. Milneについて(2)	Winnie-the-Pooh (2)
8	J. M. Barrieについて	Chapter 6: Peter Pan
9	Beatrix Potterについて (1)	Chapter 7: Peter Rabbit
10	Beatrix Potterについて (2)	Peter Rabbit (2)
11	Raymond Briggsについて	Chapter 8: The Snowman / Father Christmas
12	Roald Dahlについて	Chapter 9: James and the Giant Peach / Matilda
13	Michael Bondについて	Chapter 10: Paddington
14	Mary Nortonについて	Chapter 11: The Borrowers
15	R. W. Awdryについて	Chapter 12: Thomas the Tank Engine

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英米児童文学 II	英米児童文学 II	英米児童文学 II	英米児童文学 II
担 当 者	佐藤 佳子 Keiko Sato		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

英語圏の児童文学として有名なC.S.ルイスのナルニア国物語『ライオンと魔女』（第1作）を英語で読みます。原作・文学作品の読み方、楽しみ方について学んでいきます。また、ナルニアに描かれたC.S. ルイスのファンタジーの本質についても考察します。

■授業の進め方（履修条件等）

初回の授業にて各回の発表者を決め、テキストを丁寧に読んでいきます。分担して読むので、必ず予習してきてください。映画のDVDを適宜使用します。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、発表内容、学期末試験を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

毎回必ず予習してから授業に出席してください。

■教科書

『ライオンと魔女ーナルニア国ものがたり』
講談社インターナショナル

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方・分担について
2	C.S.ルイスについて	ルイスの生涯と作品
3	Chapter 1	Lucy Looks into a Wardrobe
4	Chapter 2	What Lucy Found There
5	Chapter 3	Edmund and the Wardrobe
6	Chapter 4	Turkish Delight
7	Chapter 5	Back on This Side of the Door
8	Chapter 6	Into the Forest
9	Chapter 7	A Day with the Beavers
10	Chapter 8	What Happened After Dinner
11	Chapter 9	In the Witch's House
12	Chapter 10	The Spell Begins to Break
13	Chapter 11	Aslan is Nearer
14	Chapter 12	Peter's First Battle
15	Chapter 13	まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英米文学講読Ⅰ		英米文学講読Ⅰ	
担 当 者	鈴木 英明 Hideaki Suzuki		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「繊細な筆致、純粋で美しい英語」で書かれていると讃えられた Oscar Wilde の童話は、時代に対する風刺も織り込まれた、愛の理想と残酷さを描いた大人の童話として世界の人びとに愛読されてきました。この童話をテキストとして、英語で原作を読む楽しさを味わいます。

■授業の進め方（履修条件等）

演習形式で講読していきます。各授業の終わりには、その回の授業内容に関する小テストを行います。

■成績評価方法・基準

授業への参加度と小テスト50%、定期テスト50%の割合で評価します。

■授業の予習・復習

テキストの指定された範囲を予習し、意味の不明な単語がないようにしておくこと。

■教科書

プリントを配付します。

■参考文献

オスカー・ワイルド『幸福な王子』（新潮文庫、1968年）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方等について
2	The Nightingale and the Rose 1	若い学生の嘆き
3	The Nightingale and the Rose 2	ナイチンゲールの決意（1）
4	The Nightingale and the Rose 3	ナイチンゲールの決意（2）
5	The Nightingale and the Rose 4	アイロニカルな結末
6	The Happy Prince 1	王子の来歴
7	The Happy Prince 2	つばめとの出会い
8	The Happy Prince 3	町の人びとの苦しみ
9	The Happy Prince 4	王子の自己犠牲（1）
10	The Happy Prince 5	王子の自己犠牲（2）
11	The Happy Prince 6	王子とつばめ
12	The Selfish Giant 1	大男の庭
13	The Selfish Giant 2	大男と子供たち
14	The Selfish Giant 3	天国という庭
15	概括	授業のまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英米文学講読Ⅱ		英米文学講読Ⅱ	
担 当 者	増井 由紀美 Yukimi Masui		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

平易な文章（若者の語り）で書かれた作品をテキストに、話の流れ、風景描写、心の動き、が読み取れるように指導します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は英語で行われます。受講者は前もって課題を読んでから出席しなければなりません。

■成績評価方法・基準

授業内発表 20%
中間試験 30%
期末試験 50%

■授業の予習・復習

指定されたところを必ず読みます。

■教科書

The Catcher in the Rye by J. D. Salinger

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	アメリカ文学概説	アメリカ文学の中でこの作品を位置づけます。また作家の紹介をします。
2	Chapters 1-2	How does Holden introduce himself to the readers? What kind of problems does he have?
3	Chapters 3-4	What kind of relationship does Holden have with his dormitory friends?
4	Chapters 5-6	What is the role of Holden's younger brother in this novel?
5	Chapters 7-8	What makes Holden feel so lonely?
6	Chapters 9-10	How does Holden spend the first night in New York?
7	Mid-term examination	Mid-term examination (with the text and dictionary)
8	Chapters 11-12	Does Holden have any good memories in the past?
9	Chapters 13-14	What makes Holden very furious?
10	Chapters 15-16	What does Holden seek after?
11	Chapters 17-18	Find your favorite scene, and describe it.
12	Chapters 19-20	Is Holden a bad boy?
13	Chapters 21-22	Do you think that the role of Antolini is big in this novel?
14	Chapters 23-24	What does Phoebe give to her brother Holden?
15	Chapters 25-26	Do you like the last scene of the novel?

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英米文学特講 I		英米文学特講 I	
担 当 者	鈴木 英明 Hideaki Suzuki		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

19世紀初頭から世紀末のイギリスで書かれた三つの怪奇小説をさまざまな角度から読みながら、作品が書かれた時代の人々の無意識的な欲望や当時の知的言説（哲学、生物学、政治経済学等々）と文学テキストとの関わりを考えます。そうすることによって、現代に生きる私たちの足元を見つめ直すことが授業のねらいです。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業で数枚のプリントを配付し、それに基づいて講義形式で授業を行います。毎回の授業の終わりに、その授業内容に関する小テストを行います。

■成績評価方法・基準

小テスト50%、定期試験50%の割合で評価します。

■授業の予習・復習

授業で取りあげる三つの小説のうち、少なくとも一つの作品を読了すること（邦訳で可）。

■教科書

プリントを配付します。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	講義全体の概要、講義方法等についての説明
2	『ドラキュラ』1	作品の歴史的背景と内容の説明
3	『ドラキュラ』2	東方（東欧ユダヤ人とドイツ）問題
4	『ドラキュラ』3	吸血の政治学
5	『ドラキュラ』4	女吸血鬼とセクシュアリティ
6	『ドラキュラ』5	アイルランドの大飢饉
7	『ドリアン・グレイの肖像』1	作品の歴史的背景と内容の説明
8	『ドリアン・グレイの肖像』2	世紀末の唯美主義
9	『ドリアン・グレイの肖像』3	ワイルド裁判・男性同性愛と表象
10	『ドリアン・グレイの肖像』4	Picture と Portrait
11	『フランケンシュタイン』1	作品の歴史的背景と内容の説明
12	『フランケンシュタイン』2	作者の自伝としての『フランケンシュタイン』
13	『フランケンシュタイン』3	怪物は何を表象しているのか？
14	『フランケンシュタイン』4	映画における『フランケンシュタイン』
15	概括	これまでの授業のまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英米文学特講 II		英米文学特講 II	
担 当 者	増井 由紀美 Yukimi Masui		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

1920年代のアメリカを代表する作品 The Great Gatsby をとりあげ、第一次世界大戦後のアメリカ及びアメリカ文学が実験的な作家の手によりどのように表現されたかに焦点をあて、受講者に文学作品のひとつの読み方を提示します。

■授業の進め方（履修条件等）

学生は授業が終わるまでに1冊を原書で読むことが要求されます。英語力が十分でない学生の場合は日本語で読んでもかまいません。但し、試験問題は英文中心になります。（解答は日本語も可）

■成績評価方法・基準

授業内提出物 2点（2 x 20%）
期末試験（60%）

■授業の予習・復習

テキストを読む

■教科書

The Great Gatsby by Scott Fitzgerald

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	導入	映画を見せながら、ストーリーの要約をします。
2	「語り」について	作品の始まりを丁寧に読み、ナレーターであるNickを分析します。
3	アメリカ史（1920年代）	作品が書かれた時代背景、「失われた世代」、パリのアメリカ人、などについて学びます。
4	「色」の使い方	洋服、街、建物、車、食べ物、などカラフルな描写を探しましょう。
5	人種問題の描写	登場人物の語りの中に当時の人種問題が見えてきます。それを分析します。
6	東部、中西部、南部の意味	登場人物の出身地、生活の場所などに着目し、その意味をとらえます。
7	都会の風景の描き方	舞台はNew Yorkです。どのように描かれているか分析します。
8	個々の分析	関心の在る登場人物の分析をします。（提出）
9	関係性の分析	関心のあるペアを選び、どの点が物語を面白くするのか説明します。
10	家族について	この作品では家族はどのように描かれていますか。考えましょう。
11	悲劇か喜劇か？	悲劇の側面と喜劇の側面があります。どの場面に顕著に表れているか考えます。
12	シュールな表現	絵画的な表現が多く見られます。それもシュールリアリスムな絵画です。一緒に楽しみましょう。
13	スコット・フィッツジェラルドについて	この美しい世界を創作した作家の人生とはどのようなものだったのでしょうか。
14	復習（1）	映像を見ながら、意見交換をします。
15	復習（2）	今学期のまとめになります。試験準備として利用して下さい。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	総合講座Ⅱ		総合講座Ⅱ			
担 当 者	Steve Ryan		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

映画の作り方を学び、この講座をきっかけに映画に対しての興味を深めるのが狙いです。また、授業はすべて英語で行うため、英語習得の場としても有効であると考えております。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回テーマに沿った映像サンプルを見て、自分なりのアプローチ法を学ぶ。映画作りに対しての知識を深めます。

■成績評価方法・基準

出席率重視でとくにテストは行わない。

■授業の予習・復習

復習：授業内で出てきた新しい英単語があれば、後に反復練習するのが望ましい。

■教科書

教科書は用いず、テーマによっては、それに合ったプリントを配布する予定。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	The Adventure of Filmmaking	An introduction to the course and summary of its main points.
2	On Writing	How to get ideas. How to be a good writer.
3	On Writing for film	How to write a movie.
4	On Directing	Directing actors. Directing the crew. Taking opportunities.
5	On Acting	Some helpful acting points.
6	On the Camera	Simple ways to take good pictures.
7	On Producing	How to put together a film with no money.
8	On Sound	How to get good sound in your pictures.
9	On Editing	How to put the film together.
10	On Lighting	How to light your film.
11	Pre-production	How to prepare for making a film.
12	Production	How to enjoy filmmaking.
13	Post-production	How to finish the film.
14	On Problem Solving	Everything that can go wrong, will go wrong. How to deal with this.
15	The Adventure of filmmaking again	A review of the main points made in this course.

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2年次専門研究		2年次専門研究			
担 当 者	大月 隆成 Takashige Otsuki		対象学年	2年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

ボードゲームは、複雑な現象を単純化し本質を理解する手段として優れている。このゼミでは、地球環境や感染爆発、貿易、外交交渉などをテーマにしたゲームを通じて、国際関係を学んでいく。また、海外の文学や映像作品を素材にしたゲームも取り上げる。ゲームを楽しみながら、無理なく自然に英語と国際関係を学ぶのが狙いである。

■授業の進め方（履修条件等）

ゲームの背景となっている問題や状況を理解した上で、実際にゲームをするというのが、基本的な流れである。ゲームのマニュアルや原作は英語で書かれているので、その過程で必然的に英語を学習することになる。

■成績評価方法・基準

課題の提出状況および学期末のレポートに基づいて行う。

■授業の予習・復習

課題をしっかりこなし、ゲームの背景となる問題や状況を理解する。授業で学習した英語をよく復習する。

■教科書

特になし。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	感染爆発とパンデミック (1)	感染爆発の恐怖
2	感染爆発とパンデミック (2)	感染症対策と国際協力
3	感染爆発とパンデミック (3)	ゲーム構造の理解～単純協力型ゲーム～
4	感染爆発とパンデミック (4)	戦術の立案と実行
5	感染爆発とパンデミック (5)	ゲームの分析と評価
6	「大草原の小さな家」とウォールナットグループ 開拓史 (1)	開拓時代のアメリカ
7	「大草原の小さな家」とウォールナットグループ 開拓史 (2)	「大草原の小さな家」と原作
8	「大草原の小さな家」とウォールナットグループ 開拓史 (3)	ゲーム構造の理解～競争型ゲーム～
9	「大草原の小さな家」とウォールナットグループ 開拓史 (4)	ゲームシステムの理解～ワーカー・プレイメント～
10	「大草原の小さな家」とウォールナットグループ 開拓史 (5)	ゲームの分析と評価
11	地球温暖化とキープクール (1)	地球温暖化問題の基礎知識
12	地球温暖化とキープクール (2)	各国の立場と利害
13	地球温暖化とキープクール (3)	想定可能なシナリオの種々
14	地球温暖化とキープクール (4)	ゲーム構造の理解～個別利益と共通利益～
15	地球温暖化とキープクール (5)	ゲームの分析と評価
16	八十日間世界一周 (1)	ジュール・ヴェルヌの生涯と作品
17	八十日間世界一周 (2)	ゲームの時代背景～19世紀後半の世界情勢～
18	八十日間世界一周 (3)	ゲームの時代背景～19世紀後半の海外旅行～
19	八十日間世界一周 (4)	ゲームの分析と評価
20	地底旅行 (1)	古典的空想科学小説
21	地底旅行 (2)	ジュール・ヴェルヌの原作 (英語版)
22	地底旅行 (3)	映画「センター・オブ・ジ・アース」
23	地底旅行 (4)	ゲームの分析と評価
24	バトルスター・ギャラクティカ (1)	現代のSFドラマ
25	バトルスター・ギャラクティカ (2)	作品世界の理解
26	バトルスター・ギャラクティカ (3)	作品世界の分析～アメリカ社会・文化の反映～
27	バトルスター・ギャラクティカ (4)	作品世界の分析～キリスト教的世界観との相違～
28	バトルスター・ギャラクティカ (5)	ゲーム構造の理解～敵対勢力の存在する協力型ゲーム～
29	バトルスター・ギャラクティカ (6)	原作の展開と追加シナリオ
30	バトルスター・ギャラクティカ (7)	ゲームの分析と評価

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究		
担 当 者	織井 啓介 Keisuke Orii		対象学年	2 年	単 位 4

■授業のねらいと到達目標

「時事英語と国際経済経営」のゼミです。英語では、文法力を点検し時事英語の基礎を学びます。経済経営では、ビジネスの基礎技能（とくに秘書技能）とエアビジネスを中心に学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミではプリントを中心に学習します。目標を立てて定期的に英検・TOEIC・秘書検などを受験しましょう（在学中の目標は英検2級以上、TOEIC600以上です）

■成績評価方法・基準

平常点で評価します。

■授業の予習・復習

予習：事前にアサインメントをこなしましょう。

復習：ゼミで学んだことをプリントを中心に復習・整理しましょう。

■教科書

とくに使用しません。プリントを配布します。

■参考文献

週刊ST、Japan Timesなど。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	今年度セミナーの進め方
2 コア英文法①	名詞・代名詞
3 コア英文法②	動詞・助動詞
4 コア英文法③	受動態
5 コア英文法④	現在完了
6 コア英文法⑤	不定詞・動名詞
7 コア英文法⑥	形容詞・副詞
8 コア英文法⑦	分詞・関係代名詞
9 コア英文法⑧	前置詞・接続詞
10 ビジネスの基礎①	秘書技能（職務知識）
11 ビジネスの基礎②	秘書技能（一般知識）
12 ビジネスの基礎③	秘書技能（マナーと接遇）
13 ビジネスの基礎④	秘書技能（会議）
14 ビジネスの基礎⑤	秘書技能（文書と資料管理）
15 前期のまとめ	前期の総括と夏休みの計画
16 後期のガイダンス	夏休みの成果と後期の目標設定
17 時事英語の基礎①	Eメール
18 時事英語の基礎②	ビジネスレター
19 時事英語の基礎③	告知文
20 時事英語の基礎④	広告
21 時事英語の基礎⑤	レポート
22 時事英語の基礎⑥	英字新聞の政治記事
23 時事英語の基礎⑦	英字新聞の経済記事
24 時事英語の基礎⑧	英字新聞の社会記事
25 経済経営の基礎①	エアビジネスの概要
26 経済経営の基礎②	キャビンアテンダント
27 経済経営の基礎③	グランドスタッフ
28 経済経営の基礎④	グランドハンドリング
29 経済経営の基礎⑤	ATC（管制業務）
30 今年度のまとめ	今年度の成果の総括と反省

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究		
担 当 者	櫛田 久代 Hisayo Kushida		対象学年	2 年	単 位 4

■授業のねらいと到達目標

まずは、アメリカの社会と政治についての基礎知識をもち、アメリカ理解を深めることで日本を知ることを目指しています。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語のテキストを用いて、輪読します。また、必要に応じて参考文献では、英語で書かれた資料を配付し、アメリカの基礎知識に関する語彙を増やしていきたいと思っています。

■成績評価方法・基準

授業の予習、課題提出によって総合的に判断します。

■授業の予習・復習

最低限、テキストを読んでからゼミに臨んで下さい。また授業でわからないこと、もっと知りたいことはどんどん自分で調べていって下さい。

■教科書

特に指定しません。

■参考文献

渡辺靖「アメリカン・コミュニティー—国家と個人が交差する場所」（新潮社、2007年）。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミ生の紹介、ゼミの進め方
2 アメリカを知る（1）	主に、教員による解説
3 アメリカを知る（2）	主に、教員による解説
4 アメリカを知る（3）	主に、教員による解説
5 テキストの輪読（1）	テキストの読み方、レジュメの書き方（1）
6 テキストの輪読（2）	テキストの読み方、レジュメの書き方（2）
7 テキストの輪読（3）	テキストの読み方、レジュメの書き方（3）
8 テキストの輪読（4）	レポーターによる報告
9 テキストの輪読（5）	レポーターによる報告
10 テキストの輪読（6）	レポーターによる報告
11 テキストの輪読（7）	レポーターによる報告
12 テキストの輪読（8）	レポーターによる報告
13 テキストの輪読（9）	レポーターによる報告
14 テキストの輪読（10）	レポーターによる報告
15 前期のまとめ	前期の反省と後期に向けて
16 後期ガイダンス	後期のゼミの進め方
17 テキストの内容についての予備知識（1）	教員による解説
18 テキストの内容についての予備知識（2）	教員による解説
19 テキストの輪読（1）	レポーターによる報告
20 テキストの輪読（2）	レポーターによる報告
21 テキストの輪読（3）	レポーターによる報告
22 テキストの輪読（4）	レポーターによる報告
23 テキストの輪読（5）	レポーターによる報告
24 テキストの輪読（6）	レポーターによる報告
25 テキストの輪読（7）	レポーターによる報告
26 テキストの輪読（8）	レポーターによる報告
27 期末レポート作成（1）	テーマ設定と構成
28 期末レポート作成（2）	レポートの添削指導
29 期末レポート作成（3）	レポートの添削指導
30 後期のまとめ	3年次に向けて

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究	
担 当 者	三幣 利夫 Toshio Sampei		対象学年	2 年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

グローバル経済下での企業活動に関し、その活動実態や、モノ・ヒト・カネの流れを分析し、海外展開の目的と問題点について学習する。各自の発表と議論を通じて、国際ビジネスの実状を理解するとともに、自分で考える力と他人に説明する力を養う。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式での授業とともに、各自の調査結果や意見の発表も行い、全体で議論しながら進めたい。

■成績評価方法・基準

ゼミへの出席と議論への参加度合で評価する。

■授業の予習・復習

予習：事前に与えられたテーマについて調べ、考えること。

■教科書

「日本貿易の現状」 日本貿易会発行

■参考文献

伊藤元重著「ゼミナール」国際経済入門
日本経済新聞出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミ生の紹介、ゼミの進め方の説明
2 日本貿易の現状（1）	輸出の推移
3 日本貿易の現状（2）	輸入の推移
4 日本貿易の現状（3）	円レートの変化と貿易指数
5 日本貿易の現状（4）	貿易相手国別分析（1）
6 日本貿易の現状（5）	相手国別分析（2）
7 日本貿易の現状（6）	相手国別分析（3）
8 日本貿易の現状（7）	商品別分析（1）
9 日本貿易の現状（8）	商品別分析（2）
10 日本貿易の現状（9）	海上貨物、航空貨物の動き
11 日本貿易の現状（10）	サービス貿易の動向
12 国際収支	国際収支の見方
13 カネの移動	資本収支の推移
14 ヒトの移動	出入国者数の推移
15 産業別の貿易動向（1）	自動車産業
16 産業別の貿易動向（2）	電機産業
17 産業別の貿易動向（3）	電子産業
18 産業別の貿易動向（4）	食品産業
19 産業別の貿易動向（5）	繊維産業
20 産業別の貿易動向（6）	エネルギー産業
21 時事トピックスについて討議（1）	ゼミ生による討議
22 時事トピックスについての討議（2）	ゼミ生による討議
23 世界貿易の現状	貿易額の推移
24 主要国の貿易動向（1）	北米地域の貿易
25 主要国の貿易動向（2）	欧州の貿易
26 主要国の貿易動向（3）	中国の貿易
27 主要国の貿易動向（4）	アジア地域の貿易
28 世界の貿易体制（1）	貿易体制の変遷
29 世界の貿易体制（2）	自由貿易協定の利点・不利益
30 世界の貿易体制（3）	FTA、EPA、TPPの違い

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究	
担 当 者	庄司 真理子 Mariko Shoji		対象学年	2 年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

国連について学びます。ゼミでは、地球上の人類が協力して、国連が扱っている人権、環境、貧困と経済開発、社会開発、平和と安全など、様々な問題をどうやって克服していくかを考えたいと思います。ゼミ生の興味のある問題について、各自の研究テーマを重視してゼミをすすめていく。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ形式で授業をすすめます。教科書を交代で輪読していく。参加者は全員が教科書の担当部分を精読して、レジュメを作成し、報告してもらいます。授業の参加度を重視します。

■成績評価方法・基準

ゼミの参加度、レポーターのやり方とレジュメの書き方、学期末レポートで成績をつけます。出席重視です。

■授業の予習・復習

教科書を読んで参加してください。レポーターになった人は事前にレジュメを作成してください。

■教科書

テキスト購入については、ゼミ開始後に指示する。

■参考文献

適宜、ゼミ生の関心に応じて授業中に紹介する

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーションⅠ	自己紹介とガイダンス
2 オリエンテーションⅡ	各自の研究テーマを決める
3 オリエンテーションⅢ	各自の教科書を決める
4 オリエンテーションⅣ	レポーターのやり方と配分
5 文献講読Ⅰ	文献の探し方
6 文献講読Ⅱ	文献の読み方とレジュメの作り方
7 文献講読Ⅲ	文献を読む
8 文献講読Ⅳ	文献を読む
9 文献講読Ⅴ	文献を読む
10 文献講読Ⅵ	文献を読む
11 文献講読Ⅶ	文献を読む
12 文献講読Ⅷ	文献を読む
13 レポートの書き方Ⅰ	レポートの書き方を学ぶ
14 レポートの書き方Ⅱ	レポートの書き方を学ぶ
15 レポートの書き方Ⅲ	レポートの書き方を学ぶ
16 レポートの書き方Ⅳ	レポートの書き方を学ぶ
17 レポートの書き方Ⅴ	レポートの書き方を学ぶ
18 文献講読Ⅰ	文献を読む
19 文献講読Ⅱ	文献を読む
20 文献講読Ⅲ	文献を読む
21 文献講読Ⅳ	文献を読む
22 文献講読Ⅴ	文献を読む
23 文献講読Ⅵ	文献を読む
24 文献講読Ⅶ	文献を読む
25 文献講読Ⅷ	文献を読む
26 文献講読Ⅷ	文献を読む
27 レポート執筆相談Ⅰ	各自の要望に応じてレポート内容をチェックする
28 レポート執筆相談Ⅱ	各自の要望に応じてレポート内容をチェックする
29 レポート執筆相談Ⅲ	各自の要望に応じてレポート内容をチェックする
30 レポート執筆相談Ⅳ	各自の要望に応じてレポート内容をチェックする

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究			
担 当 者	高田 洋子 Yoko Takada		対象学年	2 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

大学のゼミとは何かを初体験し、4年次までの3年間にわたる演習の最も基礎的項目を修得します。東南アジア世界に起きるさまざまな現象に対する問題意識を培うことを、1年間の学習目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

できるだけITを活用する授業を進めます。ゼミの中心テーマについて教員が講義しますが、各人は取り上げる問題について、自分で情報収集し、定期的にプレゼンテーションの訓練を行います。

■成績評価方法・基準

出席の重視。授業への積極的な取り組みと年度末に提出するゼミレポートの内容により成績をつけます。

■授業の予習・復習

予習：日頃から東・東南・南アジアの現状と課題について関心を持ち、情報を蓄積しておきましょう。
復習：とくにありません。

■教科書

高田洋子「東南アジア」共著『国際学入門』。

■参考文献

David Joel Steinberg (ed), In Search of Southeast Asia, A Modern History, USA. Milton Osborne, Southeast Asia, An Introductory History, Sydney.

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	ゼミとは何か	ゼミの目的を説明する。ゼミのメンバーの自己紹介、前期スケジュールを決める。
2	ゼミで学ぶこと	1年間のうちにゼミで何を学ぶか、各自が自分の目標を決める。
3	序：東南アジア入門	地図を広げて、どんな国があるか、各国の基本情報を集める。
4	インドシナ半島部（1）	自然環境、地形、国境線などを調べる。各国の現状をリサーチする。
5	インドシナ半島部（2）	社会構成、政治経済、国際関係などを調べる。
6	島嶼部（1）	自然環境、地形、国境線などを調べる。各国の現状をリサーチする。
7	島嶼部（2）	社会構成、政治経済、国際関係などを調べる。
8	現地を知る：ベトナムの今	調査で撮影した写真をみながら解説する（ベトナムの都市と農村）。
9	現地を感じる：各地の物産など	各地の織物、衣装、食物、植物、音楽、料理などを教室に持ち込もう。
10	東南アジアの古代遺跡（1）	インドシナ半島：アンコール遺跡群、バガン遺跡、チャム遺跡ほか
11	東南アジア古代遺跡（2）	島嶼部：ボロブドゥール遺跡、バリ島遺跡ほか
12	東南アジアの宗教（1）	上座仏教を知る
13	東南アジアの宗教（2）	大乗仏教を知る
14	東南アジアの宗教（3）	イスラム教を知る
15	東南アジアの宗教（4）	キリスト教を知る
16	東南アジアの宗教（5）	ヒンドゥー教を知る
17	東南アジアの宗教（6）	カオダイ教、ホアハオ教ほかの新興宗教
18	東南アジアの言語（1）	各国の言語と言語政策
19	東南アジアの言語（2）	言語の歴史とダイナミズム
20	東南アジアの文学（1）	伝統文学を読んでみよう。
21	東南アジアの文学（2）	近現代の作品を鑑賞する。
22	ベトナムを発表する	社会・経済・政治問題他トピックなどを見つけて調べる。
23	カンボジアを発表する	歴史・社会・経済・政治問題等を調べてみる
24	ラオスを発表する	興味のある問題を調べてみる
25	タイを発表する	日本との経済関係、社会、政治などを調べてみる
26	ミャンマーを発表する	興味のある問題を調べてみる
27	シンガポール、マレーシアを発表する	歴史・社会・経済・政治などの問題を調べてみる
28	インドネシアを発表する	歴史・文化など面白いテーマを調べてみる
29	フィリピンを発表する	政治経済・宗教ほか興味のあることを調べる
30	ブルネイ、東チモールを発表する	歴史・社会・経済・政治などを調べてみる

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究			
担 当 者	高橋 和子 Kazuko Takahashi		対象学年	2 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、社会調査の専門家育成するための基本的な内容を解説することです。到達目標は、3年次に実際に調査を実施できるだけの能力を身に付けることです。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項についてPCを使用しながら進めていきます。後期は社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を説明します。

■成績評価方法・基準

ゼミへの参加度や貢献度と提出物（課題レポートなど）

■授業の予習・復習

予習は特に必要ありませんが、社会調査で必要な用語についてはよく復習をして理解をすること。

■教科書

『入門・社会調査法』 轟亮・杉野勇（編）
法律文化社 2010年

■参考文献

『社会調査へのアプローチ 第2版』 大谷信介著
ミネルヴァ書房 2005

■授業内容

授業項目	授業内容	
1	社会調査とは（1）	社会調査法ゼミについて、社会調査士資格について
2	社会調査とは（2）	社会調査史、社会調査の目的と意義
3	社会調査の種類（1）	学術調査
4	社会調査の種類（2）	マーケティング・リサーチ
5	社会調査の種類（3）	世論調査
6	社会調査の種類（4）	国勢調査と官庁統計
7	社会調査の種類（5）	統計的調査と事例研究方法
8	社会調査の種類（6）	調査票調査とフィールドワーク
9	調査倫理	調査倫理
10	量的調査と質的調査（1）	量的調査
11	量的調査と質的調査（2）	質的調査
12	実査を伴わない社会調査	二次分析
13	社会調査のプロセス	社会調査のプロセス
14	複数の調査の組み合わせ	複数の調査の組み合わせ
15	調査プロセスの管理	調査プロセスの管理
16	調査目的と調査方法	調査目的と調査方法
17	調査方法の決め方	面接調査、留置調査、電話調査、郵送調査、インターネット調査など
18	調査企画と設計	調査企画と設計
19	仮説構成	仮説構成
20	標本抽出（1）	全数調査と標本調査
21	標本抽出（2）	無作為抽出
22	標本抽出（3）	標本数と誤差
23	標本抽出（4）	サンプリングの方法
24	調査票の構成と質問文の作り方（1）	質問文
25	調査票の構成と質問文の作り方（2）	回答・全体の構成
26	調査の実施方法（1）	実査の方法、調査票の配布・回収法など
27	調査の実施方法（2）	インタビューの仕方など
28	調査データの整理（1）	エディティング、コーディング、データ・クリーニング
29	調査データの整理（2）	フィールドノート作成、コードブック作成など
30	総括	調査設計と実施方法に関するまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究	
担 当 者	中村 圭三 Keizo Nakamura		対象学年	2 年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

本ゼミでは、「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」をテーマに、ゼミ活動を実施する。調査の準備・実施・成果の取りまとめを通して、調査研究の進め方を修得させる。

■授業の進め方（履修条件等）

前期には、鹿島川に関する文献収集・土地利用調査・調査機器類の準備等を行う。夏期休暇中に現地調査を実施し、後期には成果のとりまとめを行う。

■成績評価方法・基準

授業態度、定期試験の成績で評価する。

■授業の予習・復習

予習：ゼミの調査研究テーマに関する文献・資料等に目を通しておく。

復習：ゼミで取り上げた内容について、文献・図鑑等で確認する。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007。

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
2 印旛沼の水と生態 (1)	印旛沼とその流域
3 印旛沼の水と生態 (2)	水源としての印旛沼
4 印旛沼の水と生態 (3)	自然環境
5 鹿島川の水と生態 (1)	農業と漁業
6 鹿島川の水と生態 (2)	水質悪化とその原因
7 鹿島川の水と生態 (3)	生態系の変化
8 水質調査法学習 (1)	水質調査機器
9 水質調査法学習 (2)	pH、ECなどの測定
10 水質調査法学習 (3)	バックキャストによる水質調査
11 生態調査法学習 (1)	水生生物の採取方法
12 生態調査法学習 (2)	印旛沼流域に生息する水生生物
13 生態調査法学習 (3)	水生生物の撮影方法
14 土地利用調査学習 (1)	土地利用図による調査
15 土地利用調査学習 (2)	衛星画像による調査
16 調査データ整理 (1)	流量の計算 (1)
17 調査データ整理 (2)	流量の計算 (2)
18 調査データ整理 (3)	水質データの整理
19 調査データ整理 (4)	水質データの整理・水生生物データの整理
20 調査データ整理 (5)	水生生物データの整理
21 統計・グラフ解析 (1)	統計・グラフ解析 (1)
22 統計・グラフ解析 (2)	水質 (1)
23 統計・グラフ解析 (3)	水質 (2)
24 統計・グラフ解析 (4)	水生生物 (1)
25 統計・グラフ解析 (5)	水生生物 (2)
26 研究成果報告会準備 (1)	パワーポイント作成 (1)
27 研究成果報告会準備 (2)	パワーポイント作成 (2)
28 研究成果報告会準備 (3)	パワーポイント作成 (3)
29 報告	研究成果報告会
30 まとめ	総括

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	2 年次専門研究		2 年次専門研究	
担 当 者	長谷川 頼子 Yoriko Hasegawa		対象学年	2 年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

日本語教育を取り巻くさまざまな事情について、最新の情報を取り入れながら資料を整理し、日本語教育に関わっていくためには何を学ぶ必要があるのか、また、将来を考えた場合に具体的に何をすべきなのかについて、共に検討します。各自の関心を深め、3年次以降の専門研究のテーマ選びにつなげてもらうことが目的です。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語教員養成講座科目の受講が必要です。ゼミ生の履修状況に応じ、課題や発表に取り組み、調べたこと、分かったことを全員が共有するために必要な説明、質疑応答を通じ、将来の専門研究に必要な基本的態度を培います。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な態度、日本語教育への真剣な取り組み、また年度末のレポートから総合的に評価します。

■授業の予習・復習

日本語教員養成講座科目の学習項目との関連を考えること。日本語・日本語教育について積極的に情報収集する。

■教科書

あらかじめ指定するものはないが、学生の興味や関心に応じて柔軟に対応する。

■参考文献

アルク (編) 『月刊日本語』
アルク (編) 『平成24年度 日本語教育能力検定試験 合格するための本』
佐々木泰子 (編) (2007) 『ベーシック日本語教育』ひつじ書房

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	年間スケジュールとゼミの進め方について確認
2 日本語教員になるには (1)	日本語教員に求められる要件とは
3 日本語教員になるには (2)	日本語教育能力検定試験について
4 日本語教員になるには (3)	国内・外の就職状況について
5 日本語教員になるには (4)	各種情報・文献・資料の収集と整理
6 日本語教育と関連領域 (1)	社会・文化・地域 (1)
7 日本語教育と関連領域 (2)	社会・文化・地域 (2)
8 日本語教育と関連領域 (3)	言語と社会 (1)
9 日本語教育と関連領域 (4)	言語と社会 (2)
10 日本語教育と関連領域 (5)	言語と心理 (1)
11 日本語教育と関連領域 (6)	言語と心理 (2)
12 日本語教育と関連領域 (7)	言語と教育 (1)
13 日本語教育と関連領域 (8)	言語と教育 (2)
14 日本語教育と関連領域 (9)	言語一般 (1)
15 日本語教育と関連領域 (10)	言語一般 (2)
16 前期の総括	夏休み中の課題について確認
17 発表の準備	レジュメ作成に必要な手順
18 模擬発表	発表のプロセスを確認する
19 学生による発表 (1)	各自の関心に応じてテーマを選ぶ
20 学生による発表 (2)	必要な情報・文献を探す
21 学生による発表 (3)	必要な形式に沿ったレジュメを作成する
22 学生による発表 (4)	既存の情報と自分の意見・考えを区別する
23 学生による発表 (5)	参加者の理解を促す発表を心がける
24 学生による発表 (6)	他学生の発表内容との関連を考える
25 学生による発表 (7)	発表を良く聞き質疑応答に積極的に取り組む
26 学生による発表 (8)	効果的なプレゼンの仕方を考える
27 学生による発表 (9)	発表を経て理解できたことをレポートにまとめる
28 学生による発表 (10)	発表をふまえて今後の研究計画を立てる
29 3年次への準備 (1)	専門的研究に必要なスキルとは
30 3年次への準備 (2)	春休み中の課題について確認

年度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科目名	2年次専門研究		2年次専門研究		
担当者	水口 章 Akira Mizuguchi		対象学年	2年	単位 4

■授業のねらいと到達目標

本授業のねらいは「暮らしやすい町」の条件を考え出すことにあります。そのために、政策学の観点から、活力があり暮らしやすい町になるにはどのような仕組みが必要なのか、どうすればその仕組みをつくることのできるのかについて考察します。到達目標は、学生一人一人が独自の「暮らしやすい町」のデザインを考え、提案できる力を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は、政策デザインを行う上で必要になるアイデアづくりの方法や、「暮らしやすい町」「活力ある町」の複数のイメージづくりを中心に授業を進めます。後期は、政策学の観点から「町づくり」の方法について議論した上で、3年・4年の専門研究で各自が取り組む課題を見い出せるよう、ブレインストーミングを行います。

■成績評価方法・基準

報告内容（レジュメ作成、説明、質疑応答）60%、課題レポート40%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。
復習：キーワードや理論は図書館を利用し、内容を十分把握してください。

■教科書

特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。

■参考文献

伊藤修一郎『政策リサーチ入門－仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会、2011年8月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	政策リサーチの考え方
2 方法論1	リサーチ・クエスチョンの立て方
3 方法論2	「問い」のかけ方を学ぶ
4 方法論3	ブレインストーミングの実施
5 方法論4	マインド・マップを使ってのブレインストーミングの実施
6 方法論5	政治地理学の思考について
7 文献リサーチ1	リスト作成、入手・検討、リスト修正
8 文献リサーチ2	文献リサーチ結果の活用方法
9 世界の町と暮らしの紹介1	学生の個人発表
10 世界の町と暮らしの紹介2	学生の個人発表
11 世界の町と暮らしの紹介3	学生の個人発表
12 ブレインストーミング	「暮らしやすい町」のイメージとは
13 世界遺産と町について1	学生のグループ発表
14 世界遺産と町について2	学生のグループ発表
15 ブレインストーミング	「観光によって活力が生まれる町」のイメージとは
16 問題解決の考え方の変遷1	政策学の概念紹介
17 問題解決の考え方の変遷2	政策学の方法論などの紹介
18 自由討論：課題の検討の仕方	町づくりとアジェンダ
19 問題の構造を知る1	伝統的アプローチ（階層化分析、KJ法）について
20 問題の構造を知る2	新しいアプローチ（要因関連性分析ほか）について
21 問題の構造を知る3	フレーミングと意思決定について
22 自由討論：言説を考える	因果的物語の活用
23 政策の実現	供給、規制、誘因、啓発について
24 規範・価値を考える1	公共の利益について
25 規範・価値を考える2	パレート基準、カルドアヒックス基準について
26 自由討論：他者認識	「自由と平等」「安全・安心」について考える
27 ブレインストーミング	観光地「日光」の魅力とは
28 ブレインストーミング	地域振興と行政のかかり方とは
29 ブレインストーミング	地域振興と市民のかかり方とは
30 まとめ	「暮らしやすい町」の条件の確認

年度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科目名	2年次専門研究		2年次専門研究		
担当者	村川 庸子 Yoko Murakawa		対象学年	2年	単位 4

■授業のねらいと到達目標

3年次・4年次の専門研究（アメリカ社会、日米関係、日米比較文化論）の準備段階の演習形式のゼミであるが、特に今年は英語の運用能力を身につけることを主たる目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

英語の運用能力の中でも特に文法・音読・聴解と読解（平易な社会的文献のcritical readingの方法）の集中的訓練を行う。授業外の自主的な学びが必須である。主体的な参加が条件となる。

■成績評価方法・基準

クラスワーク・課題の達成度により評価を行う。今年度はTOEICの成績の100点UPを目標としており、その結果も参考とする。

■授業の予習・復習

言語の習得には時間をかけることが不可欠である。予習・復習の内容については細かく指示するが、自主的な学びを求めたい。

■教科書

C, Douglas Lummis. (1982). A New Look at the Chrysanthemum and the Sword. Shohakusha.第一章

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入①	ゼミの進め方、Portfolioの作成・活用法
2 導入②	Steve Jobsのスピーチを読んでみよう！
3 導入③	Steve Jobsの演説の音読・聴取
4 文法事項の確認①	時制 (Tense)
5 文法事項の確認②	動詞 (5文型、活用、代動詞、助動詞、分詞、態)
6 文法事項の確認③	形容詞・副詞
7 発音①	舌の位置と動き、口の形、抑揚、リズム英語の歌を歌おう①
8 発音②	Phonics (音と綴り) 英語の歌を歌おう②
9 Reading①	英文テキストの輪読 (p.1, 1.1-p.3, 1.2)
10 Reading②	英文テキストの輪読 (p.3, 1.3-p.5, 1.25)
11 Reading③	英文テキストの輪読 (p.5, 1.27-p.9, 1.11)
12 Reading④	英文テキストの輪読 (p.9, 1.12-p.13, 1.14)
13 Reading⑤	英文テキストの輪読 (p.13, 1.15-p.18, 1.13)
14 Reading⑥	英文テキストの輪読 (p.18, 1.14-p.23, 1.25)
15 Reading⑦	英文テキストの輪読 (p.23, 1.6-p.27, 1.24)
16 映画①	映画のスク립トを読む①
17 映画②	映画のスク립トを読む②映画鑑賞
18 Reading⑧	文学作品を読む①
19 Reading⑨	文学作品を読む②
20 講義①	アメリカ社会事情①—大統領選挙
21 講義②	アメリカ社会事情②—多文化社会
22 講義③	アメリカ社会事情③—宗教
23 講義④	アメリカ社会事情④—戦争
24 Reading10	新聞雑誌記事を読む①
25 Reading11	新聞雑誌記事を読む②
26 Reading12	新聞雑誌記事を読む③
27 Reading13	新聞雑誌記事を読む④
28 プレゼン①	各自の関心事を報告①
29 プレゼン②	各自の関心事を報告・討論②
30 まとめ	総括

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	2年次専門研究		2年次専門研究	
担当者	柳原 由美子 Yumiko Yanagihara		対象学年	2年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

- この2年ゼミの目標は、次の2点です。
- 1) 世界の英語教育政策、および英語教育と文化について概観し、英語教育に関する理解を深めます。
 - 2) 英語力の向上を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

- 90分の授業を半分に区切って、次のように行います。
- 1) 英語教育に関する書籍を輪読していきます。担当を決めて、発表形式で行います。
 - 2) 興味のありそうなトピックを選んで、特に、ライティング、リーディング、リスニングのスキルの向上を目指します。

■成績評価方法・基準

- 1) 輪読担当の発表とレジュメの作成 50%
- 2) 毎回の英語テキストに関するポストテストの累積 50%

■授業の予習・復習

- 予習：輪読に際しては、必ず予め読んでおくこと
 復習：学習した英語テキストに関して行う次週のポストテストの準備

■教科書

- 前期：矢野安剛 他 編集『英語教育政策―世界の言語教育政策論をめぐって―』（英語教育学大系第2巻）大修館書店
 後期：塩澤正 他 編集『英語教育と文化』（英語教育学大系第3巻）

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、参考文献、輪読の担当者について
2 1) 『英語を母語とする国』の英語政策 (1) 2) Chapter 1	1) イギリス (同化主義から多言語主義へ) 2) What is a Paraphrase?
3 1) 『英語を母語とする国』の英語政策 (2) 2) Chapter 2	1) アメリカ (アメリカの理念と義務) 2) The Topic Sentence
4 1) 『英語を母語とする国』の英語政策 (3) 2) Chapter 3	1) オーストラリア (多言語・多文化国家に向けて) 2) Supporting Sentence
5 1) 『英語を第二言語とする国』の英語政策 (1) 2) Chapter 4	1) インド (グローバル化で拡大する英語教育) 2) Time Order
6 1) 『英語を第二言語とする国』の英語政策 (2) 2) Chapter 5	1) マレーシア (国策「ビジョン2020」と英語教育政策) 2) Space Order
7 1) 『英語を第二言語とする国』の英語政策 (3) 2) Chapter 6	1) シンガポール (英語を中心とした言語教育政策) 2) Process and Direction
8 1) 『英語を外国語とする国』の英語政策 (1) 2) Chapter 7	1) 欧州 (EU) (欧州市民を育てる英語教育政策) 2) Cause and Effect
9 1) 『英語を外国語とする国』の英語教育政策 (2) 2) Chapter 8	1) トルコ (EU労働市場を拓ける英語教育) 2) Examples
10 1) 『英語を外国語とする国』の英語教育政策 (3) 2) Chapter 9	1) タイ (文明の対立) を促進するための英語教育) 2) Definition
11 1) 『英語を外国語とする国』の英語教育政策 (4) 2) Chapter 10	1) タイ (EU) (欧州市民を育てる英語教育政策) 2) Classification
12 1) 『英語を外国語とする国』の英語教育政策 (5) 2) Chapter 11	1) 中国 (小学校から大学まで一貫した英語教育政策) 2) Comparison and Contrast
13 1) 『英語を外国語とする国』の英語教育政策 (6) 2) Chapter 12	1) 韓国 (実践的コミュニケーション能力育成を目指した英語教育政策) 2) Review
14 1) 『英語を外国語とする国』の英語教育政策 (7) 2) Chapter 13	1) ブラジル (格差社会における教育政策) 2) From a Paraphrase to a Short Essay
15 1) 『英語を外国語とする国』の英語教育政策 (8) 2) Chapter 14	1) 日本 (一貫英語教育への道) 2) Writing a Short Essay
16 1) 異文化と英語教育 (異論と文化) (1) 2) LOVE STORY (1)	1) 異文化教育という文化とは、なぜ文化を外国語で教える必要があるのか? Part 1: Scene 1 (ビデオ視聴学習)
17 1) 異文化と英語教育 (異論と文化) (2) 2) LOVE STORY (2)	1) 異文化理解から異文化学習を考える。学習指導要領から異文化を考える。文化をどのように教えるか? Part 1: Scene 2 (ビデオ視聴学習)
18 1) 異文化と英語教育 (異文化理解と英語教育) (1) 2) LOVE STORY (3)	1) 異文化理解とは何か、異文化理解と英語教育の関係? Part 1: Scene 3 (ビデオ視聴学習)
19 1) 異文化と英語教育 (異文化理解と英語教育) (2) 2) LOVE STORY (4)	1) 留学と異文化理解、異文化適応? Part 1: Scene 4 (ビデオ視聴学習)
20 1) 異文化と英語教育 (異文化理解と英語教育) (3) 2) LOVE STORY (5)	1) 異文化コミュニケーションとは何か、非言語コミュニケーション? Part 1: Scene 5 (ビデオ視聴学習)
21 1) 異文化と英語教育 (異文化理解と英語教育) (4) 2) LOVE STORY (6)	1) アイデンティティと異文化間コミュニケーション、異文化間コミュニケーションの教員役割? Part 1: Scene 6 (ビデオ視聴学習)
22 1) 異文化と英語教育 (国際理解と英語教育) (1) 2) LOVE STORY (7)	1) 国際理解と英語教育、平和教育と英語教育? Part 1: Scene 7 (ビデオ視聴学習)
23 1) 異文化と英語教育 (文化と興味) (1) 2) LOVE STORY (8)	1) グローバル・インキュベーションの内部と外部事例、参加型問題解決能力の育成? Part 1: Scene 8 (ビデオ視聴学習)
24 1) 異文化と英語教育 (文化と興味) (2) 2) LOVE STORY (9)	1) 語学論と文化、発音行為、意味論と文化? Part 1: Scene 9 (ビデオ視聴学習)
25 1) 異文化と英語教育 (異文化理解と英語教育) (1) 2) LOVE STORY (10)	1) 語学論と文化、待望表? Part 2: Scene 1 (ビデオ視聴学習)
26 1) 異文化と英語教育 (異文化理解と英語教育) (2) 2) LOVE STORY (11)	1) 言語と民族、国家、エスニシティ? Part 2: Scene 2 (ビデオ視聴学習)
27 1) 異文化と英語教育 (異文化理解と英語教育) (3) 2) LOVE STORY (12)	1) 言語接触と言語変化、国際英語論と文化? Part 2: Scene 3 (ビデオ視聴学習)
28 1) 異文化と英語教育 (異文化理解と英語教育) (4) 2) LOVE STORY (13)	1) 言語権、多言語主義、言語サービス? Part 2: Scene 4 (ビデオ視聴学習)
29 1) 異文化と英語教育 (異文化理解と英語教育) (5) 2) LOVE STORY (14)	1) 言語政策、異文化理解と英語教育? Part 2: Scene 5 (ビデオ視聴学習)
30 1) 異文化と英語教育 (日本人と英語) LOVE STORY (15)	1) 日本人と英語、日本の文化と日本人の英語、英語の日本文化への影響? Part 2: Scene 6 (ビデオ視聴学習)

シラバス

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	2年次専門研究		2年次専門研究	
担当者	山本 健 Takeshi Yamamoto		対象学年	2年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

2年次ゼミは、経済の基礎を勉強します。まずは日本語能力試験の受験を想定して、前期ではテキストを利用して、日本語のブラッシュ・アップに努めます。後期では、「経済のしくみ」の基本用語の説明を行ないます。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストの輪読（音読）を中心に、課題や感想文の宿題は、必ず提出のこと。なお添削して返却します。次に、授業が1限目なので、遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。ビデオを鑑賞した際は、その感想文の提出を義務とします。

■成績評価方法・基準

提出物（課題と感想文）、討論への参加度などによる。

■授業の予習・復習

- 予習：発表者は必ず、それ以外の人も毎回、発表者のつもりになって、読んでくること。
 復習：今より上位（級）の日本語能力試験の合格をめざして、整理しておくこと。

■教科書

- ① 蛇蔵&海野凧子『日本人の知らない日本語』（メディアファクトリー、2010年）

■参考文献

- ① 蛇蔵&海野凧子『日本人の知らない日本語2』（メディアファクトリー、2010年）
- ② 岸本重陳『経済のしくみ100話』（岩波ジュニア新書145、1993年）、
- ③ 稲葉振一郎『増補 経済学という教養』（ちくま文庫、2008年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方とグループ化についての説明
2 テキストの輪読 1	3～4人の発表者による音読と質疑応答第1章「外国人の素朴な疑問」
3 テキストの輪読 2	第2章「そんな日本語使いません」
4 テキストの輪読 3	第3章「間違いない敬語」
5 テキストの輪読 4	第4章「トコロかわれば」
6 テキストの輪読 5	第5章「知られざる仮名の過去」
7 テキストの輪読 6	第6章「世界の漢字」
8 テキストの輪読 7	第7章「標準語について」
9 テキストの輪読 8	第8章「日本のルール」
10 テキストの輪読 9	第9章「日本語学校にて」
11 テキストの輪読10	第10章「日本いいクニ」
12 日本語の習熟度テスト①	敬語について
13 日本語の習熟度テスト②	外来語について
14 日本語の習熟度テスト③	文法について
15 前期のまとめ	小試験とその解説、夏休みの課題（作文）について
16 経済のテキストの輪読 1	個別的な課題についての意見交換
17 テキストの輪読 2	3～4人の発表者による音読と質疑応答円高と円レート
18 テキストの輪読 3	円高不況
19 テキストの輪読 4	円高差益
20 テキストの輪読 5	貿易摩擦と日米中経済摩擦
21 テキストの輪読 6	貿易黒字と貿易赤字
22 テキストの輪読 7	国際化と海外投資、そして産業空洞化
23 テキストの輪読 8	内需拡大と外需依存
24 テキストの輪読 9	プラザ合意の意味
25 テキストの輪読 10	赤字国債と税制改革
26 テキストの輪読 11	高齢者社会
27 テキストの輪読 12	金融の自由化と低金利時代
28 テキストの輪読 13	カード社会とサラ金
29 テキストの輪読 14	不動産の高騰と恐慌（バブル）
30 後期のまとめ	「強欲的な」経済社会の美態の解説と意見交換

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	キャリアデザイン1	キャリアデザイン1	キャリア基礎教養 I		キャリア基礎教養 I	
担 当 者	キャリアセンター <i>Carrior Center</i>		対象学年	1年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本文化、日本の常識、ビジネス社会に必要な言葉遣い、マナー、ビジネス文書記述、およびプレゼンテーション力を学びます。就職活動においても有意義な内容になっています。

■授業の進め方（履修条件等）

日本の社会での常識を積極的に学びたい人。聴く、書く、まとめる、話す、立ち振る舞う、等々を実践的に行動に移す講座です。

■成績評価方法・基準

定期試験・授業内小テスト・レポート及びその他の課題をもとに採点します。

■授業の予習・復習

講師からの課題は、事前に必ず準備しておいてください。また講義終了後に配布したプリントには必ず目を通しファイリングして下さい。

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

その都度紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ビジネス最新線と授業のねらいを説明します。
2	ビジネスマナーとは	「知らなかった」では済まされない「知る」ことの必要性、重要性の講義をします。
3	ビジネスマナーの基本	第一印象の重要性と身だしなみについて
4	言葉遣い ①	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方について
5	言葉遣い ②	言葉遣いの間違いについて
6	ビジネス文書 ①	文書の基本と作成手順について
7	ビジネス文書 ②	文書の作成を実践します。
8	電子メールの基本	メールの基本、ルールとマナーについて
9	電話のかけ方と訪問の仕方	電話対応の基本について講義をします。
10	自己紹介の仕方	プレゼンテーションの仕方について
11	面接の対応 ①	自己PRについて考えてみます。
12	面接の対応 ②	志望動機について考えてみます。
13	面接の対応 ③	グループディスカッションについて考えてみます。
14	ビジネスマナーの訓練	マナーの実践
15	まとめ	いままでの講義について振り返りと質疑応答します。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	キャリアデザイン2	キャリアデザイン2	キャリアデザイン基礎 I			
担 当 者	キャリアセンター <i>Carrior Center</i>		対象学年	1年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

先入観や自分に縛られた将来像から脱却し、環境変化や自分の成長を入れ、選択肢を広げる。ツールとしてコンビニエンスストアを素材としたソフトを使用します。

■授業の進め方（履修条件等）

グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答をファシリテートしていく形進行していきます。シュミレーション教材を使用し、情報活用、合意形成、意思決定など今の社会で必要とされているスキルを体験プログラムの中で身につけていきます。

- ・3年生を優先します。(定員80名)
- ・履習申し込みはキャリアセンターとします。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題グループごとの相互評価と自己評価を成績評価に加味します。

■授業の予習・復習

前回講義のワークシート作成

■教科書

マイキャリアカードビジネスシュミレーション、コンビニmodel、ワークシート

■参考文献

得になし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	ビジネスシュミレーション講座の進め方
2	行動へのキャリアデザイン	なぜ今キャリアデザイン？
3	MYキャリアカード	キャリア占いゲーム編
4	MYキャリアデザインシート ①	自分資源探索編
5	MYキャリアデザインシート ②	ワークスタイル読解編
6	求人情報からみた企業データ	求人情報読解編
7	コンビニmodelシュミレーション ①	買う側から売る側への視点転換
8	コンビニmodelシュミレーション ②	データから絵を読む情報読解
9	コンビニmodelシュミレーション ③	仮説・検証・修正の実践
10	コンビニmodelシュミレーション ④	欲しい情報を引き出す質問
11	コンビニmodelシュミレーション ⑤	自分リソース活用との重ね合わせ
12	志望企業調査 ①	エントリーシートの作成 ①
13	志望企業調査 ②	エントリーシートの作成 ②
14	調査発表 ①	プレゼンテーション、振り返り ①
15	調査発表 ②	プレゼンテーション、振り返り ②

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	キャリアデザイン3		キャリアデザイン基礎Ⅱ	
担 当 者	キャリアセンター Carrior Center		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

1年次に履習したキャリア特殊1の2年生向け授業です。就業力向上・社会化の推進に向けて、社会情勢・就職活動の実態の理解や社会人へのインタビュー等を通じ、社会を知ると同時に自己理解を促します。また、講座を通じ幅広いコミュニケーション能力及び主体性の向上をはかります。

■授業の進め方（履修条件等）

具体的事例を取り入れながら、裏付けとなる理論、考え方を解説し座学と実践演習を併用して進めていきます。
・2年生を優先します。（定員60名）
・履習申し込みはキャリアセンターとします。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題により判断します。

■授業の予習・復習

講師より出題された課題は事前に準備をしておいてください。

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

その都度紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス「社会を知る」ことの重要性	導入 動機づけ 現状把握
2	業界動向と就職活動の実態	業界動向 就職活動の実態 就職活動の流れ
3	興味を知る	興味ある職業領域・職業分類について目途を付ける
4	コミュニケーション① 〈社会人と接する／質問する〉	マナー 質問の仕方
5	ゲストスピーチ① 幅広いジャンルより選定	生き様に学ぶ
6	ゲストスピーチ② 実績ある企業人より選定	生き様に学ぶ
7	コミュニケーション② 〈レポート作成の基礎〉	レポート作成
8	OB／OGスピーチ①	生き様に学ぶ
9	OB／OGスピーチ②	生き様に学ぶ
10	コミュニケーション③ 〈インタビューの基礎〉	インタビュー
11	コミュニケーション④ 〈プレゼンテーションの基礎〉	プレゼンテーション
12	発表会	グループ発表
13	自己棚卸・自己理解	タイプの類型と目標
14	活動計画①	1回～7回まとめ
15	活動計画②	8回～13回まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	キャリアデザイン4		キャリアデザインⅠ	
担 当 者	キャリアセンター Carrior Center		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

PBL (Problem Based Learning：課題解決型) の授業。ビジネスシーンでの課題に向き合うことで、働くことの厳しさ、やりがいを少しでも感じてもらうことが目標です。自分に関する情報、企業など目標に対する情報、それらをとりまく社会に関する情報の3情報の収集の仕方、分析の仕方を学び、それらで発掘できた自分自身のリソースを活用した自分提案のトレーニングは、就活力向上に直結します。

■授業の進め方（履修条件等）

5～6名程度のグループワーク（最大15グループ程度）で授業を進めます。それぞれのグループ毎にディスカッション、意見をまとめ、プレゼンテーションをします。
・3年生を優先します（定員80名）。
・履修申し込みは、キャリアセンターとします。

■成績評価方法・基準

出席、レポート、授業取組姿勢などで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

授業内に指示します。

■教科書

授業内で資料などを配布します。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	Time Table、授業への取り組み方
2	事例1（A社の紹介）	課題提示と状況の推測、課題分析
3	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認
4	インタビュー	社員の方からのヒアリング
5	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表
6	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表
7	プレゼンと評価	社員の方向けに発表
8	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案
9	事例2（B社の紹介）	課題提示と状況の推測、課題分析
10	分析内容のプレゼン	分析内容の共有、視点確認
11	インタビュー	社員の方からのヒアリング
12	問題分析とプレゼン	ヒアリングを受けて課題分析と発表
13	ソリューション企画	課題解決策の立案と発表
14	プレゼンと評価	社員の方への発表
15	再企画	社員の方からの評価を受けて、再立案

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	キャリア特殊1					
担 当 者	キャリアセンター <i>Carrior Center</i>		対象学年	1年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

入学時より充実した学生生活を過ごすことがなぜ重要なのか、大学生活と卒業後の社会生活がどのように結びついているのかを学びます。最終的には、卒業後に目標とする人物像（ロールモデル）を作成し、主体的な学生生活を過ごす姿勢を身につけることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

20名前後のゼミ方式で、グループワークを中心に授業を進めます。それぞれのグループ（ゼミ）でワイワイガヤガヤとディスカッションをします。

■成績評価方法・基準

提出物の内容、併せて受講態度を加味して総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習・復習：講師より出題された課題は事前に準備をしておいて下さい。

■教科書

必要に応じて、プリント等を配布致します。

■参考文献

その都度、紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	4月	キャリアとは 《全体講義》
2	4月	コミュニケーションの基礎 ①～自分を語ろう・相手を知ろう～
3	5月	コミュニケーションの基礎 ②～姿勢・動作・表情の基礎を知ろう～
4	5月	コミュニケーションの基礎 ③～話し方の基本・話し方の違いによる違いを知ろう～
5	6月	ゲスト・スピーカー 《全体講義》
6	6月	ビジョンボードを創ろう 《少人数制クラスでのファシリテーション》
7	6月	チバイチバンカ《チ》 チームワーク ①
8	7月	チバイチバンカ《チ》 チームワーク ②
9	7月	チバイチバンカ《バ》 バイタリティ ①
10	7月	チバイチバンカ《バ》 バイタリティ ②
11	9月	チバイチバンカ《イ》 イノベーション
12	9月	チバイチバンカ《チ》 知識
13	9月	チバイチバンカ《バ》 バランス感覚
14	9月	チバイチバンカ《ん》 気づき notice
15	9月	まとめ コンピテンシーモデルの作成

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	海外語学研修 I	海外語学研修 I	海外語学研修 I		海外語学研修 I	
担 当 者	国際教務委員会 <i>Kyoumu linkai</i>		対象学年	1年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

- ①英語力または中国語力の向上
- ②研修先の国（アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国）の社会に関する文化理解の増進

■授業の進め方（履修条件等）

- ①事前の勉強会に必ず出席すること
- ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること
- ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと

■成績評価方法・基準

出席70%、レポート30%で評価する。レポートは帰国後提出すること

■授業の予習・復習

研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること

■教科書

各研修実施大学が指定する教材を使用

■参考文献

■授業内容

- ①研修実施大学での語学研修
研修実施大学：ポートランド州立大学（アメリカ）、国立ウルバーハンプトン大学（イギリス）、国立ジェイムズ・クック大学（オーストラリア）、北京第二外国語学院（中国）
- ②本学での事前研修
帰国後にはレポートを提出
- ③ホームステイ先または寮（研修先により異なります）での英語による生活

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	海外語学研修Ⅱ	海外語学研修Ⅱ	海外語学研修Ⅱ	海外語学研修Ⅱ
担 当 者	国際教務委員会 <i>Kyoumu linkai</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

- ①英語力または中国語力の向上
- ②研修先の国（アメリカ・イギリス・オーストラリア・中国）の社会に関する文化理解の増進

■授業の進め方（履修条件等）

- ①事前の勉強会に必ず出席すること
- ②敬愛大学の学生であることを自覚し、責任を持って海外生活が送れること
- ③語学を積極的に学ぶ姿勢を持つこと

■成績評価方法・基準

出席70%、レポート30%で評価する。レポートは帰国後提出すること

■授業の予習・復習

研修中は、授業の予習・復習に時間を十分に当てること

■教科書

各研修実施大学が指定する教材を使用

■参考文献

■授業内容

- ①研修実施大学での語学研修
研修実施大学：ポートランド州立大学（アメリカ）、国立ウルバーハンプトン大学（イギリス）、国立ジェームズ・クック大学（オーストラリア）、北京第二外国語学院（中国）
- ②本学での事前研修
帰国後にはレポートを提出
- ③ホームステイ先または寮（研修先により異なります）での英語による生活

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	海外スクーリングⅠ	海外スクーリングⅠ	海外スクーリングⅠ	海外スクーリングⅠ
担 当 者	国際教務委員会 <i>Kyoumu linkai</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、各授業で学んだことを実際に自分の目で見て、体験することで、知識に深みをもたせることにある。この海外研修の体験を通して、国際教養の向上及び国際交流の重要性を実感することが到達目標となる。

■授業の進め方（履修条件等）

- ①敬愛大学の学生としての自覚をもった団体行動ができること。
- ②研修先の諸事情を積極的に学び、現地の人々との交流をおこなう姿勢をもっていること。

■成績評価方法・基準

出席（事前授業・研修）70%
レポート（帰国後提出）30%

■授業の予習・復習

予習：事前授業への参加。研修先に関する情報の収集。研修先の言語の勉強。
復習：研修期間に得た知識や資料の整理。レポートの充実。

■教科書

特にありません。

■参考文献

事前授業の中で紹介します。

■授業内容

- ①事前授業（90分×4回程度）
- ②研修（8日～14日程度）
- ③事後授業（90分×1回程度）
- ④研修先は、未定。5月中に学内に掲示する。
- ⑤実施期間は、夏休み・冬休み・春休みの長期休暇期間中とする。
- ⑥最低実施人数は原則として10名とする。
- ⑦引率は原則として専任教員1名。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	海外スクーリングⅡ	海外スクーリングⅡ	海外スクーリングⅡ	海外スクーリングⅡ
担 当 者	国際教務委員会 <i>Kyoumu linkai</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、各授業で学んだことを実際に自分の目で見て、体験することで、知識に深みをもたせることにある。この海外研修の体験を通して、国際教養の向上及び国際交流の重要性を実感することが到達目標となる。

■授業の進め方（履修条件等）

- ①敬愛大学の学生としての自覚をもった団体行動ができること。
- ②研修先の諸事情を積極的に学び、現地の人々との交流をおこなう姿勢をもっていること。

■成績評価方法・基準

出席（事前授業・研修）70%
レポート（帰国後提出）30%

■授業の予習・復習

予習：事前授業への参加。研修先に関する情報の収集。研修先の言語の勉強。
復習：研修期間に得た知識や資料の整理。レポートの充実。

■教科書

特にありません。

■参考文献

事前授業の中で紹介します。

■授業内容

- ①事前授業（90分×4回程度）
- ②研修（8日～14日程度）
- ③事後授業（90分×1回程度）
- ④研修先は、未定。5月中に学内に掲示する。
- ⑤実施期間は、夏休み・冬休み・春休みの長期休暇期間中とする。
- ⑥最低実施人数は原則として10名とする。
- ⑦引率は原則として専任教員1名。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ボランティア活動Ⅰ	ボランティア活動Ⅰ	ボランティア活動Ⅰ	ボランティア活動Ⅰ
担 当 者	水口 章 <i>Akira Mizuguchi</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本授業では、「ボランティア元年」といわれた阪神・淡路大震災における「まずはやってみよう！」という精神と、東日本大震災で問われた「ボランティアが持っていたい能力・スキル」について学びます。その知識をもとに、本学所在地でのボランティア活動の実施計画を立案することを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

授業形式は、講義とブレインストーミングを組み合わせたものとなります。短期課題として、稲毛地区のボランティア活動の実態をグループ調査を行います。その調査を踏まえて、実施計画を作成します。

■成績評価方法・基準

学習態度（小レポート、出席状況）40%、実施計画書の内容60%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。
復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。

■教科書

特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。

■参考文献

特に指定しません。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	ボランティア活動への期待
2	学習手法	ブレインストーミング手法とKJ法による整理
3	ボランティアの現状	現状と「抱える課題」の紹介
4	求められるボランティア像	精神・能力・スキルについて
5	自由討論	「ボランティア活動疲れ」を考える
6	ボランティア活動の実態報告1	NPO・NGO活動より
7	ボランティア活動の実態報告2	教育機関（高校、大学など）の活動より
8	ボランティア活動の実態報告3	企業の活動より
9	自由討論	「千葉県のボランティア活動の課題」について
10	実施計画作成	計画書作成方法の紹介
11	グループ作業1	ボランティア活動内容の検討
12	グループ作業2	実施計画書作成
13	グループ作業3	実施計画の自己評価
14	グループ作業4	実施計画の第三者評価
15	まとめ	実施計画の総評

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	ボランティア活動Ⅱ	ボランティア活動Ⅱ	ボランティア活動Ⅱ	ボランティア活動Ⅱ
担 当 者	山本 健 Takeshi Yamamoto		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

阪神淡路大震災が発生した1995年以降、ボランティア活動の重要性が認識されてきた。しかし依然として、①個人の意思と自発性に基づくボランティア活動と②上意下達（じょういかたつ）に基づく奉仕活動の混同が認められる。そこで、この差異を手掛かりに、ボランティアの楽しさを知り、在学中に実践活動させることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

注意！ このボランティア活動Ⅱの授業は、前期のボランティア活動Ⅰを習得した学生のみが履修登録できる授業です。

まず、「基礎」を再確認する。次に私が実践してきた中国・内蒙古での沙漠植林を紹介し、その具体的な問題点を指摘する。最後に日本（千葉市）内での身近なボランティア活動を行い、ボランティアの精神や企画力の養成に努める。

■成績評価方法・基準

まず基礎力確認テストを行います。また自から実践したボランティア活動では①レポートの提出の義務があります。また自治体を介したボランティア活動の場合には①の他に、②実践した所の証明書、③自分が活動している写真の3点を添える義務があります。

■授業の予習・復習

既存のボランティア組織で実践する場合、予約を入れる必要があるので、各自治体（市町村）の関係窓口などに、早めに登録（申し込み）しておくこと。

■教科書

金子郁容「ボランティア—もうひとつの情報社会」（岩波新書、1997年）

■参考文献

山本 茂「緑のボランティア—蒙古沙漠に行く」（ビジネス社、1995年）
 山本 健「中国内蒙古での3年間（1998～2000年）の植林ボランティア活動報告書」（『環境情報研究』（敬愛大学紀要）、第10号、2002年）
 山本 健「2002～06年の中国での植林ボランティア活動報告書」（『環境情報研究』（敬愛大学紀要）、第14号、2006年）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	金子郁容のボランティア論 ①	ボランティアについての日本での問題点
3	同 上 ②	ボランティア活動の楽しさ
4	同 上 ③	ボランティア活動との係わり方
5	私の実践活動の紹介 ①	中国内蒙古での沙漠植林活動の報告
6	同 上 ②	環境破壊問題の視点からみた日本と中国の関係
7	実践活動の紹介 ①	2011年敬愛大学東日本大震災ボランティア活動の事例
8	同 上 ②	緑の協力隊（日本沙漠緑化実践協会）の事例
9	身近なボランティア活動 ①	大学近辺
10	身近なボランティア活動 ②	JR稲毛駅近辺
11	身近なボランティア活動 ③	稲毛区役所近辺
12	中間発表（レポート提出）と意見発表 ①	学生たちが気がついた問題に対する意見交換会
13	身近なボランティア活動 ④	ボランティア活動の企画作成 ①
14	身近なボランティア活動 ⑤	ボランティア活動の企画作成 ②
15	各学生の活動点検とまとめ	学生の意見交換と総評

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国内スクーリングⅠ	国内スクーリングⅠ	国内スクーリングⅠ	国内スクーリングⅠ
担 当 者	国際教務委員会 Kyoumu linkai		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

スクーリングの国内版です。講義や演習で学習した内容を実践を通して確認していただく試みです。現在は夏休み期間中に長野県の農業大学校での実習などを検討中で、その他の企画も計画されています。教員と一緒にこの実習に参加してみましよう。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週、定期的に授業を行うわけではありません。企画毎に集中的に事前講習への参加と実習（3泊程度）、日誌・報告書の作成を求めます。経費はできるだけ抑えたいと思いますが、交通費・宿泊費・実習費などが別途必要となります。

■成績評価方法・基準

企画毎に参加者を募集し、実習への関わりと事前の講習、事後の報告書等の提出を含めて総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：事前研修には必ず参加してください。
 復習：実習中は日誌をまとめ、これを元に報告書を作成していただきます。

■教科書

使用しません。適宜、資料を配布します。

■参考文献

使用しません。適宜、資料を配布します。

■授業内容

募集期間に説明します。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国内スクーリングⅡ	国内スクーリングⅡ	国内スクーリングⅡ	国内スクーリングⅡ
担 当 者	国際教務委員会 Kyoumu linkai		対象学年	1 年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

スクーリングの国内版です。講義や演習で学習した内容を実践を通して確認していただく試みです。現在は夏休み期間中に長野県の農業大学校での実習などを検討中で、その他の企画も計画されています。教員と一緒にこの実習に参加してみましよう。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週、定期的に授業を行うわけではありません。企画毎に集中的に事前講習への参加と実習（3泊程度）、日誌・報告書の作成を求めます。経費はできるだけ抑えたいと思いますが、交通費・宿泊費・実習費などが別途必要となります。

■成績評価方法・基準

企画毎に参加者を募集し、実習への関わりと事前の講習、事後の報告書等の提出を含めて総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：事前研修には必ず参加してください。
復習：実習中は日誌をまとめ、これを元に報告書を作成していただきます。

■教科書

使用しません。適宜、資料を配布します。

■参考文献

使用しません。適宜、資料を配布します。

■授業内容

募集期間に説明します。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	敬愛プログラム		敬愛プログラム	
担 当 者	教務部委員会		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

自分で定めた目標をやり遂げる能力を高めるとともに、共同作業を通して目標を達成する経験を積む。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週定期的に授業を行うわけではない。2人以上のグループで具体的なテーマを決め、その達成目標や段取りを修学支援室に提出し、承認を受けてから一定期間内に成果を上げられるよう取り組み、成果は公表する。テーマについては、下記の例を参考にすること。

■成績評価方法・基準

公表された成果を教務部委員会が採点して評価する。

■授業の予習・復習

自分達のグループで文献や資料を調べ、調査に出かけたり、結果をまとめたりしなければならぬ。先輩や友人、先生方の助言も参考にしながら取り組んでほしい。

■教科書

使用しない。

■参考文献

テーマによって参考文献は異なる。メディアセンター等で適切な参考文献、資料を選定すること。

■授業内容

■敬愛プログラムのテーマ例

- ①千葉を知る（歴史、地理、経済、文化、環境など）
- ②大学を活性化する（教育環境、緑化、大学祭、食堂新メニュー、健康、ボランティアなど）
- ③敬天愛人講座を実践する

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本語学入門		日本語学入門	
担 当 者	長谷川 頼子 Yoriko Hasegawa		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「やり・もらい」や「敬意表現」、「方言」など、日本語社会におけるコミュニケーションに特徴的に見られる項目をとりあげ、そこに関わる文化的背景についても理解を深めます。単なる知識の詰め込みではなく、練習問題にもとり組みつつ、自分が使うことばである日本語を客観的に観察し、そのありようを探っていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず受講を歓迎します。ただし、全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。第一回の授業を休まないこと。

■成績評価方法・基準

授業（態度・提出物）30%、期末試験70%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：自分の周りの日本人、留学生が話す日本語に関心を持ちましょう。

復習：ことばの多様性と、その背景にある規則性や使い分けについて整理しましょう。

■教科書

とくに使用しません。講義時にプリントを配布します。

■参考文献

佐々木泰子（編）（2007）『ベーシック日本語教育』ひつじ書房

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明
2	総論	「日本語学」の各領域について
3	人称と視点①	「あげる・もらう・くれる」について
4	人称と視点②	授受動詞の補助動詞的用法について
5	人称と視点③	授受表現のバリエーション
6	敬語と敬意表現①	敬語と敬意表現
7	敬語と敬意表現②	敬語の五分類：尊敬語
8	敬語と敬意表現③	敬語の五分類：謙讓語Ⅰ
9	敬語と敬意表現④	敬語の五分類：謙讓語Ⅱ
10	敬語と敬意表現⑤	敬語の五分類：丁寧語・美化語
11	敬語と敬意表現⑥	敬意表現の役割と機能
12	日本語社会における言語行動①	言語行動を構成する要素
13	日本語社会における言語行動②	方言・共通語・標準語
14	日本語社会における言語行動③	話しことばの地域差
15	日本語社会における言語行動④	話しことばのダイナミズム

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本語学Ⅰ		日本語学Ⅰ	
担 当 者	長谷川 頼子 Yoriko Hasegawa		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本語教育では、日本の国語文法では通用しません。日本語を一つの外国語として扱い、理解する必要があります。そこで、教科書に出てくる多くの例文を分析的に見る作業を通じて、背後に見られる文法に対する基本的な考え方を学びます。マルチリンガルに書かれた実際の日本語教材を使って、実践的に文法を見る目を養います。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。第1週の授業を欠席しないこと、全員の発言ですすめる講義形式に協力できることが履修条件です。

■成績評価方法・基準

授業態度・提出物30%と、期末試験70%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書の指定範囲を事前に予習すること。

復習：規則としての文法、使い分けの仕組みという点から整理しておくこと。

■教科書

長谷川頼子（2009）『にほんご日記ノート』アルク

■参考文献

佐々木泰子（編）（2007）『ベーシック日本語教育』ひつじ書房
庵功雄（2001）『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	イントロダクション：日本語学とは何か
2	品詞①	日本語の品詞とはどういうものか
3	品詞②	品詞の観点から非文を分析してみよう
4	主な文型①	文とは何か、単文・複文について
5	主な文型②	構造型・表現型について
6	格①	格とは何か・必須の格・任意の格
7	格②	必須格のさまざまなパターン
8	格③	さまざまな格の使い分けについて分析する
9	活用①	学校文法の活用について復習
10	活用②	子音語幹動詞・母音語幹動詞・不規則動詞
11	活用③	日本語教育から見た動詞の活用
12	ヴォイス①	受動文のタイプ、動作主を表すマーカーについて
13	ヴォイス②	受動文のさまざまな機能について
14	ヴォイス③	使役文について
15	総まとめ	「日本語教育の影響を受けた日本語文法」を読む

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本語学Ⅱ		日本語学Ⅱ	
担 当 者	長谷川 頼子 <i>Yoriko Hasegawa</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本語学Ⅰに引き続き、外国人に日本語を教えるために必要な日本語の知識を、初級文法を中心に引き上げ解説します。日本語教科書に書かれていることを、教師の立場で理解できるようになることが目標です。マルチリンガルに書かれた日本語教材も参考にしながら、理解できたという実感を持ち、文法に対する自信をつけます。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。日本語学Ⅰを履修していることが望ましいです。

■成績評価方法・基準

授業（態度・提出物）30%、期末試験70%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書の指定範囲を事前に学習すること。
復習：規則としての文法、使い分けの仕組みという観点から整理しておくこと。

■教科書

長谷川頼子（2009）「にほんご日記ノート」アルク

■参考文献

佐々木泰子（2007）「ベーシック日本語教育」ひつじ書房
庵功雄（2001）「新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える」スリーエーネットワーク

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス、イントロダクション	日本語学Ⅰの総括、日本語学Ⅱの概要・進め方・評価について説明
2	テンス①	「テンス」とは何か、ル形とタ形
3	テンス②	複文におけるテンス
4	テンス③	テンスの特別な用法をめぐって
5	テンス④	文章におけるテンス
6	さまざまな文末表現①	可能的表現について
7	さまざまな文末表現②	自発の表現について
8	さまざまな文末表現③	依頼・勧誘の表現
9	さまざまな文末表現④	命令の表現
10	さまざまな文末表現⑤	許可・禁止の表現
11	さまざまな文末表現⑥	義務の表現
12	接続表現①	「バ」と「タラ」について
13	接続表現②	「バ」と「タラ」と「ト」について
14	接続表現③	「ナラ」について
15	接続表現④	「バ」「タラ」「ト」「ナラ」の総まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本文化論	日本の文化とこども	日本の文化Ⅰ/日本の文化Ⅱ	日本の文化と子ども
担 当 者	畑中 千晶 <i>Chiaki Hatanaka</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「花札」に描かれた図柄を切り口として、日本文化の諸相を探究していく（文学、演劇、絵画、工芸、宗教など）。まず古典世界のコードを学び、次にそのコードを用いて読み解くことのできる具体例について学ぶ。最終的には、身近な生活の中に息づく伝統文化を自ら見出せるようになることが到達目標である。

■授業の進め方（履修条件等）

パワーポイント、DVD等の映像資料を多用する。古典芸能の視聴（解説付）なども含まれるので、留学生の場合は、日本語能力試験N1（1級）程度の日本語力が不可欠である。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：Eラーニングを用いて、授業内容に関連したWebサイト等に目を通す。
復習：Eラーニングを用いて、学習内容に関する意見交換を行う。

■教科書

毎回、レジュメと複数の資料を配布する。これらが教科書の代わりとなるので、必ずファイリング管理すること。

■参考文献

加藤周一『日本文学史序説 上・下』ちくま学芸文庫
青木美智男『全集 日本の歴史 別巻 日本文化の原型』小学館

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	日本文化について考える方法
2	「正月 松」	黄山VTR、松のめでたさ・霊力
3	「二月 梅」	菅原道真、飛梅伝説
4	「二月 梅」	天神信仰、文楽『菅原伝授手習鑑』
5	発展項目	絵を読む（紅白梅図 映像視聴）
6	「三月 桜」	桜のイメージの両義性
7	「三月 桜」	禁忌の恋…『源氏物語』『菅原伝授手習鑑』
8	「四月 藤」	藤のデザインと季節感の演出
9	「五月 あやめ」	『伊勢物語』と琳派の絵
10	「六月 牡丹」	蕪村の愛した牡丹、漢詩と俳句
11	「七月 萩」	猪はポエティックな動物
12	「八月～十二月」 十二月月観	十二月の札に季節感のズレがある理由
13	発展項目	ことば遊び、浮世絵に見る遊び
14	発展項目	こどもが伝える日本文化、伝統的な遊びなど
15	発展項目	こどもを取り巻く日本文化、江戸の絵本

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本文化論	日本の文化とこども	日本の文化Ⅰ/日本の文化Ⅱ	日本の文化と子ども
担 当 者	滝口 正哉 Masaya Takiguchi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この講義では、現代の日本において「日本らしさとは何か」を考えるときのキーワードとなる江戸時代の文化と社会に注目し、「日本らしさ」のルーツを歴史から紐解いてみたいと思います。具体的には、江戸の年中行事や風俗習慣と、その背景にある家のあり方を把握し、これらが現在にどのように受け継がれたのかを考えていく予定です。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントをもとに講義形式で進めていくが、受講者にも適宜指名して日本文化についてともに考えていきたい。なお、年末に実地見学を行う予定である。

■成績評価方法・基準

定期試験50%、平常点50%

■授業の予習・復習

それまでの講義内容をふまえて話を進めていくので、復習をしっかりとっておくことが求められる。

■教科書

特に教科書は指定しないが、毎回プリントを配布する。

■参考文献

随時紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 鎖国時代と都市江戸	鎖国時代の4つの窓口と江戸の地域的特質
2 江戸時代の暦	太陰太陽暦と大小暦、時刻法など
3 江戸の年中行事(1)～正月～	正月の年中行事や風習について
4 江戸の年中行事(2)～2・3月～	節分や上巳の節句などについて
5 江戸の年中行事(3)～4・5月～	花見や端午の節句などについて
6 江戸の年中行事(4)～6・7月～	山王祭・七夕・盆などについて
7 江戸の年中行事(5)～8・9・10月～	重陽の節句・月見・神田祭などについて
8 江戸の年中行事(6)～11・12月～	ふいご祭・酉の市・歳の市などについて
9 江戸のまじないと俗信(1)	願掛けについて
10 江戸のまじないと俗信(2)	瘡瘡(天然痘)と麻疹(はしか) 対策について
11 文明開化と江戸東京(1)	江戸東京の都市計画について
12 文明開化と江戸東京(2)	生活用品・食文化の西洋化について
13 文明開化と江戸東京(3)	風俗習慣の西洋化について
14 家と家族(1)	江戸の家族構成について
15 家と家族(2)	氏と家紋について

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	比較文学	比較文学	比較文学	
担 当 者	畑中 千晶 Chiaki Hatanaka		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

異文化接触が人の精神・考えにどのような影響を及ぼすのか、具体的な材料に基づいて語れるようになることが到達目標です。この講義では、比較文学の方法論を用いて、①日本の作家が英米文化をどのように理解し受容したのか、②来日外国人が日本文化をどのように理解し受容したのか、この両面から検討を行います。

■授業の進め方（履修条件等）

「比較文学」という学問の性質上、講義で用いる日本語レベルは高度なものとなります。留学生の場合には、日本語能力試験N1(1級)取得者であるか、もしくはそれに相当する日本語理解力が必要です。

■成績評価方法・基準

クラスで指示した課題への取り組み(50%)、期末試験(50%)

■授業の予習・復習

予習: 配布資料に目を通す。

復習: 指定の形式でノートを整理し、学習内容について再考する時間を持つ。

■教科書

配付資料を用いる。

■参考文献

秋山正幸/榎本義子編(2005)『比較文学の世界』南雲堂

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	講義の進め方、ノートの取り方など
2 総論1	比較文学とは
3 総論2	影響研究と対比研究
4 総論3	文学と他の芸術
5 総論4	越境する文学
6 夏目漱石におけるイギリス1	略年譜、留学時代について
7 夏目漱石におけるイギリス2	『カーライル博物館』の読解と分析
8 夏目漱石におけるイギリス3	『倫敦塔』の分析、印象派の絵画との対比
9 有島武郎におけるアメリカ1	略年譜、父の存在、キリスト教との出会い
10 有島武郎におけるアメリカ2	留学時代、ホイットマン
11 有島武郎におけるアメリカ3	『或る女』『カインの末裔』のあらすじ、分析
12 ラフカディオ・ハーンの本1	略年譜、文化的混淆、マイノリティの自覚
13 ラフカディオ・ハーンの本2	『怪談』『耳なし芳一』『雪女』(映像視聴・原文読解)
14 ラフカディオ・ハーンの本3	新たに植え直された伝説
15 まとめ	学習内容の整理、補足項目等

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	言語学入門		言語学入門	
担 当 者	黄 麗華 Ko Reika		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本語教育を視野に入れながら、言語全般に関する基本的な知識の理解・習得を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には講義形式であるが、適宜さまざまな練習問題を解くことで理解を深めていく。留学生で受講を希望する者は、日本語能力試験 2 級相当の日本語力を必要とするので、注意すること。

■成績評価方法・基準

定期試験 7 割、平常点 3 割。3 回以上欠席した者、または受講態度の良くない者は評価から外す。遅刻も認めない。

■授業の予習・復習

予習：授業時に指示する。復習：授業時に指示する。

■教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

■参考文献

授業時に適宜紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	概要
2 音声学 1	人間の発する音声について その 1
3 音声学 2	人間の発する音声について その 2
4 音韻論 1	日本語で使われる音の概要
5 音韻論 2	アクセントやイントネーション
6 形態論 1	日本語の単語を中心に その 1
7 形態論 2	日本語の単語を中心に その 2
8 統語論 1	日本語の文法を中心に その 1
9 統語論 2	日本語の文法を中心に その 2
10 意味論 1	ことばや表現の意味について考える その 1
11 意味論 2	ことばや表現の意味について考える その 2
12 意味論 3	ことばや表現の意味について考える その 3
13 文字論 1	日本語の文字を中心に
14 文字論 2	世界の文字
15 まとめ	総まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	心理言語学		心理言語学	
担 当 者	黄 麗華 Ko Reika		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

人間はことばを用いてどのようにコミュニケーションを図るのか、その様々な側面を理解する。また、言語的/非言語的コミュニケーションや異文化間コミュニケーションなども考慮に入れ、人間とことばについて総合的に考える。

■授業の進め方（履修条件等）

基本的には講義形式であるが、適宜さまざまな資料を読んだり、グループワークを行ったりしながら理解を深める。留学生で受講を希望する者は、日本語能力試験 2 級相当の日本語力を必要とするので、注意すること。

■成績評価方法・基準

定期試験 7 割、平常点 3 割。3 回以上欠席した者、または受講態度の良くない者は評価から外す。遅刻も認めない。

■授業の予習・復習

予習：授業時に指示する。復習：授業時に指示する。

■教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

■参考文献

授業時に適宜紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	概要
2 言語的コミュニケーション 1	記号とことば
3 言語的コミュニケーション 2	言語の特徴
4 言語的コミュニケーション 3	コミュニケーションの諸相
5 言語的コミュニケーション 4	言語的コミュニケーション
6 言語的コミュニケーション 5	非言語的コミュニケーション
7 異文化間コミュニケーション 1	コンテキストについて
8 異文化間コミュニケーション 2	言語運用能力について
9 異文化間コミュニケーション 3	会話の公準
10 異文化間コミュニケーション 4	異文化接触 1
11 異文化間コミュニケーション 5	異文化接触 2
12 バイリンガリズム 1	バイリンガリズムの基礎
13 バイリンガリズム 2	ダイグロシアについて
14 バイリンガリズム 3	中間言語について
15 バイリンガリズム 4	国家レベルで見た中間言語の形成

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本語教授法 I		日本語教授法 I	
担 当 者	稲村 すみ代 Sumiyo Inamura		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

第二言語としての日本語を日本語を母語としない学習者に教授する方法の基礎を学びます。日本語教育とは何か、言語教育の基礎など、基本的なことから理解と、日本語教育の実際について、学習し、「ことばを学ぶ」「ことばを教える」とは、どのようなことなのかを知り基礎を固めていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語を母語としない人へ日本語を教えてみようと思う人、ことなる母語話者とのコミュニケーションをことばの面から深めてみたい人を歓迎します。双方向授業中心であるため、積極的に授業に参加できる学生を対象とします。

■成績評価方法・基準

授業（態度・発表・提出物）40%
期末試験・期末レポート60%

■授業の予習・復習

予習：日本人学生留学生とも、基礎的な日本語力を確認し、コミュニケーション能力の向上に努めること。
復習：日本語教育とは何か、教師の資質役割は何かを常に意識し、第二言語（外国語）としての日本語を教えるとはどのようなことか、整理します。

■教科書

授業中、必要に応じてプリントを配布します。

■参考文献

清水義昭（2005）『概説日本語学・日本語教育』おうふう
小島聡子（2002）『日本語の教え方』アルク
水谷信子（1997）『日本語教育概論』放送大学教育振興会

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	講義の概要。進め方。評価についてイントロダクション。ラポール形成
2	日本語の特色①	第二言語としての日本語。日本語教育の概要
3	日本語の特色②	日本語教師に必要な条件。資質。日本語力確認
4	日本語の特色③	国語教育、外国語教育との比較。対照言語学の基礎
5	日本語教育の現状と問題点①	日本国内の現状と問題点について
6	日本語教育の現状と問題点②	海外事情①中国・韓国・アジア諸国
7	日本語教育の現状と問題点③	海外事情②米欧諸国
8	コースデザイン①	コースデザインとは何か
9	コースデザイン②	ニーズとレディネス、カリキュラム
10	コースデザイン③	さまざまなシラバスの種類
11	授業計画・教案①	教案について 市販の教科書付属教案。教案の作成
12	授業計画・教案②	日本語の授業、授業案と実際
13	教材①	日本語教育における教材・教具
14	教材②	教材開発について 初級・中級・上級の教科書
15	総まとめ	日本語教育のまとめ。用語整理。

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本語教授法 I		日本語教授法 I	
担 当 者	長谷川 頼子 Yoriko Hasegawa		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

外国人に日本語を教えることの基本的な知識を学びます。国内・世界各国別にみた日本語教育の現状を紹介した上で、「日本語を教える」とは何をすることなのか、実例を挙げながら詳しく解説し、「ことばの教え方」を学ぶための基礎をしっかりと築きます。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず受講を歓迎します。全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。第一回の授業を休まないこと。

■成績評価方法・基準

授業（態度・提出物）30%、期末試験70%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：日本人・留学生が互いの日本語に関心を持ち、積極的にコミュニケーションしよう。
復習：「外国語としての日本語」に対する自分なりの見方を培うつもりで内容を整理しよう。

■教科書

とくに使用しません。講義時にプリントを配布します。

■参考文献

佐々木泰子（2007）『ベーシック日本語教育』ひつじ書房
石田敏子（1995）『入門日本語教授法』大修館書店

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス・イントロダクション	講義の概要・進め方・評価について説明
2	日本語教育の特色①	日本語教育の概要
3	日本語教育の特色②	日本語教師に必要な要件
4	日本語教育の特色③	国語教育や外国語教育との比較
5	日本語教育の現状と問題点①	日本国内の現状と問題点について
6	日本語教育の現状と問題点②	海外事情①：中国・韓国・アメリカ
7	日本語教育の現状と問題点③	海外事情②：アジア諸国について
8	コースデザイン①	コースデザインとは何か
9	コースデザイン②	ニーズとレディネス
10	コースデザイン③	さまざまなシラバスの種類
11	授業計画・教案①	教案作成について
12	授業計画・教案②	日本語の授業について
13	教材①	日本語教育における教材・教具
14	教材②	教材開発について
15	総まとめ	学習した用語の整理

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本語教授法Ⅱ		日本語教授法Ⅱ	
担 当 者	稲村 すみ代 Sumiyo Inamura		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「日本語教授法Ⅰ」に引き続き、さまざまな外国語教授法を紹介し、具体的な指導の方法を検討します。学習段階を知り、段階に応じた教授方法を考察します。クラスアクティビティの実践を通して、学習活動教室活動の方法を学び、第二言語としての日本語を教えるための知識を深めていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語教授法Ⅰを受講していることが望ましい。日本語を教えることに興味意欲を持ち、日本語を母語としている人と、そうでない人のコミュニケーションに関心を持つ学生を歓迎します。双方向で行われる授業であるため、授業に積極的に参加できる学生を対象とします。

■成績評価方法・基準

授業（態度・提出物・発表）40% 期末試験レポート60%

■授業の予習・復習

予習：自分自身の外国語学習経験を思い出し、どのように外国語を身につけてきたのかを整理しておきましょう。

復習：さまざまな教授法をまとめ、学習活動の種々相を整理しましょう。

■教科書

必要に応じて、プリントを配布します。

■参考文献

鎌田修（編）（1996）『日本語教授法ワークショップ』凡人社
日本語教育学会（編）（1995）『タスク日本語教授法』
寺田和子（他）『日本語の教え方ABC』アルク

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について・イントロダクション。ラポール形成
2	外国語教授法①	オーディオリンガル・メソッド他
3	外国語教授法②	ダイレクトメソッド（直接法）、TPR他
4	外国語教授法③	心理学の影響を受けた教授法 サジェストベディア他
5	外国語教授法④	ナチュラル・アプローチ コミュニカティブ・アプローチ CLL他
6	外国語教授法⑤	日本語教育と異文化トレーニング
7	学習活動①	段階別教授法 初級・中級・上級・段階のシラバス（学習項目）
8	学習活動②	初級レベルの教材と指導。文型積み上げ法
9	学習活動③	中級レベルの教材と指導。四技能の指導
10	学習活動④	上級レベルの教材と指導。生教材
11	学習活動⑤	日本事情、その他の指導。超上級。
12	日本語教育評価法①	テストの種類、テストの妥当性・信頼性
13	日本語教育評価法②	テストの諸形式
14	教授法と教材	視聴覚教材、コンピュータ教材の扱い方
15	総まとめ	各教授法の整理。段階別教授法のまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本語教授法Ⅱ		日本語教授法Ⅱ	
担 当 者	長谷川 頼子 Yoriko Hasegawa		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「日本語教授法Ⅰ」に引き続き、さまざまな外国語教授法を紹介して具体的な指導の方法を検討します。それを通して、「外国語としての日本語」を教えることに、むきあうことが目標です。教材や評価法についても取り上げ、日本語教育の基礎的知識をしっかりと身につけ、次のステップへつなぎます。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生なら学年を問わず歓迎します。全員の発言で進める講義形式に協力できることが履修条件です。日本語教授法Ⅰを履修していることが望ましいです。

■成績評価方法・基準

授業（態度・提出物）30%、期末試験70%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：自分の外国語学習経験を思い出しましょう。教師はどんな教え方をしていましたか？

復習：留学生に日本語学習経験を聞いて、教授法を具体的にイメージしてみよう。

■教科書

とくに使用しません。講義時にプリントを配布します。

■参考文献

佐々木泰子（2007）「ベーシック日本語教育」ひつじ書房

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明、イントロダクション
2	外国語教授法各論①	G T方式～直説法
3	外国語教授法各論②	オーラル・メソッド～アーミー・メソッド
4	外国語教授法各論③	構造言語学の影響を受けた教授法
5	外国語教授法各論④	心理学の影響を受けた教授法
6	外国語教授法各論⑤	ナチュラル・アプローチ
7	外国語教授法各論⑥	コミュニケーション・アプローチ
8	学習活動①	3つのレベルと学習項目
9	学習活動②	初級の指導
10	学習活動③	中級の指導
11	学習活動④	上級の指導
12	日本語教育評価法①	テストの種類、テストの妥当性・信頼性
13	日本語教育評価法②	テストの諸形式について
14	日本語教育評価法③	平均・分散・標準偏差について
15	総まとめ	各教授法、用語の整理

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	政治学概論 I	政治学概論 I	政治学概論 I	
担 当 者	榎田 久代 Hisayo Kushida		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

世の中を知り考えるための一つの方法論として政治学を学びます。授業では、政治学の基礎概念や政治の仕組みについての理論に重点を置いています。そして、この授業を通して、国家内部においてだけでなく国民国家を超える国際政治の領域において、政治がどのように作用しているのかを理解することを目的にしています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布したプリントを中心に進めていきます。時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で授業を進めます。学則では、単位取得のためには、原則として3分の2以上の出席が履修条件です。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%により総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習として心がけてほしいのは、日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。復習としては、授業でわからなかったことを自分で調べ、ノートに整理することを試みて下さい。

■教科書

指定無し。

■参考文献

久米郁男他編『政治学（New Liberal Arts Selection）補訂版』（有斐閣、2011年）他。
参考文献は、3階メディアセンターの「指定図書」榎田コーナーにあります。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 政治を見る目	日本政治の今
2 国家について（1）	権力と国家
3 国家について（2）	国家
4 ナショナリズム（1）	国民国家とナショナリズム
5 ナショナリズム（2）	民族のナショナリズム
6 ナショナリズム（3）	ビデオ鑑賞
7 民主政治（1）	民主政治の起源
8 民主政治（2）	民主政治の発達
9 民主政治（3）	民主政治の定義をめぐって
10 選挙（1）	選挙制度
11 選挙（2）	選挙制度改革
12 政治組織（1）	政党制
13 政治組織（2）	政党変遷の流れ
14 政治組織（3）	利益集団
15 まとめ	現代の日本政治

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本史概論 I		日本史概論 I	
担 当 者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では、教員として歴史の授業が担当できるようになるために、古代・中世の基礎的な知識と指導法を身に付けることをねらいとする。各単元の基礎的な歴史用語や、歴史の流れを理解すること、そしてそれを授業で教える工夫ができるようになることを目標としている。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、最初に小テストを実施。その後、各単元をまとめたプリントに基づき、歴史の流れを解説する。またその際に、指導上の留意点なども解説する予定である。学習した単元については、指導案と板書ノートを作成すること。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、小テスト（25%）、指導案・板書ノート（25%）

■授業の予習・復習

予習：高校時代の教科書・史料集などを読んでおくこと
復習：小テストに備えて歴史用語の暗記、指導案・板書ノートの作成

■教科書

『詳説日本史図録』（山川出版）

■参考文献

『日本史用語集』（山川出版）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、指導案の書き方
2 第1講 日本文化の黎明	旧石器時代～弥生時代
3 第2講 古代国家の成立	ヤマト政権
4 第3講 古代国家の確立	推古朝の政治～持統朝の政治
5 第4講 律令国家（1）	律令制度
6 第5講 律令国家（2）	奈良時代
7 第6講 王朝国家（1）	律令国家の再建、摂関政治
8 第7講 王朝国家（2）	荘園制、武士の成長、院政
9 第8講 古代の文化	飛鳥文化、白鳳文化、天平文化、弘仁貞観文化、国風文化、院政期文化
10 第9講 武家政権の成立	鎌倉幕府の成立、執権政治
11 第10講 武家社会の成長	鎌倉時代の社会経済、元寇、幕府の衰退
12 第11講 武家社会の発展	建武の新政と南北朝の動乱、室町幕府と守護大名
13 第12講 武家社会の変質（1）	東アジア諸国との通交関係、惣村と土一揆
14 第13講 武家社会の変質（2）	戦国大名、国一揆・一向一揆
15 第14講 中世の文化	鎌倉文化、北山文化、東山文化、戦国期文化

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	日本史概論Ⅱ		日本史概論Ⅱ	
担 当 者	小山 幸伸 Yukinobu Koyama		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では、教員として歴史の授業を担当できるようにするために、近世・近代の基礎的な知識と指導法を身に付けることをねらいとする。各単元の基礎的な歴史用語や、歴史の流れを理解すること、そしてそれを授業で教える時の工夫などを考えることができるようになることを目標としている。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、最初に小テストを実施。その後、各単元をまとめたプリントに基づき、歴史の流れを解説する。またその際に、指導上の留意点なども解説する予定である。学習した単元については、指導案と板書ノートを作成すること。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、小テスト（25%）、指導案・板書ノート（25%）

■授業の予習・復習

予習：高校時代の教科書・史料集などを読んでおくこと
 復習：小テストに備えて歴史用語の暗記、指導案・板書ノートの作成

■教科書

『詳説日本史図録』（山川出版）

■参考文献

『日本史用語集』（山川出版）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	第15講 近世社会の成立	ヨーロッパ人の来航、織豊政権
2	第16講 幕藩体制の成立	江戸幕府の成立、鎖国
3	第17講 幕藩体制の確立	文治政治、産業の発展
4	第18講 幕藩体制の動揺	三大改革、欧米の接近
5	第19講 近世の文化	安土桃山文化、寛永文化、元禄文化、化政文化
6	第20講 幕藩体制の崩壊	開国、幕末の政局
7	第21講 近代国家の形成	明治維新、初期外交、富国強兵・殖産興業
8	第22講 近代国家の確立	自由民権運動、憲法制定
9	第23講 立憲国家の展開	政党と藩閥、日清戦争
10	第24講 大日本帝国の成立	日露戦争、日本資本主義の確立
11	第25講 第1次世界大戦と日本	大正政変、護憲体制
12	第26講 ワシントン体制と日本	ワシントン会議、大正デモクラシー
13	第27講 大日本帝国の崩壊	満州事変、日中戦争、太平洋戦争
14	第28講 戦後の日本	戦後改革、経済復興
15	第29講 近代の文化	明治・大正・昭和の文化

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	世界史概論Ⅰ		世界史概論Ⅰ	
担 当 者	山本 健 Takeshi Yamamoto		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

概論Ⅰでは文明の発生から1500年頃のルネサンス期までを学習する。

洋の東西を問わず、古代から中世までの歴史の流れを大雑把に捉えれば、それは各時代に存在した孤立・特殊文化が様々な政治・経済的な契機で融合していく過程である、といえる。しかも①各文明は宗教をまとった宗教国家である点で共通していた。この宗教国家から、②宗教と世俗権力との闘争を経て世俗国家が準備された。この2点の構造や変質過程を明らかにしてみたい。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は高校時代の『世界史』の教科書に沿って行う。また事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。

■成績評価方法・基準

試験そして質問シートの提出状況などで評価。原則として、出席率が規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。

■授業の予習・復習

予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。
 復習：受講後、質問シートを再検討すること。

■教科書

毎回配布するプリント

■参考文献

『詳説世界史』（山川出版）、『世界史用語集』（山川出版）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	世界の歴史の発展過程	四大文明の特徴（共通点と相違点）
3	旧約聖書の世界	古代オリエントと旧約聖書の内容
4	東地中海世界	古代ギリシアの都市国家、その特徴（古代民主制）とその限界
5	全地中海世界の誕生	領土の拡大に伴う分割統治、共和制から帝政（専制）の出現
6	キリスト教の成立と発展	キリスト教の国教化（政治利用）と寛容度を失うキリスト教の誕生
7	西洋古代世界の没落	4世紀ゲルマン民族移動の意義、古代帝国崩壊の原因（一元的価値）
8	イスラム世界 ①	宗教権力と世俗権力の一体化した宗教国家から聖俗分離国家へ
9	イスラム世界 ②	十字軍の攻撃とモンゴル人の侵入
10	モンゴル帝国の出現とその意義	民族の統一と征服運動
11	元の成立と中国支配	東西交易の活性化に伴う人物の往来の意義
12	ヨーロッパ西欧世界の形成	カール大帝の登場と東ローマからの自立（西欧世界の成立）
13	西欧封建制社会の発展	森林開墾と定着農業の普及に伴う分権的な社会の出現—封建制度
14	十字軍と都市の発達	商業の復活に伴う中世都市の自治権獲得
15	西欧中央集権国家の成立	王権による分権化状態の克服（政治的な統一化）

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	世界史概論Ⅱ		世界史概論Ⅱ	
担 当 者	山本 健 Takeshi Yamamoto		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

前期の概論Ⅰの講義を受けて、概論Ⅱではヨーロッパ世界を中心に、絶対主義の時代までを学習する。絶対主義の①支配の正当性とは、②戦争の正当性とは、③近代国家の矛盾や、④複合民族国家の矛盾などの問題点を考え、近代という時代の合理化の過程に潜む差別体質やその本質などを明らかにする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は高校時代の『世界史』の教科書に沿って行う。また事前に配布するプリントを読んで、自分が理解できなかった事柄を質問シートに記させ、それに答える形で授業を進める。

■成績評価方法・基準

試験そして質問シートの提出状況などで評価する。原則として、出席率が規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。

■授業の予習・復習

予習：高校時代の『世界史』の該当する箇所を読んで、疑問点などを整理しておくこと。

復習：受講後、質問シートを再検討すること。

■教科書

毎回配布するプリント

■参考文献

『詳説世界史』（山川出版）、『世界史用語集』（山川出版）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 前期の講義の総括	ヨーロッパ封建社会（分権化状態）の成立—発展—崩壊（中央集権国家の成立）
3 ヨーロッパ近代の誕生 ①	ルネサンス—近代精神の誕生
4 ヨーロッパ近代の誕生 ②	ヨーロッパ世界の拡大—大航海時代の幕開け
5 ヨーロッパ近代の誕生 ③	宗教改革
6 ヨーロッパ近代国家の形成 ①	絶対主義の概念説明と社会構造
7 ヨーロッパ近代国家の形成 ②	スペイン、イギリス、オランダの3国関係とフランスの独自性
8 ヨーロッパ近代国家の形成 ③	30年戦争とプロイセンとオーストリア
9 ヨーロッパ近代国家の形成 ④	ロシアの膨張とポーランド消滅の運命
10 ヨーロッパ列強の植民活動	絶対主義国家を支えたアジア・アフリカの役割
11 アメリカの独立革命	社会契約に基づく人工国家の誕生
12 アメリカ独立宣言の特徴	ジョン=ロックの抵抗権と幸福なる期待権の意義
13 国家システムの移り変わり	国王を中心とする主権国家
14 オランダの世紀（17世紀）	繁栄を支えたアジア、特に日本（長崎の出島）貿易の役割
15 まとめ—ヨーロッパの絶対主義とその役割	諸問題への仮設提示

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	地理学概論Ⅰ		地理学概論Ⅰ	
担 当 者	永野 征男 Yukio Nagano		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

学問としての「地理学」の特色は、この広大な地表上にみられる自然と人間との関わりを扱うことにある。つまり、人間生活にとって基本となる事象の見方と、またどのように考えたら良いのかを習得する。とくに本授業では、異文化理解に焦点をあて、世界一の多文化社会である合衆国を事例に考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

社会系の教職課程履修者は必修である。授業では、講義内容のプリント（ノート作成を兼ねた）を配布し、視聴覚教材を多用しながら進行する。後期の概論Ⅱの受講も強く希望する。

■成績評価方法・基準

定期試験結果（70％）に出席状況（30％）を加味し、総合的な評価をおこなう。

■授業の予習・復習

全講義を通して、多くのプリント類が配布されるので、毎時後に整理することが肝要である。

■教科書

とくに使用する予定はない。配布物で代用する。

■参考文献

授業の中で、進度に合わせて関連図書等の紹介をする。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義内容のガイダンス	いま、なぜ異文化理解が大切か
2 多文化国家への認知度	アンケート調査を実施
3 合衆国へのアプローチ	地名研究からみえる歴史性
4 民族ごとの居住地選定	自然環境と都市形成
5 教育システムと国民性	歴史にみる学校制度の変遷
6 教育組織の日米比較	大学の誕生と組織上の差異
7 注目の地理教育	州立ワシントン大の現状
8 実社会に有効な高等教育	大学院に対する高認識
9 米社会とMBA資格	制度の特色と人気の低迷
10 留学と移民	国民性とは何か
11 米国大学の海外進出	最盛期そして今
12 米国大学の日本への進出	新潟県胎内市の事例
13 少数民族集団の位置づけ	ワスプ層との対比
14 先住アメリカ人の苦悩	ルーツと社会的な認識
15 まとめ	国家と国民性

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	地理学概論Ⅱ		地理学概論Ⅱ	
担 当 者	永野 征男 Yukio Nagano		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

地理学の中でも、「アメリカ地誌」に絞り講義をする。わが国とあらゆる面で密接な関係にある合衆国を理解することが、結果として日本を知ることにも通じる。多文化・多民族社会を特徴とする近代国家アメリカは、その国民性を学ぶことで、この国のさまざまな謎も解けてくる。

■授業の進め方（履修条件等）

社会系の教職履修者にとって、本講義は必修である。毎時の講義では、関連する資料プリントをノートとしても使用する。異文化を扱うために、できるだけ視聴覚教材を多用する。「概論Ⅰ」の受講を希望する。

■成績評価方法・基準

定期試験結果（70％）に出席状況（30％）を加味し、総合的な評価をおこなう。

■授業の予習・復習

毎時、多数のプリント類が配布される。それらの系統的な整理が肝要である。

■教科書

とくに使用しない。配布プリントで代用する。

■参考文献

授業の進度に合わせて、関連図書類を紹介する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義の概要説明	授業の流れと学習法
2 国家における民族グループ	マジョリティとマイノリティ
3 アメリカ・インディアンへの再認識	「概論Ⅰ」の補充部分
4 移民史にみる日系アメリカ人①	明治期の日本の国内事情
5 移民史にみる日系アメリカ人②	ハワイ王国と日本人
6 移民史にみる日系アメリカ人③	アメリカ本土への流入時期
7 移民史にみる日系アメリカ人④	第二次世界大戦時の苦悩
8 旧日本人町の実態	シアトル市街地の事例
9 急増するヒスパニック	不法流入の諸問題
10 ユダヤ系アメリカ人の実力	政財界への影響力
11 都市内におけるマイノリティ	ロサンジェルス暴動にみる階層差
12 民族の住み分け現象	生態学的な分析結果
13 地理的事象の具体例①	カリフォルニア州の農業問題
14 地理的事象の具体例②	カリフォルニア州の産業実態
15 まとめ	多民族社会と日本との比較

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	哲学概論Ⅰ	哲学概論Ⅰ	哲学概論Ⅰ	哲学概論Ⅰ
担 当 者	小林 秀樹 Hideki Kobayashi		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みがかもつ意義について理解を深めることをねらいとする。前期は古代ギリシャの哲人に学び、各々の思索の特色や相違を理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

哲学概論Ⅰ（前期）は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。講義を通じて、世界や人間存在に関する多様な見方・考え方があつてに気づき、思惟することの楽しさが実感できるよう進めたい。

■成績評価方法・基準

定期試験の結果（70％）、授業態度ならびに小レポート（30％）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する部分の教科書を読み、重要と思われる点・不明な点などに傍線を引いておくこと。
復習：講義内容について理解できなかった点を中心に調べ、講義内容の理解を深めておくこと。

■教科書

貫成人『図説・標準 哲学史』新書館

■参考文献

荻野弘之『哲学の饗宴』日本放送出版協会
今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション —哲学で学ぶこと	・「哲学」の語源 ・哲学はどのようなことを問題にするのか
2 自然哲学（1）	・古代のギリシャ世界（歴史、民族、文化） ・イオニア学派の哲学
3 自然哲学（2）	・エレア学派の哲学
4 自然哲学（3）	・多元論者・原子論者の哲学
5 ソフィストの登場	・ソフィスト登場の背景と意義 ・ピュシスからノモスへ
6 ソクラテス（1）	・無知の知、問答法、魂への配慮
7 ソクラテス（2）	・ソフィストとの相違 ・正義について（1）
8 プラトン（1）	・イデア論
9 プラトン（2）	・国家論 ・正義について（2）
10 アリストテレス（1）	・イデア論批判 ・アリストテレスの形而上学
11 アリストテレス（2）	・アリストテレスの論理学
12 アリストテレス（3）	・アリストテレスの倫理学 ・正義について（3）
13 ヘレニズムの思想	・ゼノン、エピクロス ・ヘレニズム
14 ユダヤ・キリスト教思想との出会い	・西洋思想のもう一つの源流について
15 講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	哲学概論Ⅱ		哲学概論Ⅱ	
担 当 者	小林 秀樹 Hideki Kobayashi		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

西洋思想の歴史的展開を追いながら、西洋哲学に関する基本的な知識や哲学的なものの見方・考え方を身につけ、哲学という営みがかつて意義について理解を深めることをねらいとする。後期はユダヤ・キリスト思想との葛藤を経て近代に到る西洋哲学の歩みを理解し、要点を説明できるようになることを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

哲学概論Ⅱ（後期）は教職課程の必修科目であるため、出席を特に重視する。後期はユダヤ・キリスト教および主に近世以降の哲学思想を扱うが、映像資料なども用いて講義を進めたい。

■成績評価方法・基準

定期試験の結果（70%）、授業態度ならびに小レポート（30%）を総合的に勘案して評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する部分の教科書を読み、重要と思われる点・不明な点などに傍線を引いておくこと。

復習：講義内容について理解できなかった点を中心に調べ、講義内容の理解を深めておくこと。

■教科書

貫成人『図説・標準 哲学史』新書館

■参考文献

山形孝夫『聖書物語』岩波書店

今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション —後期で学ぶこと	・前期の復習
2	ユダヤ教（1）	・ヘブライ民族の歴史 ・旧約聖書（創世記）について
3	ユダヤ教（2）	・モーセの出エジプト ・シナイ契約
4	キリスト教（1）	・キリストの生涯（1）
5	キリスト教（2）	・キリストの生涯（2）
6	キリスト教（3）	・贖罪論、教義の確立
7	中世の思想	・教父哲学 ・スコラ哲学の概要
8	ルネサンスの思想	・古典復興、人間と世界の再発見、宗教改革
9	ベーコン	・イドラ論、帰納法
10	デカルト	・方法的懐疑 ・心身二元論
11	ロック—経験論の哲学	・イギリス経験論 ・社会契約論①
12	ルソー	・「自然に帰れ」 ・社会契約論②
13	カント（1）	・理性の限界、コペルニクスの転回
14	カント（2）	・義務倫理学
15	講義のまとめ	・要点の確認、質疑応答

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	世界地誌		【教職科目】世界地誌	
担 当 者	戸田 真夏 Manatsu Toda		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

地誌学は特定の地域の「地域性」を研究する学問である。地域性は景観から読み取ることが出来る。授業では担当者が海外で撮影した写真を使って各地の紹介を行うことで、景観から読み取れることを理解してもらう。授業を通して知らない地域に対する興味が高まり、どこかへ出かけたくってもらうことを到達目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

パワーポイントで授業を進める。担当者が旅先で撮影した写真を使って各地の紹介を行い、読み取れることを解説する。写真とともに文字での説明を示すこともある。

■成績評価方法・基準

評価方法：期末試験のみの予定

評価基準：取り扱った各地の地域性を理解していること

■授業の予習・復習

授業内容を理解できるように、地図帳を見ながら十分予習復習すること。

■教科書

なし

■参考文献

授業内で適宜紹介予定

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	講義予定内容の紹介と地理学、地誌学の説明
2	地中海紀行（気候）	地中海性気候の説明とスペインの生活
3	地中海紀行（サッカー）	スペインのサッカー
4	地中海紀行（食）	スペインにおける自然条件と「食」の関係
5	地中海紀行（イタリア）	イタリアの気候と生活とサッカー
6	ネパール紀行（山岳地域の水事情）	ヒマラヤにおける住民の水利用状況について
7	ネパール紀行（平原の水事情）	テライ平野における住民の水利用状況について
8	ネパール紀行（発電事情）	トリスリ川上流域の自然条件と発電
9	ネパール紀行（体と高所環境）	高山における体調変化
10	火山と生活（ニュージーランド）	ニュージーランドの火山とそこでの人々の生活
11	火山と生活（メキシコ）	メキシコの火山とそこでの人々の生活
12	火山と生活（西ヨーロッパ西部）	スペインの火山とそこでの人々の生活、独仏の火山と日本のかかわり
13	USA紀行（バイクの旅）	コロラド、ワイオミングでのバイク—人旅で見た自然と生活
14	USA紀行（車の旅）	ミシガン、イリノイ、ウィスコンシンでのレンタカーで回った際に見た自然と生活
15	空からの景観	国際線の機上から見た様々な景観の解説

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	人文地理学		【教職科目】人文地理学	
担 当 者	松尾 宏 Hiroshi Matsuo		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

地理学の重要なテーマは、問題意識をもって如何に地域を捉えるかが重要です。人間の暮らしをテーマに、私たちが目にする空間や社会の動き、話題性のある地域などについて多角的に捉え、地域を見る目を養う基礎力を養成する。

■授業の進め方（履修条件等）

人文地理学の基本的なテーマを学習するとともに、現在起こっている話題や各地の情報、地域の問題、地域資源などについてもとりあげ、プリントやPPT（パワーポイント）で紹介しながら講義を行い、学生参加型の授業内容を展開する。

■成績評価方法・基準

課題レポート、期末テストを総合して成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：世の中で起こっていること、見てきた風景などから問題、疑問を整理予習しておくこと。
復習：学習した授業内容に関し、復習しておくこと。

■教科書

指定する教科書はありません。地図帳を利用します。詳細は講義で説明します。

■参考文献

その他読んで欲しい本は、講義で紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	地理学の概念と地理学史	地理学について、自然と人文、領域
2	地域と地域区分	地域概念と地域区分、日本の市町村
3	地理学の自然的基礎	地域にとっての水、地形、気候
4	日本の地理	日本の特徴と地方の特色
5	地図学	古地図と現代地図、地形図などについて
6	食料と生産活動	農業と生産地域、食料問題
7	資源・エネルギー	資源・エネルギー利用とその問題
8	国土と地域変化	国土の変貌と地域変化
9	災害の地理	日本の災害史と地域の生活
10	川と平野、山地と生活	水利用と暮らしを通じて、川、平野、山の特色、人々の暮らしを知る
11	集落・景観地理	村落・都市の風景と地域の風土
12	環境と環境問題	環境論、世界や日本の環境問題
13	観光と地域	交通と観光、観光資源と地域文化
14	地域問題	地域の課題と町おこし、村おこし
15	地域資源と活用	土木遺産、産業遺産、世界遺産など

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育原論（前期）		教育原論（前期）	
担 当 者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		対象学年	1年
			単 位	4（通年）

■授業のねらいと到達目標

教職を志望する学生諸君に健全な教育観、人間観を構築してもらうことを授業のねらいとする。教育の基礎理論、教育の思想、わが国の近代化と第二次大戦後の教育改革の軌跡を辿りながら、人間教育の本質と課題に関心を深めることを目標としたい。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストの内容をふまえた講義要項、資料を毎回配付し、それらをもとにしながら授業を進めていく。ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も適宜用いる。まずは授業に出席し、「聞く」姿勢を大事にしてほしい。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：次回のテーマに関してテキスト、資料の指定範囲を読むしておく。
復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。

■教科書

平野智美監修、中山幸夫他編著 『教育学のグランドデザイン』 八千代出版

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	教育をめぐる今日的状況	問題としての教育、家庭・学校・地域社会の現状
2	教育の意義	教育の語義、教育の概念、人間の発達と教育
3	教育の目的	教育の理念、教育目的の普遍性と特殊性
4		教育目的の歴史的変遷
5	教育の思想	西洋古代・中世の教育思想
6		西洋近世・近代の教育思想
7		公教育思想の発展と近代公教育制度の成立
8	日本の近代化と教育	新教育の思想と新教育運動の展開
9		近代公教育の導入と明治期の教育
10	教育改革の軌跡	大正デモクラシーと新教育
11		戦争と教育
12	教育改革の軌跡	戦後教育改革の始動と展開
13		高度経済成長と教育
14		教育改革の模索と臨時教育審議会
15		今日の教育改革

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育原論（後期）		教育原論（後期）	
担 当 者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		対象学年	1年
			単 位	4（通年）

■授業のねらいと到達目標

教育原論（前期）の学習を踏まえて、学校教育を構成する教育課程（カリキュラム）に関する基礎的知識を習得しながら、教育課程の制度や学校における教育課程編成の方法について理解することを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業内容に沿った講義要項、資料プリントを毎回配付し、それをもとにしながら授業を進めていく。適宜、ビデオ、パワーポイント等の視聴覚教材も用いる。ほぼ毎回、授業の終わりに出欠と授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：次回のテーマに関してテキスト等の指定範囲を読んでおく。
復習：授業の終わりに授業内容の確認を兼ねた小レポートの提出を求める。

■教科書

- 文部科学省 『小学校学習指導要領』 東京書籍
- 文部科学省 『中学校学習指導要領』 東山書房
- 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 東山書房
- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説—総則編—』 東京書籍

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	教育課程の意義と課題（総論）
2 教育課程の類型	教科中心カリキュラム、経験中心カリキュラム
3	学問中心カリキュラム、人間中心カリキュラム
4	学習指導要領（2）昭和33年版、昭和42年版
5	学習指導要領（3）昭和52年版、平成元年版
6	学習指導要領（4）平成10年版、平成20年版
7	
8 教育課程編成の原理	教育課程にかかわる法令と編成基準
9	小学校における教育課程編成の方法
10	中学校における教育課程編成の方法
11	高等学校における教育課程編成の方法
12 教育課程編成の方法	総合的な学習の時間をめぐる問題
13	総合学科のカリキュラムをめぐる問題
14	教育課程と学力をめぐる問題
15	教育課程の改善に向けて（総括）

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育心理学		教育心理学	
担 当 者	田中 未央 Mio Tanaka		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

教育現場で活用できる心理学的知見（主に認知・発達・学習・人格）の習得を目指す。また、教育現場に特有のコミュニティである学級について心理学的見地から考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習や議論を行う場合がある。実習や議論を行った際には履修者にリアクションペーパーや課題の提出を求める場合がある。必要に応じてビデオなどの映像資料を使用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・授業内小テスト（20%）・リアクションペーパー（10%）・授業内の課題（10%）によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要なし。
復習：授業の内容を整理し、テキストの該当する箇所を読む。

■教科書

「やさしい教育心理学」 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 有斐閣

■参考文献

- 「人はいかに学ぶか—日常認知の世界—」（中公新書）
- 「考えることの科学—推論の認知心理学への招待」（中公新書）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の概要、講義の進め方、評価方法、受講マナーについて
2 記憶	短期記憶と長期記憶、忘却、テスト不安、テスト効果
3 思考	知識、推論、問題解決
4 学習	条件付け、観察学習、自己強化学習、体罰、メディアの影響
5 動機づけ	期待・価値モデル、統制感、内発的動機づけ
6 発達①	発達段階、成熟と学習、学習の臨界期
7 発達②	知的発達（ピアジェの知的発達段階）、知能
8 発達③	知能検査
9 人格①	人格の発達、人格の発達と母子関係、自我同一性
10 人格②	性格検査
11 学習指導	発見学習、受容学習、個別学習とグループ学習
12 教育評価	教育の成果を評価する基準と方法について考える。
13 学校における人間関係①	学級とはどんな集団か？ 教師・生徒の人間関係
14 学校における人間関係②	生徒の人間関係、いじめの問題
15 まとめ	第2回～第14回で扱ったテーマに関するまとめ、および質問への回答

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育心理学	教育心理学	教育心理学	教育心理学
担 当 者	藤井 輝男 Teruo Fujii		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

児童・生徒の学習過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・レポート及びその他の課題（20%）で評価する予定である。

■授業の予習・復習

予習：事前に教科書を読んでおくこと。
復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

山崎史郎編「教育心理学ルック・アラウンド」ブレーン出版

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	教育心理学の領域と課題	教育心理学の研究分野の紹介
3	発 達（1）	発達理論、発達段階
4	発 達（2）	母性剥奪について
5	教育と発達（1）	成熟と学習の関係について
6	教育と発達（2）	英才教育は役に立つのか？
7	知 能	知能とは。知能指数の算出方法など。
8	性 格（1）	性格の形成過程について
9	性 格（2）	エゴグラム
10	動機づけ	「やる気」とは
11	授業の過程	教授学習過程について
12	評 価	教育評価の内容
13	適応と障害（1）	適応と教育
14	適応と障害（2）	障害の理解
15	まとめ	まとめと質問

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	発達心理学	発達心理学	発達心理学	発達心理学
担 当 者	田中 未央 Mio Tanaka		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

教育場面で活用できる発達心理学の知見（知的発達・言語発達・社会性の発達）の習得を目指す。また、発達障害や学習障害に関する知見と事例を紹介し、教育場面における児童・生徒への対応の仕方を理解することを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習やグループワークを求める場合がある。実習やグループワークを行った際にはリアクションペーパーやショートレポートの提出を求める。必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・授業内小テスト（20%）・リアクションペーパー（10%）・ショートレポート（10%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：必要なし
復習：授業の内容を整理し、テキストの該当する箇所を読む。

■教科書

『発達心理学』（いちばんはじめに読む心理学の本3）藤村宣之（編著）ミネルヴァ書房

■参考文献

子どもの「10歳の壁」とは何か？ 乗り越えるための発達心理学（光文社新書）/発達障害に気づかない大人たち（祥伝社新書）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概要、授業の進め方、評価方法、受講マナーについて
2	乳児期の発達①	知覚発達、認知発達、言語発達
3	乳児期の発達②	社会性の発達（他者への認識・感情の共有）、養育者とのコミュニケーション
4	幼児期の発達①	知的発達、表象の獲得、社会的知能
5	幼児期の発達②	自己の発達（自分と他者の区別）、個性、他者とのコミュニケーション
6	児童期の発達①	思考の発達（論理的思考・概念化・推論）
7	児童期の発達②	社会性の発達（集団生活・友人関係の形成）
8	青年期の発達①	自我同一性の獲得（自分らしさとは何か？）
9	青年期の発達②	問題行動
10	発達障害①	広汎性発達障害（PDD）
11	発達障害②	注意欠陥多動性障害（ADHD）
12	発達障害③	学習障害（LD）
13	教育と発達①	教育場面における発達心理学的課題
14	教育と発達②	教育によって発達は促進するのか？
15	まとめ	第2回～第14回で扱ったテーマのレビュー、質問への対応

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	発達心理学	発達心理学	発達心理学	発達心理学
担 当 者	藤井 輝男 Teruo Fujii		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

児童・生徒の発達過程に関する心理学的知見を修得し、教育場面で役立てられることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で進めるが、配付資料を利用して学生諸君の発言を求めたり、課題提出を求めたりする。必要に応じてビデオ等を利用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（80%）・レポート及びその他の課題（20%）

■授業の予習・復習

授業内容をその都度、整理し、理解しておくこと。

■教科書

教科書は使用しない。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて説明する。
2	成熟と学習	発達における成熟と学習の関連について
3	本能的行動	「インプリンティング」を例に、本能と学習を考える
4	遺伝と環境	遺伝と環境の相互作用について
5	胎児、新生児期	胎児、新生児期の特徴について
6	幼児期	幼児期の特徴について
7	児童期	児童期の特徴について
8	青年期	青年期の特徴について
9	発達理論（1）	ピアジェの発達理論について
10	発達理論（2）	エリクソンの発達理論
11	発達理論（3）	その他の発達理論
12	発達障害（1）	LD、ADHD、広汎性発達障害について
13	発達障害（2）	事例紹介 その1
14	発達障害（3）	事例紹介 その2
15	まとめ	まとめと質問

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教職概論		教職概論	
担 当 者	坂本 義孝 Yoshitaka Sakamoto		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

教員を目指す者として教職の意義を理解し、教職への進路意識をより明確にするとともに、教師としての使命感、責任感を自覚できるようにすること。

■授業の進め方（履修条件等）

教職に関する事項を広範囲に講義する予定である。したがって、学生自らが教職への意欲や適性を確認できるように進める。

■成績評価方法・基準

レポート提出、平常点、定期試験、その他の小テストによる総合評価とする。

■授業の予習・復習

シラバスにしたがって、その都度指示する。

■教科書

「教職概論」（第3次改訂版）学陽書房刊

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	教職の意義（1）	教員を目指す者にとって
2	教職の意義（2）	教員養成について
3	教職員の任用と服務（1）	教職員の配置と任用
4	教職員の任用と服務（2）	教職員の服務
5	教職員の任用と服務（3）	教職員の勤務条件
6	教師の職務内容（1）	校務分掌の意義と組織
7	教師の職務内容（2）	管理職について
8	教師の職務内容（3）	主任層について
9	教師の職務内容（4）	学習指導等について
10	教師の職務内容（5）	生徒指導について
11	教師の職務内容（6）	生徒理解と教育相談
12	教師の職務内容（7）	学校外との連携・協力
13	教師の資質向上	教師のライフステージと研修制度
14	教育実習	その意義と心得
15	教職への道	教員採用選考の現状

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育行政	教育行政	教育行政	教育行政
担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

教育行政とは何か、今日の教育行政上の課題は何かについて、実際に教育現場に立つものの視点から明らかにする。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを使用した講義形式。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

要復習：授業ノートを自宅でプリントに書き写し、その過程でプリントを丹念に読み、理解すること。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教育行政とは何か	教育行政とは何か、そもそも行政とは何かについて解説する。
2 国の行政制度	国の教育行政制度はどうなっているか、文科省の仕事を中心に解説する。
3 教育委員会制度	教育委員会制度の意義、日本における導入の経緯、教育委員会制度の今日的課題について解説する。
4 教育権をめぐる議論	子どもを教育する権利は誰が持っているのか、国はどこまで教育内容に関与すべきかについて考察する。
5 旭川学テ判決の意味するもの	行政と親と教師は子どもの教育に関してどのような関係にあるかについて、それに関する典型的な判決である旭川学テ判決を例に考察する。
6 子どもと親の変化	今日的教育行政課題のもとをなす子どもと親の変化がどのように起きてきたかを解説する。
7 中教審答申	中教審答申に見られる今日の教育行政課題について解説する。
8 学習指導要領	学習指導要領の教育行政上の意義について解説する。
9 我が国の教科書制度	我が国の教科書制度について義務教育教科書の無償制度、教科書検定制度等の側面から考察する。
10 教育の機会均等	特に経済的な面から、奨学金制度について考察する。
11 学校運営	教育行政と個々の学校の運営について考察する。
12 教員の資質向上	教員の研修制度について解説する。
13 教員給与	教員の待遇、教員給与の諸問題について解説する。
14 学力保障	子どもの学力低下、学力格差の拡大等の問題について考察する。
15 生涯学習	我が国の社会教育行政の今日的課題について考察する。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育法規	教育法規	教育法規	教育法規
担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

教員として知っておくべき教育法規を実際に教育現場に立つものの視点から明らかにする。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを使用した講義形式

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

要復習：授業ノートをプリントに書き写す過程で、プリントを丹念に読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 法令についての基礎知識	法令の読み方、法源と法体系、基礎的法律用語
2 教育法規の体系	日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地教育法、地方公務員法、教育公務員特例法等
3 学校組織と教育法規その1	校長、副校長の職務と権限、教頭の職務、主幹教諭・指導教諭の職務、教諭の職務
4 学校組織と教育法規その2	職員会議の機能 校務分掌 学校図書館の機能
5 学校運営と教育法規その1	勤務時間の割振り、時間外勤務と教職調整額、授業日・休業日、年次有給休暇と時季変更権、公務上の災害と災害補償、学校施設の目的外使用等
6 学校運営と教育法規その2	学校評価、学校評議員制度、学校運営協議会、外部人材の登用
7 教育行政と教育法規	教育委員会の組織・機能、教職員の人事権、校長の意見具申権、学校選択制の拡大、校長・副校長・教頭の資格要件の緩和
8 教職員の身分と教育法規	教員の身分と教員の服務、教員の分限処分と懲戒処分、指導が不適切な教員の人事管理
9 教員の研修と教育法規	教員の研修体系、初任者研修、10年経業者研修、修学部分休業制度、自己啓発等休業制度・大学院修学休業制度
10 教員免許制度と教育法規	教員免許更新制、教員免許状の種類と失効要件
11 教育課程と教育法規その1	学習指導要領の法的拘束力と基準性、教科書の使用義務、補助教材の使用
12 教育課程と教育法規その2	個に応じた指導、キャリア教育、読書活動の推進、人権教育
13 児童・生徒と教育法規その1	懲戒の範囲と体罰、児童生徒の出席停止、不登校対策、いじめ問題への対応
14 児童・生徒と教育法規その2	健康診断、学校事故と災害共済給付、子どもの安全確保
15 特別支援教育と教育法規	発達障害者支援法と学校の取り組み、特別支援学校、特別支援学校教諭免許状

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	社会科・地歴科指導法Ⅰ		社会科・地歴科指導法Ⅰ	
担 当 者	奈良 明 Akira Nara		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

知識基盤社会化やグローバル化が進む時代において、中学校社会科が果たす役割は非常に大きい。そのために学習指導要領を深く理解し、中学校社会科教員として身につける、基礎理論、教材理論、研究の方法、授業の方法論等を地理的、歴史的分野において習得する。

■授業の進め方（履修条件等）

中学校学習指導要領解説―社会編と教師作成のプリントで授業を進める。

■成績評価方法・基準

課題小論文（50点）、定期試験（50点）

■授業の予習・復習

予習：前時の内容に目を通しておく。
復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説―社会編
文部科学省

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	社会科教育の現状と課題	オリエンテーション、社会科で何を教えるのか。
2	社会科教育の基本	社会科教育の理念
3	社会科教育の基本	社会科教育の変遷
4	社会科教育の基本	これからの社会科教育
5	社会科の学力観	学力を構成するもの
6	社会科の授業観	分かる授業、楽しい授業とは
7	社会科地歴学習の基礎理論	地理的分野の学習
8	社会科地歴学習の基礎理論	地理的分野の指導と方法
9	社会科地歴学習の基礎理論	歴史的分野の学習
10	社会科地歴学習の基礎理論	歴史的分野の指導と方法
11	社会科地歴学習の基礎理論	年間指導計画の作成
12	社会科授業の方法論	地理、歴史の教材研究
13	社会科授業の方法論	地理、歴史の指導技術
14	社会科の評価	評価規準の設定
15	社会科の評価	観点別学習状況評価

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	社会科・地歴科指導法Ⅱ		社会科・地歴科指導法Ⅱ	
担 当 者	奈良 明 Akira Nara		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

社会科・地歴科指導法Ⅰ（前期）で学んだ理論を背景として、授業実践に結びつく力を身につける。実際に使用されている教科書を使い、学習内容や指導方法を具体的に習得する。

■授業の進め方（履修条件等）

社会科・地歴科指導法Ⅰ（前期）を履修したものが受講できる。教科書を使用しながら、学習指導要領の内容と関連させ、指導のポイントを理解する。

■成績評価方法・基準

レポート作成（40点）、課題発表（60点）

■授業の予習・復習

予習：発表者は準備しておく。
復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説―社会編
文部科学省中学校教科書 東京書籍版
「地理」「歴史」帝国書院版 「地図帳」

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、指導案作成の仕方
2	地理的分野の学習内容と学習指導の研究	地理的分野の年間学習指導計画
3	//	学生による模擬授業（世界のすがた）
4	//	// （世界各地の人々の生活と環境）
5	//	// （世界の諸地域）
6	//	// （日本のすがた）
7	//	// （世界から見た日本のすがた）
8	//	// （日本の諸地域）
9	歴史的分野の学習内容と学習指導の研究	歴史的分野の年間学習指導計画
10	//	学生による模擬授業（古代までの日本）
11	//	// （中世の日本）
12	//	// （近世の日本）
13	//	// （開国と近代日本の歩み）
14	//	// （二度の世界大戦と日本）
15	授業参観	中学校社会科授業参観とレポート提出

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻	
科 目 名	社会科・公民科指導法Ⅰ		社会科・公民科指導法Ⅰ		
担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		対象学年	2年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる教員としての心構え、教育上の諸技法の基礎的理論と現実を理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを使用した講義及び演習。教室内での座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
 復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

- 『社会科中学生の2 地理、歴史、公民（教科書）』 帝国書院 2012
- 『新編中学校社会科地図』 帝国書院 2012

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教師とはどんな仕事か	教育とは何か、教師とはどんな職業か
2 教育における場の設定	生徒理解、生徒との間合いの取り方
3 社会科を教えるということ	社会科教員としての基礎的資質
4 中学校学習指導要領について	20年版 中学校学習指導要領の主な改訂点
5 高校入試（社会科）について	公立高校入試問題への対応
6 学習指導案の書き方	学習指導案作成上の留意点
7 社会科における基礎知識演習－1	日本の行政区分
8 生徒の思考回路を回すということ	f発問の仕方、プリントの作り方
9 社会科における評価	生徒を多角的に評価するということ
10 授業のビジュアル化	視聴覚教材を扱う上での留意点
11 国際理解教育を考える	国際人としての資質の育成
12 社会科における基礎知識演習－2	世界の国家構成
13 グループワークの進め方 その1	事前準備 どのような資料を与えるか
14 グループワークの進め方 その2	論点の整理 討議のさせ方の実際
15 グループワークの進め方 その3	多様な意見のまとめかた

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻	
科 目 名	社会科・公民科指導法Ⅱ		社会科・公民科指導法Ⅱ		
担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		対象学年	2年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

主に中学校社会科教員となった場合に必要とされる、心構え、知識、授業展開の技能などを実践的に育成する。

■授業の進め方（履修条件等）

社会科・公民科指導法Ⅰの先修を原則とする。模擬授業を数多く行い、実践的訓練をする。教室内での座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
 復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

- 『社会科中学生の地理、歴史、公民（教科書）』 帝国書院 2012
- 『新編中学校社会科地図』 帝国書院 2012

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 今日の世界と日本の抱える諸問題 その1	第二次大戦の終結
2 今日の世界と日本の抱える諸問題 その2	冷戦下の世界
3 今日の世界と日本の抱える諸問題 その3	雪解けと諸国の自立
4 今日の世界と日本の抱える諸問題 その4	アメリカの覇権の揺らぎ
5 今日の世界と日本の抱える諸問題 その5	社会主義陣営の解体と中国
6 グローバル経済の諸問題をどう教えるか その1	混迷する世界経済
7 グローバル経済の諸問題をどう教えるか その2	TPP加入問題に見る我が国の国際経済環境
8 裁判員となることを考えさせる その1	我が国の司法制度改革
9 裁判員となることを考えさせる その2	裁判員制度の課題
10 社会科授業の研究 その1	学生による模擬授業（基本的人権）
11 社会科授業の研究 その2	学生による模擬授業（国会の在り方）
12 社会科授業の研究 その3	学生による模擬授業（地方自治）
13 社会科授業の研究 その4	学生による模擬授業（国連と地域機構）
14 社会科授業の研究 その5	学生による模擬授業（地球温暖化）
15 教員採用試験	教員採用試験の実際

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	地理歴史科指導法		地理歴史科指導法	
担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

主に高校の地歴科教員となった場合に必要とされる、教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

主として高校地歴科の日本史、世界史、地理の各科目を想定した内容で授業を進める。プリントを使用した講義形式及び演習。座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
 復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	地歴科を教えるということ	学問としての地理・歴史と授業としてのそれとの違い
2	講義録とプリントをどう作るか	魅力的な講義、わかりやすいプリントとは
3	インパクトのある語り	生徒の印象に残る歴史叙述とは
4	地理的空間認識演習-1	アジア地域の地図の作成演習
5	学習指導要領について	学習指導要領高校地歴科の改訂点
6	世界史における現代史の取扱い方 その1	帝国主義と第1次世界大戦
7	世界史における現代史の取扱い方 その2	大戦間時代と大衆社会の出現
8	世界史における現代史の取扱い方 その3	世界恐慌と第二次大戦
9	地理的空間認識演習-2	ヨーロッパ地域の地図の作成演習
10	日本史における地域教材の扱い方 その1	荘園の発展と武士団の形成
11	日本史における地域教材の扱い方 その2	千葉常胤と鎌倉幕府の成立
12	地理的空間認識演習-3	アメリカ地域の地図の作成演習
13	地理で隣国中国をどう扱うか その1	中国の歩みと人びと
14	地理で隣国中国をどう扱うか その2	多様な自然と農業
15	地理で隣国中国をどう扱うか その3	世界の工場としての中国

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	公民科指導法		公民科指導法	
担 当 者	福田 靖 Yasushi Fukuda		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

主に高校の公民科教員となった場合に必要とされる、教員としての心構えを育成するとともに最重要の教育内容についての扱い方と基本知識を身につける。

■授業の進め方（履修条件等）

主として高校公民科の政経、倫理、現代社会の各科目を想定した内容で授業を進める。プリントを使用した講義形式。座席は指定し、固定する。

■成績評価方法・基準

試験、レポート等により総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：特に必要としない
 復習：ノートの内容をプリントに整理しながら、プリントを再度読むこと。

■教科書

特になし

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	高校学習指導要領について	平成21年版学習指導要領高校公民科改訂の要点
2	宗教をどう教えるか その1	キリスト教
3	宗教をどう教えるか その2	仏教
4	宗教をどう教えるか その3	イスラム教
5	経済事象の取り扱い方 その1	市場経済の原理
6	経済事象の取り扱い方 その2	経済現象の図式化
7	経済事象の取り扱い方 その3	市場の失敗
8	経済事象の取り扱い方 その4	価格弾力性
9	哲学をどう教えるか その1	宗教と哲学の違い、哲学の諸課題
10	哲学をどう教えるか その2	ソクラテスをどう扱うか
11	哲学をどう教えるか その3	デカルトをどう扱うか
12	戦争と平和をどう教えるか その1	二つの世界大戦
13	戦争と平和をどう教えるか その2	キューバ危機
14	戦争と平和をどう教えるか その3	イラク戦争
15	戦争と平和をどう教えるか その4	戦争を避けるために考えるべきこと

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英語科指導法 I		英語科指導法 I (国際のみ)	
担 当 者	柳原 由美子 Yumiko Yanagihara		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

英語科指導法 I では、中学校・高等学校の英語教員として知っておくべき英語教育理論や各種教授法の概要を理解することを目的とします。

■授業の進め方 (履修条件等)

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に表示し、それに沿って授業を展開していきます。

■成績評価方法・基準

- 1) 筆記試験 (中間・期末) 50%
- 2) 英語教授法に関する英語文献の要約 (発表とデモンストレーション) 30%
- 3) 授業への参加度 20%

■授業の予習・復習

予習: 予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと
 復習: 毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

望月昭彦 編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』
 大修館書店

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価、参考文献、プレゼンテーションなどについての説明
2 英語教育と英語教育学	英語教育の目的、日本における英語教育の存廃論・実用論・教養論、英語教育と英語科教育、英語教育学とは何か
3 英語の国際化と日本の英語教育 (1)	国際化時代の英語の役割、国際語としての英語
4 英語の国際化と日本の英語教育 (2)	国際語としての英語の特徴、国際コミュニケーションとしての英語教育、EILと日本の英語教育
5 学習指導要領	学習指導要領とは、その変遷と特色 (中学と高校)
6 学習者	発達的要因、適正要因、認知的要因、動機づけなど
7 英語教員	英語教師の役割、教師が関わるさまざまな要因、学習内容定着への工夫など
8 中間試験	試験の解説 (復習)
9 小学校における外国語 (英語) 活動	外国語活動新設の経緯、教育課程上の位置づけ、外国語活動の目標と内容、コミュニケーション能力の「素地」と「基礎」、英語ノート
10 英語教授法 1 (はじめに)	英語教授法に関する英語文献の概略説明
11 英語教授法 2 (発表と実践)	Grammar Translation Method, Oral Method
12 英語教授法 3 (発表と実践)	Direct Method, Reading Method
13 英語教授法 4 (発表と実践)	Audio Lingual Method, Restoring the Cognitive Element
14 英語教授法 5 (発表と実践)	Natural Language Learning, Eclectic Approach
15 英語教授法 (まとめ)	論争分野

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英語科指導法 II		英語科指導法 II (国際のみ)	
担 当 者	柳原 由美子 Yumiko Yanagihara		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

英語科指導法 II では、英語科指導法 I (前期) で学習した基礎理論を踏まえて、実践に必要な知識と技術を習得することを目的とします。特に英語の 4 技能 (リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング) の指導方法や指導上の問題点、留意点などについて、具体例や授業のビデオなどを用いながら解説します。

■授業の進め方 (履修条件等)

毎回レジュメを配布し、その単元での習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開していきます。原則として、「英語科指導法 I」を履修済みの学生を対象とします。

■成績評価方法・基準

- 1) 筆記試験 (中間・期末) 60%
- 2) 4 技能の一つを選択し、簡単な指導案の作成と模擬授業 (実習) 40%

■授業の予習・復習

予習: 予告されている次回の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと
 復習: 毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

望月 昭彦 編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』
 大修館書店

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、参考文献、プレゼンテーションなどについての説明
2 題に言語習得と英語教育 (1)	英語教育における第二言語習得研究の意義、第二言語とは、第二言語の習得と言語観
3 第二言語習得と英語教育 (2)	第二言語習得研究と英語教育、教室内第二言語習得の諸問題
4 コミュニケーション能力の育成	コミュニケーションとは、コミュニケーション能力とは、コミュニケーション・ストラテジーとは、コミュニケーション活動の特徴
5 リスニング (1)	リスニングとは、その諸相と指導の視点、指導過程
6 リスニング (2)	リスニングに関する授業のビデオ視聴と討論
7 中間試験	試験の解説 (復習)
8 スピーキング (1)	スピーキングとは、その諸相と指導の視点、指導過程
9 スピーキング (2)	スピーキングに関する授業のビデオ視聴と討論
10 リーディング (1)	リーディングとは、その諸相と指導の視点、指導過程
11 リーディング (2)	リーディングに関する授業のビデオ視聴と討論
12 ライティング (1)	ライティングとは、その諸相と指導の視点、指導過程
13 ライティング (2)	ライティングに関する授業のビデオ視聴と討論
14 ミニ授業 (1)	学生による模擬授業 (15分間) (4 技能のどれかを選択して)
15 ミニ授業 (2)	学生による模擬授業 (15分間) (4 技能のどれかを選択して)

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英語科指導法Ⅲ		英語科指導法Ⅲ(国際のみ)	
担 当 者	柳原 由美子 Yumiko Yanagihara		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

英語科指導法Ⅲでは、実際に授業をする場合必要となる1コマ(45分)の授業案の作成ができるようになることを目的とします。そのために、チーム・ティーチング、テストングと評価、マルチメディア機器の活用、教材、授業の運営、学習指導案の書き方などについて学習します。

■授業の進め方(履修条件等)

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開していきます。原則として、「英語科指導法Ⅱ」を履修済みの学生を対象とします。

■成績評価方法・基準

- 1) 筆記試験(中間・期末) 80%
- 2) 試験の作成と採点(実習) 20%

■授業の予習・復習

予習: 予告されている次の授業に関する教科書の各章を読んでおくこと
 復習: 毎回配布されるレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

望月 昭彦 編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法、参考文献、プレゼンテーションなどの説明
2 チーム・ティーチング	JETプログラム、TTの理論・定義とその課題、効果的な役割分担、具体的な指導方法
3 測定と評価(1)	測定とは、評価とは、テストの種類、テスト作成の条件
4 測定と評価(2)	実験結果の簡単な処理方法、実習を含む
5 エラーニングとCALL教室	ICTと語学教育(LLからCALLへ)、CALLの機能と活用、さまざまな授業場面における利用方法
6 教科書と教材研究	教材とは、教材研究の意義、教科書で教えるということ、教材分析と評価の視点、教材の全体的/個別的な分析
7 中間試験	試験の解説(復習)
8 文法の学習と指導(1)	コミュニケーションと文法の知識、文法指導の目的と課題、習得の補助手段としての学校文法、文法指導の理論と方法
9 文法の学習と指導(2)	コミュニケーションを指向した文法指導、文法指導に関する授業のビデオ視聴と討論
10 語彙と辞書検索指導	語の形態的特徴、語と語の意味関係、語と語の連結、意味の透明性、語義検索と品詞・連結など
11 授業運営	1コマの授業の流れ(授業の前に、復習・ウォームアップ・導入、展開、まとめ)、授業分析の目的、代表的な授業分析方法
12 学習指導案の書き方	学習指導案作成の目的、学習指導案の書き方、作成
13 模擬授業(1)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
14 模擬授業(2)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
15 模擬授業(3)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	英語科指導法Ⅳ		英語科指導法Ⅳ(国際のみ)	
担 当 者	柳原 由美子 Yumiko Yanagihara		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「英語科指導法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」で学習した英語教育理論やさまざまな教授法の理論を踏まえて、実際に授業をする場合の準備、および進め方の演習を行います。したがって、履修者は実際に作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、授業後に全員でディスカッションをし、教育実習に向けての準備を目的とします。

■授業の進め方(履修条件等)

はじめに外部講師を招いて、教育実習の心構えなどについて話してもらいます。その後は各自の学習指導案を用いた模擬授業と討論です。原則として「英語科指導法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を履修済みの学生を対象とします。

■成績評価方法・基準

- 1) 学習指導案の作成 30%
- 2) 模擬授業の実施(実習) 40%
- 3) 模擬授業後の討論への参加 30%

■授業の予習・復習

予習: 学習指導案の作成・模擬授業の準備

■教科書

望月 昭彦 編著『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 外部講師による講義(1)	英語教育現場の現状と問題点、教員採用試験などについての講義、夏休みの宿題であった学習指導案の提出
2 外部講師による講義(2)	提出した学習指導案についての総評、模擬授業の実施と討論
3 模擬授業(1)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
4 模擬授業(2)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
5 模擬授業(3)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
6 模擬授業(4)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
7 模擬授業(5)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
8 模擬授業(6)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
9 模擬授業(7)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
10 模擬授業(8)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
11 模擬授業(9)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
12 模擬授業(10)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
13 模擬授業(11)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
14 模擬授業(12)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論
15 模擬授業(13)	作成した学習指導案を使用しての模擬授業と討論

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育方法・技術論	教育方法・技術論	教育方法・技術論	教育方法・技術論
担 当 者	柳原 由美子 <i>Yumiko Yanagihara</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業は、将来教員を目指す学生たちが受講することを前提に、学校教育の実践に必要な基礎的理論を理解し、その理論を踏まえて、現実の授業実態や最近の方法技術の特質を探ることを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回レジュメを配布し、その単元で習得すべき事柄を最初に提示し、それに沿って授業を展開していきます。

■成績評価方法・基準

次のように行いますが、2)と3)についてはどちらかを選択します。1) 筆記試験（中間・期末）70% 2) コンピュータや教材提示装置などの教具を利用したミニ授業 30% 3) プログラム学習教材の作成 30%

■授業の予習・復習

復習：毎回配布のレジュメに書かれている、各単元での重要事項の理解がなされているかどうか、各自確認すること

■教科書

毎回配布する印刷物（レジュメ etc.）を利用します。

■参考文献

初回の授業時に提示しますので、初回の授業は必ず出席してください。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	クラス・オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、プレゼンテーションなどについての説明
2	教えるという仕事	柔軟な方法観の必要性、TTTIとは、スキーマとは、など
3	変貌する教室	学校の転換期、教室の風景の変貌、欧米と日本の相違など
4	授業の様式	教える2つの様式とその歴史、日本の学校文化
5	授業の歴史（1）	近代以前の教育方法、近代の教育学の成立
6	授業の歴史（2）	ベスタロッチ、ヘルバルト、ツィラーなどの教授の変遷
7	授業の歴史（3）	子ども中心の教育、効率主義の教育、行動科学の教育
8	中間試験	試験の解説（復習）
9	いろいろな教育（1）	オープン教育の発展と現状、その難しさの可能性
10	いろいろな教育（2）	プログラム学習、完全習得学習、応答する環境
11	いろいろな教育（3）	視覚メディアの特質とその利用、視覚教育の変遷
12	プレゼンテーション（1）	学生による視覚機器を利用した発表
13	プレゼンテーション（2）	学生による視覚機器を利用した発表
14	授業のデザイン	授業の組織、授業の構造、授業をデザインし創造する
15	授業の評価	行動科学の方法、質的研究の方法、工学的接近と羅生門的接近など

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	道徳教育研究	道徳教育研究	道徳教育研究	道徳教育研究
担 当 者	中山 幸夫 <i>Yukio Nakayama</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

今日のわが国社会の現状を視野に収めながら、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育のあり方を検討する。道徳および道徳教育の本質について学ぶことを通して、学生諸君が人間としてのより善い生き方、あり方に関心を深めることを目標とした。

■授業の進め方（履修条件等）

授業内容に即した講義要項を配付し、それをもとに授業を進めていく。「道徳」授業の実際については具体的な資料（副読本）や実践例について検討を加える。ほぼ毎回、課題レポートの提出を求め、息の長い取り組みが求められる。

■成績評価方法・基準

定期試験（50%）、出席および小レポート（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

予習：課題レポートの作成
復習：課題レポートの再検討

■教科書

文部科学省『小学校／学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版文部科学省『中学校／学習指導要領解説 道徳編』東洋館出版宇佐美 寛 『「道徳」授業に何ができるか』明治図書

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	道徳教育の体験、道徳教育の意義と課題（総論）
2	わが国における道徳教育の歩み	戦前の道徳教育
3	わが国における道徳教育の歩み	戦後の道徳教育
4	道徳教育の思想と理論	道徳教育の思想
5	道徳教育の思想と理論	道徳性の発達理論
6	家庭、学校、地域社会の連携	家庭における道徳教育
7	家庭、学校、地域社会の連携	地域社会における道徳教育
8	学校の教育活動と道徳教育	教科指導と道徳教育
9	学校の教育活動と道徳教育	特別活動と道徳教育
10	学校の教育活動と道徳教育	総合的な学習の時間と道徳教育
11	「道徳」授業のあり方	学習指導要領における「道徳」の時間
12	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の現実
13	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の課題
14	「道徳」授業のあり方	「道徳」授業の改善
15	総 括	道徳実践力の育成はいかにして可能となり得るか

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	生徒指導論	生徒指導論	生徒指導論	生徒指導論
担 当 者	池谷 美佐子 Misako Ikeya		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

生徒指導のねらい、内容、教育的意義についての理解を深めると共に、将来の人生設計に必要な自己指導能力の育成や主体的な進路選択に向けての指導や支援の在り方について事例を含めて具体的な理解に結びつける。

■授業の進め方（履修条件等）

理論的な内容の理解に加え、具体的な内容に対する実践事例をもとに指導の在り方に対しても理解を深めていく。

■成績評価方法・基準

授業毎のリアクションペーパー（30%） レポート（30%）
期末試験（40%）

■授業の予習・復習

予習：次の授業に関連するテキストの部分を読んでおく
復習：授業内容を確認し整理して一般化できるようにする

■教科書

生徒指導提要 文部科学省

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明
2	生徒指導の意義と原理(1)	生徒指導の意義と現状と課題について
3	生徒指導の意義と原理(2)	生徒指導と人間観・教育観
4	生徒指導の意義と原理(3)	学習指導と生徒指導
5	生徒指導の意義と原理(4)	集団指導と個別指導の意義
6	教育課題と生徒指導(1)	教科・道徳・総合的な学習の時間と生徒指導
7	教育課題と生徒指導(2)	特別活動と生徒指導
8	生徒の心理と生徒理解(1)	生徒理解の基本
9	生徒の心理と生徒理解(2)	青年期の心理の発達（児童期の心理の発達との比較を含めて）
10	生徒の心理と生徒理解(3)	学校における教育相談の特質と体制づくり
11	学校における進路指導(1)	進路指導の現状と課題
12	学校における進路指導(2)	進路指導の方法
13	学校における進路指導(3)	進路指導の組織的運営
14	学校における進路指導(4)	キャリア教育と評価
15	学校における進路指導(5)	学校・家庭・地域の連携と進路指導

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育相談	教育相談	教育相談	教育相談
担 当 者	田中 未央 Mio Tanaka		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

教育場面において生じる諸問題（いじめ、不登校、メンタルヘルスなど）に関する知見や事例を紹介し、問題に対する対処法について考察することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習やグループワークを求める場合がある。実習やグループワークを行った際にはリアクションペーパーやショートレポートの提出を求める。必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・授業内小テスト（20%）・リアクションペーパー（10%）・ショートレポート（10%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：必要なし
復習：授業の内容を整理し、テキストの該当する箇所を読む。

■教科書

『よくわかる教育相談』春日井敏之・伊藤美奈子（編著）ミネルヴァ書房

■参考文献

学校臨床心理学・入門—スクールカウンセラーによる実践の知恵（有斐閣アルマ）伊藤美奈子・平野直己（著）有斐閣

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概要、授業の進め方、評価方法、受講マナーについて
2	教育相談とは？	教育場面における臨床的視点の重要性、カウンセリングマインド
3	発達課題と教育相談①	乳幼児期の発達相談、学童期の教育相談、保護者支援
4	発達課題と教育相談②	思春期の教育相談、青年期の教育相談、進路相談
5	問題行動と教育相談①	問題行動とは？ 暴力・いじめ問題、不登校、無気力（スチューデントアパシー）
6	問題行動と教育相談②	学力問題、児童虐待、金銭問題、性の問題行動、ケータイとインターネットの問題
7	問題行動の予防①	問題行動を予防するための取り組み、ブリーフカウンセリング、アサーショントレーニング
8	問題行動の予防②	ストレスマネジメント、ソーシャルスキル教育、ピアサポート
9	特別支援教育と教育相談①	特別支援教育とは？ 発達障害、発達障害のアセスメント
10	特別支援教育と教育相談②	特別支援教育コーディネータ、学校・学級での取り組み、専門家・専門機関との連携
11	教師への支援	教師支援の必要性、教師のメンタルヘルス、教師へのソーシャルサポート
12	保護者への支援	モンスタースタッフ、保護者への対応、子育て不安と虐待問題
13	スクールカウンセリング	スクールカウンセラーの仕事、スクールカウンセラーと教師の協力、スクールカウンセラーの課題
14	専門機関との支援ネットワーク	医療機関との連携、教育関係機関との連携、福祉関係機関との連携
15	まとめ	第2回～第14回で扱ったテーマのレビュー、質問への対応

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育相談	教育相談	教育相談	教育相談
担 当 者	藤井 輝男 Teruo Fujii		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

教員となった時に必要となる「学校教育相談」に関して修得し、教育場面における生徒との対応の仕方について理解する。

■授業の進め方（履修条件等）

まず、教育相談における生徒理解の考え方を概説する。その後、教科書の各章を学生が各自分擔し、報告を行う。その報告内容に対して教員が補足説明を行う形式で進める。

■成績評価方法・基準

出席（40%）・発表及びその他の課題（40%）・授業態度（20%）

■授業の予習・復習

事前に教科書を読んでおくこと。

■教科書

授業時に指示する。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の概略、進め方、評価方法などについて
2	生徒指導、教育相談とは	発達の視点からの教育相談
3	学校での社会的スキル	対人行動の基本的技術について
4	学校でのカウンセリング	カウンセリングマインドについて
5	システムアプローチ	問題行動をどうとらえるのか
6	発達障害	LD、ADHD等について
7	キレル子ども（1）	キレル子の特徴
8	キレル子ども（2）	キレないための生徒指導
9	不登校	様々な事例から不登校を考える
10	いじめ	いじめ防止には何が必要なのか
11	孤立児童・生徒	集団内での孤立状態について考える
12	スクールカウンセラーとは	スクールカウンセラーの意義
13	教師のメンタルヘルス	教師自身の精神衛生について
14	学校と地域	地域との連携について
15	まとめ	まとめと質問

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	特別活動研究	特別活動研究	特別活動研究	特別活動研究
担 当 者	池谷 美佐子 Misako Ikeya		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校と中学校の特別活動の目標と内容について理解し、実践に生かしていくことのできる力を養うことを目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

小学校学習指導要領と中学校学習指導要領を併用して参考にしながら、それぞれの目標や内容の特性について具体的な活動も取り入れながら理解を深めます。主体的な参加態度が必要です。

■成績評価方法・基準

授業毎のリアクションペーパー（50%） 期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：次の授業内容に関する体験や事例を整理しておく。

予習：理論と実践の関係性を整理しておく。

■教科書

小学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省）

■参考文献

必要に応じて紹介します

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	特別活動の目標	特別活動の目標についての理解と他教科との関連性について
3	特別活動の教育的意義	望ましい集団活動とは何か、自己の生き方とは何かについて考える。
4	学級活動（1）	学級活動とは何かについて考える。
5	学級活動（2）	学級や学校の生活の作り方について考える。
6	学級活動（3）	学級づくりの実事例（係活動）を学ぶ。
7	学級活動（4）	「適応と成長及び健康・安全」「学業と進路」について考える。
8	児童会活動・生徒会活動（1）	児童会活動・生徒会活動、とは何かについて考える。
9	児童会活動・生徒会活動（2）	児童会活動・生徒会活動の実践を学ぶ。
10	学校行事（1）	各種行事の内容の特性について解説。
11	学校行事（2）	文化的行事について指導の方法論を考える。
12	学校行事（3）	文化的行事の実践事例について学ぶ。
13	特別活動の変遷	特別活動の歩みについて考える。
14	特別活動の指導法	特別活動の指導計画の作成について
15	特別活動の評価	特別活動の評価とその活用について

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	口頭表現		口頭表現	
担 当 者	山口 政之 Masayuki Yamaguchi		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

大学生活及び教育実習で求められる口語表現能力を高めるために、様々な聞く話す活動を行います。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、次のように進めます。①出席確認（簡単なスピーチを含む）、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。

■成績評価方法・基準

出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。

■授業の予習・復習

予習：その都度指示します。
復習：授業で出た課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。

■教科書

適宜、印刷物を配布します。

■参考文献

『伝える力』池上彰、PHPビジネス新書（この著者の児童向けの本も読んでおきたい）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	教職を目指す学生として求められる口頭表現力を考える。
2	口頭表現の基礎	表現内容への理解と、伝えたい思いの大切さ
3	自己紹介①	相手に応じて自分を売り込む（資料集め）
4	子供にニュースを伝える	教育実習で子供に話すことを想定して、ニュースを要約して話す。
5	プレゼンテーション①	自分の住んでいる町（市、県）のよいところを発表する。
6	プレゼンテーション②	実技試験
7	意見を述べる	自分が何を学んだのかを明らかにする意見の述べ方。
8	質問の仕方	よりよい聴き手とよりよく理解するための質問
9	ディベート①	論題の設定から立論の仕方
10	ディベート②	論点を絞り込むための質問
11	自己紹介②	集めた資料を用いて実技試験を行う。
12	対談	友達の自己紹介を受けて対談をする。
13	インタビュー	目的を明確にして、事前準備を行う。
14	面接	「なぜ教職を目指すのか」という質問に答える。
15	まとめ	自分の口頭表現力を今後いかにして伸ばしていくか。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	文章表現		文章表現	
担 当 者	山口 政之 Masayuki Yamaguchi		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

大学生活及び教育実習で求められる文章表現能力を高めるために、様々な書く活動を行います。また、ライセンス取得を支援するために、問題集等を適宜活用しますので、進んで挑戦してください。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回、次のように進めます。①出席確認（簡単なスピーチを含む）、②小テスト・課題発表、③本時の課題。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。

■成績評価方法・基準

出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。

■授業の予習・復習

予習：その都度指示します
復習：授業で出た課題は、次の時間に各自が発表するので必ず取り組んでください。

■教科書

適宜、印刷物を配布する。

■参考文献

木下是雄『理科系の作文技術』中公新書、本多勝一『日本語の作文技術』朝日文庫、斎藤美奈子『文章読本さん江』ちくま文庫

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	教職員に求められる文章表現力とは何か
2	ノート	動的聴解力を鍛えるために
3	手帳	提出や発表、試験の準備を忘れないために
4	読解と要約①	新聞記事を読み、要約する
5	読解を要約②	書籍の一部を読み、要約する
6	図書館の利用	大学メディアセンターと公立図書館の違いを知り、利用目的を明確にする
7	レポート①	引用の仕方
8	レポート②	授業内容との関連
9	メール	端的に文章表現をする長所と短所を理解する
10	手紙	手紙の形式を理解し、大学生活を知人に伝える
11	小論文①	4年生になってあわてないために、今のうちから課題とするポイントを理解する。
12	小論文②	課題の把握と構成、段落意識
13	小論文③	模範となる小論文を読み解き、論の構成や話題と取り上げ方等を理解する。
14	エントリーシート①	相手の求める自分のよさを伝えるために
15	エントリーシート②	今後の大学生活において文章表現を向上させるために

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	1年基礎演習		1年基礎演習	
担 当 者	こども学科専任教員		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

大学生活を円滑に送るための基本項目（行動規範・知識・スキル）を体得することが第一のねらいです。演習は本学の重要な教育体系に位置づけられており、必ず参加しなければなりません。学生一人一人が、大学生活の中に具体的な目標を見出し、それに向けて行動できるようになること、これを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

クラス担任制を取っています。担当教員の指導の下、クラスの仲間と協力しながら学習を進めてください。なお、学習内容は全クラス共通ですが、毎週の具体的な授業の進め方はクラスによって異なります。学年全体の行事については日程が前後することがあります。

■成績評価方法・基準

提出物（50%）、クラス内諸活動の達成度（50%）を基本とし、出席状況、授業態度等を勘案して、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教員の指示した課題に取り組む
 復習：辞書、地図帳、年表等を用いて、理解不足を補う活動に取り組む

■教科書

配付資料のほか、各担当教員が指定したものをを用います。

■参考文献

授業時随時紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	自己紹介、年間の基礎演習の進め方
2 大学生生活の基本①	単位の取り方、履修登録等
3 大学生生活の基本②	大学生になって
4 学生相談オリエンテーション	キャンパスサポートコーナーなど4か所の相談室の利用の仕方
5 自己表現	各自の特技について
6 メディアセンターオリエンテーション	図書館の利用の仕方
7 読書のすすめ	愛読書を持ち寄り紹介しあう
8 薬物乱用防止について	専門の先生の講演
9 基礎知識①	こども学科に必要な国語系の学び
10 基礎知識②	こども学科に必要な社会系の学び
11 基礎知識③	こども学科に必要な理数系の学び
12 コミュニケーション①	アンゲーム①
13 コミュニケーション②	思いを伝える
14 コミュニケーション③	相手を知る
15 半日参観実習に向けて	小学校半日参観実習に向けての留意事項など
16 半日参観実習	小学校現場を知る
17 レポートの書き方①	半日参観実習のまとめ
18 基礎知識④	こども学科に必要な国語系の学び
19 基礎知識⑤	こども学科に必要な社会系の学び
20 基礎知識⑥	こども学科に必要な理数系の学び
21 歴博見学のための事前授業	佐倉歴史民族博物館見学に向けて
22 課外授業	佐倉歴史民族博物館を見学する
23 レポートの書き方②	歴博見学を終えてレポート作成
24 新聞を読もう①	新聞を教材に社会を学ぶ
25 新聞を読もう②	新聞を教材に教育を学ぶ
26 コミュニケーション④	アンゲーム②
27 コミュニケーション⑤	相互理解
28 コミュニケーション⑥	自由ディスカッション
29 2年次へのブリッジ	2年次へ向けての各自の目標
30 1年間の総まとめ	1年間のふりかえり

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	こどもの心と体		こどもの心と体	
担 当 者	田中 未央 Mio Tanaka		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

①子どもの心と体が成長し、発達するしくみを学習する。②子どもが健全に成長する環境（親子関係、生育環境など）について考察する。③子どもの心の問題に関する事例から、対処法と予防法を考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

原則として講義形式で授業を進めるが、授業内で簡単な実習やグループワークを求める場合がある。実習やグループワークを行った際にはリアクションペーパーやショートレポートの提出を求める。必要に応じてビデオなどの映像資料も使用する。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）・授業内小テスト（20%）・リアクションペーパー（10%）・ショートレポート（10%）で評価する。

■授業の予習・復習

予習：必要なし
 復習：授業の内容を整理し、テキストの該当する箇所を読む。

■教科書

『子どものこころ—児童心理学入門』 桜井茂男・向井隆代・浜口佳知（著）有斐閣

■参考文献

子どもの「10歳の壁」とは何か？ 乗り越えるための発達心理学（光文社新書）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	講義の概要、授業の進め方、評価方法、受講マナーについて
2 子どもとは？	“子ども”の定義、児童期の位置づけ
3 子どもの生活	家庭環境、学校生活、友人関係、コミュニケーション
4 心と体	身体の成長と発達、運動機能、性、ストレス
5 ことば	言語発達、言語と思考
6 知性	知能、学力、個人差、創造性
7 学習意欲と動機づけ	動機づけ、無気力（スチューデントアパシー）、達成動機
8 パーソナリティ	パーソナリティの発達、自己概念
9 人間関係	家族、友人、学校における人間関係
10 社会性	社会性の発達、向社会的行動、社会的相互作用
11 心の問題①	不登校、いじめ、問題行動
12 心の問題②	児童虐待とPTSD
13 心の問題③	発達障害1（ADHD、LD）
14 心の問題④	発達障害2（広汎性発達障害）
15 まとめ	第2回～第14回で扱ったテーマのレビュー、質問への対応

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	情報処理 I (情報基礎)		情報処理 I (情報基礎)	
担当者	田口 功 Isao Taguchi		対象学年	1年
			単位	1

■授業のねらいと到達目標

情報社会では、コンピュータについて正しく理解し、上手に利用できる能力(コンピュータリテラシー)が必要である。本講義では、コンピュータリテラシーを身につける。また、パソコン使用で最も基本的な使い方として、Word2007を用いて文書作成の方法を学ぶ。MOUS検定を意識した演習問題や実用的な資料を多く取り入れる。

■授業の進め方(履修条件等)

Wordソフト使用している学生は多い。前半、後半を通し実用的な演習課題を多くした。各自課題を作成し提出をする。

■成績評価方法・基準

提出物を重視する。小試験も授業中に行ない総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書にはWord、Excel、Power pointについて要点がまとめてある。目をとっておくことが望まれる。課題についてよく資料を見て研究して下さい。

復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

情報リテラシー Office 2007 実教出版

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 情報処理の基本	オリエンテーション授業の進め方を説明、パソコンの構成やソフトについての説明、キータッチの説明、テキスト内容紹介
2 文字列の入力	文字列や記号の入力方法と編集の仕方、ファイルの基本的操作
3 文字列の入力と編集	文字列や記号の入力と編集、簡単な図表の作成、演習問題
4 検索および編集	文字列や記号の入力と編集、検索、置換、図表の作成、インデントとタブ、演習問題、印刷の仕方
5 書式設定	文字や段落についての書式設定、段組、ヘッダーおよびフッター、ページ設定、図の挿入、演習問題
6 表の作成と画像の挿入	表の作成、クリップアート、文字や段落についての書式設定、ページ設定、演習問題
7 簡条書き	簡条書きやアウトライン作成、ハイパーリンクや表の挿入方法、演習問題
8 ブロック図の作成	簡条書、図形の作成、ブロック図の作成、表の挿入方法、演習問題
9 ポスター作成	ページ罫線を用いたポスター作成、簡条書、罫線の種類、色、演習問題
10 ポスター作成(2)	まとめとしての大学祭のポスター作成
11 Power Pointの基本事項	Power Point の使用方法の基本画面をWordと対応させ説明し、今まで作成した資料を紹介する。スライドショー表示する。押さえておく基本事項の説明をする。
12 スライド作成	自己紹介のスライドを作成する。提出をする。
13 テキストボックス	イラストや画像の挿入、グラフの作成と画像挿入の仕方、文字の選択、テキストボックスの使い方
14 図表グラフの作成	図表、グラフ、表の作成を取り入れたプレゼンテーションの作成、提出
15 印刷、まとめ	スライドの印刷方法、まとめ、印刷提出

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	情報処理 II (プレゼンテーション演習)		情報処理 II (プレゼンテーション演習)	
担当者	田口 功 Isao Taguchi		対象学年	1年
			単位	1

■授業のねらいと到達目標

本講義では、最初Windowsの基本的な扱い方について学ぶ。情報処理 I に引き続き、コンピュータリテラシーとして必要表計算ソフトExcelの使い方を学ぶ。表計算ソフトは、Excel2007を使用し、MOUS検定に適した内容をおこむ。時間に応じて文書作成ソフトTexの簡単な演習も行う。

■授業の進め方(履修条件等)

前半、後半を通し、教科書を使いながら演習課題を各自作成し、授業を進めます。説明、実技、説明、実技という繰り返して授業を進める。

■成績評価方法・基準

前期と同様に提出物、小試験の2点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書にExcelについては詳しくまとめられている。目を通しておくことが望まれる。

復習：授業中に指摘された事柄について良く復習してください。

■教科書

情報リテラシー Office 2007 実教出版

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Excelの基本	Excel2007の初期画面について、Word、Power Pointの画面と比較しながら、画面構成を説明。できるだけたくさん関数を用いて計算を行い簡単な文字入力、演算機能に慣れる。
2 Excelの基本(2)	文字型データと数値型データがあることを確認する。両データの入力に関する規則を学び表を行ないセルの概念も習得する。
3 相対番地、絶対番地、混合番地	式のコピーをするうえで、相対番地、絶対番地、混合番地の概念が必要となる。2個の表作成を通して、相対番地、絶対番地、混合番地の有効な使用法を学ぶ。
4 基本関数	Excel関数の最も基本となる関数の使い方、合計、平均、最大、最小の使い方と式の書き方について例題を通して学習する。
5 データの作成とグラフ	数学でよく使用されるsin関数やcos関数のグラフを書く前のようにデータを作成したらいかに説明する。例題を通してデータの集まりとしての簡単なグラフを作成し、グラフの基本を学ぶ。
6 グラフと根	折れ線グラフを作成し、多項式の根を求める。さらに、ニュートン法を用い、公式を説明し、繰り返し計算の概念を学ぶ。専卓と同じように繰り返し計算によって根が求められることを学ぶ。
7 グラフ	与えられた例題データに対して、棒グラフや円グラフ、折れ線グラフをよって作成する。タイトルやx軸のラベルの表示方法、y軸のラベルの表示方法も覚え、グラフを見やすくする。
8 演習問題	グラフ、関数の作り方、ニュートン法を用いて多項式の根を求める。グラフ、根を求め、画面にその過程を表示し、印刷し提出する。
9 表の作成	売上管理表を通して、さまざまな機能を用いた表を作成する。文字の表示形式、配欄の仕方、列幅や行の高さを調節する。フォントの書式、配欄の仕方についても例題を通して学ぶ。
10 表の作成(2)	表作成に対して、セルの分割、結合を行ない表を整えることを学ぶ。罫線の色や種類についてもいろいろ取り入れる。行の削除や挿入概念についても例題を通して学ぶ。
11 式の作り方	例題を通して、式の作り方を学習する。比率の計算、すなわち、構成比や達成率などを求める例題を行う。if文も取り入れ表を作成させる。
12 条件指定関数	野郎の成績表を用いcountif文、sumif文についても使用方法を学ぶ。打率や出席率なども計算し、表としてまとめ印刷を行ない提出する。
13 関数の使い方と印刷	条件指定関数やif文、RANK関数などを用い、順位などを求め、表を完成する。式のコピーについて理解を深め、印刷の仕方についても注意をする。
14 参照関数	商品一覧表を例として用い、vlookup関数、切り捨て、切り上げ、四捨五入を行なって明細表を完成させる。印刷を行ない提出を行う。
15 まとめ	まとめとして、EXCELで作成したデータ、Wordで作成した文章を用い、グラフや表を作成し、POWER POINTで発表するスライドを作成する。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			シミュレーション入門			
担 当 者	田口 功 <i>Isao Taguchi</i>		対象学年	2年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

コンピューターを用いたシミュレーションは、どのような分野で行なうかによってさまざまである。本講義では、コンピューターシミュレーションの初歩を数学の復習をかねて行なう。決定的モデルのシミュレーションや、ニューラルネットワークのシミュレーションを例として、基礎的シミュレーション概念を身につけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

前半、後半を通し、MATLABを用いて基礎的プログラム作成問題の演習を行ないながら授業を進めます。前半では、MATLABの基礎的事項を中心に授業を行なう。

■成績評価方法・基準

小試験を必要に応じて行なう。およびレポートの2点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：MATLABの基礎知識については、インターネットを通してよく資料を見て研究して下さい。

復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

コンピュータシミュレーション 伊藤俊英・草薙信照 Ohmsha 平成18年

■参考文献

MATLABプログラミング入門 上坂吉則 牧野書店 平成13年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方とMATLABについて初歩を説明
2 MATLABの基礎知識- (1)	MATLABの起動、終了、画面の構成、プログラムの作成、保存の仕方
3 MATLABの基礎知識- (2)	MATLABの基本操作、コマンドウィンドウについて
4 MATLABの基礎知識- (3)	MATLABによる四則演算、ベクトルと行列の作り方
5 MATLABの基礎知識- (4)	四則演算、行列関数、対角化
6 2次元グラフィックス- (1)	関数データの作成と基本的折れ線グラフの作成、グラフの飾り
7 2次元グラフィックス- (2)	多量のデータの入力と種々のグラフの作成法
8 3次元グラフィックス- (1)	基本的な空間曲線を描く、meshgrid命令の理解
9 3次元グラフィックス- (2)	たくさんの空間曲線を描く
10 数値解析- (1)	方程式の数値解法 ニュートン法について
11 数値解析- (2)	定積分の数値解法
12 物体の放物運動	放物運動曲線を描くプログラムの作成
13 モンテカルロ法	円周率 π の近似値
14 定積分	近似式による定積分の計算
15 モンテカルロ法の精度	期待値、標準偏差

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	2年次専門研究				総合講座 I	
担 当 者	田中 未央 <i>Mio Tanaka</i>		対象学年	2年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

教育現場に関連する心理学的な諸問題について、書籍や新聞、インターネットを活用して情報を収集し、他者との議論を通して理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ形式で実施する。授業内で扱うテーマごとに担当者を決めて発表と議論を行うので、遅刻・欠席は厳禁である。また、前期・後期同一内容を受講学生を交代して実施する。

■成績評価方法・基準

発表・授業態度・リアクションペーパーによって総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：与えられたテーマに関する資料収集

復習：授業の内容を整理し、まとめる。

■教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、授業計画、担当の決定
2 講義①	資料収集の方法について
3 講義②	発表の方法について（プレゼンテーションの基本、レジュメの作成方法について）
4 講義③	適応と不適応
5 発表①	広汎性発達障害
6 発表②	注意欠陥多動性障害
7 発表③	学習障害
8 発表④	青年期以降の発達障害
9 発表⑤	アイデンティティの達成とモラトリアム
10 発表⑥	無気力（スチューデントアパシー）
11 発表⑦	不登校
12 発表⑧	いじめ問題
13 発表⑨	問題行動
14 発表⑩	児童虐待とおとなのメンタルヘルス
15 まとめ	授業の総括
16 オリエンテーション	授業の進め方、授業計画、担当の決定
17 講義①	資料収集の方法について
18 講義②	発表の方法について（プレゼンテーションの基本、レジュメの作成方法について）
19 講義③	適応と不適応
20 発表①	広汎性発達障害
21 発表②	注意欠陥多動性障害
22 発表③	学習障害
23 発表④	青年期以降の発達障害
24 発表⑤	アイデンティティの達成とモラトリアム
25 発表⑥	無気力（スチューデントアパシー）
26 発表⑦	不登校
27 発表⑧	いじめ問題
28 発表⑨	問題行動
29 発表⑩	児童虐待とおとなのメンタルヘルス
30 まとめ	授業の総括

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	2 年次専門研究		総合講座 I	
担 当 者	田村 孝 Takashi Tamura		対象学年	2 年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

ヨーロッパ近代史を学ぶことを目的とする。ここでは16世紀以降のイギリスがどのように海洋交易に乗り出し、大国となったのかを、海賊の活動を中心に見てみたい。影のアウトローの世界が表のイギリス帝国の形成にいかにか影響を与えたのかを学ぶこととする。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書として、竹田いさみ著『世界史をつくった海賊』（ちくま新書 2011年 760円）を用い、報告担当者を決めて、輪読形式とする。報告者は担当ページに関するレジュメ（要約プリント）を作って受講生に配布し、プレゼンテーションをする。前期・後期同一内容を、受講学生を交代して実施する。

■成績評価方法・基準

報告レジュメと報告内容、およびレポートによる。テキストを十分理解しているかどうかを基準とする。

■授業の予習・復習

受講学生は全員、授業までに該当部分を読んでくること。

■教科書

竹田いさみ『世界史をつくった海賊』 ちくま新書 2011 760円

■参考文献

そのつど指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講上の注意
2 テキストのまえがき	レジュメ・プリントのつくり方と報告のしかた
3 pp.16-28.	報告と質疑応答
4 pp.28-47.	報告と質疑応答
5 pp.50-66.	報告と質疑応答
6 pp.66-82.	報告と質疑応答
7 pp.83-95.	報告と質疑応答
8 pp.95-105.	報告と質疑応答
9 pp.108-122.	報告と質疑応答
10 pp.122-134.	報告と質疑応答
11 pp.135-145.	報告と質疑応答
12 pp.148-164.	報告と質疑応答
13 pp.165-184.	報告と質疑応答
14 pp.186-202.	報告と質疑応答
15 pp.202-219.	報告と質疑応答、まとめ
16 オリエンテーション	受講上の注意
17 テキストのまえがき	レジュメ・プリントのつくり方と報告のしかた
18 pp.16-28.	報告と質疑応答
19 pp.28-47.	報告と質疑応答
20 pp.50-66.	報告と質疑応答
21 pp.66-82.	報告と質疑応答
22 pp.83-95.	報告と質疑応答
23 pp.95-105.	報告と質疑応答
24 pp.108-122.	報告と質疑応答
25 pp.122-134.	報告と質疑応答
26 pp.135-145.	報告と質疑応答
27 pp.148-164.	報告と質疑応答
28 pp.165-184.	報告と質疑応答
29 pp.186-202.	報告と質疑応答
30 pp.202-219.	報告と質疑応答 まとめ

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	2 年次専門研究		総合講座 I	
担 当 者	畑中 千晶 Chiaki Hatanaka		対象学年	2 年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

教育に関わる諸問題や日々の生活で見つけた課題等を新聞や書籍など様々な情報を通して知ること、自分の考えを友達や教員の中で発表したり修正したりすること、多様なものに興味をもって取り組み、自らの課題として捉え深めることなどを通して、自分の進むべき道を見定めていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

前期（畑中担当）：グループ発表を通じて問題解決能力を高めるほか、小学校教員が身につけておくべき知識・能力の育成を総合的に図ります。後期（越川担当）：数の面白さ、図形の魅力などを実感する活動を通じて、数学教育に必要な知識・能力の育成を図ります。

■成績評価方法・基準

毎時間の話し合いや活動、課題への取り組み、発表、レポート等を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教員とともに課題を探し、取り組み
復習：課題を整理して、自分なりにまとめる

■教科書

必要に応じてプリントを配布します。

■参考文献

適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	自己紹介、前期の進め方について
2 ウォーミングアップ	互いを知るための活動
3 ウォーミングアップ	教育に関わる諸問題を見つめる
4 ウォーミングアップ	日々の生活の中で見つけた課題を見つめる
5 発表活動に向けて	グループ分け、テーマ検討
6 発表活動に向けて	テーマ決定、分担等の討議
7 発表準備	情報収集、討議
8 発表準備	テーマについての討議
9 発表準備	発表のシミュレーション、資料作成
10 発表	グループ発表
11 ふりかえり	発表内容についての討議
12 発展項目	構成的グループエンカウンターを実践してみる
13 発展項目	こどもの遊びについて
14 発展項目	絵本の読み聞かせを実践してみる
15 まとめ	前期ふりかえり、自由討議
16 イントロダクション	自己紹介、後期の進め方について
17 ウォーミングアップ	互いを知るための活動
18 ウォーミングアップ	算数・数学の今までの各自の学びについて発表する
19 ウォーミングアップ	算数的活動について知る
20 発表活動に向けて	算数的活動のテーマ決定、分担等の討議
21 発表準備	情報収集、討議
22 発表準備	テーマについての討議
23 発表準備	発表のシミュレーション、資料作成
24 発表（1）	テーマに基づいて模擬授業を行う（1）
25 発表（2）	テーマに基づいて模擬授業を行う（2）
26 発表（3）	テーマに基づいて模擬授業を行う（3）
27 発表（4）	テーマに基づいて模擬授業を行う（4）
28 ふりかえり	発表内容についての討議
29 発展項目	グループエンカウンターの実践
30 まとめ	後期ふりかえり、自由討議

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	2年次専門研究		総合講座 I	
担当者	山口 政之 Masayuki Yamaguchi		対象学年	2年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

教師になるためには、まず「教職を目指す学生」にならなければいけません。そのために教員が用意した資料をもとに話し合ったり、各自で用意した資料を用いてプレゼンをしたりしながら、学級担任の生き方に対する理解を深めていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

- ・自分で調べ、準備をして発表することが多いので、しっかり課題を把握し、調べることが必要です。
- ・前期・後期同一内容を受講学生を交代して実施します。

■成績評価方法・基準

出席や毎時間の活動、記録、課題への取り組み、発表、レポート等を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

- 予習：教員とともに課題を探し、取り組む。
- 復習：課題を整理して、自分なりにまとめる。

■教科書

適宜、印刷物を配布する。

■参考文献

藤本浩行『新任教師 はじめの一步』さくら社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス・学級担任への道	小学校の学級担任に求められる「豊かな人間性」とは何か。また、人間性を書かすためにはどうしたらよいかを考え、ゼミでの学びに見直しを持つ。
2 子供に語る①・自己紹介	自分の長所、あるいは長所としたい面を自覚し、それらを発展させるためにはどうすべきなのかを考える。
3 子供に語る②・朝の先生の話	ニュースを要約して紹介し、最後に自分のメッセージを加えて話をする。
4 房総学①・概説	千葉県の特長、工業、水産業、昔話、観光名所など、小学生の学習に関連付けて千葉県をより深く理解する。
5 新聞を読む①・教育関係	自分の興味がある新聞記事を紹介し、そこからフットワークをする。
6 学級文庫を育てる	学級文庫をどのように活用され、充実していくことが望ましいのかを考える。
7 子供と遊ぶ	外遊びを紹介しようとするを通して、ルールの確かな説明の仕方や、安全面の配慮等について考える。
8 プロジェクト学習①・話し合いの指導	プロジェクトを想定して実際に話し合いながら、指導のポイントを理解する。
9 新聞を読む②・投書欄	新聞の投書から効果的な意見の書き方考える。
10 子供の遊び・レク活動	小学校の特定の学年の児童を想定して、フットワークをする。
11 プロジェクト学習②・活動	プロジェクト学習①での話し合いを受けて、実際の活動をする。
12 子供の遊び・言語文化	いろは歌留多や百人一首だけでなく、一茶歌留多や賛治歌留多、ご当地歌留多などを体験し、指導できるようにする。
13 世界の教育	オランダにおけるイェナプランの実践から、教育思想と教育実践の関係を考える。
14 房総学②	自分の選んだテーマに沿って調べた内容をプレゼンする。
15 総括・目指す教員像	自分が目指す教員像を明らかにし、理想に近づくためにこれから努力することを発表する。
16 ガイダンス・学級担任への道	小学校の学級担任に求められる「豊かな人間性」とは何か。また、人間性を書かすためにはどうしたらよいかを考え、ゼミでの学びに見直しを持つ。
17 子供に語る①・自己紹介	自分の長所、あるいは長所としたい面を自覚し、それらを発展させるためにはどうすべきなのかを考える。
18 子供に語る②・朝の先生の話	ニュースを要約して紹介し、最後に自分のメッセージを加えて話をする。
19 房総学①・概説	千葉県の特長、工業、水産業、昔話、観光名所など、小学生の学習に関連付けて千葉県をより深く理解する。
20 新聞を読む①・教育関係	自分の興味がある新聞記事を紹介し、そこからフットワークをする。
21 学級文庫を育てる	学級文庫をどのように活用され、充実していくことが望ましいのかを考える。
22 子供と遊ぶ	外遊びを紹介しようとするを通して、ルールの確かな説明の仕方や、安全面の配慮等について考える。
23 プロジェクト学習①・話し合いの指導	プロジェクトを想定して実際に話し合いながら、指導のポイントを理解する。
24 新聞を読む②・投書欄	新聞の投書から効果的な意見の書き方考える。
25 子供の遊び・レク活動	小学校の特定の学年の児童を想定して、レク活動のリーダーとなる。
26 プロジェクト学習②・活動	プロジェクト学習①での話し合いを受けて、実際の活動をする。
27 子供の遊び・言語文化	いろは歌留多や百人一首だけでなく、一茶歌留多や賛治歌留多、ご当地歌留多などを体験し、指導できるようにする。
28 世界の教育	オランダにおけるイェナプランの実践から、教育思想と教育実践の関係を考える。
29 房総学②	自分の選んだテーマに沿って調べた内容をプレゼンする。
30 総括・目指す教員像	自分が目指す教員像を明らかにし、理想に近づくためにこれから努力することを発表する。

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名	教育原論 I		教育原論	
担当者	武内 清 Kiyoshi Takeuchi		対象学年	1年
			単位	2

■授業のねらいと到達目標

教育の思想、歴史を通して、教育の哲学、原理を学ぶ。教育を成り立たせている学校の制度、組織、集団的特質、教育改革について講義する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義、小集団討論、リアクションペーパーなどで、進める。

■成績評価方法・基準

授業への積極的参加20%、リアクションペーパー20%、試験60%。

■授業の予習・復習

予習は教科書を読み、復習は配布プリントを中心に行うこと。

■教科書

武内清編『子どもと学校』学文社、2010。

■参考文献

授業時に指示。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	教育とは
2 学校 1	学校の特質
3 学校 2	学校の歴史、学校の社会的背景
4 学校 3	教育法規（教育基本法、学校教育法、ほか）
5 学校 4	学校組織の特質
6 学級	学級成立の歴史
7 教育思想 1	西洋の教育思想 1
8 教育思想 2	西洋の教育思想 2
9 教育思想 3	日本の教育思想
10 教育言説 1	教育言説とは
11 教育言説 2	教育言説の特質
12 教育言説 3	子ども言説
13 教育改革 1	教育改革の思想
14 教育改革 2	教育改革の流れ
15 まとめ	教育の原理について考える。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教育原論Ⅱ		教育原論	
担 当 者	武内 清 Kiyoshi Takeuchi		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現代の教育や学校のシステムや制度、組織、集団の実態を講義する。また、実際の学校の中でどのような教育や学習がなされているのか、さらに意図しないことでもどのような影響が子どもたちに及んでいるのかを講義し、また体験に基づく討論も行う。教育に及ぼす、国際社会、国家、正治、経済、文化、地域社会の影響も考察する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義を中心にすすめるが、討論も取り入れ、皆の意見も聞きながら進める。

■成績評価方法・基準

授業への積極的参加20%、リアクション・ペーパー20%、期末試験60%。

■授業の予習・復習

配布されたプリントを読み返し、授業の復習を必ず行うこと。

■教科書

武内清編『子どもと学校』（学文社、2010）。さらに授業時にプリントを配布する。

■参考文献

授業時に指示。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教育の社会的側面1	現代社会と教育
2 教育の社会的側面2	政治、経済と教育
3 脱学校論	学校教育の可能性と制約
4 学習指導要領	その変遷
5 教師と子ども	その関係性を問う
6 教育現場	教育現場と子ども
7 成長	子どもの成長と学校
8 カリキュラム	その思想的背景と子ども
9 進路指導	キャリア教育の思想と実際
10 道徳教育	その現状と課題
11 部活動	その現状と課題
12 多文化教育	その思想と実態
13 ジェンダーと教育	その思想と実態
14 情報教育	その実際と技法
15 まとめ	教育の理念と実際を考える。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	教職概論		教職概論	
担 当 者	武内 清 Kiyoshi Takeuchi		対象学年	2 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

教員の仕事内容について広く学ぶ。教員の置かれた社会的背景、教員の採用、研修、教員の属する学校組織の特質、校務分掌、教職倫理、教師・生徒関係、親との関係、地域社会との関係など、教員として仕事をしていく上で必要な知識や技法を学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

講義を中心に行うが、毎時間、自分の考えや質問を書くリアクションペーパーを課す。討論も取り入れる。

■成績評価方法・基準

授業の発言20%、リアクションペーパー30%、学期末試験50%。

■授業の予習・復習

配布されたプリントを読み、復習をよくすること。

■教科書

使用しない。プリントを配布。

■参考文献

授業時に指示。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	教職の意義について
2 専門職	教職は専門職か。
3 教育法規	教育法規と教師の役割
4 研修	教育実習、校内研修、外部研修
5 教員の地位	教員の社会的背景、身分、倫理
6 教師のメンタルヘルス	教師の多忙感、バーンアウト、病氣対策
7 ライフスタイル	教師のタイプ、日常生活
8 仕事内容	教科指導、生徒指導、部活の指導、校務分掌
9 管理職	校長、教頭、主任の役割
10 教師—生徒関係	その実際とあるべき姿
11 問題行動	生徒の問題行動への対処の仕方
12 キャリア教育	その教育内容と方法
13 カリキュラム	教科書の使い方、教科書以外の教材の使い方
14 親、地域社会	その連携の仕方
15 まとめ	教師の現実と理想

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	初等国語科指導法		初等国語科指導法	
担 当 者	山口 政之 Masayuki Yamaguchi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

国語科教育の現状と課題をふまえて、これからの時代に求められる適切な表現力や正確な理解力を養うための国語科学習のあり方を学習指導要領の内容に即して理解することをねらいます。初等国語科におけるキーワードが口頭で説明できるように理解してください。

■授業の進め方（履修条件等）

学習指導要領に示された内容と、学習材（授業では主に教科書教材）、学習者の実態、学習指導案の4者のつながりを踏まえて、実際の授業における教師の役割や教育方法等について理解を深めてもらいます。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。

■成績評価方法・基準

出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席4回は履修放棄とみなします。

■授業の予習・復習

予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読んでおいて下さい。
復習：資料やノートを読み返し、授業内容の理解に努めて下さい。

■教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社

■参考文献

西本鶏介監修『教科書にでてくるお話5年生』ポプラ社。
その他、授業の中で適宜紹介していく。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 国語科の本質と目的	なぜ国語を学ぶのか、国語教育と国語科教育の違いなどを考察する。
2 教育課程と教科構造	明治期からの国語科指導を概観し、現行の学習指導要領に示された国語科を理解する。
3 「話すこと・聞くこと」の指導法①話題設定	2年「きき方名人になろう」の学習展開を例に学習の導入である話題設定の意義を理解する。
4 「話すこと・聞くこと」の指導法②話し合うこと	6年「ハナルディスカッション」の学習展開を例に話し合いの指導法を理解する。
5 「書くこと」の指導法①生活的な内容	1年「めいしてじこしょうかいしよう」の学習展開を例に子供の生活に役立つ表現活動の指導法を理解する。
6 「書くこと」の指導法②創造的な内容	5年「コラムを書こう」の学習展開を例に楽しんで書ける表現活動の指導法を理解する。
7 「書くこと」の指導法③日記・文集	学級で取り組む日記指導や、文集作りの意義と具体的な指導過程を理解する。
8 「読むこと」の指導法①説明的な文章	4年「花を見つめる手がかり」の学習展開を例に段落や要約などに関する指導法を理解する。
9 「読むこと」の指導法②文芸的な文章	3年「わすれられないおくりもの」の学習展開を例に場面描写や登場人物の相互関係などを押さえた指導法を理解する。
10 「読むこと」の指導法③読書活動	図書館の機能活用を促す学習や読書会などの指導法を理解する。
11 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導法①伝統的な言語文化	4年「短歌の世界」や「故事成語」の学習展開を例に、中学での古典学習との違いに留意して小学古典の指導法を理解する。
12 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導法②言葉の特徴やさまり、文字	3年「ローマ字」や「文の組立て」の学習展開を例に、教え込みにならない学習活動の指導法を理解する。
13 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導法③書写	2年「手紙でつたえよう」の学習活動を例に書写学習の目的を自覚させる指導法を理解する。
14 総合学習中での言語活動	4年「房総学」の実践事例を通して、総合学習における言語活動とその指導法を理解する。
15 総括・国語科教育と学級経営	14回の講義内容を踏まえて、小学校の学級担任の仕事为国語科教育の観点から理解する。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	算数科指導法		算数科指導法	
担 当 者	越川 浩明 Hiroaki Koshikawa		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校における算数の内容を知り、現場で行われている代表的な指導実践などを紹介します。学校現場でより良い授業が展開できるようになることをねらいとし、算数科の指導案が作成できることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

テキストと模擬授業のDVDを中心に授業を進めます。小学校での算数の授業がどのように行われるかについて現場教諭による講義も取り入れます。算数概説を履修済みが履修条件です。

■成績評価方法・基準

指導案提出（50%）、定期試験（50%）ただしこの配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習：教科書をよく読んでくること。
復習：講義の内容を復習しておくこと。

■教科書

文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」平成20年8月（東洋館出版社）。
改訂版小学校算数「授業力をみがく」指導ガイドブック（啓林館）

■参考文献

島田和昭著「問題解決にもとづく算数指導—既習事項の発展と拡張をめざして」（東洋館出版社）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	算数科の目標と内容の概観
2 学校現場での実際	小学校教諭による模擬授業
3 数と計算の指導 1	低学年の内容
4 数と計算の指導 2	中学年の内容
5 数と計算の指導 3	高学年の内容
6 量と測定の指導 1	1学年～3学年の内容
7 量と測定の指導 2	4学年～6学年の内容
8 図形の指導 1	1学年～3学年の内容
9 図形の指導 2	4学年～6学年の内容
10 数量関係の指導 1	1学年～3学年の内容
11 数量関係の指導 2	4学年～6学年の内容
12 算数科の学習指導計画	学習指導計画の立て方
13 算数科の評価基準	評価基準の趣旨について
14 指導案作成	グループに分かれ指導案を作成する
15 指導案の発表	グループごとの指導案発表を行う

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	初等社会科指導法		初等社会科指導法	
担 当 者	田村 孝 Takashi Tamura		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校社会科の授業をどのように作り、指導していくのかを講義する。あわせて将来の教育実習へ向けて、受講生には授業の指導案を作成してもらい、それに基づいて模擬授業を実践し、その後模擬授業について皆で論評する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義と受講生の実践作業により展開する予定であるが受講生の人数によって臨機応変に進める。

■成績評価方法・基準

地域調査レポート、模擬授業指導案、および課題レポートもしくは試験による。

■授業の予習・復習

地域調査レポートや模擬授業指導案作りなど自宅での予習を必要とする。

■教科書

文部科学省 『小学校学習指導要領 平成20年3月告示』
東京書籍
文部科学省 『小学校学習指導要領解説 社会編 平成20年8月』 東洋館出版社

■参考文献

そのつど指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講上の注意
2 学習指導要領と小学校社会科	教科の構造と理念
3 子どもたちを取りまく社会（1）	戦後から1960年代まで
4 同 上（2）	1960年代から高度経済成長の終焉まで
5 中学年	社会科（地域学習）のカリキュラム構造と授業づくり
6 中学年	任意の単元を選び、授業指導案をつくる。
7 中学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評（1）
8 中学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評（2）
9 高学年	5年生社会科（地理的分野）のカリキュラム構造と授業づくり
10 高学年	6年生社会科（歴史的分野）のカリキュラム構造と授業づくり
11 高学年	5～6年生のどちらかの任意の単元を選び授業指導案をつくる。
12 高学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評（1）
13 高学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評（2）
14 高学年	有志による指導案に基づいた模擬授業の実践と講評（3）
15 まとめ	実践や講評を踏まえて、小学校社会科授業の指導案をつくりなおす。

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	初等理科指導法		初等理科指導法	
担 当 者	土井 仁 Jin Doi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校理科の目標や内容を十分に理解するとともに、目標達成のための実践的な方法について学習します。教材研究の進め方。授業の構成。実験・観察の実際。子どもの活動の場づくり。安全管理・安全指導。指導案の作成と授業の進め方を学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

『理科』を履修した学生が対象です。毎時間授業プリントを配布します。各分野から小単元を選び、小学校の授業を念頭に、観察・実験を中心に据えた実践的な学習を行います。

■成績評価方法・基準

①学習意欲・態度、②実験・観察、表現、③レポート、④定期テスト（めやす①20%、②10%、③20%、④50%）

■授業の予習・復習

予習：次時の学習、予習内容を指示します。
復習：配布プリントをもとに学習を深めてください。

■教科書

小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省

■参考文献

小学校理科用教科書（「大日本図書」等）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	「教師に必要な資質・能力」「授業の構成と進め方」「理科の評価」
2 理科授業の創造	「興味・関心・意欲」「実験・観察」「科学的思考力」小単元の分析
3 実験・観察の技能	化学実験法〔加熱器具、計量器、実験装置の組み立て、実験器具〕
4 授業研究『物質』（1）	VTR視聴「模範授業」（金属を溶かす水溶液）授業の構成・展開を学ぶ。
5 指導案の作成	「金属と酸の反応」指導案の作成。授業準備（板書計画、予備実験）
6 授業場面の検討	「理科授業の進め方」導入、課題把握、実験、まとめ、安全など
7 『物質』（2）	「水の加熱」実験・観察と推論。安全な実験。安全管理・安全指導。
8 『エネルギー』（1）	「振り子の運動」実験条件の制御。実験データの収集。指導案の作成。
9 『エネルギー』（2）	「電気の働き」「電流の働き」電流計、電圧計。簡易モーターの製作。
10 『エネルギー』（3）	「てこの規則性」教具の効果的な演示。モデル思考。ものづくり。
11 『生命』（1）	「身近な生物」「水の中の小さな生物」観察器具の習熟。記録の方法。
12 『生命』（2）	「昆虫と植物」「植物の養分と水の通り道」観察と記録法の指導。
13 『地球』（1）	「月と星」「月と太陽」モデルの製作と活用。効果的な演示。指導案。
14 『地球』（2）	「流水の働き」「土地のつくりと変化」実験器具の活用。視聴覚教材の作成。
15 まとめ	理科授業の特徴と展開。理科教師に必要な資質・能力。安全管理と指導。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	初等音楽科指導法		初等音楽科指導法	
担 当 者	山本 陽子 Yoko Yamamoto		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校音楽科教育の意義を理解し、基本的な授業づくりを行う能力を養うことを目指します。学習指導要領にある小学校音楽科の目標と内容、指導計画、評価などを知り、実際の音楽科授業についての理解を深めます。

■授業の進め方（履修条件等）

「音楽」の履修済を原則とします。音楽に対する基礎的な理解を前提に、実際の授業についての具体的な事例を取り上げながら、進めます。

■成績評価方法・基準

毎時間の取り組み、課題レポート、実際の活動、試験等 総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読む 課題意識をもつ
復習：学んだことを活動したことを整理する

■教科書

「新音楽の授業づくり」教育芸術社（2009）
「小学校学習指導要領解説音楽編」文部科学省

■参考文献

教育芸術社 教育出版 東京書籍 3社の教科書

■授業内容

授業項目	授業内容
1 音楽教育の目的と意義	なぜ音楽を学ぶのか
2 学習指導要領	音楽科の目標 各学年の目標と内容
3 音楽教育の変遷	有史以来の音楽教育の歴史 明治以降の日本の音楽教育
4 授業づくりに向けて①	年間指導計画と題材 共通事項と音楽の理解
5 授業づくりに向けて②	子どもの発達と音楽の理解
6 授業づくりに向けて③	音楽科の評価
7 授業づくりの実際①	発達段階による授業づくりのポイント
8 授業づくりの実際②	表現の授業①
9 授業づくりの実際③	表現の授業②
10 授業づくりの実際④	鑑賞の授業
11 授業づくりの実際⑤	低学年授業の実際① 題材を選んで
12 授業づくりの実際⑥	低学年授業の実際② グループで話し合って
13 授業づくりの実際⑧	低学年授業の実際③ 発表し合って
14 授業づくりの実際⑨	中学年授業の実際① 題材・内容を相談して
15 授業づくりの実際⑩	中学年の授業の実際② 発表を見合って

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	図画工作科指導法		図画工作科指導法	
担 当 者	小橋 暁子 Satoko Kobashi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

図画工作科教育の目的と意義、内容について理解し、授業構成を考える能力を養うことを目的とする。理論と演習を通して、教材開発の力や自らの造形教育観を持つことができることを目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

初等図画工作概説の履修を原則とする。講義と演習を組み合わせながら進めていく。授業内で学んだことをもとに教材研究を行い、グループ内で、計画、準備、活動実施、評価等をする演習を行う。

■成績評価方法・基準

授業への取組、提出物（作品・ノート）、グループ演習への参加、レポート等に出席状況をふまえて評価します。

■授業の予習・復習

予習：課題意識を持つ 次回の授業の準備（材料・道具）
復習：授業で指示された課題を行う ノート・資料の整理

■教科書

小学校学習指導要領解説「図画工作編」日本文教出版
「色・形・イメージ+これからの図画工作」日本文教出版

■参考文献

小学校教科書「すがこうさく」（1・2上下）「図画工作」（3・4上下／5・6上下）開隆堂出版
その他：授業時に適宜紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業概要 図画工作の目的
2 表出と表現について	線描を通して子どもの発達と関連させ表現について考える
3 図画工作科の目標と内容	図画工作科の目標・内容の構成とその意義について
4 「造形遊び」の目的と内容	内容と意義および展開例の検討
5 「表したいものを表す」ことの意味と内容	内容とその意義、および題材例の検討
6 「表現」と「鑑賞」の関係について	表現と鑑賞の関係について題材例を通して検討
7 材料と道具の関係について①	描画材（クレヨン・パス・絵の具）の組成と使用方法と内容、留意事項について検討
8 材料と道具の関係について②	木材等立体造形にかかわる道具（切る・彫る・穴をあける・打つ・接着）の使用方法と内容、留意事項について検討
9 「グループワーク」のための活動案作成	図工授業の事例検討とグループワークのための授業計画立案・試作のための準備・確認
10 「グループワーク」のための実験・準備①	題材内容の検討と試作
11 「グループワーク」のための実験・準備②	題材の検討と活動のための準備
12 グループワーク①	計画の実施と評価
13 グループワーク②	計画の実施と評価
14 グループワーク③	計画の実施と評価
15 これからの図画工作	図画工作科の授業の可能性、他領域とのかかわり

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	初等体育科指導法		初等体育科指導法	
担 当 者	藤井 喜一 <i>Kiichi Fujii</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校学習指導要領「体育科」の目標及び内容を理解し、学習内容や学習の進め方に関する基礎的な考え方を理解する。さらに、学習計画立案の手順を理解し、学習指導案の作成を行うことができるようにする。

■授業の進め方（履修条件等）

学習指導案の内容と授業の組み立て方を学んだ後、グループ、あるいは個人で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。そして、授業後に研究協議を行う。

■成績評価方法・基準

模擬授業に対する積極性、作成した学習指導案
論述試験により評価する。

■授業の予習・復習

予習：指導要領解説の各領域を読み内容をノートにメモすること。
復習：授業の要点をまとめる。また、模擬授業の授業内容、研究協議については詳細に記録すること。

■教科書

文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編 東洋館出版社
文部科学省 中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	体育科で学ぶものは何か
2	小学校学習指導要領(体育編)	学習指導要領の全体を概観する
3	体育科の歴史	基本的性格、目標、内容の変遷
4	体育のカリキュラム	カリキュラムの構造と授業設計
5	評価について	体育の授業評価の方法
6	教師の指導技術	体育の授業における教師の指導技術とは
7	指導計画について	指導計画をどのように作成するか
8	学習指導案の作成①	模擬授業に向けての学習指導案づくり
9	学習指導案の作成②	模擬授業に向けての学習指導案づくり
10	模擬授業①	模擬授業と授業後の協議会
11	模擬授業②	模擬授業と授業後の協議会
12	学習指導案の作成③	模擬授業に向けての学習指導案づくり
13	学習指導案の作成④	模擬授業に向けての学習指導案づくり
14	模擬授業③	模擬授業と授業後の協議会
15	模擬授業④	模擬授業と授業後の協議会

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	初等家庭科指導法		初等家庭科指導法	
担 当 者	関 弘子 <i>Hiroko Seki</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校「家庭」の指導者育成を目指して、家庭科の基本的な指導法の理解を図り、実践的な力を培う。目標として学習の指導計画の立案や学習指導案の作成を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

授業場面を想定し、題材について指導内容を確認したり、指導方法を工夫したりして指導案（題材案・時案）を作成する。

■成績評価方法・基準

提出物（レポート、学習指導案等）、実習、作品製作、試験等により評価する。

■授業の予習・復習

予習：次週の授業内容をテキストや資料で確認しておく。
復習：示された課題について取り組む。

■教科書

・小学校学習指導要領解説家庭編：東洋館出版社
・小学校家庭科の指導：中間美砂子・多々納道子編著 建邦社

■参考文献

・家庭科教育法：高陵社、小学校家庭科の研究：学芸図書、
小学校5、6年家庭科：開隆堂

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	家庭科の歩み	「目標」や「内容」の変遷、課題
2	家庭科の指導法	指導法の諸方式
3	家庭科の評価	評価の意義、評価の計画・観点・基準・方法
4	家庭科の指導計画	指導計画の意義、作成上の留意事項
5	学習指導案	題材案、時案
6	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計	指導内容の概要、指導内容の分析「B1. 2.」
7	「健康と食べ物」の題材案作成	題材名、題材設定の理由、目標、指導計画
8	「健康と食べ物」の題材案検討	題材案の検討
9	「ごはんのみそしる」の実習計画	指導内容の確認（「B3」）、実習計画
10	「ごはんのみそしる」の実習と評価	調理実習と評価
11	「家庭生活と家族」の授業設計	指導内容の概要、指導内容の分析「A1. 2. 3」
12	「家庭生活と家族」の指導案作成	題材名、題材設定の理由、目標、指導計画、時案
13	「快適な衣服と住まい」の授業設計	指導内容の概要、指導内容の分析「C1. 2.」
14	「生活に役立つ物」の作成計画	指導内容の確認（「C3」）、ミシンを活用して作品製作の計画
15	「生活に役立つ物」の製作と評価	作品製作と作品評価

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	生活科指導法		生活科指導法	
担 当 者	池谷 美佐子 Misako Ikeya		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

生活科の特性をふまえ、児童の生活圏における「人、社会、自然」についての理解を深めたり、児童の発達特性をもとに行動や思いについての理解を深めたりしながら、生活科の教材化について学び、実践をふまえた指導計画の作成並びに学習指導案の作成に取り組みます。また、生活科の指導に必要な基礎的なことから・習慣・技能についても具体的に身に付けることに取り組みます。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業の取り組み内容を積み重ねていくので、出席を重視します。

■成績評価方法・基準

授業毎に作成するリアクションペーパー（40%）
指導案と模擬授業（30%）
期末試験（30%）

■授業の予習・復習

予習：生活科の指導計画についての理解を深めてくる
復習：授業内に完成しなかった課題をしあげる

■教科書

小学校学習指導要領解説 生活科（文部科学省）

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	低学年児童についての理解	低学年児童の発達特性についての理解
3	低学年児童の生活圏と学習の場や対象	地域の公園の活用について考える
4	学習の場と対象の教材化	学習対象の教材化について考える
5	指導計画の作成（1）	学習指導の特質について解説
6	指導計画の作成（2）	年間指導計画の作成について解説
7	指導計画の作成（3）	単元指導計画についての解説
8	単元指導計画の作成（1）	学習指導案の作成について解説
9	単元指導計画の作成（2）	学習指導案について話し合い、単元指導計画を作成する
10	単元指導計画の作成（3）	学習指導案の本事案の検討と作成
11	授業実践について	学習指導の進め方についての解説
12	模擬授業（1）	模擬授業の準備をする
13	模擬授業（2）	模擬授業を行い、相互討論により検討する
14	模擬授業（3）	模擬授業を行い相互討論し検討する
15	生活科で指導する「生活に必要な技能」	指導上必要な「生活上必要な技能」について確認し具体的に理解する

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	国語		初等国語概説	
担 当 者	畑中 千晶 Chiaki Hatanaka		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

国語は小学校で学ぶあらゆる科目の基礎となります。子どもたちの国語力を十分に伸ばすことのできる教員を目指し、

- ①教科に必要な国語の専門知識
 - ②教員にふさわしい国語運用能力
- この二つを身につけることを到達目標として本講義を進めていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義中心ですが、自発的に考える力を伸ばすため、適宜、グループ討議なども行っていきます。

■成績評価方法・基準

クラス内活動への取り組み（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：テキスト、配付資料に目を通す。
復習：宿題として課されたタスクに取り組む。

■教科書

鈴木真喜男/長尾勇（2010）『新編 日本語要説』学芸図書
このほか適宜配布資料を追加する。

■参考文献

授業時に適宜指示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法など
2	総論「言葉というもの」	基本的な考え方、要約作成
3	総論「言葉の種々相」	言葉の分析方法
4	音声	音が出る仕組み
5	音声	鼻音化・わたり・連音などの諸現象
6	意味	言葉の意味とは
7	語彙	単語量、語種（和語・漢語・外来語）、位相、新語
8	語彙	教科書の設問分析（和語・漢語・外来語）
9	語彙	グループに分かれて考察・発表
10	文法	考える楽しみを知る
11	文法	代表的な文法論、文・文節・品詞
12	敬語	新分類について知る、実際の運用場面に即した考察
13	文字	六書、仮名、ローマ字
14	方言	標準語と共通語、方言とは、共通語と方言
15	まとめと発展項目	「伝統的な言語文化」について

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	算数		算数概説	
担 当 者	越川 浩明 Hiroaki Koshikawa		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本の小学校の算数は海外ではElementary Mathematics (初等数学)とよばれています。これを指導するには十分な数学的知識が必要です。また小学校教員採用試験にあたっては高校入試程度の問題が多いので数学の全領域に渡っての基礎的知識を確実に把握することを到達目標とします。

■授業の進め方(履修条件等)

教科書とプリント教材に基づいて授業を進めます。算数科指導法を履修する前に必ず履修して下さい。

■成績評価方法・基準

小テスト(10%)、課題提出(20%)、定期試験(70%)ただしこの配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習:教科書およびプリント教材を良く読んでおいて下さい。
復習:復習のための課題を課します。

■教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』平成20年8月(東洋館出版社)。およびプリント教材。

■参考文献

授業時に適宜指示します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	集合と写像、自然数	1対1対応、集合数、順序数、命数法、記数法
2	自然数の性質 1	四則演算、除法の定理、十進位取り記数法
3	自然数の性質 2	素数、素因数分解、合成数、約数・倍数
4	整数とその性質	p進数、2進数とコンピュータ
5	有理数の性質 1	有限小数、循環小数
6	有理数の性質 2	分数、分数の四則演算
7	無理数、数の体系	数の体系のまとめ
8	図形について 1	平面図形の種類と性質、敷き詰め問題
9	図形について 2	立体図形の種類と性質、展開図
10	求積公式について	面積、体積の公式とその導き方
11	表とグラフ、比例、反比例	表の読み方、グラフの種類と性質
12	式の読み、書き	文字式の用い方
13	文章題	文章題の種類と解き方
14	確率について	確率的な見方・考え方
15	総復習	これまでの講義をもとに演習問題を解く

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	社会		初等社会概説	
担 当 者	田村 孝 Takashi Tamura		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校社会科という科目の構造とその内容について学ぶことをねらいとする。戦後の教育の中で、社会科という科目がどのように構想されつられていったか、また現在の学習指導要領には何がうたわれているのかを学ぶ。

■授業の進め方(履修条件等)

講義形式による。今年度は歴史分野と公民分野とに分けて個別のテーマを設け、これに沿って講義をする予定である。

■成績評価方法・基準

出席状況と試験による。授業内容をどれくらい理解しているかが評価の基準となる。

■授業の予習・復習

特に必要とはしないが、特別に課題を出すこともあるので、その場合は期日までに提出すること。

■教科書

文部科学省『小学校学習指導要領 平成20年3月告示』
東京書籍
文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編 平成20年8月』
東洋館出版社

■参考文献

そのつど指示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	受講上の注意 その他
2	人物史学習のポイントと学習指導要領	ある時代を理解するには単に個人の歴史的業績を理解するだけでは不十分で、当該時代の歴史的な背景とともに学ぶことが重要である。これを数回にわたって実例をあげて学ぶこととする。
3	古代の首長とその社会	卑弥呼を取り上げる。
4	摂関政治を学ぶ。	藤原氏の権力掌握過程を取り上げる。
5	武家政治を学ぶ。	源頼朝と鎌倉幕府の成立
6	鎖国の実態を学ぶ。	近世の東アジアと日本
7	近代化を学ぶ。	幕末と明治維新
8	民主主義とは何か	第二次大戦前の政治制度
9	戦後民主主義	敗戦と民主化の過程
10	日本国憲法の制定	日本国憲法の内容とその精神
11	教育の民主化(その1)	戦前の実態(教育勅語下の教育)
12	教育の民主化(その2)	教育基本法の制定と民主教育
13	選挙制度の変遷	普通選挙法の制定と戦後民主主義
14	家族のあり方	家父長制度と戦後の家族のあり方
15	基本的人権	自由を考える。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	理 科		初等理科概説	
担 当 者	土井 仁 Jin Doi		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校学習指導要領解説（理科編）をもとに、理科の目標や内容等を十分に理解する。小学校理科の指導に関わる基礎的な知識や関連する知識を観察・実験やその他の資料をもとに実感的に理解する。獲得した知識や思考法を駆使し、資料なども準備し、わかりやすく説明することができる。

■授業の進め方（履修条件等）

毎時間授業資料を配布。小学校理科に関する重要な内容を選び（教科書や教員採用選考問題などから）、学生のプレゼンや応答などで理解を深めます。演示実験や学生実験も取り入れ理解を深めます。

■成績評価方法・基準

①学習意欲、②プレゼン・表現、③レポート、④定期テスト。
 (めやす①20%②20%③10%④50%)

■授業の予習・復習

予習：次の学習を予告し事前学習を指示。
 復習：配布プリントをもとに復習し理解を深める。

■教科書

小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省。
 小学校理科用教科書（大日本図書）5、6年用

■参考文献

小学校理科用教科書（各出版社）他

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	小学校理科の目標と内容。講義内容と授業の進め方。
2 理科学習の方法	授業の構成。理科教育と観察・実験。継続観察や記録の重要性。
3 『生命』（1）	『生命』領域の学習内容と系統。 「花のつくり、受精」「メダカの発生」
4 『生命』（2）	「人の体のつくりと働き」(心臓と血液の流れ。呼吸)
5 『生命』（3）	「植物の養分と水の通り道」(光合成)
6 『地球』（1）	「月と太陽」(月の見え方と時刻) 「月の形と名称」(金星の観察)
7 『地球』（2）	「土地のつくりと変化」(地層、柱状図、地層のつながり)(地層の観察)
8 『地球』（3）	「天気の変化」(天気と気温、湿度、気圧)(前線の通過と天気の変化)
9 理科学習論	理科学習の進め方。科学の方法。探究の進め方。実験と教具の活用。
10 『エネルギー』（1）	「振り子の運動」「てこの規則性」(振り子の等時性)(モーメント)
11 『エネルギー』（2）	「電気の流れ」(電気の働き) (電気回路、電流と磁界、電磁石)
12 『エネルギー』（3）	「電気の利用」(手回し発電機を使った実験：発電、蓄電、電気の利用)
13 『物質』（1）	「物の溶け方」(溶解度、水の量や温度と溶ける量、物質による違い)
14 『物質』（2）	「燃焼の仕組み」(ろうそくの燃焼と酸素の消費)(酸素と二酸化炭素)
15 『物質』（3）	「水溶液の性質」(試薬の調整：モル濃度)(液性)(熱分解と気体発生)

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	音 楽		初等音楽概説	
担 当 者	山本 陽子 Yoko Yamamoto		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校教員として必要な音楽に対する素養・教養を身につけることを目的とします。現在の音楽の基礎となっている西洋音楽を中心に、音楽についての基本的な知識(楽典・歴史等)を理解します。日本の楽器にも触れます。人間と音楽の関係を考えることを通して、学校教育のなかで音楽が果たす役割についても考えられるようにしたいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

日常生活に溶け込んでいる音楽ですが、人間にとって音楽とは何なのかということ一度深く考えてほしいと思います。自分自身の音楽経験の振り返り、一人一人が音楽に対する疑問や問題意識を大切にしながら、音楽の基本を学んでほしいと思います。

■成績評価方法・基準

授業への取り組み、毎時間の提出物（平常点）、テストなどを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：教科書をあらかじめ読んで、疑問等を整理しておく。
 復習：学んだことを振り返り定着させる。提出したプリントを整理する。

■教科書

「改訂音楽通論」教育芸術社（2010）

■参考文献

「小学校学習指導要領解説音楽編」文部科学省

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	音楽ってなんだろう
2 音楽の基礎的な理解①	音の長さ・高さ
3 音楽の基礎的な理解②	記号・楽器
4 日本の楽器に触れる①	箏(楽器の特徴・奏法)
5 日本の楽器に触れる②	三味線(楽器の特徴・奏法)
6 音楽の基礎的な理解③	音程① 長音程・短音程
7 音楽の基礎的な理解④	音程② 完全音程 増音程 減音程
8 音楽の基礎的な理解⑤	音階① 長音階
9 音楽の基礎的な理解⑥	音階② 短音階
10 音楽の基礎的な理解⑦	和音
11 音楽の基礎的な理解⑧	コード① メジャーコード 7 th コード
12 音楽の基礎的な理解⑨	コード② マイナーコード dim aug
13 人間と音楽①	音楽の発生
14 人間と音楽②	生活の中の音楽
15 人間と音楽③	人間にとっての音楽 音楽を学ぶことの意味

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	図画工作		初等図画工作概説	
担 当 者	山口 荘一 <i>Souichi Yamaguchi</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校図画工作科を指導する上で必要な実技と造形理論の習得を目標とします。授業では、小学校図画工作科で扱う基本的な材料や道具、用具を知り、その特徴に応じた扱い方や表現方法について実技を通して学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

小学校図画工作科の教科書に掲載されている題材を基に、安全な用具や道具の取り扱い方、多様な材料体験を含んだ造形活動を実技形式で行います。

■成績評価方法・基準

材料や用具、道具の事前準備、課題提出状況、レポート、授業態度等総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：課題に対する材料集めや用具、道具の準備をしっかりと行う。
復習：配布資料、作品、活動のプロセス等の記録をファイルング保存する。

■教科書

授業の第一回目に指定します。

■参考文献

必要に応じて適時紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	小学校図画工作科の内容についてと、使用する道具、用具の解説。
2	低学年向け実技 ・絵に表す	クレヨン、パス、水彩絵の具を使っての実技。
3	低学年向け実技 ・工作	紙を基にした工作の実技。
4	低学年向け実技 ・立体に表す	粘土等を基にした立体の実技。
5	低学年造形遊びについて	材料を基にした造形遊びの実技。
6	中学年向け実技 ・絵に表す	ローラー等用具を使っての実技。
7	中学年向け実技 ・工作	動く仕組み等を基にした工作の実技。
8	中学年向け実技 ・立体に表す	雑材を基にした立体の実技。
9	中・高学年造形遊び	材料や場所を基にした造形遊びの実技。
10	高学年向け実技 ・絵に表す	モダンテクニックを用いての実技。
11	高学年向け実技 ・版に表す	彫り進み版画等版に表す活動の実技。
12	高学年向け実技 ・工作、立体	材料を総合的に用いての実技。 計画・活動
13	高学年向け実技 ・工作、立体	材料を総合的に用いての実技。 活動、発表
14	鑑賞について	鑑賞と表現の実際と美術史との関連についての講義等。
15	造形理論について	造形理論と小学校図画工作科との関連についての講義等。

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	体育		初等体育概説	
担 当 者	藤井 喜一 <i>Kiichi Fujii</i>		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本理論を学習する。また、小学校学習指導要領「体育科」の運動領域の内容についてもとりあげる。これらの学習を通して、小学校における体育科の意義について理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

講義が中心であるが、実技も適宜行い、理論との整合性を図れるように進める。

■成績評価方法・基準

受講態度、通常時における小レポート、論述試験等によって評価する。

■授業の予習・復習

予習：教科書である指導要領解説書の次時の領域に目を通す。
復習：ノートに授業の要点等をまとめる。

■教科書

文部科学省 小学校学習指導要領解説体育編 東洋館出版社
文部科学省 中学校学習指導要領解説保健体育編 東山書房

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、諸注意
2	体育・スポーツの概念	体育科の学習内容について
3	体育科の目標と内容	指導要領の変遷をたどりながら
4	体育科の学習計画	学習計画の構成について
5	体育科の学習指導と評価	学習の評価の方法について
6	運動領域①	小学校低学年の構成について
7	運動領域②	器械運動（マット運動）
8	運動領域③	器械運動（跳び箱運動）
9	運動領域④	器械運動（鉄棒運動）
10	運動領域⑤	水泳
11	運動領域⑥	陸上運動
12	運動領域⑦	ボール運動（ゴール型）
13	運動領域⑧	ボール運動（ベースボール型）
14	運動領域⑨	体づくりの運動
15	保健領域	保健の学習について

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	家庭		初等家庭概説	
担 当 者	関 弘子 Hiroko Seki		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校学習指導要領に基づいた「家庭」で扱う内容について、広く一般的な見地から理解を深める。学習指導要領に示されている目標や内容の理解と衣・食・住・消費生活や環境教育の各領域について、指導者としての基本的な知識理解や技能の習得を目指す。

■授業の進め方（履修条件等）

「家庭」の指導者としての基礎力を身につけるために、学習指導要領やテキストを基に講義や実習、製作活動等を行う。

■成績評価方法・基準

レポート、実習、作品製作、試験等により評価する。

■授業の予習・復習

予習：次週の講義内容をテキストや資料集で確認しておく。
復習：示された課題について取り組む。

■教科書

- ・小学校学習指導要領解説家庭編：東洋館出版社
- ・小学校家庭科教育研究：教師養成研究会編著 学芸図書出版

■参考文献

家庭一般、子どもが見つめる「家庭の未来」、ビジュアルワイド食品成分表、技術家庭科（家庭分野）、改訂家庭概説

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の内容や進め方の概要
2 家庭科の目標と内容	学習指導要領に示されている家庭科の「目標」と「内容」の概要
3 自分の成長と家族	自分の成長と家族の関わり
4 家庭生活と仕事	家庭における生活時間と仕事の分担
5 食事の役割	栄養素の種類と働き、食品の栄養的な特徴
6 栄養を考えた食事	食品の組み合わせと一食分の献立
7 調理の基礎（調理用具）	調理用具の名称や安全な取り扱い方
8 調理の基礎（調理実習）	野菜サラダづくり
9 衣服の着方と手入れ	快適な着方と洗濯
10 快適な住まい方	暑さ・寒さ、通風・換気、採光
11 整理整頓・清掃	住まいの汚れ落とし
12 被服製作の基礎（製作用具）	裁縫用具の名称と取り扱い方
13 基礎的な作品製作	製作活動
14 身近な消費生活	消費者問題
15 環境に配慮した生活	消費生活と環境

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	生活		生活科概説	
担 当 者	池谷 美佐子 Misako Ikeya		対象学年	1年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校学習指導要領が示す生活科の目標や内容について学びながら、小学校生活科という教科の特性をとらえる。また、小学校低学年の児童の興味や関心を理解し、生活科指導と教材の関連についてもその特徴をとらえていく。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回の授業の積み重ねで理解を深めていくことを目指しているため、出席と無遅刻を重視します。授業には積極的な態度で臨んでいただきたい。

■成績評価方法・基準

授業毎のリアクションペーパー（50%）
期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：次回の授業内容に関する教科書の部分を読み、概要をとらえておく。連絡された学習材は準備する。
復習：教科の独自性がつかめるように各自ノートの整理をする。

■教科書

小学校学習指導要領 生活編（文部科学省）
必ず各自購入し毎時間持参すること。

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 生活科の目標・主旨	教科の目標の構成と主旨について解説
3 生活科の学年目標	学年目標の構成・主旨について解説
4 生活科の内容構成	内容構成の考え方について解説
5 内容（1）「学校と生活」	内容（1）について具体的な事例を含めて学ぶ
6 内容（2）「家庭と生活」	内容（2）について具体的な事例を含めて学ぶ
7 内容（3）「地域と生活」	内容（3）について具体的な事例を含めて学ぶ
8 内容（4）「公共物や公共施設の利用」	内容（4）について具体的な事例を含めて学ぶ
9 内容（5）「季節の変化と生活」	内容（5）について具体的な事例を含めて学ぶ
10 内容（6）「自然や物をつかった遊び」	内容（6）について具体的な事例を含めて学ぶ
11 内容（7）動植物の飼育・栽培	内容（7）について具体的な事例を含めて学ぶ
12 内容（8）「生活の出来事の流れ」	内容（8）について具体的な事例を含めて学ぶ
13 内容（9）「自分の成長」	内容（9）について具体的な事例を含めて学ぶ
14 生活科の教材と学習指導	内容（4）（5）（6）を中心に教材化について考える
15 生活科の活動や体験の表現	表現する学習活動を具体化して検討する

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	数の不思議		数の不思議	
担 当 者	越川 浩明 Hiroaki Koshikawa		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校で習う「数」の範囲は限られていますが、自然や文化の中には小学校で扱う範囲以上の「数」が沢山存在し、「数」の持つ面白い性質や不思議さがたくさんあります。それらのことを小学校教員の素養として持ってもらうことを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを中心に授業を進めます。毎回問題を出します。それを解いてもらいます。授業中適宜小テストも行います、また課題提出もしてもらいます。

■成績評価方法・基準

小テスト（10%）、課題提出（20%）、期末試験（70%）ただしこの配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習：授業で配布するプリント教材をよく読んでおいて下さい。
復習：復習のための課題を課します。

■教科書

プリント教材を配布します。

■参考文献

佐藤修一著『自然にひそむ数学』講談社 ブルーボックス

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	これからの講義の概要について述べる
2 計算の法則	計算の法則に基づく速算術
3 数の遊び 1	虫食算と魔方陣
4 数の遊び 2	小町算
5 図からわかる数列 1	三角数、四角数など多角数
6 図からわかる数列 2	等差数列
7 図からわかる数列 3	等比数列
8 図からわかる数列 4	階差数列
9 代数的無理数	身近な無理数について
10 芸術に現れる数	黄金比と黄金数
11 自然界に現れる数	フィボナッチ数と黄金数
12 超越数 1	円周率 π とその性質
13 超越数 2	e とその性質
14 方程式と複素数	虚数単位 i とその性質
15 総復習	これまでの講義をもとに演習問題を解く

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	かたちの数学		かたちの数学	
担 当 者	越川 浩明 Hiroaki Koshikawa		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

自然界や建築物、芸術の中にいろいろな「形」がたくさん存在します。その中で数学が関係している事柄について講義します。平面図形や空間図形、曲線・曲面について数学的な多くの知識を得ることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

プリントを中心に授業を進めます。コンピュータを用いた曲線・曲面の紹介もします。授業中適宜小テストを行います、また課題提出もしてもらいます。

■成績評価方法・基準

小テスト（10%）、課題提出（20%）、期末試験（70%）ただしこの配分は変更することもあります。

■授業の予習・復習

予習：授業で配布するプリント教材をよく読んでおいて下さい。
復習：復習のための課題を課します。

■教科書

プリント教材を配布します。

■参考文献

堀井洋子著『折り紙と数学』明治図書。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 平面図形について(1)	三角形の性質
2 平面図形について(2)	円の性質
3 平面図形について(3)	三角比
4 図形の計量について	図形の面積と体積
5 図形とグラフ(1)	1次関数のグラフ
6 図形とグラフ(2)	2次関数のグラフ
7 2次曲線について	放物線、楕円、双曲線の方程式とその性質
8 2次曲面について	代表的な2次曲面の方程式とその性質
9 微分幾何学について	曲線と曲面の曲率
10 トポロジーについて	一筆書きと多面体定理
11 フラクタルについて	いろいろなフラクタル図形
12 折り紙の数学(1)	正多角形を折る
13 折り紙の数学(2)	芳賀の定理について
14 折り紙の数学(3)	正多面体を折る
15 総復習	これまでの講義に基づき演習問題を解く

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	読書入門		読書入門			
担 当 者	山口 政之 Masayuki Yamaguchi		対象学年	1年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では小学校の学級担任が日常的に行っている読書活動を一通り紹介します。教壇に立つ前に読んでおいた方がよい文献を厳選しましたので、教師として生きることとは学び続けることなのだということを具体的に理解し、学生のうちに読書習慣を身に付けてほしいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

毎時間講義の終わりに次の授業で使う資料を配布します。課題も出す場合がありますので、家で読み込んでください。次の授業の始めに発表してもらうこともあります。電子辞書は必要ですが、原則として携帯電話の使用は認めません。

■成績評価方法・基準

出席の状況、課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。自己責任による遅刻は減点し、欠席3回は履修放棄、もしくは特別課題の措置をとります。

■授業の予習・復習

予習：事前に配布された資料を読み、内容を理解しておいて下さい。
復習：学習したジャンルの文献を図書館や書店などで手にとって読んでみましょう。

■教科書

特になし。毎回、印刷物を配布するので、必ずファイルしておくこと。

■参考文献

アドラー『本を読む本』講談社 学術文庫

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	教師にとって、子供にとって、読書とは何か
2	新聞	自身の要約力を鍛え、話題が豊富な担任となる
3	教育雑誌、学会誌	専門的に研修を深める
4	教育学の古典	ヘルバルトのタクト論
5	教育実践者の個人全集	芦田恵之助の「自己を読む」
6	ビジネス書	社会人として自己啓発のきっかけをつかむ
7	日本の絵本、外国の絵本	読書指導のための読み聞かせが出来るようにする
8	児童文学	児童理解に役立つ作品を講読する
9	古典文学	伊曾保物語とインソップ、Aesopを読み比べる
10	学習指導要領と教科書	両者を比べて読み、関連を理解する
11	教科書と指導書	両者を比べて読み、関連を理解する
12	分野別の教育書	学級経営に役立てるための読み方を理解する
13	教科の専門書	教材研究をより深く行うための読み方を理解する
14	かるた	様々なかるたを実際に試し、馴染む
15	ブックトーク	1冊の本を紹介しつつ、自己を語る

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻		
科 目 名	文学入門		言葉と表現			
担 当 者	畑中 千晶 Chiaki Hatanaka		対象学年	1年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

小学校の教科書に収録されることの多い、安房直子や宮沢賢治の童話を題材として、文学を読み解くコツを習得していきます。自分の力で作品の魅力を引き出せるようになること、それを言葉で表現できるようになることが到達目標です。国語科「伝統的な言語文化」の指導に備え、古典文学に親しむ態度も涵養していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

作者の略歴を知ることから始め、教科書掲載作品を読み解いたのち、応用編として同じ作家の別の作品を読み進めます。〈文学〉は作品を読まないところには存在しません。テキストを必ず購入し、読むことが大切です。

■成績評価方法・基準

クラス内で課すタスクと授業参加度（50%）、期末試験（50%）

■授業の予習・復習

予習：次回取り扱う作品を読む。
復習：指定されたタスクに取り組む。

■教科書

宮沢賢治（2010）『注文の多い料理店』新潮文庫
安房直子（2006）『風と木の歌』偕成社文庫
古典文学に関しては、配付資料を用います。

■参考文献

『新校本 宮澤賢治全集』『宮沢賢治イーハトーヴ学事典』『安房直子コレクション』このほか適宜紹介。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	イントロダクション	講義の進め方、テキストについて
2	ウォーミングアップ	物語の楽しさを思い出す
3	安房直子 1	略年譜、諸作品の傾向
4	安房直子 2	教科書掲載作品の読解・分析
5	安房直子 3	異世界から戻る話
6	安房直子 4	異世界へ消えていく話
7	宮沢賢治 1	略年譜、諸作品の傾向
8	宮沢賢治 2	教科書掲載作品の読解・分析
9	宮沢賢治 3	生き物へのまなざし
10	宮沢賢治 4	自然を恐れ敬う気持ち
11	古典文学に親しむ 1	「伝統的な言語文化」の扱いについて
12	古典文学に親しむ 2	『竹取物語』の魅力に触れる
13	古典文学に親しむ 3	『枕草子』を真似してみる
14	古典文学に親しむ 4	歌舞伎の面白さに触れる（動物の出でくる芝居）
15	まとめ	前期の学習内容をふりかえる

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	書 写				書 写	
担 当 者	板倉 由香里 Yukari Itakura		対象学年	1 年	単 位	1

■授業のねらいと到達目標

小学校国語科書写に関する授業担当者としての書写力（知識、技能）基礎基本を習得することを目的とします。

■授業の進め方（履修条件等）

小学校学習指導要領の書写に関する事項を踏まえ、小学校国語科書写の基本的な内容を講義します。文字について、基礎的能力を理論と実技の両面から培います。硬筆および毛筆で仮名（ひらがな、カタカナ）、漢字（楷書）の実技を通して、その指導法を学びます。

■成績評価方法・基準

学習目標の到達度、個人の伸長度を評価の主とし、毎時間の提出物により評価します。学習態度、学習意欲も評価の対象とします。

■授業の予習・復習

用具用材は各自で準備します。

■教科書

『明解書写教育』改訂版
全国大学書写書道教育学会編（萱原書房）

■参考文献

学習指導要領準拠『漢字指導の手引き』
久米 公 編著（教育出版）
『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、評価方法、諸注意
2 学習指導要領	国語科書写の目標と指導事項
3 実技（1）	姿勢、執筆法
4 実技（2）	書写で使用する用具用材
5 実技（3）	漢字の基本点画
6 実技（4）	点画の長短、接し方、交わり方
7 実技（5）	文字の組み立て 1
8 実技（6）	文字の組み立て 2
9 実技（7）	ひらがな
10 実技（8）	カタカナ
11 実技（9）	文字の形、大きさ、配列 1
12 実技（10）	文字の形、大きさ、配列 2
13 学習指導案	学習指導案の作り方
14 模擬授業	模擬授業
15 まとめ	書写の評価

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	音楽と表現 I（合唱）				合唱 I	
担 当 者	山本 陽子 Yoko Yamamoto		対象学年	1 年	単 位	1

■授業のねらいと到達目標

自分自身の声で表現する歌唱は音楽の基本です。発声の基本や音程感・リズム感を身につけます。音楽表現の基礎となる平易な楽譜を読み取る読譜力や移動ド唱法による音程感を学びます。小学校レベルの歌唱教材を中心に響き合う感覚を体感し、歌う心地よさ・合わせる楽しさを味わいます。

■授業の進め方（履修条件等）

合わせる楽しさを味わうことを目指します。音程感を身につけ、読譜力をつけるための基礎練習を積み重ねます。歌集を使ってレパートリーを増やします。希望でピアノ伴奏もしていただきます。

■成績評価方法・基準

課題への取り組みの姿勢、個人の伸長度、音楽性などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：配布された楽譜や歌集をあらかじめ見ておきます。
復習：レパートリーを定着させる。プリント類を整理してファイルします。

■教科書

適宜プリントを配布します。ポケット歌集を用意します。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	事前調査 授業の内容の確認
2 発声の基本①	斉唱① 自然な発声
3 発声の基本②	斉唱② 曲想にあった表現
4 音楽の基礎①	リズムの読譜
5 音楽の基礎②	音程 全音と半音
6 読譜して歌う①	拍子を意識して
7 読譜して歌う②	リズム唱 階名唱
8 音の重なり①	輪唱
9 音の重なり②	2部合唱
10 合唱の基本①	声部の役割
11 合唱の基本②	互いに聴き合って
12 合唱①	響きを感じ取って
13 合唱②	表現の工夫
14 合唱③	曲想表現の工夫 聴き合って
15 合唱④	発表会

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	音楽と表現Ⅱ (リコーダ)		器楽Ⅰ	
担 当 者	山本 陽子 Yoko Yamamoto		対象学年	2年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

小学校で使用する楽器リコーダーを中心に学びます。リコーダーの導入指導の実際から、個人、ペア、アンサンブルなどの活動を通して音楽に対する理解を深めます。コードネームから、簡易な伴奏やベースの付け方等を知り、実践的に音楽に親しみ、いろいろな楽器を合わせる楽しさを味わいます。

■授業の進め方（履修条件等）

各自ソプラノリコーダーを用意してください。そのほか個人持ちの楽器があれば持参し、音楽室にある楽器と合わせた合奏もしたいと思います。

■成績評価方法・基準

課題への取り組みの姿勢や個人の伸長度、音楽性などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：ソプラノリコーダー等の楽器を用意します。
復習：学んだことをどう生かすか考えたり、楽器の練習をします。

■教科書

特に使用しません。必要に応じてプリント等配布します。

■参考文献

授業時間内に適宜紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方 事前調査
2	リコーダーの基本①	姿勢 構え方 タンギング
3	リコーダーの基本②	シ～ソ、高いド・レ
4	リコーダーの基本③	ファード、高いミ～ラ
5	リコーダー2重奏①	輪奏を中心に
6	リコーダー2重奏②	メロディと副・対旋律
7	リコーダー2重奏③	フレーズ
8	音楽の仕組み	楽器の役割と分担 特性
9	コードの理解	メロディとコード
10	簡単な伴奏①	ベースの付け方
11	簡単な伴奏②	メロディとコード ベース 音の重なり
12	アンサンブル①	編曲のポイント
13	アンサンブル②	楽器の工夫 パートの工夫
14	アンサンブル③	互いに聴き合って
15	まとめ	発表会

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	音楽と表現Ⅲ (ピアノ)		器楽Ⅱ	
担 当 者	山本 陽子 Yoko Yamamoto		対象学年	2年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

電子ピアノ（鍵盤楽器）を中心に、音楽の基本を学びます。コードネームを理解し、簡易な伴奏法等、実際の場面で使える実践的な伴奏の方法を身につけながら、音楽に親しみます。合わせることの楽しさを体感し、よりよい表現を目指していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

ピアノの経験の有無は問いません。希望者が多い場合は音楽室の設備・スペースから人数を制限することがあります。（28名以下）

■成績評価方法・基準

課題への取り組みの姿勢、個人の伸長度、音楽性などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：楽譜を歌えるようにしておきます。
復習：学んだことを自分で再現してみます。

■教科書

特にありません。必要に応じてプリントを配布します。

■参考文献

授業時間内に適宜紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方 事前調査
2	ピアノ奏法の基本①	楽譜を読む 運指の基本
3	ピアノ奏法の基本②	リズムに合わせて指を動かす
4	メロディとコード	メロディに合うコードの選び方 I・IV・V(7)
5	コードネームの意味と理解	調とコードの関係
6	ピアノ伴奏の実際①	低音（単音）で伴奏をつくる
7	ピアノ伴奏の実際②	コード（和音）伴奏をつける
8	ピアノ伴奏の実際③	二人組（ペア）で合わせる 分担奏
9	ピアノ伴奏の実際④	伴奏のリズム型を知る
10	ピアノ伴奏の実際⑤	メロディと伴奏を合わせる へ長調ト長調
11	ピアノ伴奏の実際⑥	曲想に合う伴奏の工夫
12	ピアノ伴奏の実際⑦	互いに聴き合う
13	オリジナル伴奏づくり①	各自選曲し、適切なコード付け、伴奏を工夫する
14	オリジナル伴奏づくり②	ペアで伴奏を工夫する
15	まとめ	発表会 よく聴き合って

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	造形と表現 I		造形 I	
担 当 者	山口 荘一 Souichi Yamaguchi		対象学年	1年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

発想、構想、表現活動、鑑賞のプロセスをふまえて、作品を制作する。制作を通して必要な技術や技能を習得し、活用する力を培う。また、鑑賞を通して自他の違いやよさに気づき、相互理解の大切さを知る。

■授業の進め方（履修条件等）

造形1では、立体、工作の表現活動を通して多様な材料を知り、用具や道具の基本的な取り扱いについて学ぶ。造形1と造形2は継続して学ぶことが望ましい。

■成績評価方法・基準

材料や用具、道具の事前準備、課題提出状況、授業態度等を総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：材料や用具、道具等を含む準備を行う。
復習：作品の記録や活動のプロセス等をファイリングする。

■教科書

授業ごとにレジュメを配布。

■参考文献

必要に応じて適時紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方について。材料、用具、道具についての説明。
2	紙での立体表現 1・計画	紙を切る、折る、貼る等の操作を知る。
3	紙での立体表現 2・制作	紙の操作から発想して立体に表す。
4	紙での立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。
5	粘土での立体表現 1・計画	丸める、伸ばす、よる等の粘土の操作を知る。
6	粘土での立体表現 2・制作	粘土の操作から発想して立体に表す。
7	粘土での立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。
8	液体粘土の立体表現 1・計画	液体粘土の特徴を知る。
9	液体粘土の立体表現 2・制作	他の材料との組み合わせを考えて立体に表す。
10	液体粘土の立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。
11	金属の立体表現 1・計画、制作	金属の特徴を知り、その特徴から発想する。
12	金属の立体表現 2・制作、鑑賞	金属の特徴から発想して、立体に表し、発表し合う。
13	木材での立体表現 1・計画	木工用の用具、道具について知る。
14	木材での立体表現 2・制作	木材の形を生かして立体に表す。
15	木材での立体表現 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	造形と表現 II		造形 II	
担 当 者	山口 荘一 Souichi Yamaguchi		対象学年	2年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

発想、構想、表現活動、鑑賞のプロセスをふまえて、作品を制作する。制作を通して基本的、基礎的な技術や技能を習得し、活用する力を培う。鑑賞を通して自他の違いやよさに気づき、相互理解の大切さについて知る。

■授業の進め方（履修条件等）

造形2では、平面表現の活動を通して、多様な表現様式や形式について学ぶ。造形1と造形2は継続して学ぶことが望ましい。

■成績評価方法・基準

材料や用具、道具の準備、課題の提出状況、授業態度等を総合的に判断します。

■授業の予習・復習

予習：材料や用具、道具の準備を行う。
復習：作品の記録や活動のプロセス等をファイリングする。

■教科書

授業ごとにレジュメを配布。

■参考文献

必要に応じて適時紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方について。平面表現の様式、形式についての説明。
2	発想法 1・お花紙を使って	操作を生かしてお花紙を貼り、平面に表す。
3	発想法 2・シャボン玉から生まれた形で	シャボン玉から生まれた偶然の形を見立てて絵に表す。
4	ドローイング 1・発想、構想	テーマに合わせて材料を選び、構想を練る。
5	ドローイング 2・制作	テーマに合わせて表現方法を工夫して絵に表す。
6	ドローイング 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。
7	ペインティング 1・発想、構想	テーマに合わせて表し方の構想を練る。
8	ペインティング 2・制作	テーマに合わせて、ペインティングの方法を活用して絵に表す。
9	ペインティング 3・鑑賞	作品を相互に見せ合い、違いやよさについて話し合う。
10	モダンテクニック 活動その1	フロッターージュの技法について知り、活動に取り組む。
11	モダンテクニック 活動その2	デカルコマニーの技法について知り、活動に取り組む。
12	モダンテクニック 活動その3	スパッタリングの技法について知り、活動に取り組む。
13	モダンテクニック 活動その4	コラーージュの技法について知り、活動に取り組む。
14	版に表す 活動その1	版画の種類を知り、彫刻刀の安全な扱い方に慣れる。
15	版に表す 活動その2	インクのつけ方や刷りを経験して凸版版画を制作する。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	小学校英語 I		小学校英語 I	
担 当 者	佐藤 佳子 Keiko Sato		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本の小学校5・6年生の授業に「外国語活動（英語）」が本格的に導入されました。この授業では、小学校英語教育について一緒に考えていきます。小学校英語の目標と現状を把握し、授業計画や実践例を取り上げながら、英語教育のあり方について学んでいきます。小学校英語教員としての必要な英語力の習得を目指しながら、小学校英語について幅広く知ってもらいます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義と演習形式で進めていきます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、課題の提出状況、学期末試験を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

授業で扱った内容について、しっかり復習してください。

■教科書

『小学校学習指導要領解説：外国語活動編』 文部科学省
『小学校外国語活動の進め方－「ことばの教育」として－』
岡秀夫・金森強 編著 成美堂

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	イントロダクション：小学校英語について
2	海外における外国語教育について	欧州、東アジア諸国の初等外国語教育
3	小学校英語の目標	小・中学校の連携について
4	英語を始める時期	早期英語教育について
5	精神発達段階と指導 1	低学年
6	精神発達段階と指導 2	中学年
7	精神発達段階と指導 3	高学年
8	こどもの語彙力について	語彙の習得と理解力について
9	こどもの発話	早口ことばについて
10	英語の歌について	歌の指導
11	ことばへの気づき	文字の指導について
12	授業のあいさつ	ウォーム・アップなど
13	授業計画について	授業プランの立て方
14	教材について	選び方・作り方について
15	前期まとめ	グループ発表

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	小学校英語 II		小学校英語 II	
担 当 者	佐藤 佳子 Keiko Sato		対象学年	1 年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本の小学校5・6年生の授業に「外国語活動（英語）」が本格的に導入されました。小学校英語のあり方についてはさまざまな議論がなされています。この授業では、小学校英語の目標と現状を把握し、模擬授業などの実践例を通して、授業計画の立て方を中心に学びます。また、小学校教員としての必要な理論や技術、英語指導の基本的な考え方や英語力の習得を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

講義と演習形式で進めていきます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、グループ発表、課題の提出状況などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

授業で取り上げた歌・遊びをしっかりと復習してください。

■教科書

『小学校学習指導要領解説：外国語活動編』 文部科学省
『語研ブックレット3 小学校英語』 語学教育研究所 2010

■参考文献

『小学校英語教育の進め方－「ことばの教育」として（改訂版）』
岡秀夫・金森強 編著 成美堂

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	小学校英語の目標について
2	諸外国の初等英語教育について	欧州と東アジア諸国の英語教育
3	小・中学校の連携について	小学校と中学校の英語教育
4	精神発達段階と指導内容 1	低学年と中学年の特徴
5	精神発達段階と指導内容 2	高学年の特徴
6	こどもの語彙力	発話に向かわせる指導について
7	こどもの歌	歌の指導
8	授業で使えるあいさつ	始まりと終わりのあいさつ
9	授業プランについて	授業の立て方
10	模擬授業 1	視聴覚教材を用いて
11	模擬授業 2	視聴覚教材・他教科との関連で
12	教材について	考え方・作り方
13	発表に向けての準備 1	グループワーク 1
14	発表に向けての準備 2	グループワーク 2
15	前期まとめ	グループ発表

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名	こどもとのづくり教育		ものづくり教育		
担 当 者	田口 功 <i>Isao Taguchi</i>		対象学年	2年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

自然科学分野の基礎的な原理や法則を身につけ、それをもとに、小学校で役立つ簡単な実験装置を作り、原理や法則を深く身につけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

前半、後半を通し歴史的な背景の記述文書を見ながら、原理や法則の成り立ちを把握する。また、非常に易しい教材を取り入れ、目に見える形の実験装置を作成していく。

■成績評価方法・基準

授業で作成したものを提出する。小試験も行い総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：与えられた問題についてインターネットなどで調査し、よく資料を見て研究して下さい。

復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

授業でプリントを配布

■参考文献

ゆかいな物理実験 K.ギブス著 笠 耐 訳 朝倉書店 平成12年

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方について
2 風力発電や太陽光発電	太陽電池を使って発光ダイオードを点灯してみよう
3 1次電池	異種金属による発電、果物電池作成
4 静電気による発電装置	静電気による発光ダイオード点灯回路作成
5 磁石と電気－（1）	電磁石から電磁誘導実験装置の作成
6 磁石と電気－（2）	電磁誘導回路と発電装置の利用法
7 シャボン玉	シャボン玉の形、大きさについて色々工夫してみよう
8 カと安定性－（1）	カと安定性、テングスリティーの作成の説明
9 カと安定性－（2）	実際にテングスリティーを作ってみよう
10 ばねとカー（1）	ばねとフックの法則
11 ばねとカー（2）	ばねを用いたおもちゃの作成
12 光とレンズ－（1）	凹レンズ凸レンズによる光の進み方の数式的理解
13 光とレンズ－（2）	凹レンズ凸レンズによる像のでき方
14 フリップフロップ回路	電子部品の組み合わせでフリップフロップ回路作成
15 全体のまとめ	提出物の確認

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名	こどもと国際交流				
担 当 者	庄司 真理子 <i>Mariko Shoji</i>		対象学年	2年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

日本の内なる国際化にともなって、こどもたちも他の国のこどもの生活、遊び、社会問題などを学ぶ必要が出てくる。言語、生活習慣の異なる国のこどもたちへの人間的な共感と理解を深めることを本講義のねらいとします。

■授業の進め方（履修条件等）

前半は講義形式で進めます。後半は、ゲストの先生の講義およびグループ発表をおこないます。

■成績評価方法・基準

毎回出席はとります。中間まとめのテストをします。ゲスト講師の授業は、授業内レポートを書いてもらう。後半はグループ発表の内容とそのレポートで成績をつける。

■授業の予習・復習

特に予習・復習は必要ないが、グループ発表に当たっては、事前にグループで話し合っ準備してほしい。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

グループごとにメディアセンターに相談に行き、必要な文献を紹介してもらってください。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 授業のガイダンス	この授業の進め方を説明する
2 国際問題とこどもⅠ	何歳までがこどもか？大人への反抗権はあるか？
3 アメリカのこども	こどもと遊び、おやつ、歌、習慣、アニメについて
4 国際問題とこどもⅡ	児童労働・貧困について学ぶ
5 国際問題とこどもⅢ	こども兵について学ぶ
6 国際問題とこどもⅣ	女子教育について考える
7 国際問題とこどもⅤ	ユニセフ・ユネスコについて学ぶ
8 中間まとめ	ここまでの内容をテストする
9 こどもと世界の音楽	音楽の先生にお話いただく
10 世界のこどもと数学	数学の先生にお話いただく
11 ヨーロッパ史の中のこども	社会の先生にお話いただく
12 グループ発表Ⅰ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する
13 グループ発表Ⅱ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する
14 グループ発表Ⅲ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する
15 グループ発表Ⅳとまとめ	グループごとに選んだ国のこどもについて発表する

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	理科の観察実験Ⅰ			
担 当 者	土井 仁 <i>Jin Doi</i>		対象学年	2年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

本科目は、小学校理科の学習領域のうち「物質」「生命」「地球」を学習対象とします。小学校の授業の中で出てくる重要な「観察や実験」に取り組み、技能を高め、「観察・実験」を総合的に理解し、実践的な指導力を養います。

■授業の進め方（履修条件等）

いくつかの小単元を選び、その中の観察や実験について実践的に学習します。小単元のねらい、観察や実験の必要性和方法を理解し、観察・実験に取り組みます。「実験レポート」は毎回提出します。

■成績評価方法・基準

①学習意欲、②実験の理解・技能、③レポート、④定期テスト（めやす①20%、②20%、③20%、④40%）

■授業の予習・復習

予習：次回の学習を予告（単元のねらいや実験の目的をまとめて提出）

復習：「実験レポート」をまとめて提出。

■教科書

小学校学習指導要領解説「理科編」文部科学省、小学校理科用教科書（大日本図書）5、6学年用

■参考文献

小学校理科用教科書（各出版社）等

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	小学校理科の目標と内容。理科における実験と観察。学習の進め方。
2 『物質』（1）	加熱器具の構造と使い方。安全管理と指導。化学分野の系統。
3 『物質』（2）	「物の燃え方」ものを燃やす働き。気体の生成と捕集。気体の性質。
4 『物質』（3）	「水溶液の重さ」「物の溶け方」水に溶けるものの量（水の量、温度）
5 『物質』（4）	「物の溶け方」溶かしたものの取り出し方（ろ過、蒸発）。
6 『物質』（5）	「水溶液の性質」金属を溶かす水溶液。気体が溶けている水溶液。
7 『生命』（1）	「植物の発芽」種子の中の養分。発芽の条件。ヨウ素デンプン反応。
8 『生命』（2）	「花のつくり」「水中の小さな生物」顕微鏡等の使い方。微生物の世界。
9 『生命』（3）	「植物の成長（日光、水）」光合成。デンプンの有無。気孔の観察。
10 『生命』（4）	「体のつくりと働き」吸う空気とはいた空気の違い。血液の循環。
11 『地球』（1）	「天気の様子」一日の気温の変化。水の蒸発（温度、風）
12 『地球』（2）	「月と太陽」「月の形と変化」「星の観察、星の運動」観察と記録。
13 『地球』（3）	「流水の働き」上流下流の石の観察。流水実験器。
14 『地球』（4）	「土地のつくりと変化」地層のでき方。堆積実験器。火山灰の観察。
15 パフォーマンステスト	「加熱器具」「計量器具」「顕微鏡（生物、双眼実体、解剖）」等

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	理科の観察実験Ⅱ			
担 当 者	田口 功 <i>Isao Taguchi</i>		対象学年	2年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

特に小学校教員採用試験を志す学生に対し、採用試験対策となる事柄も含め実験授業を行なう。基本的な理科実験（物理分野）において、さまざまな現象をできるだけ簡単な装置を用い実験を行なう。科学的な見方、文献の調べ方、見方ができるように授業を展開する。小学校教材を含みながら、理科実験を通し科学的な基礎知識を身につけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

前半、後半を通し歴史的背景も取り入れる。実験の結果を考察し、性質、働き、規則性などを考察する。エネルギー発生、利用、変換などについての実験と文献理解の話し合いも行なう。

■成績評価方法・基準

実験状況、理解程度、レポート、小試験の4点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：実験の予告をすることで与えられた課題についてよく研究をして下さい。

復習：授業中に指摘された事柄などについて、教科書等を見ながら良く復習して下さい。

■教科書

授業中に実験問題や資料を配布します。

■参考文献

授業中に資料を配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 実験の進め方	授業の進め方を説明
2 静電気発電装置	静電気を利用した発電装置による電源の作成と乾電池について
3 太陽光発電	太陽光電池の原理
4 電池	果物電池、モーター使用によるおもちゃの作成
5 電磁石	電磁石作成、極のでき方について発熱と磁極の発生、磁極の強さ
6 電磁誘導	電磁石作成と応用としての電磁誘導現象および実験
7 電圧、電流測定	電流計と電圧計を用いてのオームの法則の確認実験
8 オームの法則	電気抵抗の大小測定、オームの法則、物質の確認
9 太陽光発電	太陽光発電による電源について
10 位置エネルギーと速度エネルギー	エネルギーの変換実験
11 力	ゴムやばねを用いての力のつりあい実験、ニュートンの法則と力
12 振り子	振りこの運動、てこの釣り合いと力、モーメント
13 フックの法則	ゴムの働き、フックの法則、ゴムを使ったおもちゃの作成
14 レンズ	鏡、レンズの基本、レンズ使用による光の反射、集光に関する実験
15 熱伝導	金属の種類と熱の伝導

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	共生支援教育		共生支援教育(障害児教育)	
担 当 者	山口 政之 Masayuki Yamaguchi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

通常学級における特別な支援を要する子供への理解を深めることを目指します。具体的には、軽度発達障害だけでなく、先天的な障害を持った子供の実情を知ることから具体的な支援のありかたを特別支援教育の理念と関連付けて理解していきます。

■授業の進め方(履修条件等)

講義では関連する文献資料を取り上げるだけでなく、共生支援に関わる文学作品や映画の一部を鑑賞し、言葉だけではわからない障害者の特性や苦悩を理解していきます。

■成績評価方法・基準

出席及び発言を重視します。欠席3回は履修放棄、もしくは特別課題の措置をとります。

■授業の予習・復習

予習：教科書の関連箇所を音読しておく。
復習：新聞に目を通して、共生支援教育に関する記事については内容を要約し書きとめておく。

■教科書

杉山登志郎『発達障害の子どもたち』講談社現代新書

■参考文献

長谷川修平『長谷川君きらいや』、
丘修三『ぼくのお姉さん』

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	新聞から共生社会の断片を拾う
2 LD①	特別支援学級と一般学級にみるLD児
3 LD②	映画「インハーシューズ」から主人公の苦悩を理解する
4 ディスレクシア	読みの障害に対する理解と支援の在り方
5 ADHD①	ADHDについて医学的、教育的な理解をする
6 ADHD②	教室のADHD児への対応の仕方を知る
7 自閉症、高機能自閉症	映画「レインマン」から自閉症の事例を学ぶ
8 アスペルガー症候群	ちょっと変わった子がクラスで孤立しないための配慮について理解する
9 先天的な障害	『さっちゃんのまほうのて』を例に、先天的な障害のある子供について理解を深める
10 教育行政の取り組み	学校に配布される資料から教育の在り方を考える
11 学校の支援体制	「校内委員会」の設置と運営
12 特別支援学校の参観	特別支援学校の文化祭に参加し、参観記録を書く
13 特別支援学校の実際	特別支援学校の文化祭参加の報告会
14 児童文学にみる共生①	『窓際のトットちゃん』から学習障害を考える
15 児童文学にみる共生②	『ぼくのお姉さん』から特別支援学校を考える

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	こどもと家庭の関係論		子どもと家庭の関係論	
担 当 者	池谷 美佐子 Misako Ikeya		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

学校教育の現場において、子どもに関わる様々な話題や課題対応は、親子の関係や家庭教育の在り方を抜きには語れない。子どもの心の発達・社会性・コミュニケーション能力等を中心に子どもと家庭との関係を「人と家屋」についての人間学的な見地も加えながら考察していきます。

■授業の進め方(履修条件等)

課題意識を持って積極的な理解に努める意欲と態度を重視します。

■成績評価方法・基準

毎回の授業ごとの出席表を兼ねたリアクションペーパー(50%)、期末試験(50%)

■授業の予習・復習

子どもたちにかかわる最近の話題に関心を持ち、自分の課題を明確にしておく。

■教科書

使用しない。

■参考文献

O.F.ボルノー「問いへの教育」川島書店
門脇厚司「親と子の社会力」朝日新聞社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方についての説明
2 子どもについての理解	最近の子どもたちの実態
3 子どもについての理解	子どもたちの一日の生活の変化について
4 親と子どものかかわり	親の価値観と子どもの生活について
5 親と子どものかかわり	親と子どものかかわりに見られる課題
6 親の役割	親が子にしてやるべきこと
7 家庭の役割	子どもにとって家庭とは何か
8 家庭と地域のかかわり	家庭と地域のかかわりと、子どもとの関係
9 家庭の機能と教育力	家庭の機能の変化と教育力の変容について
10 家族の一員としての子ども	家族の一員としての子どもの立場・役割の変化
11 人間と家屋についての人間学的考察	ボルノー「人と家屋」についての解説
12 子どもと家庭についての人間学的考察	子どもと家庭についての人間学的な考察
13 家庭と学校のかかわり	学校から見えてくる家庭の実態について
14 家庭と学校の望ましい連携	家庭と学校の望ましい連携の在り方について検討する。
15 子どもと家庭の関係論	子どもと家庭の望ましいあり方について討論する。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名	こどもと地域の教育論		子どもと地域の教育論		
担 当 者	武内 清 Kiyoshi Takeuchi		対象学年	2年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

こどもは真空中の中で育っているのではない。地域の中で育っている。その実態をデータや観察から明らかにする。こどもの地域での遊びだけでなく、こども（青年も含む）と地域（国際社会も含む）との関係に関しても、さまざまな側面を講義し、討議する。

■授業の進め方（履修条件等）

講義と演習（グループ発表、討議）によって進める。

■成績評価方法・基準

授業への積極的参加20%、授業時のコメント（リアクション）20%、学期末レポート60%。

■授業の予習・復習

配布プリントをよく読むこと。

■教科書

授業時に指示。

■参考文献

武内清編『子どもの「問題」行動』学文社 2010

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	授業の進め方に関して説明する。
2 子ども1	子どもに関する理論と言説
3 子ども2	子どもの発達と家族
4 子ども3	子どもと仲間集団
5 子どもと学校	学校における社会化
6 子どもとメディア1	情報化社会と子ども
7 子どもとメディア2	インターネットとケイタイ
8 ユース カルチャー	サブ カルチャーと若者
9 地域社会	地域社会論と地域の実態
10 地域社会と子ども1	地域社会での子ども遊び
11 地域社会と子ども2	地域社会での子ども生活
12 地域社会と若者	若者の地域により生活の違いと移動
13 国際社会	多文化教育（海外子女教育、ニューカマー教育）
14 国際社会と大学	留学と国際的競争と大学
15 まとめ	総括と討議

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名	こどもと法律				
担 当 者	覚正 豊和 Toyokazu Kakusho		対象学年	2年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

この講義では、よりよい民主主義社会創設の担い手に対し法の役割と使命、とりわけ学校教育において必要とされる法を理解させることを目標とします。その概要としては、①人権尊重教育…人権保障についての法的メカニズムの確認 ②教育現場における法的諸問題を概観するとともに、その法的解決…例えば近年マスコミ等で大きく取り上げられている児童虐待、いじめ、不登校、非行、体罰問題から学校事故など ③比較的考察…例えば欧米諸国とのこども年齢の相違、学校などにおいて発生する諸問題に対する考え方の相違などについてもみていきたいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

分かりやすい授業を展開するので、特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

初回の授業において指示します。

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	受講のガイダンス
2 学校と法1	人権保障と法的メカニズム
3 学校と法2	憲法と教育基本法、学校教育法、子どもの権利条約
4 生徒指導と法1	いじめと法
5 生徒指導と法2	不登校と法
6 生徒指導と法3	児童虐待と法
7 生徒指導と法4	児童買春・児童ポルノと法
8 生徒指導と法5	懲戒、体罰と法
9 学校事故と法1	学校事故の刑事責任
10 学校事故と法2	学校事故の民事責任
11 学校事故と法3	学校事故と危機管理
12 学校事故と法4	学校事故と情報公開
13 非行問題1	非行問題と特徴
14 非行問題2	少年院、児童自立支援施設
15 総括	まとめおよび質疑

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	児童福祉論		児童福祉論	
担 当 者	矢作 由美子 Yumiko Yahagi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

児童・家庭福祉分野では、児童虐待、少子化、少年非行など、問題の多様化に伴い、新たな施策の整備が急務となっています。本授業では、児童の権利、児童福祉法に規定されている児童福祉サービス、児童虐待防止法に規定される虐待への対応など押さえる。児童への福祉的対応について理解を深めることを目標にする。各論では、多言語多文化、セクシャルマイノリティなどの視点を加え、さらに、教育報道や、児童福祉を支える現場の方々からの話を聞く機会を設けます。

■授業の進め方（履修条件等）

初回の授業に、今後のスケジュールについて説明します。現場の声を重視します。課題を見つけていただき報告をしてもらいます。そのまとめの資料はテストの際にも必要となります。

■成績評価方法・基準

レポート報告と期末試験を含めて総合点で判断します。

■授業の予習・復習

児童への福祉的対応の課題を見つけることが重要ですので、資料を探しグラフからどう読み込むかの訓練をしてほしいと思います。積極的に情報収集してください。

■教科書

授業時にプリントを配布します。

■参考文献

【サイト検索】47News（よんななにゅーす）
全国地方新聞社参加「47スクール」

■授業内容

授業項目	授業内容
1 本授業の概略と視点－児童福祉の生成と発展－	児童・家庭の生活実態と社会情勢及び児童・家庭福祉制度の発展過程
2 児童福祉法及び関連諸法（1）	児童福祉施設について
3 児童福祉法及び関連諸法（2）	里親制度について
4 児童相談所の業務	児童相談所の役割と各種機関との連携
5 児童・家庭福祉の法制度（1）	児童虐待防止法
6 児童・家庭福祉の法制度（2）	DV防止法、母子及び寡婦福祉法に関連する母子支援について
7 子どもの権利	子どもの権利条約とわが国の児童福祉
8 非行少年と向き合う	非行と児童福祉施策、非行少年を支える
9 児童への福祉的対応の課題を見つける（1）	各自レポート・テーマを報告する（1）
10 社会的養護と児童福祉施設（1）	現場の声を聞く（1）
11 社会的養護と児童福祉施設（2）	現場の声を聞く（2）
12 社会的養護と児童福祉施設（3）	現場の声を聞く（3）
13 ふりかえり	児童や家庭に対する支援と児童福祉施策について
14 児童への福祉的対応の課題を見つける（2）	各自レポート報告
15 まとめ	各自レポート発表

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名	社会思想史 I		近・現代の思想	
担 当 者	折原 裕 Yutaka Orihara		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

ヨーロッパ社会思想史の前半期について理解します。

■授業の進め方（履修条件等）

ルネサンスから、宗教改革を経て、市民革命にいたる、ヨーロッパ社会思想史の歩みの前半期を概観します。種々の思想家の思想像のみならず、その人物像や、時代背景についても、できる限り触れることにしたいと思います。

■成績評価方法・基準

定期試験（60%）、授業内小テスト（40%）。

■授業の予習・復習

予習：復習：簡単でいいから励行して下さい。

■教科書

市販のテキストは用いず、毎回講義の概要を記載した印刷物「講義メモ」を配布します。これに、講義中の指示などによって学生諸君が適宜書き込みをほどこしたものが、テキスト兼ノートになります。

■参考文献

塩野七生『わが友マキアヴェリ』中央公論社、橋爪大三郎・大澤真幸『ふしぎなキリスト教』講談社現代新書（いずれも、メディアセンター所定のコーナーに5冊ずつ常備してあります。）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 講義ガイダンス	本講義の特徴、成績について等
2 ルネサンスの思想	マキアヴェリ
3 ルネサンスの思想	トマス・モア
4 ルネサンスの思想	エラスムス
5 宗教改革	ルター
6 宗教改革	カルヴァン
7 小テスト	小テスト
8 イギリス市民革命の展開	トマス・ホブズ
9 イギリス市民革命の展開	ジョン・ロック
10 フランス啓蒙思想	モンテスキュー
11 フランス啓蒙思想	ヴォルテール
12 フランス啓蒙思想	ディドロ
13 フランス啓蒙思想	ルソー
14 小テスト	小テスト
15 まとめ	まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			アメリカの経済	
担 当 者	織井 啓介 Keisuke Orii		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

アメリカ経済の最新動向にアプローチします。アメリカのマーケット、マクロ経済、主要企業、金融政策を学べば、世界経済の理解に役立ちます。英文記事・ニュースも学び、時事英語力も伸ばしましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

講義とプリントによる簡単な演習が中心です。ノートをしっかり取り、章ごとに整理・復習しましょう。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%、②平常点50%が評価の目安です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントで予習するとともに、新聞・テレビで米国の経済ニュースに親しみましょう。
復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

M.B.Lehman, The Irwin Guide to Using the Wall Street Journal, McGraw Hill, 2005.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	「アメリカの経済」講義の概要	講義スケジュール等を説明
2	第1章：市場①	株式市場
3	第1章：市場②	金融市場
4	第1章：市場③	外為市場と商品市場
5	第2章：マクロ経済①	景気サイクル
6	第2章：マクロ経済②	GDP指標
7	第2章：マクロ経済③	生産・雇用指標
8	第2章：マクロ経済④	物価・国際収支指標
9	第3章：企業動向①	主要企業四半期業績
10	第3章：企業動向②	アグリ・石油ビジネス
11	第3章：企業動向③	自動車・IT・航空ビジネス
12	第4章：金融・財政①	主要金融機関
13	第4章：金融・財政②	中央銀行と金融政策
14	第4章：金融・財政③	財政と予算プロセス
15	「アメリカの経済」講義のまとめ	総括と補遺事項

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			アメリカ I	
担 当 者	櫛田 久代 Hisayo Kushida		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業では、アメリカ政治社会の中に見られる「自由と統合」という対立する方向性を歴史的に、政治的に、社会的に取り上げます。アメリカ合衆国の制度や歴史を知り、現代アメリカの社会や政治の背景にある考え方を理解することを目標としています。

■授業の進め方（履修条件等）

配布するプリントを中心に進めます。授業参加者の規模にもよりますが、少人数の場合は、時折、みなさんの理解を確認するために、演習形式で行います。

■成績評価方法・基準

期末試験80%、授業内に適宜行う小レポート20%。

■授業の予習・復習

予習：日頃から時事ニュースに関心を持って下さい。
復習：授業内でわからなかったことは、解決するようにして下さい。

■教科書

なし

■参考文献

渡辺 靖編『現代アメリカ』有斐閣、2009年。他。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	アメリカの今
2	アメリカ合衆国という国(1)	人、社会、制度
3	アメリカ合衆国という国(2)	50の州
4	2012年大統領選挙(1)	オバマ政権について
5	2012年大統領選挙(2)	大統領選挙の争点
6	2012年大統領選挙(3)	大統領選挙の仕組み
7	政治風土(1)	人々の政治参加
8	政治風土(2)	リベラルなアメリカ
9	政治風土(3)	保守派のアメリカ
10	変革の力(1)	公民権運動の歴史
11	変革の力(2)	公民権運動の歴史
12	変革の力(3)	アフターマティブ・アクション
13	変革の力(4)	コミュニティの再生
14	現代アメリカの苦悩(1)	長引く経済不況
15	現代アメリカの苦悩(2)	中産階級の不安

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			ヨーロッパ経済論Ⅰ			
担 当 者	飯野 由美子 <i>Yumiko Iino</i>		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

EU（欧州連合）は現在27カ国が加盟し、人口は5億人近くにも及びます。統一通貨のユーロを導入している国はそう17カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか？ヨーロッパ経済論Ⅰでは第2次大戦直後にさかのぼって欧州統合の歴史を勉強します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では、「moodle」というe-learning（パソコンを使った授業）を使うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンスの要項に行う講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業等での講習を受け、必ずアカウントをとっておいて下さい。
 レンズもないしフローチャートを内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映されたweb画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、基礎的知識からそれぞれの出来事や事項間の因果関係を勉強していきます。moodleでの選択式小テストや小論文形式の小テストを行います。小論文形式小テストでは、学習した出来事や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見て評点します。

■成績評価方法・基準

全体を100%とした場合のめやすとしては、定期試験（70%）、授業内小テスト（30%）というイメージですが、実際には、全体が170%で、定期試験（100%）、小テスト（70%）位になるような運用（どちらか出来ていればとれる）をしています。但し定期試験時に電力供給が逼迫すれば、全て授業内小テストで評点するかもしれません。

■授業の予習・復習

「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にして、文章でちゃんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にして、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。

■教科書

教科書は指定しません。参考文献、web上の情報などを参考して下さい。

■参考文献

田中 素香（著）、長部 重康（著）、久保 広正（著）、岩田 健治（著）現代ヨーロッパ経済 第3版（有斐閣アルマ）→メディアセンター指定図書コーナーに置いてあります。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方、評点等についてお話しします
2	moodle登録	今後授業で使うmoodleのアカウントを作りコース登録します。これをしない小テストが受けられませんので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。
3	第2次大戦後のヨーロッパ	第2次大戦の諸結果、IMF-GATT体制
4	第2次大戦後のヨーロッパ	小テスト（小論文形式）
5	ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ復興計画、アメリカのドル散布による国内経済の拡大
6	ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ諸国の経済的自立化と課題
7	ドル体制の展開とヨーロッパ	ヨーロッパ経済の復興－ドイツとフランスの例
8	ドル体制の展開とヨーロッパ	小テスト（小論文形式）
9	EECの成立	ヨーロッパ共同市場の必然性
10	EECの成立	小テスト（小論文形式）
11	EECの成立後のヨーロッパ	50-60年代ヨーロッパ貿易の拡大・経済成長
12	EECの成立後のヨーロッパ	小テスト（小論文形式）
13	ヨーロッパ経済の停滞（1970年代）	IMF体制の崩壊と世界的インフレ・ヨーロッパ高度成長要因の消失
14	ヨーロッパ経済の停滞（1970年代）	小テスト（小論文形式）
15	まとめ	まとめ

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			ヨーロッパ経済論Ⅱ			
担 当 者	飯野 由美子 <i>Yumiko Iino</i>		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

EU（欧州連合）は現在27カ国が加盟し、人口は5億人近くにも及びます。統一通貨のユーロを導入している国はそう17カ国にのぼります。このように密な統合はどのような背景で行われたのでしょうか？ヨーロッパ経済論Ⅰでは第2次大戦直後にさかのぼって欧州統合の歴史を勉強します。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では、「moodle」というe-learning（パソコンを使った授業）を使うので、アカウントをお持ちでない方は、ガイダンスの要項に行う講習を必ず受けて下さい。もし受けられない場合は、他の授業等での講習を受け、必ずアカウントをとっておいて下さい。
 レンズもないしフローチャートを内容とするプリントを配布し、パワーポイントのパネルやモニターに映されたweb画面を補助としてプリントにキーワードを書き込んで頂きながら、基礎的知識からそれぞれの出来事や事項間の因果関係を勉強していきます。moodleでの選択式小テストや小論文形式の小テストを行います。小論文形式小テストでは、学習した出来事や事項間の因果関係を文章で表現できるかどうか見て評点します。

■成績評価方法・基準

全体を100%とした場合のめやすとしては、定期試験（70%）、授業内小テスト（30%）というイメージですが、実際には、全体が170%で、定期試験（100%）、小テスト（70%）位になるような運用（どちらか出来ていればとれる）をしています。

■授業の予習・復習

「授業項目」の区切りを見当として小テストを行います。そのため、復習として、プリントや各自のメモを参考にして、文章でちゃんと因果関係等の説明が出来るようご用意下さい。小テストのコメントを参考にして、より良い小論文を作成し保存しておいて下さい。定期試験で役に立ちます。コメントがわかりづらかったらご質問下さい。

■教科書

教科書は指定しません。参考文献、web上の情報などを参考して下さい。

■参考文献

田中 素香（著）、長部 重康（著）、久保 広正（著）、岩田 健治（著）現代ヨーロッパ経済 第3版（有斐閣アルマ）→メディアセンター指定図書コーナーに置いてあります。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス、登録	授業の進め方、評点等、ヨーロッパ経済論Ⅰのエッセンスについてお話し今後授業で使うmoodleのアカウントを作りコース登録します。これをしない小テストが受けられないので、アカウントをお持ちでない方は必ずご出席下さい。
2	ヨーロッパ経済の停滞（1980年代）	産業のME化とヨーロッパの地位低下
3	ヨーロッパ経済の停滞（1980年代）	小テスト（小論文形式）
4	1992年欧州市場統合	今までの統合は不十分、3つの障壁
5	1992年欧州市場統合	1992年欧州市場統合期待と現実
6	1992年欧州市場統合	小テスト（小論文形式）
7	欧州通貨統合	欧州通貨統合へのプロセス（戦後ヨーロッパ通貨の歩み）
8	欧州通貨統合	欧州通貨統合の効果
9	欧州通貨統合	ECBの金融政策
10	欧州通貨統合	小テスト（小論文形式）
11	21世紀のヨーロッパ経済	ヨーロッパの産業、労働市場
12	21世紀のヨーロッパ経済	2008年金融危機とヨーロッパ経済
13	21世紀のヨーロッパ経済	ヨーロッパパンデミック危機とヨーロッパ経済
14	21世紀のヨーロッパ経済	小テスト（小論文形式）
15	まとめ	まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			中国Ⅱ			
担 当 者	加島 潤 Jun Kajima		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

急激なスピードで変化を続ける中国経済について、歴史や制度、国際関係などさまざまな角度から光をあて、その全体像を理解する。そして、中国経済に関するバランスのとれた知識を得ること、また中国についてさらに深く知るための方法を身につけることを目標とする。

■授業の進め方（履修条件等）

各回のトピックについて、指定した教科書の各章をベースに、統計資料や新聞記事、映像などを交えて解説していく。履修者には積極的に関連知識を得ようとする姿勢を期待する。

■成績評価方法・基準

毎回の授業での小テスト・レポートと定期試験（小テスト・レポート30%、定期試験70%）。

■授業の予習・復習

予習では講義計画に示した教科書の各章を読んでおく。復習では講義で紹介する参考文献を自分で調べてみる。

■教科書

加藤弘之・上原一慶編著『現代中国経済論』ミネルヴァ書房、2011。

■参考文献

各回のトピックに関連する参考文献について、授業中に紹介する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方を説明し、アンケートを行って受講者の要望等を確認する。
2	中国の経済体制	現在の中国政府が掲げている「社会主義市場経済」について考える（教科書第2章）。
3	中国経済の歴史	20世紀以降の中国経済の発展過程を学ぶ（第1、2章）。
4	企業の発展1：国有企業と民営企業	改革開放以後の国有企業の改革と民間企業の勃興について学ぶ（第4章）。
5	企業の発展2：外資企業	中国経済における外資企業の役割を考える（第4、12章）。
6	金融制度と資本市場	企業の発展を支える金融制度と資本市場について学ぶ（第7章）。
7	財政制度と中央—地方関係	中国における政府の役割と中央—地方政府間関係を財政制度の側面から検討する（第6章）。
8	農村と農業	広大な農村地域の経済と社会について理解する（第3章）。
9	所得格差と平等	地域間・階層間の格差について考える（第8章）。
10	人口構造と社会保障	変動する人口構造とそれに対応する社会保障のあり方を学ぶ（第8、9章）。
11	エネルギー問題	中国のエネルギー需給と資源制約について考える（第10章）。
12	環境問題	中国が直面する深刻な環境問題の現状について学ぶ（第11章）。
13	中国の貿易構造	拡大する中国の貿易の全体像を把握する（第12章）。
14	中国の対外経済進出	政府・企業・労働者など様々なレベルで進む中国の対外経済進出の現状を理解する（第14章）。
15	まとめ	第2～14回までの内容を総括するとともに、重要事項を再確認する。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			東南アジアⅡ			
担 当 者	田中 和彦 Kazuhiko Tanaka		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義は、東南アジアの中で特にフィリピンを取り上げ、フィリピンを中心とした東南アジアの歴史を、衣、食、住といった生活文化の歴史に焦点をあてて検討する。本講義の目的は、東南アジア、特にフィリピンの生活と文化を歴史をふまえて理解させることである。本年度は、特に食文化に焦点をあて、現地における実際の物的資料と歴史的資料の両方を踏まえ、また、周辺地域との関連も視野に入れて取り扱う。講義の中では、私自身が現地で実際に撮影した写真や現地で入手した現物を提示しながら授業を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式ですすめる。

■成績評価方法・基準

リアクションペーパー20%、学期末に課題本を読んだのレポート80%で評価する。

■授業の予習・復習

予習：該当する地域の地図を見ておくこと。
復習：ノートをまとめ、見直しておくこと。

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

授業の中で、その都度指示する。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	本講義に関する参考文献の紹介
2	フィリピンの地形と地域	スンダランドとウオーレシア、火山帯、黒潮、珊瑚礁
3	フィリピンの気候と植生	フィリピンの気温、降雨、熱帯雨林
4	フィリピンの言語	オーストロネシア語族の拡散とその特徴
5	フィリピンの民族	南方モンゴロイド集団と非モンゴロイド集団
6	東南アジアの稲とフィリピン①	東南アジアの稲作研究とフィリピン：農学の成果
7	東南アジアの稲とフィリピン②	東南アジアの稲作研究とフィリピン：考古学の成果
8	フィリピンの米	フィリピンにおける米を利用した食品
9	東南アジアの製塩史：1	東南アジアにおける製塩：タイの事例
10	東南アジアの製塩史：2	東南アジアにおける製塩：インドネシアの事例
11	ヤシの利用と歴史	フィリピンにおけるココヤシの利用：容器、食材、酒
12	スペイン時代のフィリピン	初期の歴史、スペイン人居住地と中国人、日本人
13	ガレオン船と新大陸の食物の移入	ガレオン船貿易の歴史と新大陸から齎された食物
14	フィリピンにおける土器作り	土器の調理甕の製作技術、技術伝承、使用
15	フィリピンにおける土器作り	土器の焔炉の製作技術、地域性、時代性

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			中東経済論			
担 当 者	水口 章 Akira Mizuguchi		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本授業では、世界経済に影響を与えるアラブ産油国の経済構造と世界的に注目されるイスラム金融について理解を深めてもらうことに主眼を置きます。そのことにより、21世紀の経済動向を考える力を身につけることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出してください。

■成績評価方法・基準

学習態度（課題レポート、討論参加、出席状況）40%、定期試験60%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。
 復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。

■教科書

水口章『中東を理解する』日本評論社、2010年3月

■参考文献

糠谷英輝『拡大するイスラム金融』蒼天社出版、2007年9月
 加藤博『イスラム世界の経済史』NTT出版、2005年7月

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	世界経済システムと中東地域	大航海時代後の物流変化について
2	インド洋貿易と中東	ペルシャ湾、紅海の交易ルートについて
3	工業化と中東	中東の資本、労働力、技術力の市場について
4	アジア経済と中東経済	アジアと中東の経済発展の差について
5	グループ討論 「中東の経済停滞」	「中東諸国の発展の遅れ」を考える
6	イスラムとは	イスラムにとっての「財」について
7	イスラム金融のスキーム1	「ムダラバ」「ムシャラカ」などについて
8	イスラム金融のスキーム2	イスラム保険・投資ファンドについて
9	イスラム金融の課題と展望	国際金融との関係について
10	グループ討論 「公平と利益分配」	「イスラム経済の特徴」を考える
11	サウジアラビア	オイルマネーの国際還流について
12	エジプト	肥大化した公共部門について
13	ドバイ	観光・中継貿易中心の国家戦略について
14	トルコ	復活するトルコ経済について
15	グループ討論 「経済発展と格差」	「イスラムと経済発展」を考える

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			アジアの農業			
担 当 者	高田 洋子 Yoko Takada		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

私たちの生活に最も大切な食糧、原料を生産する農業の歴史的過程を学び、社会にとっての「農」の未来を考える基礎的力をつけます。身近な千葉県と東南アジアの事例を中心に講義します。

■授業の進め方（履修条件等）

ITを活用する授業を展開しますが、講義の合間に「土」に触れ、農業の実践現場にも足を運んで学びます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的取り組みと定期試験によって成績評価をつけます。

■授業の予習・復習

予習：日頃から農業の現状と課題について情報を収集しましょう。
 復習：授業中に小テストを行います。

■教科書

指定しません。

■参考文献

斉藤照子『東南アジアの農村』弘文堂、他。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	序：農業の持つイメージ	受講前の農業についてのイメージをまとめる
2	農業とは何か（1）	「農業」の範疇を考える
3	農業とは何か（2）	世界の「農業」を概観する
4	農業とは何か（3）	現代アジアの農業を概観する
5	農業の歴史：千葉編（1）	房総半島の農業を知る
6	農業の歴史：千葉編（2）	明治期以降の下総地方の開拓から学ぶ
7	自然と農業との関わり	東南アジアの自然と土地利用から考える
8	農業の発展過程（1）	焼き畑農業から学ぶ
9	農業の発展過程（2）	自給的農業から商業的農業への変化
10	農業と世界市場	東南アジア三大デルタのコメ生産と輸出から学ぶ
11	農業生産システム（1）	工業的農業（分業と協業）・農園会社の経営（資本と賃労働）
12	農業生産システム（2）	生産技術の革新：緑の革命とは何か
13	農業生産システム（3）	土地は誰のものか
14	「農」の現場実習	土に触れ、土地を耕す
15	「農」に生きる人びと	千葉の農業人から直接に話を聞く

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			国際関係法Ⅱ	
担 当 者	庄司 真理子 <i>Mariko Shoji</i>		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

国際関係法Ⅰ（国際法）の知識に加えて、国際法学をひととおり勉強することを目指します。まずは国際責任と紛争の解決、裁判について学びます。次に、国際法と領域について、陸・海・空さらに時間があれば宇宙空間についても学びます。公務員試験などにも役立つように講義を進めます。

■授業の進め方（履修条件等）

国際関係法（国際関係法Ⅰ・国際法）をすでに履修した学生。履修していない学生は、授業についてくるのが難しい。

■成績評価方法・基準

講義の最中に毎回アンケート形式のレポートを書いてもらう。その他に試験をする。

■授業の予習・復習

予習よりも授業中が勝負です。授業中にしっかりと授業を受けてください。もちろん余裕のある人は教科書を読んできてください。

■教科書

中谷・河野・山本・植木・森田著『国際法』有斐閣アルマ

■参考文献

大沼・藤田『国際条約集』有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	国際紛争の法的解決と地的管轄権
2 国際紛争の法的解決Ⅰ	国際責任Ⅰ 中心的帰属と周辺の帰属
3 国際紛争の法的解決Ⅱ	国際責任Ⅱ 外交的保護権
4 国際紛争の法的解決Ⅲ	国際責任Ⅲ コンセッションの破棄 カルボー条項
5 国際紛争の法的解決Ⅳ	第三者の仲介と法的解決、平和的解決、 仲裁裁判
6 国際紛争の法的解決Ⅴ	国際司法裁判所 選択条項受託宣言 勧告的意見
7 海の国際法Ⅰ	海の法秩序
8 海の国際法Ⅱ	領海の幅 公海自由の原則
9 海の国際法Ⅲ	接続水域をめぐる諸問題
10 海の国際法Ⅳ	排他的経済水域をめぐる諸問題
11 海の国際法Ⅴ	国際河川 国際海峡をめぐる諸問題
12 海の国際法Ⅵ	海底の秩序
13 南極	南極について学ぶ
14 空と宇宙の国際法	領空と宇宙について学ぶ
15 国際環境法	国際環境法について学ぶ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			社会開発論	
担 当 者	大月 隆成 <i>Takashige Otsuki</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

開発プロジェクトにおける実施者（外部者）と受益者（住民）の間には、資金・知識・技術の格差があり、このことがしばしば問題を引き起こしてきた。参加型開発やPLAといった手法は、その対策として考え出されたものである。この授業では主としてミクロの視点から、国際協力に内在する様々な問題に光を当てることにしたい。

■授業の進め方（履修条件等）

開発や援助の世界には、決まった答があるわけではない。したがって、各自の自由な意見をもとにした積極的な討論を中心に授業を進めて行く予定である。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加や貢献を加味した上で、学期末のレポートにより評価を行う。

■授業の予習・復習

予習：教科書の指定された箇所を事前によく読んでおく。
復習：出された課題をじっくり考える。様々な角度から教科書を何度も読み返す。

■教科書

プロジェクトPLA編『続・入門社会開発』国際開発ジャーナル社
※絶版のため入手困難

■参考文献

野田直人『開発フィールドワーカー』築地書館
佐藤寛ほか編『テキスト社会開発』日本評論社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ランバ族の人びとの暮らし（1）	開発とは何か
2 ランバ族の人びとの暮らし（2）	豊かさや幸福の基準
3 貧困と社会開発（1）	貧困の定義や考え方
4 貧困と社会開発（2）	経済開発と社会開発、社会開発の歴史
5 ケース・スタディA（1）	事実関係の整理
6 ケース・スタディA（2）	失敗の原因は何か？
7 ケース・スタディA（3）	開発手法の特徴
8 プロジェクト型開発（1）	プロジェクトとは何か
9 プロジェクト型開発（2）	PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）
10 プロジェクト型開発（3）	プロジェクト型開発の限界
11 ケース・スタディB（1）	事実関係の整理
12 ケース・スタディB（2）	ケースAとの相違点
13 ケース・スタディB（3）	開発手法の特徴
14 参加型開発（1）	開発における「参加」
15 参加型開発（2）	PLA（参加による学習と行動）

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			国際政治学			
担 当 者	金子 新 Shin Kaneko		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

戦後、冷戦後、9.11後。私たちは今、3つの「ポスト（後）」の時代を生きています。それは激動のグローバル化の時代でもあります。しかも昨年2011年は、中東・アフリカ諸国で民主化デモが相次ぎ、欧米諸国でも反格差デモが繰り広げられました。世界は大きな転換点にあります。私たちは国際政治学を、歴史、理論、現状分析の3点を通して学び、グローバル化が国際政治に及ぼす影響を理解する必要があります。一緒に現代世界が抱える政治課題に接近してみませんか。

■授業の進め方（履修条件等）

教科書とレジュメを用います。また映像などを使って、内容をよりリアルにイメージできるようにします。国際政治学は20世紀、特に第2次大戦後に発達した学問です。20世紀の世界史をざっとおさらいしておきましょう。

■成績評価方法・基準

成績の評価は、授業での発言、レポートまたは期末試験によって行います。

■授業の予習・復習

予習：授業内容について教科書の該当箇所を事前に読んでみよう。

復習：レジュメと教科書をよく読み返し、学んだ知識を活かして、国際政治の具体的な出来事を自分なりに分析してみよう。

■教科書

細谷雄一・矢澤達宏（編）『国際学入門』（創文社、2004年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 国際政治の見方	国際政治をめぐる力・利益・理念
2 国際政治と国際システム	主権国家システムの形成と発展
3 リアリズムの国際政治理論	勢力均衡理論と覇権理論の違いは何か？
4 リベラリズムの国際政治理論	統合理論、相互依存論、レジーム論とは何か？
5 構造主義の国際政治理論	帝国主義と世界システム論
6 グローバリゼーション①	グローバリゼーションの光と影
7 グローバリゼーション②	グローバル化と超大国アメリカの行方
8 グローバリゼーション③	地球的問題群とグローバル・ガバナンス
9 開発と援助のグローバル化	「人間の安全保障」とは何か？
10 価値と規範のグローバル化	国境を超える民主主義・市民社会
11 反グローバリズム	反WTO、反米主義、原理主義、そしてナショナリズム
12 岐路にある国連とPKO	頻発する紛争に国連や国際社会はどう立ち向かうか？
13 戦後日本外交の歩み	国際化・グローバル化の中の日本外交
14 国際政治の地殻変動	台頭する中国・インドが国際政治に与える影響
15 もう一度、国家とは何か	国際政治の中の主権国家再考

■参考文献

村田 晃嗣、君塚 直隆、石川 卓、栗栖 薫子『国際政治学をつかむ』（有斐閣、2009年）

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			比較犯罪学			
担 当 者	覚正 豊和 Toyokazu Kakusho		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解していきます。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合目的な手段・方法を探求していくことを目的とします。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のことも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずで、講義を通じてそれを概観していきたいと思えます。

■授業の進め方（履修条件等）

分かりやすい授業を展開するので、特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

斉藤静敬・覚正豊和 共著『刑事政策論』八千代出版

■参考文献

授業において指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 受講のガイダンス	犯罪学と規範学との相違について学ぶ。
2 犯罪の概念	犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものを学ぶ。
3 現代犯罪学の課題	ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。
4 刑事政策と暗数	犯罪統計と暗数の意味、被害調査、事故報告調査などについて学ぶ。
5 犯罪の原因1	身体的・生理的要因について学ぶ。
6 犯罪の原因2	個人環境的要因について学ぶ。
7 犯罪の原因3	社会環境的要因について学ぶ。
8 刑罰の意義	機能・沿革－意義、機能はもちろん一般予防、特別予防、抑止主義、刑罰の種類などについて学ぶ。
9 死刑	憲法と死刑、存廃論、代替刑などについて学ぶ。
10 自由刑・財産刑	意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑、罰金の特質、罰金と科料などについて学ぶ。
11 保安処分	意義、種類、要件などについて学ぶ。
12 被害者補償	意義、歴史、必要性、法的制度などについて学ぶ。
13 各種犯罪と対策1	少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。
14 各種犯罪と対策2	組織犯罪、ホワイトカラー犯罪、薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。
15 総括	まとめおよび質疑

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			国際社会学	
担 当 者	水口 章 Akira Mizuguchi		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本授業では、現代を代表する社会学者の1人サスキア・サッセンの著作をもとに情報通信技術の発達と社会変化の関係を考察します。そのことで、21世紀の社会システムについて認識を深めることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

授業を3区分し、各区分の終了時に理解度を確認するためのグループ討論を行います。その討論を踏まえての課題レポートは必ず提出してください。

■成績評価方法・基準

学習態度（課題レポート、討論参加、出席状況）40%、定期試験60%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。
復習：講義を通して自分が疑問に思ったことは調べ、理解を深めてください。

■教科書

特に指定しませんが、適宜プリントを配布します。

■参考文献

サスキア・サッセン『グローバル空間の政治経済学』岩波書店、2004年12月
同『グローバル・シティ』筑摩書房、2008年11月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 時空の圧縮のとらえ方	地球規模の社会変化について
2 技術革新と社会変化	インターネット社会について
3 国家と帰属意識	ナショナリズムの変化について
4 宗教と国家	宗教意識の変化について
5 グループ討論「グローバル化と国家」	「今、世界に何が起きているか」を考える
6 人口動態上の近代性	近未来の地球の人口について
7 社会問題としてのジェンダー	ジェンダー問題について
8 変容する家族	家族意識の変化について
9 地域意識と社会運動	社会運動の実態について
10 グループ討論「共同性と公共性」	「公共空間の生成」を考える
11 グローバル・シティ論	都市の公共空間について
12 リチャード・フロリダの都市論	発展する都市について
13 世界都市と移民	都市の生活スタイルの多様性について
14 多文化主義政策	異文化理解を深めた政策について
15 グループ討論「21世紀の都市と社会」	「近未来の日本社会の都市」の暮らしを考える

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			国際移動論	
担 当 者	村川 庸子 Yoko Murakawa		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現代の国際的労働力移動の問題を、人口学、経済学、政治学、社会学、比較文化・社会など様々な角度から考察する。「国境」「国家」の持つ意味もあわせて考えていきたい。

■授業の進め方（履修条件等）

講義中心の授業となるが、統計・地図・新聞雑誌記事・映像資料などを用い、その扱い方の習得も目指したい。コーネル式ノート作成法を用いて成績評価を行う。

■成績評価方法・基準

コーネル式ノート作成法を用いて成績評価を行う。（確認テスト 30%；ノートのコメント欄を中心に70%）尚、主体的な学びを奨励する意味で、自主的に提出されるレポートなどは加点の対象とする。

■授業の予習・復習

予習：授業の参考になる新聞雑誌記事などを事前に配布し、授業のはじめに簡単な確認テストを行う。
復習：ノートの「コメント」欄の記述を重視する。

■教科書

特に使用しない。

■参考文献

必要に応じ資料を配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	「国際的労働力移動」を学ぶ意味講義の進め方
2 講義	統計に見る「国際移動」--伝統的移民国家と近年の移民国家
3 講義	統計に見る「国際移動」--人口の地域的偏在と移動
4 講義	移民をめぐる諸問題--イギリス・フランスの場合
5 講義	移民をめぐる諸問題--ドイツの場合
6 講義	入移民のメリット・デメリット--アメリカの場合
7 講義	出移民のメリット・デメリット--フィリピンの場合
8 講義	外国人・市民・非合法移民--米国の市民権制度
9 講義	移民とアイデンティティ
10 講義	グローバル化の時代の国際移動
11 講義	日本と国際労働力移動--移民送出の歴史
12 講義	日本と国際労働力移動--移民受入政策の現状
13 講義	日本と国際労働力移動--外国人花嫁
14 講義	ポスト9.11の移民政策--ナショナル・セキュリティとの関連で
15 総括	まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			世界の人権論	世界の人権問題
担 当 者	覚正 豊和 Toyokazu Kakusho		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

アメリカ社会において、人権、マイノリティ、ジェンダー、階級、セクシュアリティなどの差異性を発端とする人権問題は、さまざまな社会問題として露呈または隠蔽されてきています。この講義では、そうした人権問題の現状を正しく捉え人道主義的立場から理解し、解決の方途についても模索していきます。すなわち、自由権保障、人身保護権保障、人権保障制度等がどのように運用されているかなど基礎的事項についても整理、理解していくことを目的とします。同時にそれは、グローバルなボーダレス化した社会のなかで私達が生きていく意味と異文化状況を的確に判断する能力、よりよい国際人としての能力を身につけていくためにも必要なものです。

■授業の進め方（履修条件等）

分かりやすい授業を展開するので、特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

初回の授業において指示します。

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 受講のガイダンス	人権擁護の推進と啓発
2 比較分析のためのフレームワーク	人権と社会常識のあいだ
3 ヒューマン・ライツ1	基本的人権の原理・性格
4 ヒューマン・ライツ2	基本的人権の歴史・国際化
5 ヒューマン・ライツ3	開かれた社会と情報
6 人権問題1	各種人権問題その1
7 人権問題2	各種人権問題その2
8 人権問題3	各種人権問題その3
9 人権問題4	各種人権問題その4
10 人権問題5	各種人権問題その5
11 人権と法1	人権条約－イノベーション、モニタリング、グローバルイゼーション
12 人権と法2	司法解決と限界（国際刑事裁判所）
13 人権と法3	リーガルエイドー諸外国の実践と対応
14 人権と展望	まとめと展望
15 総括	全体のまとめと質疑

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			平和・安全保障論	平和・安全保障論
担 当 者	庄司 真理子 Mariko Shoji		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

グローバル化の今日、戦争とは全く縁もないと思われる日本の生活も、実は地球の裏側で起きている戦争に大きく関わっている。本講の目的は、最終的に今日のグローバル化における『新しい戦争』ともいえる現象に、どのように向き合っていっていいかを検討することにある。その前提として、人類が戦争を克服し平和をもたらすために、どのような方途を編み出してきたのかを検討する必要がある。講義では、まずは古典的な形式である国家対国家の戦争の違法化の問題からはじめ、国連の平和と安全の維持制度の検討、その後の新しい平和への課題の模索へと議論をすすめる。講義の中で理解してほしいことは、旧来の戦争と異なり、今日の戦争の主体は国家ではなく地球市民、すなわち私たち一人一人となってきたことである。私たちの姿勢が、地球に戦争をもたらさずか平和をもたらすかを決定づけていることを認識して欲しい。

■授業の進め方（履修条件等）

講義形式で授業をすすめる。平和研究を学ぶ上で、その裏返しでの戦争の体験をした学生は少ない。数回、授業にかかわるビデオを見る予定である。

■成績評価方法・基準

毎回、授業中にコメントカードを作成してもらい、このカードを通して参加者の理解度や授業に臨む姿勢を判断する。これに加えて学期末試験を行う。

■授業の予習・復習

事前準備は特に必要ない。授業中が勝負である。真摯な授業態度臨んでほしい。

■教科書

一つに限定しない。授業中に紹介する参考文献のなかから一つ選んで欲しい。

■参考文献

小柏・松尾『アクター発の平和学』法律文化社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	「平和」とは何か
2 戦争法の時代	正戦論 無差別戦争観
3 戦争の違法化	「西部戦線異状なし」
4 国連による平和と安全の維持Ⅰ	集団安全保障制度 北朝鮮
5 国連による平和と安全の維持Ⅱ	紛争の平和的解決 スリランカ
6 国連平和維持活動	国連平和維持活動とレバノン
7 平和への課題	予防外交（紛争予防）
8 「新しい戦争」の時代	「スレブレニツァの悲劇」マケドニア 予防展開軍
9 人間の安全保障	人間の安全保障とコンゴ
10 人道的介入と保護する責任	リビアと保護する責任
11 平和構築Ⅰ	平和構築とイラン
12 平和構築Ⅱ	アフガニスタンと紛争後選挙
13 平和構築Ⅲ	真実和解委員会と南アフリカ
14 企業・地球市民社会と紛争	国連グローバルコンパクト
15 武器商人・子ども兵・密輸	シエラレオネ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			日本社会と多文化共生	日本社会と多文化共生
担 当 者	小林 聡明 Soumei Kobayashi		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

民族や国籍が違えば、何らかの「違い」を感じている人がいるかもしれません。この「違い」とは、いかなるものであり、どのように作られたものなののでしょうか。授業では日本社会における「他者」の観点から民族や国籍を考えることで、この「違い」が持つ政治的な意味と多文化共生の意義を考えたいと思います。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では皆さんの理解を助けるために、できるだけ多くの視聴覚教材（映画やドキュメンタリー）を活用するつもりです。可能な限り、皆さんとの対話を重視したインタラクティブな授業を目指したいと思っています。

■成績評価方法・基準

出席状況（7割以上が必須）や授業後に提出してもらうコメント内容、レポートで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎日、欠かさず新聞を読んで下さい。
復習：各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについてたくさん議論してください。

■教科書

授業時に詳細なレジュメ（プリント）を配付します。

■参考文献

各授業時に紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 はじめに	私たちの暮らし「社会」について考えます。
2 現代社会の課題	「多民族化」を手がかりに現代の課題を考えます。
3 国家と民族	国家、民族の概念について考えます。
4 国民国家	国民国家の概念について考えます。
5 「日本人」とは誰か	「日本人」の境界を考えます。
6 「移民」とは誰か	移民国家、移民政策について考えます。
7 移民政策の歴史	移民政策の歴史的展開について考えます。
8 「在日」とは誰か	在日コリアンの歴史的背景について考えます。
9 「在日」の法的地位	在日コリアンの法的地位と人権について考えます。
10 「外国人」とは誰か	「国籍」について考えます。
11 現代日本に暮らす「外国人」	日本在住の外国人の状況について考えます。
12 日本の外国人政策	入管法制や外国人の人権について考えます。
13 外国人学校	外国に繋がる子どもたちの教育について考えます。
14 多文化共生論の射程	「他者」とともに暮らしていくことについて考えます。
15 まとめ	講義全体のまとめをします。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			日米関係	
担 当 者	村川 庸子 Yoko Murakawa		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

戦後の日本と日米関係の有り様に決定的な影響を与えたと言われる占領期。近年、日米両国において新たな資料が公開されていることから、この時期に関する研究が相次いで発表されている。これら最新の研究業績を踏まえてこの時代を、そして我々の時代に対する影響を考えてみたい。

■授業の進め方（履修条件等）

講義を中心とするが、できるだけ学生の皆さんの議論を引き出せるようにしたい。積極的に参加してくれることを希望している。

■成績評価方法・基準

コーネル式ノート作成法を活用する。

■授業の予習・復習

事前に配布する新聞雑誌記事を読み、概要をまとめること。授業後はノートの特に「コメント」欄の作成に注力すること。

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

新聞・雑誌記事などを適宜配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	「日米関係」をどう考える？講義の進め方
2 講義	「第一の開国」
3 講義	日米開戦への道
4 講義	戦争と日米相互イメージ
5 講義	戦争と日系人
6 講義	マッカーサーと日本人
7 講義	日本国憲法
8 講義	冷戦と逆コース、55年体制の成立
9 講義	マッカーシズムの時代
10 講義	日本の教育改革
11 講義	天皇制
12 講義	在日米軍基地と沖縄
13 講義	原爆をめぐる論争
14 講義	戦争の記憶
15 まとめ	総括

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			日中関係	日中関係史
担 当 者	家近 亮子 Ryoko Ichika		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

2006年9月小泉純一郎首相が退任し、安倍晋三が首相に就任した後、日中は戦略的互恵関係構築の方向に向い、07年4月の温家宝総理の訪日によって、「経冷政熱」関係は一応終息しました。その時期の対立の最大の原因は歴史認識問題と台湾問題でした。しかし、2010年9月におきた尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件は、領土問題をクローズ・アップしました。本授業においては、日中間の諸争点を歴史の文脈の中で多角的に説明していきます。到達目標は、近代以降の日中関係史を知り、その問題点と現状を理解することにあります。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。教科書と配付資料を中心にして、適宜映像資料を使いながら授業を進めていきます。

■成績評価方法・基準

平常点10%、小テスト30%、学期末試験60%で評価していきます。

■授業の予習・復習

予習：教科書と配布資料を事前に読んでくること。日中関係のニュースに関心をもつこと。

復習：配付資料とノートの整理。教科書による確認。疑問点をまとめて次の授業の時に提出すること。

■教科書

家近亮子・松田康博・段瑞聡編著『岐路に立つ日中関係』（晃洋書房、2007年）

■参考文献

家近亮子『日中関係の基本構造』（晃洋書房、2004年）

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の概説と進め方の説明、日本と中国の比較
2	近代における日中関係①	日清戦争、対華二十一条の要求、満洲事変
3	近代における日中関係②	日中戦争
4	戦後の日中関係①	戦後処理問題、日華平和条約
5	戦後の日中関係②	民間貿易、民間交流史
6	日中国交正常化への道	中国をめぐる国際情勢の変化
7	日中国交正常化	田中角栄と周恩来外交
8	日中関係の諸問題①	歴史認識問題
9	日中関係の諸問題②	教科書問題
10	日中関係の諸問題③	台湾問題①
11	日中関係の諸問題④	台湾問題②
12	日中関係の諸問題⑤	靖国神社参拝問題
13	日中関係の諸問題⑥	尖閣諸島問題、ガス田開発問題
14	日中関係の諸問題⑦	安全保障問題
15	今後の日中関係	戦略的互恵関係の展望

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			朝鮮Ⅱ	日韓関係史
担 当 者	小林 聡明 Soumei Kobayashi		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義では、朝鮮半島の人びとが経験した20世紀の歴史について、日本との関係を踏まえながら、たどっていきようとするものです。日韓関係について歴史的な観点から考えることは、隣国として日本自身の姿を、より深く学ぶための必要不可欠な知的営みとなります。

■授業の進め方（履修条件等）

本授業では、朝鮮半島情勢に対する時事解説も交えながら、朝鮮半島の歴史的展開について説明していきます。講師が一方的に講義をするのではなく、インタラクティブな授業形態を採用し、講師と学生がともに「考える」というプロセスを大切にしたいと考えています。なお、可能な限り科目「朝鮮」とあわせて受講してください。

■成績評価方法・基準

出席状況（7割以上が必須）や授業後に提出してもらったコメント内容、レポートで総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：毎日、必ず新聞に目を通して下さい。
復習：各授業でお知らせする関連文献を読むほか、知人や友人と関連トピックについて、たくさん議論してください。

■教科書

授業時に詳細なレジュメ（プリント）を配付します。

■参考文献

ブルース・カミングス『現代朝鮮の歴史－世界のなかの朝鮮』横田安司、小林知子訳、明石書店、2003年
文京洙『韓国現代史』岩波書店、2005年
韓洪九『韓国とはどういう国か』李尚珍[ほか]訳、平凡社、2003年
上記以外については、授業の際に随時紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	はじめに	講義のすすめ方
2	日韓関係の現住所	日韓関係の現在について考えます。
3	19世紀東アジア世界と朝鮮	朝鮮の開国と開化について考えます。
4	朝鮮植民地化への道程	日露戦争から韓国併合までの時代について考えます。
5	植民地支配（1）	1910年代の植民地朝鮮を考える。
6	植民地支配（2）	1920～30年代の植民地朝鮮を考える。
7	植民地支配（3）	1940年代の植民地朝鮮を考える。
8	アジア太平洋戦争	日本・朝鮮にとって、あの「戦争」とは何だったのかについて考えます。
9	敗戦と解放	植民地支配からの解放が持つ意味について考えます。
10	ソ連軍占領と北部朝鮮	朝鮮民主主義人民共和国成立への道程について考えます。
11	米軍占領と南部朝鮮	大韓民国成立への道程について考えます。
12	朝鮮戦争（1）	朝鮮戦争の展開について考えます。
13	朝鮮戦争（2）	日本にとって朝鮮戦争とは何だったのかを考えます。
14	朝鮮戦争後の南北朝鮮	南北分断体制の意味について考えます。
15	まとめ	東アジアの現在と未来について考えます。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			日本・東南アジア関係	日本東南アジア関係史
担 当 者	高田 洋子 Yoko Takada		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

東南アジアは日本と密接な歴史的・経済的関係をもつ近隣地域です。前近代から現代までのさまざまな交流史について、ベトナム・日本関係を中心に、比較史の方法および民衆史の視点から学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

IT を活用する授業を展開します。地域研究の「東南アジアⅠ」または「東南アジアⅡ」を履修した人を前提に、シラバスに沿ったトピックを講義します。

■成績評価方法・基準

出席数、授業への積極的取り組みとレポートによって評価を付けます。

■授業の予習・復習

予習：日頃から東南アジアと日本の関係についての情報を収集しましょう。

復習：毎回、授業内レスポンスペーパーを提出します。

■教科書

指定しません。

■参考文献

テーマ別レポート提出のための参考文献（数冊ずつ）リストを授業中に配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	序論：比較史および民衆史の手法を学ぶ意義	ベトナムはどんな国か 日越の比較のおもしろさ
2	前近代の関係史	17世紀の経済交流：ベトナムの日本人町ホイアン
3	近代の幕開け	明治日本のベトナム認識：エリートと大衆
4	ふたつの近代国家	近代日本の国づくりと仏領インドシナ植民地体制の比較
5	東アジアの連帯を求めて	ベトナム東遊（日本留学）運動：ファンポイチャウと浅羽村の人びと
6	戦前日本の東南アジア経済進出	フランス植民地の保護主義と日本の貿易摩擦
7	「大東亜共栄圏」の時代	日本軍の「仏印進駐」と「200万人餓死説」
8	もう一つの太平洋戦争（1）	残留日本兵とベトナム独立同盟
9	もう一つの太平洋戦争（2）	残留日本兵のこどもたち
10	冷戦の時代	ベトナム戦争と日本
11	インドシナの地域紛争	日本外交とインドシナ 失われた1980年代
12	したたかな友人	ASEAN の 発展戦略と日本
13	グローバル時代の社会主義国家	ベトナム、その“眠れる市場”を求めて（日本の企業進出ブーム）
14	インドシナの地政学と日本	日本・ベトナム・中国、東南アジアの国際関係と大メコン経済圏
15	授業の総括と質疑応答	21世紀の東南アジア・日本関係への展望

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			アフリカⅡ	
担 当 者	大月 隆成 Takashige Otsuki		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本から見た場合、アフリカは重要な相手とは見なされておらず、偏った情報に基づく歪んだイメージが形成されてしまうことが少なくない。授業の主眼はこうした日本とアフリカの関係の特殊性とその結果について理解を深めてもらうことである。また、最近アフリカとの関係を深めている中国についても取り上げることにしたい。

■授業の進め方（履修条件等）

授業では、様々な角度から日本・アフリカ関係に光を当ててみることにする。その上で、受講者諸君の自由な発想に基づくレポートの作成をお願いしたい。

■成績評価方法・基準

学期末のレポートに基づいて行う。期末試験は実施しない。

■授業の予習・復習

予習：日頃からアフリカに関心を持ち、積極的に情報収集を心がける。

復習：授業で出された課題や関連するテーマについて、調べてみる。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

伊谷純一郎ほか『アフリカを知る事典』平凡社
大迫秀樹『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』アスカ

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方およびレポート作成について
2	アフリカ入門講座（1）	アフリカの共通性と多様性
3	アフリカ入門講座（2）	北アフリカとサハラ以南アフリカ
4	アフリカ入門講座（3）	共通性の起源～共通の歴史的経験
5	日本・アフリカ関係の特徴（1）	日本から見たアフリカの重要性
6	日本・アフリカ関係の特徴（2）	関係の非対称性～経済規模の比較～
7	レポート作成の進め方	テーマ設定のヒント、資料収集の方法
8	日本とアフリカのつながり（1）	日本に住むアフリカ人、アフリカに住む日本人
9	日本とアフリカのつながり（2）	貿易や援助などの経済関係
10	日本とアフリカのつながり（3）	日本人のアフリカ・イメージ
11	日本とアフリカのつながり（4）	教科書や文学作品などに見るアフリカ
12	日本とアフリカのつながり（5）	日常生活におけるアフリカとの接点
13	中国とアフリカ（1）	アフリカにあふれる中国製品
14	中国とアフリカ（2）	アフリカの天然資源と中国
15	中国とアフリカ（3）	政治と国際関係

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			国際金融論	
担 当 者	織井 啓介 Keisuke Orii		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

国際金融の主要テーマを紹介しします。①金融為替市場、②国民所得計算（GDP）、③国際収支、④外国為替、⑤国際金融の諸課題について講義します。グローバル化とともに、ますます必要性の増す金融・為替の知識を身につけましょう。

■授業の進め方（履修条件等）

講義とプリントによる簡単な演習が中心です。予備知識はとくに必要ありません。ノートをしっかり取り、章ごとに復習しましょう。電卓を常備してください。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%、②平常点50%が評価の目安です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントで予習するとともに、TV・新聞で経済ニュースに親しみましょう。

復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

高木信二『入門国際金融（第4版）』日本評論社、2011年。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	「国際金融論」講義の概要	講義スケジュール等を説明
2	第1章：金融為替市場①	証券市場と金融市場
3	第1章：金融為替市場②	外国為替市場
4	第2章：国民所得計算①	GDPの概要
5	第2章：国民所得計算②	実質成長率と1人当たりGDP
6	第2章：国民所得計算③	その他の国民所得指標
7	第3章：国際収支①	国際収支の概要
8	第3章：国際収支②	経常収支と資本収支
9	第3章：国際収支③	経済発展と国際収支
10	第4章：外国為替①	外国為替の概要
11	第4章：外国為替②	外国為替市場
12	第4章：外国為替③	外国為替相場制度
13	第4章：外国為替④	為替レートの決定理論
14	第5章：国際金融の諸課題	欧州債務危機とBasel III
15	「国際金融論」講義のまとめ	総括と補遺事項

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			国際経済学	
担 当 者	織井 啓介 Keisuke Orii		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

①国際経済の基礎知識、②外国貿易の仕組み、③WTOとFTA、④外国為替の基礎を中心に平易に紹介しします。グローバル化に対応するための国際経済の基礎知識がスピーディに身につきます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義とプリントによる簡単な演習が中心です。予備知識はとくに必要としません。ノートをしっかり取り、章ごとに復習しましょう。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%、②平常点50%が評価の目安です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントで予習しします。TV・新聞で経済ニュースに親しみましょう。

復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣アルマ、2011年。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	「国際経済学」講義の概要	講義スケジュール等を説明
2	第1章：国際経済の基礎①	経済の基礎用語
3	第1章：国際経済の基礎②	国際機関と地域連合
4	第1章：国際経済の基礎③	主要国の経済動向
5	第2章：外国貿易の基礎①	貿易のプロセス
6	第2章：外国貿易の基礎②	信用状取引の仕組み
7	第3章：自由貿易の推進①	WTO（世界貿易機関）
8	第3章：自由貿易の推進②	FTA（自由貿易協定）
9	第4章：外国為替の基礎①	為替レートの見方
10	第4章：外国為替の基礎②	外国為替市場の仕組み
11	第4章：外国為替の基礎③	円高・円安と貿易
12	第5章：国際移動①	労働の国際移動
13	第5章：国際移動②	資本と技術の国際移動
14	第6章：国際貿易の理論	リカードモデルとHOモデル
15	「国際経済学」講義のまとめ	総括と補遺事項

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			国際貿易論	
担 当 者	三幣 利夫 Toshio Sampei		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

貿易に関わる基礎理論と貿易の流れについて理解し、貿易が世界経済の発展に貢献している実態と、他方で貿易が拡大する中で生じている問題について学習する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回配布するレジュメに沿って講義形式で進めるが、その時々が発生する貿易関連ニュースを題材に解説、質疑も行う。

■成績評価方法・基準

出席（授業への参加度合を含む） 30%
 中間期（小テスト） 30%
 定期試験 40%

■授業の予習・復習

日々の新聞・TV・ネット等を通じ、経済ニュースに関心を持つことが望まれる。

■教科書

特になし。

■参考文献

伊藤元重著「ゼミナール世界経済入門」日本経済新聞出版社
 久保広正著「ベーシック貿易入門」日経文庫

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の進め方の説明、貿易の現状
2 貿易の基礎理論	比較優位の理論
3 貿易とは	貿易の特徴と形態
4 貿易の流れ	輸出入の流れと貿易条件
5 貿易取引の決済	為替銀行の役割
6 輸送と保険	保険の仕組み、輸送
7 国際収支	国際収支とは何か
8 サービス貿易	サービス貿易の現状と特徴
9 外国為替取引	為替レートと変動
10 世界の通貨制度	通貨制度の変遷
11 世界の貿易体制	貿易体制の変遷、GATTからWTO
12 世界の貿易	世界の貿易の推移
13 日本の貿易	日本の貿易の推移
14 国際貿易をめぐる問題(1)	貿易摩擦
15 国際貿易をめぐる問題(2)	FTA、TPPと地域経済統合

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			国際経営	
担 当 者	三幣 利夫 Toshio Sampei		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

経済がグローバル化する中で増加している企業の海外進出に関し、経営学の視点からその背景と諸問題について学習する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回配布するレジュメに沿って、講義形式で進める。

■成績評価方法・基準

出席（授業への参加度合を含む） 30%
 中間期（小テスト） 30%
 定期試験 40%

■授業の予習・復習

日頃から、国際経営あるいは企業の海外進出関連のニュースに関心を持って、新聞やTV・ネット等を読み、視聴すること。

■教科書

特になし。

■参考文献

吉原英樹編「国際経営への招待」有斐閣
 伊丹敬之他著「ゼミナール経営学入門」日本経済新聞出版社

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	講義の進め方の説明、国際化とは
2 国際経営とは	国際経営の形態と特徴
3 国際経営の理論(1)	なぜ国際化するか
4 国際経営の理論(2)	国際化の発展段階
5 国際経営と国境	国境を越える問題
6 国際経営の戦略(1)	国の選択、ポートフォリオ
7 国際経営の戦略(2)	経営資源の移転とグローバル活用
8 日本企業の国際経営	日本企業の海外進出の動向
9 実例研究(1)	トヨタの国際経営
10 実例研究(2)	パナソニックの国際経営
11 非製造業の国際経営	非製造業の国際展開と戦略
12 国際マーケティング	国際マーケティングの戦略
13 国際化の問題	政治・社会的問題、為替と資金調達
14 世界の多国籍企業	多国籍企業の事業展開
15 総括と異文化経営	講義内容のまとめ、異文化経営について

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			国際投資論	
担 当 者	三幣 利夫 Toshio Sampei		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

経済がグローバル化の中で増加している国際投資に関し、直接投資と間接投資に分けて理論と現実の動きについて学習する。特に、経営支配の伴う直接投資に関し、統計数字を参照しつつ日本企業の動向を検証する。

■授業の進め方（履修条件等）

毎回配布するレジュメに沿って講義形式で進める。時事の関連ニュースについての解説と質疑も行う。

■成績評価方法・基準

出席（授業への参加度合も含む） 30%
中間期（小テスト） 30%
定期試験 40%

■授業の予習・復習

新聞やTV・ネットを通じ、日々の経済ニュースを必ず読み、視聴すること。

■教科書

特になし。

■参考文献

島田克己著「概説海外直接投資」学文社
内藤 忍著「外資投資論」有斐閣

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	概要説明、国際投資とは
2 海外直接投資	海外直接投資の定義と本質
3 国際投資の歴史	英国、米国の国際投資
4 世界の直接投資	先進国の投資動向
5 クロスボーダー M&A	統計から見るM&Aの推移
6 日本の対外直接投資（1）	日本経済の発展と対外直接投資
7 日本の対外直接投資（2）	最近の対外直接投資
8 日本の対外直接投資（3）	日本のクロスボーダー M&A
9 日本の対内直接投資	対内直接投資の推移と特徴
10 発展途上国と直接投資	発展途上国経済と直接投資の役割
11 アジア域内直接投資	ASEANと中国における直接投資
12 直接投資と貿易	直接投資が貿易に与える影響
13 直接投資の目的とリスク	海外直接投資の目的とリスク
14 投資協定	直接投資のリスクと投資協定
15 間接投資	海外間接投資の種類とリスク

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			国際会計	
担 当 者	織井 啓介 Keisuke Orii		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「英語・パソコン・国際会計」は現代ビジネスパーソン「三種の神器」と言われます。①英文簿記の基本、②IFRS（国際財務報告基準）の概要を学び、国際化時代に必要な会計の基礎知識を身につけます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義とプリントによる簡単な演習が中心です。できれば「簿記会計基礎」受講程度の基礎知識のあることが望ましいです。電卓を常備しましょう。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%、②平常点50%が評価の目安です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントを予習しましょう。
復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

東京商工会議所編「BATIC公式テキスト」中央経済社、各年版。
Hennie van Greuning, *International Financial Reporting Standards: A Practical Guide*, The World Bank, 2009.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 「国際会計」講義の概要	講義スケジュールの説明等
2 第1部：英文簿記①	簿記の基礎概念
3 第1部：英文簿記②	取引と仕訳
4 第1部：英文簿記③	試算表
5 第1部：英文簿記④	決算整理
6 第1部：英文簿記⑤	精算表と締切仕訳
7 第2部：国際会計①	IFRSの概要
8 第2部：国際会計②	財務諸表表示
9 第2部：国際会計③	キャッシュフロー計算書
10 第2部：国際会計④	連結財務諸表
11 第2部：国際会計⑤	財政状態計算書①資産の会計基準
12 第2部：国際会計⑥	財政状態計算書②負債の会計基準
13 第2部：国際会計⑦	包括利益計算書①収益の認識基準
14 第2部：国際会計⑧	包括利益計算書②研究開発費他
15 「国際会計」講義のまとめ	総括と補遺事項

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			ファイナンス	
担 当 者	織井 啓介 Keisuke Orii		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

ビジネスパーソンへの必須知識となってきた「企業ファイナンス」の基礎を平易に学習します。キャッシュフロー、割引現在価値、最適資本構成といった企業ファイナンスの基礎が理解できるようになり、ビジネスパーソンとなる準備ができます。

■授業の進め方（履修条件等）

講義とプリントによる簡単な演習が中心です。ノートをしっかり取り、章ごとに整理・復習しましょう。

■成績評価方法・基準

①期末試験（教場試験またはレポート）50%、②平常点50%が評価の目安です。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントを予習しましょう。

復習：練習問題を自宅で演習し、次の授業時間に答え合わせをしましょう。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

滝川好夫『入門ファイナンス理論』日本評論社、2007年。
Simon Benninga, *Financial Modeling*, The MIT Press, 2008.

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	「ファイナンス」講義の概要	講義スケジュール等を説明
2	第1章：財務諸表	貸借対照表と損益計算書
3	第2章：財務分析	安全性と収益性の指標
4	第3章：キャッシュフロー①	キャッシュフローの概要
5	第3章：キャッシュフロー②	フリーキャッシュフロー
6	第4章：資本コスト	加重平均資本コスト（WACC）
7	第5章：投資の決定	正味現在価値と内部収益率
8	第6章：企業価値	企業価値の算出
9	第7章：最適資本構成①	MM理論
10	第7章：最適資本構成②	法人税と倒産リスク
11	第8章：配当政策①	増配
12	第8章：配当政策②	自社株買い
13	第9章：財務戦略①	IPOとM&A
14	第9章：財務戦略②	TOBとMBO
15	「ファイナンス」講義のまとめ	総括と補遺事項

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			情報ビジネス論	
担 当 者	高橋 和子 Kazuko Takahashi		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

加速する情報社会にあって、企業の意思決定を高度し迅速化するためには、誰もが情報を有効に利用し分析できる必要があります。授業のねらいは、経営戦略とIT戦略を融合させた新しい経営組織・管理・活動について解説することです。到達目標は、これらの知識を得ることで、新しい経営感覚を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件は特にありません。理解を深めるために、毎回、授業の途中で小テスト（クイズ）を数回行います。

■成績評価方法・基準

平常点：授業内小テスト（毎回）40% 定期試験：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありませんが、日頃から企業のIT活用に関連するニュースに注意してください。

■教科書

『ビジネス情報学概論』定道宏著 オーム社 2006年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	経営と情報活用(1)	企業経営の変化
2	経営と情報活用(2)	戦略的経営のためのIT基盤
3	全社企業システム体系	EAとは、EAの役割、フレームワーク、利用者
4	データウェアハウス	データウェアハウス、データマート、多次元データベース
5	BI（ビジネスインテリジェンス）(1)	BIとは、BIの目的、適用分野
6	BI（ビジネスインテリジェンス）(2)	BIソリューション、データマイニングとOLAPの比較
7	ERP（全社業務資源管理）	ERPとは、ERPの役割、フレームワーク
8	SCM（サプライチェーン生産管理）	SCMとは、SCMの役割、生産ERP
9	DCM（デマンドチェーン顧客管理）	DCMとは、CRM、DCMの役割
10	EAI（業務アプリケーション統合）	EAIとは、ハブ&スポーク、EAIツール
11	ビジネスプロセス連携	Webサービス、構成、SOA、ESB
12	BPM（ビジネスプロセス管理）	BPMとは、BPMシステムの構成、例、利用者
13	EDI（電子商取引データ交換）	EDIとは、ebXML
14	BA（ビジネスアナリティクス）に向けて	BAとBIとの違い
15	総括	質疑応答

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			経済経営のためのデータ解析	
担 当 者	高橋 和子 Kazuko Takahashi		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、経済・経営分野で用いられる量的なデータの分析方法と、そこで必要になる推測統計学について解説することです。また、地域調査に必要なデータの分析方法も解説します。到達目標は、社会科学分野における量的データの分析を行い、その結果をレポートに的確にまとめる能力を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

講義により基本的な統計用語を理解した後、社会科学統計パッケージソフト（SPSS）を用いて実際にデータ分析を行います。「マーケティングリサーチⅠ」を履修していることが望ましい。「社会調査士」「地域調査士」資格必須科目。

■成績評価方法・基準

平常点（授業への参加・貢献度）：40% レポート：60%

■授業の予習・復習

予習：特に必要ありません
 復習：授業で習った新しい知識を身につけるために自習時間を活用してください。

■教科書

『読む統計学 使う統計学』 広田すみれ著
 慶應義塾大学出版会 2005年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	経済・経営データ	量的なデータと質的なデータの違い
2	1変数の基本統計量	平均値、中央値、最頻値、レンジ、分散、標準偏差など
3	2変数の関連（1）	散布図、相関係数
4	2変数の関連（2）	偏相関係数、属性相関、変数のコントロールなど
5	回帰分析（1）	単回帰分析
6	回帰分析（2）	重回帰分析
7	推測統計学（1）	母集団と標本、標本抽出法
8	推測統計学（2）	確率論の基礎、正規分布、標準正規分布
9	推測統計学（3）	統計的推定の考え方
10	推測統計学（4）	統計的検定の考え方
11	推測統計学（5）	平均の差の検定、t分布
12	推測統計学（6）	比率の差の検定
13	推測統計学（7）	独立性の検定、カイ二乗分布
14	統計地域	行政地域、国政統計区、地域メッシュなど
15	地域特性分析	構成比、特化係数、B/N分析

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			アグリ・エコビジネスⅠ	
担 当 者	平井・八島・鈴木		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

食生活や農業と環境問題との関連性や、持続的社会的実現のために開発されたエコシステムやエコビジネスの例を理解し、これらの知識を実践するための力を身につけることを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。

■成績評価方法・基準

学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50:30:20の割合で総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。
 復習：講義時間内に指示する。

■教科書

オリジナルプリントを配付する。
 参考図書は講義時間内に適宜紹介する。

■参考文献

なし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	アグリ・エコビジネスⅠ概要	講義内容、講義の進め方など（平井）
2	副産物の利用とエコビジネス1	食品としての利用1～肝障害抑制（江頭）
3	地球環境とアグリカルチャー（Ⅰ）-1	食品容器とリサイクル（平井）
4	地球環境とアグリカルチャー（Ⅰ）-2	土壌水質汚染（八島）
5	地球環境とアグリカルチャー（Ⅰ）-3	食生活と環境汚染（平井）
6	地球環境とアグリカルチャー（Ⅰ）-4	大気汚染と地球温暖化（八島）
7	副産物の利用とエコビジネス2	食品としての利用2～コレステロール低下（江頭）
8	副産物の利用とエコビジネス3	家畜飼料としての利用（平井）
9	地球環境とアグリカルチャー（Ⅰ）-5	森林破壊と砂漠化（八島）
10	副産物の利用とエコビジネス4	化粧品としての利用（江頭）
11	副産物の利用とエコビジネス5	家畜排せつ物の農業利用（八島）
12	副産物の利用とエコビジネス6	生ごみの利用（八島）
13	食品の科学とエコビジネス（Ⅰ）-1	酒の科学（平井）
14	食品の科学とエコビジネス（Ⅰ）-2	糖・食物繊維の科学（江頭）
15	食品の科学とエコビジネス（Ⅰ）-3	油の科学（平井）

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			アグリ・エコビジネスⅡ			
担 当 者	平井・八島・鈴木		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

アグリ・エコビジネスⅠの発展編。農業に関連した地球環境問題や食の安全性の問題などを理解するとともに、持続的社会的実現のためのエコシステムや、エコビジネスへの展開について、自ら考える力を習得することを目的とする。

■授業の進め方（履修条件等）

授業は3名の教官によるリレー方式で行う。パワーポイントまたはプリントを用いた講義を行う。講義時間内に簡単な小テストを行い、理解度を確認する。

■成績評価方法・基準

学習態度、講義時間内に行う小テスト、レポートについて、およそ50:30:20の割合で総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：講義内容に関する書籍や新聞記事などを読み、予備知識を得ておくことが望ましい。

復習：講義時間内に指示する。

■教科書

オリジナルプリントを配付する。
参考図書は講義時間内に適宜紹介する。

■参考文献

なし

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	アグリ・エコビジネスⅡ概要	講義の内容、講義の進め方など（平井）
2	食の安全性1	食品汚染（平井）
3	食の安全性2	食品衛生の制度（江頭）
4	食の安全性3	安心な農産物（八島）
5	食の安全性4	食中毒（江頭）
6	食品の科学とエコビジネス（Ⅱ）-1	おいしさの科学～味（平井）
7	地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-1	人口爆発と緑の革命（八島）
8	食品の科学とエコビジネス（Ⅱ）-2	おいしさの科学～香り（平井）
9	食の安全性5	寄生虫（江頭）
10	地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-2	将来の地球を養う土壌管理（八島）
11	地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-3	日本の水田の1年（八島）
12	食の安全性6	狂牛病・経口感染症（江頭）
13	地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-4	食料自給率（平井）
14	地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-5	日本の畑の1年（八島）
15	地球環境とアグリカルチャー（Ⅱ）-6	バイオエタノール（平井）

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名	観光事業論		観光事業論Ⅰ			
担 当 者	奥山 隆哉 Takaya Okuyama		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

今世紀は地球規模で人的交流が劇的に増加し、世界的な観光交流の時代になると言われており、特にアジアが大きなウェイトを占めると期待されている。その中で、日本政府は観光立国を国の重要施策とすると共に、新成長戦略の柱として観光振興を推進している。経済的、社会的、文化的に様々な効果が期待できる観光・ツーリズムに関する観光事業はますます産業としての重みを増してくる。当授業では、まず、観光の基礎をしっかりと理解し、次に観光事業の要となる旅行事業について学習する。

■授業の進め方（履修条件等）

説明にパワーポイントを用いて授業を進める。

■成績評価方法・基準

定期試験による配点 概ね3分の2、クラス参加度による配点 概ね3分の1とする。

■授業の予習・復習

予習：旅行会社、ホテル/旅館、航空会社等観光産業および国・自治体の観光施策等に関する新聞記事などを見つけ、目を通しておく。

復習：配布プリントに目を通す。

■教科書

毎回プリントを配布する。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	前期の授業内容の概要の説明
2	観光全般1 (観光の現状)	国内旅行・訪日旅行・海外旅行の現状、世界の観光の現状
3	観光全般2 (観光の意義と概念)	観光の意義、定義、観光の構成要素
4	観光事業の基盤1 (観光生産物他)	観光行動、観光生産物、観光サービスの特性、観光産業の特性
5	観光事業の基盤2 (役割と機能)	観光の5つの力、観光消費額、経済規模、地域活性化。
6	観光の発展過程1 (日本)	古事記、伊勢参り、奥の細道、高度成長期の観光
7	観光の発展過程2 (世界)	ミトコンドリアイブ、人類の旅、近代ツーリズム、マスツーリズム
8	観光マーケティング1 (基礎)	マーケティングとは、観光マーケティングの特徴、マーケティング活動の実際
9	観光マーケティング2 (観光マーケットの動向)	国民の余暇活動、国内旅行市場、海外旅行市場、訪日旅行の市場
10	旅行事業1 (旅行業の発展)	旅行業の登場・発展、鉄道・航空・宿泊代理店から旅行企画会社へ、旅行会社の形態と今後の適応
11	旅行事業2 (旅行業の経営)	旅行の変化と旅行会社の対応、流通の変化と店舗
12	旅行事業3 (旅行業の価値と役割)	時代の変遷と「情報」「流通」「集客・交流」の価値
13	旅行事業4 (情報化社会の進展と旅行業)	観光情報の流通と旅行者の意思決定、旅行業の緊張関係
14	旅行事業5 (旅行取引と消費者)	旅行業法、約款と旅行取引、ネット取引、消費者保護
15	リキャップ	本授業の整理と主要な点についての復習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			環境アセスメント	
担 当 者	松本 太 <i>Futoshi Matsumoto</i>		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

近年様々な環境問題が顕在化する中、環境保全の必要性が注目されています。この講義では環境保全や公害防止のために、開発による環境への影響を事前に予測、評価を行う環境アセスメントに関して講義します。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件等は特にありません。授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがあります。進捗状況により、授業内容が変更になることがあります。

■成績評価方法・基準

レポート、試験、学習意欲、授業態度により、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習、復習は特に必要ありませんが、宿題を課すことがあります。

■教科書

テキストは使用しません。

■参考文献

特にありません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	環境アセスメントとは何かを講義
2 開発と環境	開発前に行われる環境影響評価の全般を講義
3 地球環境の変化	地球温暖化など地球規模の環境問題について講義
4 都市環境の変化	都市域の環境変化を時代別に講義
5 公害問題	日本における公害の歴史および内容を講義
6 環境アセスメントの必要性	環境アセスメントの必要性、歴史を講義
7 水環境の生物への影響評価	湖沼等の水環境が生物へ及ぼす影響について講義
8 大気環境の生物への影響評価	大気汚染や都市温暖化の生物への影響について講義
9 都市の熱環境の評価	衛星画像等を利用した熱環境の評価について講義
10 地域の環境アセスメント	自治体・企業・住民等による合意形成について講義
11 環境アセスメント実習①	実習（土地利用計画）の方法等の説明、班分け
12 環境アセスメント実習②	土地利用の作業開始（班別別のミーティング含む）
13 環境アセスメント実習③	土地利用の配置図の作成（データの集計および解析）
14 環境アセスメント実習④	レポート作成、報告会・討論会
15 これからの環境アセスメント	今後の環境アセスメントのあるべき姿を講義

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			環境マネジメント	
担 当 者	松本 太 <i>Futoshi Matsumoto</i>		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

現代の人間活動は大量生産、大量消費に象徴され、地球温暖化など様々な環境問題を引き起こしました。この講義では環境問題をライフスタイルや社会システムの側面から考えつつ、問題を解決するために企業や自治体、地域が取り組んでいる環境マネジメントについて講義します。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件等は特にありません。授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがあります。進捗状況により、授業内容を変更することがあります。

■成績評価方法・基準

レポート、試験、学習意欲、授業態度により、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習、復習は特に必要ありませんが、宿題を課すことがあります。

■教科書

テキストは特にありません。

■参考文献

特にありません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	環境マネジメントとは何かを講義
2 地球規模の環境問題	地球規模の環境問題の現状を講義
3 地球温暖化とその影響	地球温暖化の原因影響、対策などを講義
4 都市の環境問題と人口変化	都市の拡大（人口増加）とそれに伴う環境変化を講義
5 エネルギー問題	化石燃料枯渇、クリーンエネルギー普及の可能性を講義
6 ゴミ問題	大量生産・消費が引き起こしたゴミ問題の現状を講義
7 省エネルギーとリサイクル	省エネルギー、リサイクルの有効性を講義
8 環境マネジメント実習①	既存のデータ（地図・資料）による地域環境の評価
9 環境マネジメント実習②	GISによる地域環境の評価（空間データの利用と作業）
10 公的機関の環境問題への取り組み	国、自治体による環境問題への対策を講義
11 企業による環境マネジメント	企業による環境マネジメントの取り組みを講義
12 市民による環境マネジメント	市民による環境マネジメントの取り組みを講義
13 都市の自然環境	景観変化による都市の大気・水環境の評価について講義
14 環境共生型のまちづくり	地域の気候特性を活用したまちづくりの可能性を講義
15 持続可能な社会の実現に向けて	持続可能な社会の構築に向けて何が必要かを講義

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			環境と開発	
担 当 者	松本 太 <i>Futoshi Matsumoto</i>		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本ではこれまで経済が発展、成長を遂げる一方、開発に伴い様々な環境汚染、環境破壊を引き起こしてきた。この講義では開発の結果生じた環境問題について考えるとともに、環境保全や公害防止のために何をすべきか、開発はどうあるべきか、また環境に配慮したまちづくりはどうあるべきかについて講義します。

■授業の進め方（履修条件等）

履修条件等は特にありません。授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがあります。進捗状況により、授業内容を変更することがあります。

■成績評価方法・基準

レポート、試験、学習意欲、授業態度により、総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習、復習は特に必要ありませんが、宿題を課すことがあります。

■教科書

テキストは使用しません。

■参考文献

特にありません。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	この講義の内容やすすめ方について概説
2 世界の環境問題と開発	世界各地における開発に伴う環境問題について講義
3 日本の環境問題と開発	日本における開発に伴う環境問題について講義
4 日本における公害の歴史	日本の公害の歴史を大気汚染と水質汚濁について講義
5 国・自治体の環境問題への取り組み	日本における環境対策としての国や自治体の取り組みについて講義
6 開発と環境保全	開発に伴う環境汚染を防止するための様々な対策について講義
7 土地利用の変化と環境	土地利用の経年的な変化に伴う自然、生態系の変化について講義
8 環境アセスメントの必要性	公害や環境破壊を防止するための環境アセスメントについて講義
9 開発が及ぼす自然環境への影響	開発が及ぼす自然環境への影響を、大気、水環境について講義
10 開発が及ぼす生態系への影響	開発が及ぼす生態系への影響を、植物や河川生物について講義
11 都市における開発と環境問題	都市における開発に伴うさまざまな環境問題について講義
12 都市の大気、水環境の変化	開発に伴う都市の大気、水環境の経年的な変化について講義
13 都市の生態系の変化	開発に伴う都市の生態系の経年的な変化について講義
14 環境に配慮したまちづくりの可能性	環境に配慮した快適なまちづくりの実現のためには何が必要かを講義
15 持続可能な開発と環境の実現に向けて	持続可能な社会構築に必要な開発と環境のあるべき姿について講義

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			フィールド調査	
担 当 者	村川 庸子 <i>Yoko Murakawa</i>		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

本講義は、フィールドワークやインタビューの手法を用いた質的データの収集法及びデータの分析方法を学び、身につけることを目的とする。量的調査との比較において、質的調査のもつ可能性、方法を理論的に学び、基本的な概念の理解と論理的な思考力、構成力を養う。最終的に、簡単な調査を企画し、データ収集、整理、解析から報告書の作成までを実践することで、フィールド長さの可能性を体感させたい。

■授業の進め方（履修条件等）

前半は教科書を土台に講義形式で、後半はグループでフィールドワークを企画・実践し、報告書を作成する。実習を伴う科目であるので、定員を30名以内に制限する。

■成績評価方法・基準

コーネル式ノート作成法を活用する。前半は講義のまとめに、後半の実習ではフィールドノートとして用いる。

■授業の予習・復習

予習：テキストの指定部分を読み、概要をまとめておくこと。復習：ノートの「コメント」欄をまとめておくこと。

■教科書

佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』
(新曜社)

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	フィールドワークとは何か テキスト16-72
2 講義	質的調査と量的調査 理論の「生成」 テキスト74-93
3 講義	質的研究におけるデータと「感受概念」 テキスト 94-116
4 講義	社会調査の方法：フィールドワーク、サーベイ、実験、非干渉的技法テキスト116-146
5 講義	研究の企画設計—関心領域の特定と研究対象テキスト149-157
6 講義	質的データの収集法（1）参与観察の手法テキスト158-254
7 講義	質的データの収集法（2）調査倫理、アクセス
8 講義	質的データの収集法（3）半構造的インタビュー
9 講義	質的データの収集法（4）ライフヒストリー
10 講義	質的データの整理と分析—データの文書化と分析
11 グループワーク	フィールドワークの企画
12 グループワーク	フィールドワークの実施
13 グループワーク	分析結果の報告
14 クラスワーク	調査結果の執筆
15 まとめ	総括

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			実践英語Ⅲ	
担 当 者	増井 由紀美 Yukimi Masui		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

身体と頭を同時に働かせながら英語を学習します。丸暗記ではなく、生きた言葉として伝達できるように指導します。方法としては、Story-tellingの技術（存在しないものがあたかもそこにあるように伝える技法）を用います。

■授業の進め方（履修条件等）

最初の10分間は身体を動かします。イメージトレーニングをしながら言葉の伝達の意味を学びます。200 wordsから1000 wordsの物語を読み、それを教室で演じます。

■成績評価方法・基準

作品を演じることが授業内で課されますが、パフォーマンスの出来具合が評価基準になります。

■授業の予習・復習

授業で扱う作品を自分のものにするために、パフォーマンスの練習が課されます。

■教科書

授業内で配布される英文の物語。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 Story-telling って何？	授業の進め方を説明します。
2 スペースを意識する。	自分を中心にして、スペースがどこまで広がるか体感します。それぞれの物語を英語で話してもらいます。
3 This is a key of a kingdom. (紹介)	まず、This is a key of a kingdom. を身体で表現します。次に、この物語を聴きます。そして表現してみます。最後にこの物語を読みます。
4 This is a key of a kingdom. (訓練)	音や匂いや空気を意識できるように練習します。
5 This is a key of a kingdom. (発表)	クラスの中で作品発表です。それぞれ、仲間へのコメントが課されます。
6 記憶力について (1)	3週間振ってきた作品で英語がどの程度自分のものになったかを確認します。
7 A Stonecutter (紹介)	最初の部分をまず聞き取りによって理解し、次に物語を読みます。
8 A Stonecutter (場面1)	第一作品を演じた時のことを思い出しながら、Stonecutterになってみます。物語の最初の場面を作りあげます。
9 A Stonecutter (場面2)	第一場面から第二場面に移動する時の方法を考えながら、舞台を創造します。
10 A Stonecutter (場面3)	登場人物が増えてきます。自分の位置をどこに置くか考えましょう。
11 A Stonecutter (場面4)	最後をどのように終わらせるか、それぞれが工夫します。
12 A Stonecutter (発表会)	クラス内での作品発表会です。全員に批評家の目を持つことが要求されます。
13 記憶力について (2)	最初に扱った作品に比べて、A Stonecutter は比較的長い物語です。それでも覚えられたことを体験したはず。なぜそれが可能になったのか話し合います。
14 創作してみましょう	自由に表現してみてください。他の学生にどのように伝わるか、お互いに楽しみましょう。
15 映像で復習	実際にプロのStory-tellerのパフォーマンスを映像で見ます。

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			翻訳論 I	
担 当 者	鈴木 英明 Hideaki Suzuki		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本語と英語の発想の違いを翻訳作業という実践を通じて理解すると同時に、直訳風の「英文和訳」とは異なり、また原文から離れたいわゆる「超訳」とも異なる正確な翻訳を行う基礎力を養成します。

■授業の進め方（履修条件等）

英文法の枠組みを利用して、名詞、動詞（時制、法、態）といった項目にしたがって翻訳上の問題点を説明したあとで、実際に短い英文を翻訳してもらいます。

■成績評価方法・基準

授業への参加度50%、定期試験50%の割合で評価します。

■授業の予習・復習

復習として、授業で示された翻訳例がなぜそのような訳になるのか、原文と照らしてもう一度確認してください。

■教科書

プリントを配付します。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 名詞 1	「主格関係」、「目的格関係」を表す所有格
2 名詞 2	動名詞と不定詞の意味上の主語
3 名詞 3	無生物主語の問題
4 名詞 4	代名詞をどう処理するか
5 形容詞・副詞 1	述語的に訳すべき場合
6 形容詞・副詞 2	副詞的に訳した方がよい形容詞
7 形容詞・副詞 3	比較の表現
8 動詞 1	時制について
9 動詞 2	受動態をどう訳すか (1)
10 動詞 3	受動態をどう訳すか (2)
11 動詞 4	仮定法の問題点 (1)
12 動詞 5	仮定法の問題点 (2)
13 関係代名詞 1	関係代名詞の処理の仕方 (1)
14 関係代名詞 2	関係代名詞の処理の仕方 (2)
15 概括	授業のまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			翻訳論Ⅱ	
担 当 者	鈴木 英明 Hideaki Suzuki		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

翻訳の具体的なプロセスを注意深く点検し、英語から日本語へのどのような構文上の転換が必要になるのかを検証することを通じて、高度な翻訳技術を養成します。

■授業の進め方（履修条件等）

英語の構文において翻訳上問題となるポイントを説明したあとで、ある程度の長さをもつ英文を実際に翻訳してもらいます。

■成績評価方法・基準

授業への参加度50%、定期試験50%の割合で評価します。

■授業の予習・復習

復習として、授業で示された翻訳例がなぜそのような訳になるのか、原文と照らしてもう一度確認してください。

■教科書

プリントを配付します。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	文型 1	第 5 文型 (SVOC) 1
2	文型 2	第 5 文型 (SVOC) 2
3	文型 3	第 5 文型 (SVOC) 3
4	構文上の注意点 1	省略・共通構文
5	構文上の注意点 2	倒置 (1)
6	構文上の注意点 3	倒置 (2)
7	構文上の注意点 4	強調構文
8	接続詞の問題 1	Till (Until)、Before
9	接続詞の問題 2	As、Except
10	話法 1	直接話法、間接話法の問題点
11	話法 2	混合話法、描出話法
12	翻訳の実際 1	論説文の翻訳
13	翻訳の実際 2	小説の翻訳
14	翻訳の実際 3	詩の翻訳
15	概括	授業のまとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			英米文学特講Ⅲ	
担 当 者	新堀 司 Tsukasa Niibori		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

この授業では、第19世紀前半に活躍したイギリス・ロマン派の詩人、ジョン・キーツ (1795-1821) の詩をとりあげる。授業のねらいは、彼の主だった詩篇を通じて、イギリスの詩の鑑賞力を養うことである。また到達目標は、詩の基礎的な読解力・鑑賞力を身につけることである。

■授業の進め方（履修条件等）

受講生の発表を主体とした演習形式。担当者による発表の後に、他の受講生を含めて詩を検討、鑑賞する。なお、とりあげる詩篇の順番は講義スケジュール参照（状況に応じて進度を調整する）。

■成績評価方法・基準

平常点 (40%)、試験の結果 (60%) による総合的評価。

■授業の予習・復習

予習：次回にとりあげる詩の予習（不明な単語の発音・意味調べなど）。

復習：必要に応じて指示。

■教科書

プリントを用いる。

■参考文献

授業中に指示。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業内容などの説明
2	キーツの詩 ①	'On First Looking into Chapman's Homer' の鑑賞
3	キーツの詩 ②	'Ode to Apollo' の鑑賞
4	キーツの詩 ③	'To one who has been long in city pent' の鑑賞
5	キーツの詩 ④	'On the Grasshopper and Cricket' の鑑賞
6	キーツの詩 ⑤	'To Autumn' の鑑賞
7	キーツの詩 ⑥	'Endymion' の一部鑑賞
8	キーツの詩 ⑦	'Ode on a Grecian Urn' の鑑賞
9	キーツの詩 ⑧	'Robin Hood' の鑑賞
10	キーツの詩 ⑨	'There was a naughty Boy' の鑑賞
11	キーツの詩 ⑩	'Fancy' の鑑賞
12	キーツの詩 ⑪	'La belle dame sans merci' の鑑賞
13	キーツの詩 ⑫	'I cry for your mercy—pity—love!—aye, love' の鑑賞
14	キーツの詩 ⑬	'Bright Star, would I were stedfast as thou art' の鑑賞
15	まとめ	授業内容の総まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			英米文学特講IV			
担 当 者	増井 由紀美 Yukimi Masui		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

アメリカ現代演劇の古典に数えられるTennessee WilliamsのThe Glass Menagerieを扱います。精読するだけでなく、演じることにより、drama, theater, text, audienceの意味を考えます。

■授業の進め方（履修条件等）

受講者の人数により、グループに分けます。登場人物4名（母、娘、息子、息子の友人）がひとつのグループになり、テキストの中から一場面を選び、演じます。

■成績評価方法・基準

グループワーク（作品発表）50% 期末試験 50%

■授業の予習・復習

テキスト精読発表のための練習

■教科書

The Glass Menagerie by Tennessee Williams

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	授業の進め方の説明、及びグループ分け。
2 作家について	テネシーウィリアムを他のアメリカ劇作家の中に位置づけます。
3 舞台作品の比較	これまで上演／上映されてきた本作品をとりあげ比較分析します。
4 テキスト精読	テキストに説明された舞台設定を良く読み、時代のムードを捉えます。
5 Amandaの分析	彼女の年齢は？ 仕事は？ 悩みは？ 問題は？
6 Tomの分析	テネシー・ウィリアムズは何故Tomに語り手の役割を与えたかを考えます。
7 Lauraの分析	彼女はなぜガラスの動物たちを集めているのでしょうか。その役割を与えた作家の意図はどこにあるのでしょうか。
8 Gentleman Callerの役割	どのような人物設定か、彼はこの家族に何をもたらすか、或は何を奪うことになるのか、考えます。
9 配役を決定	グループの話し合いで配役を決めます。またなぜその配役を受け入れたか積極的な理由を書いて提出します。
10 グループワーク(1)	受講者は担当箇所を音読。教師は個々を指導。
11 グループワーク(2)	グループになって音読。教師はグループを指導。
12 グループワーク(3)	ふたつのグループが一緒になって音読の練習。教師はそれぞれを指導。
13 グループワーク(4)	映像による確認をしながら、来週の発表会に向けて練習。
14 発表会(1)	全てのグループに対する批評を書いて提出。
15 発表会(2)	全てのグループに対する批評を書いて提出。

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			3年次専門研究			
担 当 者	有馬 容子 Yoko Arima		対象学年	3年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

英語運用能力の基本として、日常的な英語をふんだんに読むことにより実践的な英語読解力の向上を目指します。前半はニュースの英語を定期的に聞くことと、TOEICテストReading Comprehensionの問題を集中的に演習することの2点をしっかり実行しましょう。後半は現代の様々な問題をとらえたエッセイを読むことに力点をおく予定です。

■授業の進め方（履修条件等）

毎週、次のゼミで演習する内容をプリントで配布しますのでしっかり準備してくる。いかに予習してきたかその質が重要な評価の対象となります。また、日本のみならず世界の情勢に対する問題意識を喚起する目的で、最新の英語ニュースを定期的にチェックします。

■成績評価方法・基準

平常点（英文読解に取り組み態度、特に予習の度合い）(70%)
学期末英語読解力テストの成績（30%）

■授業の予習・復習

予習：毎週配布される英文プリントの内容を把握し、単語・表現を覚えてくる。

■教科書

プリントを配布

■参考文献

Jay Allison, ed. *This I Believe!!: More Personal Philosophies of Remarkable Men and Women*. Henry Holt, 2008.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ゼミの取り組み方について説明	教材の概要
2 ニュースの英語, TOEIC Part 6 (1)	前週の英語ニュースより, Part 6 読解力問題演習
3 TOEIC Part 6 (2)	Part 6 読解力問題演習
4 ニュースの英語, TOEIC Part 6 (3)	前週の英語ニュースより, Part 6 読解力問題演習
5 TOEIC Part 7 (1)	Part 7 読解力問題演習
6 ニュースの英語, TOEIC Part 7 (2)	前週の英語ニュースより, Part 7 読解力問題演習
7 TOEIC Part 7 (3)	Part 7 読解力問題演習
8 ニュースの英語, TOEIC Part 7 (4)	前週の英語ニュースより, Part 7 読解力問題演習
9 TOEIC Part 7 (5)	Part 7 読解力問題演習
10 ニュースの英語 要点まとめ Essay (1)	時事問題、基礎知識確認 "A Reverence for All Life"
11 ニュースの英語, Essay (2)	前週の英語ニュースより, "Dancing All the Dances as Long as I Can"
12 Reading Comprehension問題, Essay (3)	"Doing Things My Own Way"
13 ニュースの英語, Essay (4)	前週の英語ニュースより, "Learning True Tolerance"
14 Reading Comprehension問題, Essay (5)	"The Questions We Must Ask"
15 前期英語読解力テスト	解答解説
16 Reading Comprehension問題, Essay (6)	"We Never Go Away"
17 ニュースの英語, Essay (7)	前週の英語ニュースより, "A Way to Honor Life"
18 Reading Comprehension問題, Essay (8)	"The Person I Want to Bring into This World"
19 ニュースの英語, Essay (1) ~ (8) まとめ	前週の英語ニュースより, Essayの書き方について
20 Reading Comprehension問題, Essay (9)	"Failure Is a Good Thing"
21 ニュースの英語, Essay (10)	前週の英語ニュースより, "As I Grow Old"
22 Reading Comprehension問題, Essay (11)	"I Will Take My Voice Back"
23 ニュースの英語, Essay (12)	前週の英語ニュースより, "Paying Attention to the Silver Lining"
24 Reading Comprehension問題, Essay (13)	"A Feeling of Wildness"
25 ニュースの英語, Essay (14)	前週の英語ニュースより, "Inner Strength from Desperate Times"
26 Reading Comprehension問題, Essay (15)	"All the Joy the World Contains"
27 ニュースの英語, Essay (16)	前週の英語ニュースより, "Untold Stories of Kindness"
28 Reading Comprehension問題, Essay (17)	"Do What You Love"
29 後期まとめ	後期に読んだエッセイ全体について意見を出し合う。
30 総括英語テスト	解答解説

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			3年次専門研究			
担 当 者	家近 亮子 Ryoko Ichika		対象学年	3年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

本年度は、現代中国の歴史、政治、経済、社会、外交に関して学び、中国が抱える諸問題を理解し、その問題の根源を分析していきます。中国は1978年12月から始めた改革・開放政策によって、飛躍的な経済発展をとげています。経済においては資本主義、政治においては社会主義という中国の仕組みを分析していきます。また、社会的な格差の拡大がもたらしている問題点について、皆で考えていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生であることが履修条件です。授業は教科書を使いながら、発表、問題提起、討論形式で進めていきます。4年次に卒業論文を書くための問題意識をもてるようにします。2年次に「中国Ⅰ」を履修していることが望ましい。

■成績評価方法・基準

ゼミであるため、出席を重視します。また、問題意識を持ち、積極的に授業に参加することを評価します。発表、討論、レポートによって総合的に成績評価をおこないます。

■授業の予習・復習

予習：教科書を読んでくること。発表の場合は、レジュメの作成。
復習：まとめ、問題提起をおこない、討論の準備をすること。

■教科書

家近亮子・唐亮・松田康博編著『改訂版 5分野から読み解く現代中国』、晃洋書房、2009年。

■参考文献

各項目毎に参考文献を紹介していく。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方、計画、担当の決定
2 教科書第1章―第1～3節	「中国近代史」―①、発表・討論
3 教科書第1章―第4～6節	「中国近代史」―②、まとめ・討論
4 教科書第2章―第1～3節	「中華人民共和國史」―①、発表・討論
5 教科書第2章―第4～5節	「中華人民共和國史」―②、まとめ・討論
6 教科書第3章―①	「中国の政治」―国家制度―①、発表・討論
7 教科書第3章―②	「中国の政治」―国家制度―②、まとめ・討論
8 教科書第4章―①	「中国の政治」―中国共産党の一元支配体制―①、発表
9 教科書第4章―②	「中国の政治」―中国共産党の一元支配体制―②、発表
10 教科書第5章―①	「中国の政治」―国家統一、民族政策―①、発表・討論
11 教科書第5章―②	「中国の政治」―国家統一、民族政策―②、まとめ
12 教科書第6章―①	「中国の政治」―政治改革―①、発表・討論
13 教科書第6章―②	「中国の政治」―政治改革―②、まとめ・討論
14 教科書第7章―①	「中国の経済」―経済改革―①、発表・討論
15 全体討論	問題の発見、前期レポートのテーマ、決定
16 教科書第8章―①	「中国の経済」―経済発展―①、発表・討論
17 教科書第8章―②	「中国の経済」―経済発展―②、まとめ・討論
18 教科書第9章―①	「中国の経済」―経済のグローバル化―①、発表・討論
19 教科書第9章―②	「中国の経済」―経済のグローバル化―②、まとめ
20 教科書第10章―①	「中国の社会」―社会の構造と変容―①、発表・討論
21 教科書第10章―②	「中国の社会」―社会の構造と変容―②、まとめ
22 教科書第11章―①	「中国の社会」―人口問題―①、発表・討論
23 教科書第11章―②	「中国の社会」―人口問題―②、まとめ・討論
24 教科書第12章―①	「中国の社会」―教育問題―①、発表・討論
25 教科書第12章―②	「中国の社会」―教育問題―②、まとめ・討論
26 教科書第13章	「中国の社会」―環境問題、発表・討論
27 教科書第14章	「中国の社会」―社会保障問題、発表・討論
28 教科書第15章	「中国の外交」―冷戦期の外交、発表・討論
29 教科書第16章	「中国の外交」―冷戦後の外交、まとめ・討論
30 全体討論	問題の発見、卒論テーマ、決定

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			3年次専門研究			
担 当 者	Jayne Ikeshima		対象学年	3年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

This is a seminar in which students will learn about puppetry. Students will study about various types of puppets and techniques for using them to entertain audiences. Various puppet-related topics will be researched and discussed, including how to make puppets, how to design a puppet show, types of puppets and puppetry worldwide, and famous puppeteers and ventriloquists. At the end of the course, students will be able to put on a puppet show and be skilled at the techniques involved.

■授業の進め方（履修条件等）

Students must have a high level of English ability to be in this class.

■成績評価方法・基準

Students will be required to research one aspect of puppetry and write a report. The grade for the course will be based primarily on homework assignments and the final report, and to a lesser extent on attendance and class participation.

■授業の予習・復習

予習：Students should watch puppet shows on TV and youtube, and learn about puppets on their own.
復習：Students should review the class material after each class and do any homework that was assigned.

■教科書

Printed material

■参考文献

Students should bring a dictionary to class

■授業内容

授業項目	授業内容
1	Introductions
2	Introductions
3	The history of puppets
4	The history of puppets
5	Puppets around the world
6	Puppets around the world
7	Puppets around the world
8	Well-known puppeteers
9	Well-known puppeteers
10	Well-known puppeteers
11	Puppets in Literature, Ballet, Theater
12	Puppets in Literature, Ballet, Theater
13	Puppets in Literature, Ballet, Theater
14	Review and Test
15	Review and Test
16	Review and Test
17	Type of Puppets
18	Type of Puppets
19	How to make puppets
20	How to make puppets
21	Puppets Movements and Expression
22	Puppets Movements and Expression
23	Puppet voices and Ventriloquism
24	Puppet voices and Ventriloquism
25	Elements of a Puppet Show
26	Elements of a Puppet Show
27	Performing with Puppets
28	Performing with Puppets
29	Performing with Puppets
30	Performing with Puppets

年度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			3年次専門研究			
担当者	織井 啓介 Keisuke Orii		対象学年	3年	単位	4

■授業のねらいと到達目標

「時事英語と経済経営」のゼミです。英語では時事英語に頻出する英文法を復習しながら、新聞・雑誌の英文記事の読解力を高めます。経済経営では、フィナンシャルプランニングの学習を通じて、家計・企業の金融行動への理解を深めます。

■授業の進め方（履修条件等）

配布プリントを中心に演習します。2年次に引き続いて、定期的に英検・TOEIC・秘書検等を受験し、時事英語・経済経営の実践力を養いましょう。

■成績評価方法・基準

平常点で評価します。

■授業の予習・復習

予習：配布プリントでアサインメントをこなしましょう。
復習：ゼミで学んだことを復習しましょう。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

Japan Times, International Herald Tribuneなど。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	今年度ゼミナルの進め方
2 発展英文法①	基本5文型
3 発展英文法②	関係代名詞
4 発展英文法③	関係副詞
5 発展英文法④	仮定法（概要）
6 発展英文法⑤	仮定法（仮定法過去）
7 発展英文法⑥	仮定法（仮定法現在）
8 発展英文法⑦	分詞構文（現在分詞）
9 発展英文法⑧	分詞構文（過去分詞）
10 経済経営①	FPの基礎（仕事算）
11 経済経営②	FPの基礎（金利計算）
12 経済経営③	FPの基礎（順列・組み合わせ計算）
13 経済経営④	FPの基礎（確率計算）
14 経済経営⑤	FPの基礎（税額計算）
15 前期のまとめ	前期の総括と夏休みの計画
16 後期ガイダンス	夏休みの総括と後期の計画
17 時事英語①	市場記事
18 時事英語②	経済記事
19 時事英語③	企業記事
20 時事英語④	金融記事
21 時事英語⑤	社会記事
22 時事英語⑥	政治記事
23 時事英語⑦	文化記事
24 時事英語⑧	科学記事
25 経済経営⑥	FP（ライフプランニング）
26 経済経営⑦	FP（リスクマネジメント）
27 経済経営⑧	FP（タックスプランニング）
28 経済経営⑨	FP（不動産）
29 経済経営⑩	FP（相続・事業承継）
30 今年度のまとめ	総括と反省

シ
ラ
バ
ス

年度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			3年次専門研究			
担当者	覚正 豊和 Toyokazu Kakusho		対象学年	3年	単位	4

■授業のねらいと到達目標

このゼミの目的は、法学・刑事法学的諸問題をテーマに掲げています。例えば、わが国および諸外国の犯罪現象をとりあげ、犯罪とはなにか、どのようにすれば犯罪はなくなるのか、また、いかにして犯罪者を再社会化させるかなどについて、人道主義の立場から考察しようとするものです。演習は、本質的に講義とは異なり、授業、学外学習としての刑務所・少年院等の見学や裁判傍聴あるいは参考文献、判例等を通じて得たさまざまな知識を確認し昇華する場所です。したがって、演習はその参加者がつくりあげること、つねに議論に加わり結論を模索したり、問題点を指摘できるようになることが必要です。そのためには、他者の発言をよく聞き、どこまで理解できて、どこからが理解できないかを自らが整理する努力、自分の意見を他者に、より説得力をもって理解してもらえる能力などをつくりあげることがこのゼミの主眼でもあります。

■授業の進め方（履修条件等）

特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

初回の授業において指示します。

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	ゼミの目的・位置づけ
2 オリエンテーション	ゼミと講義の相違について
3 オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは（なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か）、問題・テーマの発見方法（問題意識の明確化）、六法のつかい方、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて話し、興味、関心、理解を深めていく。
4 オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは（なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か）、問題・テーマの発見方法（問題意識の明確化）、六法のつかい方、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて話し、興味、関心、理解を深めていく。
5 オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは（なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か）、問題・テーマの発見方法（問題意識の明確化）、六法のつかい方、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて話し、興味、関心、理解を深めていく。
6 オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは（なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か）、問題・テーマの発見方法（問題意識の明確化）、六法のつかい方、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて話し、興味、関心、理解を深めていく。
7 オリエンテーション	刑事法学的諸問題・法学的諸問題とは（なぜ、人間社会に犯罪が生じ、法が必要か）、問題・テーマの発見方法（問題意識の明確化）、六法のつかい方、文献のよみかた、判例のよみかた、資料のあつめ方、発表にあたっての諸原則、レポート構成の方法、論文の書き方などについて話し、興味、関心、理解を深めていく。
8 演習	8 回目以降は、毎回担当者を決めて、各自が興味をもっている分野のミニ報告を行い、問題解決能力を伸ばすディスカッション能力の養成をします。報告者は、シラabus、原簿活用、関連資料などの提出により、教授にも内容発表による評価が与えられる。
9 演習	報告、ディスカッション
10 演習	報告、ディスカッション
11 演習	報告、ディスカッション
12 演習	報告、ディスカッション
13 演習	報告、ディスカッション
14 演習	報告、ディスカッション
15 演習	報告、ディスカッション
16 演習	報告、ディスカッション
17 演習	報告、ディスカッション
18 演習	報告、ディスカッション
19 演習	報告、ディスカッション
20 演習	報告、ディスカッション
21 演習	報告、ディスカッション
22 演習	報告、ディスカッション
23 演習	報告、ディスカッション
24 演習	報告、ディスカッション
25 演習	報告、ディスカッション
26 演習	報告、ディスカッション
27 演習	報告、ディスカッション
28 演習	報告、ディスカッション
29 演習	報告、ディスカッション
30 総括	まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			3年次専門研究			
担 当 者	三幣 利夫 Toshio Sampei		対象学年	3年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

成長するアジアの市場を目指して活動する日本企業の実態を調査し、その特徴や問題点について学習する。これらの学習を通じて、4年次の研究テーマを絞って行く。

■授業の進め方（履修条件等）

テーマごとに講義形式で行うと同時に、ゼミ生の調査結果や意見も発表し合い進めて行く。

■成績評価方法・基準

出席（ゼミ討議への参加度も含め） 60%
レポート 40%

■授業の予習・復習

事前に与えられた課題について研究し、発表の準備をすること。

■教科書

特になし。

■参考文献

特になし。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミの進め方について説明、今年度の目標
2 世界の貿易体制	貿易体制の変遷
3 自由貿易協定	FTAとEPAの違い
4 世界のFTA（1）	FTAネットワークの展開
5 世界のFTA（2）	アジア域内のFTA
6 日本のFTA	FTA進捗状況
7 TPPについて	TPP交渉状況
8 地域経済統合	世界の動向
9 アジアの経済統合	東アジア生産ネットワーク
10 日本企業の海外展開（1）	海外展開の歴史
11 日本企業の海外展開（2）	なぜ海外展開するか
12 日本企業の海外展開（3）	最近の活動状況
13 時事トピック（1）	トピックについて議論
14 時事トピック（2）	トピックについて議論
15 時事トピック（3）	トピックについて議論
16 国際経営（1）	国際経営の特徴
17 国際経営（2）	国際経営の理論
18 国際経営（3）	国際経営の組織
19 国際経営（4）	日本企業の国際経営
20 アジア諸国の実状調査（1）	各自の調査結果の発表
21 アジア諸国の実状調査（2）	各自の調査結果の発表
22 アジア諸国の実状調査（3）	各自の調査結果の発表
23 アジア諸国の実状調査（4）	各自の調査結果の発表
24 異文化経営（1）	異文化経営論
25 異文化経営（2）	文化の多様性
26 サービス業の国際展開（1）	事例研究
27 サービス業の国際展開（2）	事例研究
28 サービス業の国際展開（3）	事例研究
29 時事トピック（1）	トピックについて議論
30 時事トピック（2）	トピックについて議論

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			3年次専門研究			
担 当 者	高田 洋子 Yoko Takada		対象学年	3年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

アジアの大国周辺に位置する諸地域、東南アジア、南アジア、日本、朝鮮半島などの社会を研究するゼミです。2年次専門研究に引き続いて、これらの諸地域の基本問題を考察し、各自が興味を持ったテーマを探究します。

■授業の進め方（履修条件等）

第一に主体的に学びましょう。第二に知識を豊富に蓄積し、書くことを通して深く考えましょう。やや専門性のある文章を輪読し、各自の研究テーマを見つけ、順次発表します。

■成績評価方法・基準

年度末までに提出するゼミ論の内容、完成度をみて成績を付けます。

■授業の予習・復習

予習：テキストを読んでくること。
復習：理解したことをノートにまとめる。

■教科書

川田他編著『発展途上国の政治経済論』東大出版会

■参考文献

各自のテーマに沿って個別に指定する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 三年次演習の目標：ガイダンス	演習の目標および年間のゼミスケジュールを決める
2 問題提起：大国と小国	国際社会における「大国」、「小国」の具体的事例を討論する
3 問題提起：双方のまなざし	大国からみた小国・小国からみた大国について考える
4 討論：小国の戦略	多様な小国の例から学ぶ
5 討論：「中心」と「周辺」の関係性	それぞれのメリット、デメリット、関係の可変性を考える
6 討論：先進国と途上国	それぞれの定義と相互関係について考える
7 討論：東南・東アジアについて	域内の類似性、差異、関係性、国際問題を議論する
8 討論：南アジアについて	域内の類似性、差異、関係性、国際問題を議論する
9 テキストの輪読 1	途上国とは何か（概説）
10 テキストの輪読 2	途上国の社会経済理論（1）
11 テキストの輪読 3	途上国の社会経済理論（2）
12 発表：1	東南アジア：関心のテーマ、問題意識の萌芽を2人組で報告する
13 発表：2	東南アジア：同上
14 発表：3	南アジア：関心の有るテーマ、問題意識を2人組で報告する
15 発表：4	南アジア：同上
16 発表：5	東アジア：関心の有るテーマ、問題意識の萌芽を2人組で報告する
17 発表：6	東アジア：同上
18 学外研修	アジア経済研究所を訪問し、文献資料の所在、活用の仕方を学ぶ
19 論文を読む 1	東南アジアに関する優れた論文から学ぶ
20 論文を読む 2	南アジアに関する優れた論文から学ぶ
21 論文を読む 3	東アジアに関する優れた論文から学ぶ
22 論文を書く 1	大国・小国論、中心・周辺論などの見方を参考に、論文を書く
23 論文を書く 2	「序」の書き方を学ぶ
24 論文を書く 3	「第1章」の書き方を学ぶ
25 論文を書く 4	「経緯」の書き方を学ぶ
26 論文を書く 5	「注」・「参考文献」などの書き方を学ぶ
27 論文を書く 6	資料の集め方、用い方、記録の仕方を学ぶ
28 ゼミ論文の発表会 1	東南アジアについてのゼミ論文の説明と批評
29 ゼミ論文の発表会 2	南アジアについてのゼミ論文の説明と批評
30 ゼミ論文の発表会 3	東アジアについてのゼミ論文の説明と批評

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名			3年次専門研究		
担 当 者	高橋 和子 Kazuko Takahashi		対象学年	3年	単 位 4

■授業のねらいと到達目標

授業のねらいは、「2年次専門研究」で学習した内容を踏まえて、調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程について、実習を通じて体験的に学習することです。到達目標は、調査を企画し、実査を行って得られたデータの分析結果を報告書としてまとめることができる能力を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は、調査の企画から調査実施、データのクリーニングまでを行い、後期は、実査により得られたデータの入力から、社会科学統計パッケージソフト（SPSS）により分析し、その結果をレポートにまとめます。

■成績評価方法・基準

ゼミへの参加度と提出物（課題レポートなど）

■授業の予習・復習

予習として、調査のための事前準備を十分しておくこと。実査やデータ解析では、ゼミ時間以外の活動も必要になります。

■教科書

『社会調査へのアプローチ 第2版』 大谷信介他著
ミネルヴァ書房 2005年

■参考文献

適宜、プリントを配布します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	調査実習の目的、進め方など
2 社会調査とは何か（1）	社会調査からわかること
3 社会調査とは何か（2）	社会調査の方法、調査対象者の選定方法
4 社会調査とは何か（3）	仮説構成の方法
5 社会調査とは何か（4）	調査票作成方法
6 先行研究のレビューと問題設定	先行研究のレビューと問題設定
7 調査の企画（1）	テーマの設定
8 調査の企画（2）	調査対象者の選定、調査時期や作業分担など手続きの決定
9 調査の企画（3）	調査項目の設定
10 調査の企画（4）	調査票作成、調査票精査
11 調査の実習（1）	調査準備（インストラクション、調査票印刷、袋詰めなど）
12 調査の実習（2）	調査票の配布と回収
13 調査データの整理（1）	調査票の点検
14 調査データの整理（2）	調査入力に向けた準備（非該当、無回答のコード決定など）
15 調査実習の反省とまとめ	調査実習の反省とまとめ
16 後期ガイダンス	データ分析の方法やまとめ方の概要
17 調査データの入力	調査データの入力
18 調査データの分析（1）	単純集計、グラフ
19 調査データの分析（2）	属性と質問のクロス集計、グラフ
20 調査データの分析（3）	質問と質問のクロス集計、グラフ
21 調査データの分析（4）	基本統計量
22 調査データの分析（5）	散布図、相関係数
23 分析結果の検討	分析結果の検討
24 報告書の作成（1）	全体の構成、「はじめに」
25 報告書の作成（2）	「データと分析方法」
26 報告書の作成（3）	「単純集計結果」
27 報告書の作成（4）	「クロス集計結果」（属性とのクロス）
28 報告書の作成（5）	「クロス集計結果」（質問同士のクロス）
29 報告書の作成（6）	「考察」
30 報告書の作成（7）	「おわりに」

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名			3年次専門研究		
担 当 者	中村 圭三 Keizo Nakamura		対象学年	3年	単 位 4

■授業のねらいと到達目標

本ゼミでは、2年生で実施した「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」について、さらにレベルアップした内容の調査を実施し、論文執筆に向けた準備をさせる。

■授業の進め方（履修条件等）

本ゼミでは、2年生で実施した「印旛沼流域鹿島川における自然環境調査」について、さらにレベルアップした内容の調査を実施し、論文執筆に向けた準備をさせる。

■成績評価方法・基準

授業態度と定期試験の成績で評価する。

■授業の予習・復習

予習：ゼミの調査研究テーマに関する文献・資料等に目を通しておく。

復習：ゼミで取り上げた内容について、文献・図鑑等で確認する。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
2 2年次調査結果の検討	パワーポイントを見て検討
3 3年次調査計画の策定	討論をして策定
4 印旛沼の水質研究	文献による調査・発表
5 文献による調査・発表	文献による調査・発表
6 鹿島川の水質研究	文献による調査・発表
7 鹿島川の水質研究	文献による調査・発表
8 水質調査準備（1）	pH、EC、ORP、DOなどの機器による測定準備
9 水質調査準備（2）	分光光度計による測定準備
10 水質調査準備（3）	イオンクロマトグラフによる測定準備
11 生態調査準備（1）	採取器具類の準備
12 生態調査準備（2）	同定資料文献準備
13 生態調査準備（3）	撮影器具等の準備
14 土地利用調査実施（1）	土地利用図による調査
15 土地利用調査実施（2）	空中写真・衛星写真による調査
16 調査データ整理（1）	流量の計算
17 調査データ整理（2）	水質データの整理（1）
18 調査データ整理（3）	水質データの整理（2）
19 調査データ整理（4）	水生生物データの整理
20 調査データ整理（5）	土地利用データの整理
21 統計・グラフ解析（1）	流量
22 統計・グラフ解析（2）	水質（1）
23 統計・グラフ解析（3）	水質（2）
24 統計・グラフ解析（4）	水生生物
25 統計・グラフ解析（5）	土地利用
26 研究成果報告会準備（1）	パワーポイント作成（1）
27 研究成果報告会準備（2）	パワーポイント作成（2）
28 研究成果報告会準備（3）	パワーポイント作成（3）
29 発表	研究成果報告会
30 まとめ	総括

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名			3年次専門研究	
担当者	村川 庸子 Yoko Murakawa		対象学年	3年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

学生個人の選択したテーマに関し、ゼミ論を執筆することを今年度の目標とする。テーマは日本文化、日中米比較文化、アグリ&フード、など多岐に及ぶが、前期はできるだけ共通する問題意識を育てるべく、論文・新聞雑誌記事などを読み進め、要約・コメントなどをまとめる技術の習得も目指したい。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は共通に論文・新聞雑誌器などを読み進め、要約・コメントの書き方などの技術の習得を目指す。後期は、400文字×20頁程度のレポートをまとめる。1、2度、博物館などの研修を取り入れる。

■成績評価方法・基準

プレゼンテーション	20%
議論への参加	20%
小レポート	30%
大レポート	30%

■授業の予習・復習

事前に配布する資料を熟読・要約を授業の前提とする。

■教科書

できるだけ新しい新聞雑誌記事などを資料として配布する。

■参考文献

必要に応じ配布する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	ゼミの進め方
2 資料輪読	アメリカ大統領選挙
3 討論→論点のまとめ	同上
4 小レポート発表	同上
5 資料輪読	日本の「戦後」
6 議論→論点のまとめ	同上
7 小レポート発表	同上
8 グループ面接	レポートの書き方 個別指導
9 資料輪読	日本人の引揚
10 議論→論点のまとめ	同上
11 小レポートの発表	同上
12 資料輪読	日本人にとっての「核」
13 議論→論点のまとめ	同上
14 博物館見学	同上
15 小レポートの発表	同上
16 演習	ゼミ論のテーマ設定
17 演習	アウトライン作成
18 演習	参考資料一覧作成
19 演習	文章の書き方―「段落」
20 演習	文章の書き方―「要約」の仕方
21 演習	文章の書き方―仮説の提示
22 演習	文章の書き方―論点の整理
23 演習	文章の書き方―「まとめ」の文
24 プレゼンテーション	個別発表①②
25 プレゼンテーション②	個別発表③④
26 プレゼンテーション③	個別発表⑤⑥
27 プレゼンテーション④	個別発表⑦⑧
28 プレゼンテーション⑤	個別発表⑨⑩
29 まとめ	論文集の編集
30 まとめ	総括

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名			3年次専門研究	
担当者	山本 健 Takeshi Yamamoto		対象学年	3年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

3年次ゼミは「若さ＝青春」時代を「倫理・歴史」の観点から様々な検討する。そのテキストとして、庄司薫『狼なんかこわくない』を取り上げ、この輪読と意見交換（考察）を通して、ゼミ生たちの「若者」の心理構造を、次に若者と社会、価値判断、そして戦争との関係を明らかにし、現在のグローバル化に対応できる「批判力」の養成に努める。

■授業の進め方（履修条件等）

まずテキストの輪読（音読）をし、その内容をワークシートで完成させる方法で授業を展開します。同時に理解力の深化のため、関連した課題（感想文をも含む）も出しますので、必ず提出のこと。添削して返却します。

■成績評価方法・基準

提出物（ワークシートと課題）、討論への参加度などによる。原則として、出席率の規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。

■授業の予習・復習

予習：発表者は必ず、それ以外の学生も毎回、発表者になったつもりで、読んでくること。

復習：ワークシートを見ながら、授業で学習した内容をマトメておくこと。

■教科書

庄司薫『狼なんかこわくない』（中公文庫、2006年）

■参考文献

加藤哲郎『戦後意識の変貌』（岩波ブックレット、シリーズ昭和史No14、1989年）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の始め方の説明と「テキスト」の時代背景の紹介
2 テキストの輪読 1	(1) 若者（青春）の心的構造について若者の「やさしさ」に気をつける（29～36頁）
3 テキストの輪読 2	人生という兵学校（36～40頁）
4 テキストの輪読 3	古典的青春論への疑問（40～45頁）
5 テキストの輪読 4	矢張り問わしき説に反対して（46～51頁）
6 テキストの輪読 5	若者はなぜ自分を被害者と考えたか（51～59頁）
7 テキストの輪読 6	最高を狙う困難（66～70頁）
8 テキストの輪読 7	乗りかかった船（70～74頁）
9 テキストの輪読 8	文学青年の総退却（86～91頁）
10 テキストの輪読 9	犬死しかけた若者のひそかな退場（91～95頁）
11 テキストの輪読 10	他者への愛を封じ込める（107～114頁）
12 (1) 若者（青春）の心的構造のマトメ	学生たちの中間発表と意見交換、そして講評
13 テキストの輪読 11	(2) 若者と社会との関係について自己否定衝動の客体化（115～122頁）
14 テキストの輪読 12	若さのまったただちにおける自己否定の困難（123～130頁）
15 前期のまとめ	夏休みの課題について
16 夏休みの課題の講評	課題文の解説と学生たちの意見交換
17 テキストの輪読 13	自己否定から他者否定へ（131～142頁）
18 (2) 若者と社会との関係についてのマトメ	学生たちの中間発表と意見交換、そして講評
19 テキストの輪読 14	(3) 若者と情報社会との関係情報洪水と価値の相対化（157～162頁）
20 テキストの輪読 15	平和体験の自己表現（163～167頁）
21 テキストの輪読 16	ゲリラの兵士めざして（163～167頁）
22 テキストの輪読 17	赤坂巾ちゃん気をつけて（179～186頁）
23 テキストの輪読 18	狼なんかこわくないと言いきるために（194～198頁）
24 (3) 若者と情報社会についてのマトメ	学生たちの中間発表と意見交換、そして講評
25 テキストの輪読 19	(4) 若者と戦争・戦後民主主義についてミソカスの運命について（143～152頁）
26 テキストの輪読 20	戦争体験と平和体験（152～156頁）
27 テキストの輪読 21	情報洪水と価値の相対化（157～162頁）
28 テキストの輪読 22	平和体験の自己表現（163～167頁）
29 テキストの輪読 23	出発（163～167頁）
30 (4) 若者と戦争・戦後民主主義についてのマトメ	学生たちの中間発表と意見交換、そして講評

年度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			
担当者	有馬 容子 Yoko Arima		対象学年	4年	単位	4

■授業のねらいと到達目標

前期はニュースの英語およびTOEIC テスト読解問題の演習を集中的に行うことにより、実践的な英語読解力の向上を目指す。後期は英文の短編小説を加え、原文で意外に簡単に読めることとその面白さを実感してもらいたい。

■授業の進め方（履修条件等）

定期的に最新の英語ニュースをチェックし字幕なしで理解できることを目標にする。また、前週に配布されるプリントおよびTOEIC の問題から毎回小テストを行う。後期は英文の量を増やし、短編小説を読む予定。

■成績評価方法・基準

平常点（予習の度合い、毎回実施のテスト）（70%）学期末英語読解力テストの成績（30%）ゼミ修了時にこれまでゼミで扱った文学作品についてレポートを提出し評価を受けることも可。

■授業の予習・復習

予習：毎週配布される英文プリントの内容を把握し、単語・表現を覚えてくる。

■教科書

プリントを配布

■参考文献

Bernard Malamud. *The Complete Stories*. Noonday, 1998.
John Crowley. *Novelties & Souvenirs: Collected Short Fiction*. Harper, 2004.

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ゼミの取り組み方について説明	教材の概要および取り上げる作品の特徴について
2 ニュースの英語、TOEIC Part 6 (1)	前週の英語ニュースより。Part 6 読解力問題演習
3 TOEIC Part 6 (2)	Part 6 読解力問題演習
4 ニュースの英語、TOEIC Part 6 (3)	前週の英語ニュースより。Part 6 読解力問題演習
5 TOEIC Part 7 (1)	Part 7 読解力問題演習
6 ニュースの英語、TOEIC Part 7 (2)	前週の英語ニュースより。Part 7 読解力問題演習
7 TOEIC Part 7 (3)	Part 7 読解力問題演習
8 ニュースの英語、TOEIC Part 7 (4)	前週の英語ニュースより。Part 7 読解力問題演習
9 TOEIC Part 7 (5)	Part 7 読解力問題演習
10 ニュースの英語 要点まとめ短編小説 (1)	時事問題、基礎知識確認 "Rembrandt's Hat" Malamud
11 ニュースの英語、短編小説 (2)	前週の英語ニュースより。"Rembrandt's Hat" Malamud
12 ニュースの英語、短編小説 (3)	"Rembrandt's Hat" Malamud
13 ニュースの英語、短編小説 (4)	"Rembrandt's Hat" Malamud
14 ニュースの英語、短編小説 (5)	"Rembrandt's Hat" についてディスカッション
15 前期英語読解力テスト	解答解説
16 短編小説 (6)	"Man in the Drawer" Malamud
17 ニュースの英語、短編小説 (7)	前週の英語ニュースより。"Man in the Drawer" Malamud
18 短編小説 (8)	"Man in the Drawer" Malamud
19 ニュースの英語、短編小説 (5) ~ (8) まとめ	前週の英語ニュースより。"Man in the Drawer" についてディスカッション
20 短編小説 (9)	"The Nightingale Sings at Night" Crowley
21 ニュースの英語、短編小説 (10)	前週の英語ニュースより。"The Nightingale Sings at Night" Crowley
22 短編小説 (11)	Great Work of Time Crowley
23 ニュースの英語、短編小説 (12)	前週の英語ニュースより。Great Work of Time Crowley
24 短編小説 (13)	Great Work of Time Crowley
25 ニュースの英語、短編小説 (14)	前週の英語ニュースより。Great Work of Time Crowley
26 短編小説 (15)	Great Work of Time Crowley
27 ニュースの英語、短編小説 (16)	前週の英語ニュースより。Great Work of Time Crowley
28 短編小説 (17)	Great Work of Time Crowley
29 後期まとめ	後期に読んだ短編小説全体について意見を出し合う。
30 総括英語テストまたは文学作品についてのレポート提出	解答解説

シ
ラ
バ
ス

年度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科目名			4年次専門研究			
担当者	家近 亮子 Ryoko Ichika		対象学年	4年	単位	4

■授業のねらいと到達目標

本年度の最大の目的は、卒業論文を書くことです。そのための作業を順序をおってすすめていきます。テーマはこれまで授業で学んできたことの中から自分が感心があるものを自由に選択します。字数は約2万字です。大学院に進学する予定の人は進学する大学院の専攻につながるようなテーマで論文を書くこと、また、就職の場合も自分が希望する業種に関連するテーマを選択することをすすめます。卒論は大学で学んだことの集大成であると同時に、卒業後の進路につながるようになるような高い問題意識をもって臨んでください。到達目標は、卒論の作成とその過程における問題の構成、資料の探索方法の習得、プレゼンテーションの方法の習得にあります。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ生であること

■成績評価方法・基準

卒論への取り組みとプレゼンテーション

■授業の予習・復習

予習：自分の卒論テーマの調査
復習：授業内での議論をまとめ、問題点を整理し、解決すること

■教科書

特にありません。

■参考文献

論文に必要な文献の紹介を個別におこないます。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方の説明発表担当の決定
2 論文のテーマの決定	テーマの決定、参考文献の探し方の説明
3 課外授業—アジア経済研究所図書館訪問	テーマ別文献検索と資料収集
4 テーマの発表	各ゼミ生の卒論テーマの発表と討論、修正と決定
5 論文構成および参考文献の発表	論文の構成作業。参考文献リストの提出
6 問題の所在（序論）の発表—①	「問題の所在」の発表と質疑—①
7 問題の所在（序論）の発表—②	「問題の所在」の発表と質疑—②
8 問題の所在（序論）の発表—③	「問題の所在」の発表と質疑—③
9 問題の所在（序論）の発表—④	「問題の所在」の発表と質疑—④
10 第1章の発表—①	「第1章」の発表と質疑—①
11 第1章の発表—②	「第1章」の発表と質疑—②
12 第1章の発表—③	「第1章」の発表と質疑—③
13 第1章の発表—④	「第1章」の発表と質疑—④
14 第1章の発表—⑤	「第1章」の発表と質疑—⑤
15 総括	卒論の進捗状況説明と今後の計画の発表
16 後期ガイダンス	授業の進め方の説明、発表順番の決定
17 夏休みの取り組みの発表	論文の進捗状況と問題点の発表
18 第2章以降発表—①	「第2章」「第3章」の発表と質疑—①
19 第2章以降発表—②	「第2章」「第3章」の発表と質疑—②
20 第2章以降発表—③	「第2章」「第3章」の発表と質疑—③
21 第2章以降発表—④	「第2章」「第3章」の発表と質疑—④
22 第2章以降発表—⑤	「第2章」「第3章」の発表と質疑—⑤
23 結論発表—①	「結論」の発表と総括討論—①
24 結論発表—②	「結論」の発表と総括討論—②
25 結論発表—③	「結論」の発表と総括討論—③
26 論文仕上げと修正—①	論文の修正と完成—①
27 論文仕上げと修正—②	論文の修正と完成—②
28 論文仕上げと修正—③	論文の修正と完成—③
29 論文仕上げと修正—④	論文の修正と完成—④
30 論文提出	論文提出とサマリーの作成

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			
担 当 者	大月 隆成 Takashige Otsuki		対象学年	4 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

4年次のゼミでは、これまでに培った専門的知識およびゲームに関する知見を元に、独自のゲームを考案し、完成させることが目標である。まず、全員で一つのゲームを完成させることでプロジェクトの流れを理解する。その後で、各自が独自のゲームの開発を目指すことになる。

■授業の進め方（履修条件等）

前期はゲームを制作するために必要な知識と技法の修得に重点を置く。後期は各自が開発中のゲームについてプレゼンテーションを行い、それを皆で評価する過程を繰り返しながら、完成を目指す。

■成績評価方法・基準

卒業制作の結果（独自性や完成度など）に基づいて行う。

■授業の予習・復習

4年ゼミでは、自分で学習を進めるのが基本である。したがって決まった予習・復習の形はない。

■教科書

特になし。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ゲームタイプの分析 (1)	CIA vs. KGB (対決型)
2 ゲームタイプの分析 (2)	パンデミック (協力型)
3 ゲームタイプの分析 (3)	パンデミック・バイオテロリストバージョン (協力型+対決)
4 ゲームタイプの分析 (4)	コンテナ (競争型)
5 ゲームタイプの分析 (5)	ライフポート (競争型+投票)
6 ゲームタイプの分析 (6)	モノポリー (競争型+交渉)
7 ゲームタイプの分析 (7)	ディプロマシー (競争型+交渉+裏切り)
8 ゲームタイプの分析 (8)	キーフール (競争型+共通利益)
9 ゲームシステムの分析 (1)	ゲーム内の公平 (対称性・非対称性)
10 ゲームシステムの分析 (2)	資源その他の制約条件
11 ゲームシステムの分析 (3)	戦略と運 (確率) のバランス
12 ゲームシステムの分析 (4)	ターン制
13 ゲームシステムの分析 (5)	入札制およびワーカープレイスメント
14 ゲームシステムの分析 (6)	同時実施のための様々なシステム
15 ゲームシステムの分析 (7)	ゲームにおける時間の概念
16 ゲーム制作のための技術 (1)	DTPの基礎
17 ゲーム制作のための技術 (2)	DTPの応用
18 ゲーム制作のための技術 (3)	電子マニュアルの基礎
19 ゲーム制作のための技術 (4)	電子マニュアルの応用
20 ゲーム制作のための技術 (5)	試作ゲームの立案
21 ゲーム制作のための技術 (6)	試作ゲームの作成
22 ゲーム制作のための技術 (7)	試作ゲームの評価
23 ゲームの制作 (1)	テーマの選定
24 ゲームの制作 (2)	ゲームの基本設計
25 ゲームの制作 (3)	コンポーネントの設計
26 ゲームの制作 (4)	コンポーネントの試作
27 ゲームの制作 (5)	テストプレイと評価
28 ゲームの制作 (6)	修正と変更
29 ゲームの制作 (7)	コンポーネントの作製
30 ゲームの制作 (8)	マニュアルの作成

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			
担 当 者	織井 啓介 Keisuke Orii		対象学年	4 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

「時事英語・国際経済経営」のゼミです。時事英語は、海外の標準的な新聞・雑誌記事が読みこなせるようになりましょう。国際経済経営は、国際金融やファイナンスなどの講義で培った金融の基礎知識を基に、証券分析の手法を学びます。

■授業の進め方（履修条件等）

2年ゼミ・3年ゼミと同様、配布プリントを中心に学習します。

■成績評価方法・基準

平常点で評価します。

■授業の予習・復習

予習：プリントでアサインメントをこなしましょう。
復習：授業の復習と関連学習に努めましょう。

■教科書

とくに使用しません。

■参考文献

Financial Times, Economistなど。
卒業論文の執筆希望者は小浜裕久・木村福成『経済論文執筆の作法』日本評論社、1998年。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	今年度の計画
2 上級時事英語①	海外紙株式市場記事
3 上級時事英語②	海外紙金融市場記事
4 上級時事英語③	海外紙外為市場記事
5 上級時事英語④	海外紙商品市場記事
6 上級時事英語⑤	海外紙マクロ経済記事
7 上級時事英語⑥	海外紙企業記事
8 上級時事英語⑦	海外紙金融政策記事
9 上級時事英語⑧	海外紙財政記事
10 上級時事英語⑨	海外誌日本経済記事
11 上級時事英語⑩	海外誌米国内経済記事
12 上級時事英語⑪	海外誌アジア経済記事
13 上級時事英語⑫	海外誌ファイナンス記事
14 上級時事英語⑬	海外誌マーケット記事
15 前期のまとめ	総括と夏休みの計画
16 後期ガイダンス	夏休みの成果と後期の計画
17 応用経済経営①	証券分析 (株式市場)
18 応用経済経営②	証券分析 (債券市場)
19 応用経済経営③	証券分析 (投資収益率)
20 応用経済経営④	証券分析 (予想投資収益率：リターン)
21 応用経済経営⑤	証券分析 (予想投資収益率：リスク)
22 応用経済経営⑥	証券分析 (ポートフォリオのリターン)
23 応用経済経営⑦	証券分析 (ポートフォリオのリスク)
24 応用経済経営⑧	証券分析 (投資家の期待効用関数)
25 応用経済経営⑨	証券分析 (最適ポートフォリオの選択)
26 応用経済経営⑩	証券分析 (ヘッジなし外国証券投資)
27 応用経済経営⑪	証券分析 (ヘッジつき外国証券投資)
28 応用経済経営⑫	証券投資 (国際分散投資)
29 応用経済経営⑬	証券分析 (ローカルリスクとグローバルリスク)
30 今年度のまとめ	総括と反省

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			
担 当 者	覚正 豊和 Toyokazu Kakusho		対象学年	4 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

このゼミの目的は法学・刑事法学的諸問題をテーマに掲げています。例えば、わが国および諸外国の犯罪現象をとりあげ、犯罪とはなにか、どのようにすれば犯罪はなくなるのか、また、いかにして犯罪者を再社会化させるかなどについて、人道主義的立場から考察しようとするものです。ゼミにおいては、講義などで習得した基本事項の理解をもとに、学外学習としての刑務所、少年院、自立支援施設（教護院）等の見学や裁判傍聴のうえにたつて個別テーマの検討を通じて、学生の知的好奇心を啓発し、理解、関心を深め、更にそれらをまとめていくことを目指していきたくと思っています。

■授業の進め方（履修条件等）

特にありません。

■成績評価方法・基準

初回の授業において指示します。

■授業の予習・復習

初回の授業において指示します。

■教科書

初回の授業において指示します。

■参考文献

授業において指示します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	3年次に修得した基本事項の理解のうえにたち、やや発展した個別テーマの検討を通じて各自の問題意識の発掘、展開をめざし、さらにそれをまとめていくことを指導していきます。
2 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
3 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
4 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
5 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
6 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
7 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
8 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
9 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
10 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
11 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
12 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
13 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
14 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
15 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
16 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
17 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
18 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
19 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
20 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
21 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
22 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
23 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
24 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
25 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
26 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
27 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
28 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
29 演習	報告、ディスカッション、論文まとめにむけて
30 総括	まとめ

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			
担 当 者	櫛田 久代 Hisayo Kushida		対象学年	4 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

この1年間を通し、最終的にある程度長いアカデミック・ペーパー、ゼミ論文あるいは書評レポートを書くことが目標です。学生各人の関心に合わせて、書く内容は異なりますが、いずれにしても、自分が何に関心を持ち、どのようにその関心を論文あるいはレポートの中で形にして表現するか、これまで以上に主体的な学習が求められます。

■授業の進め方（履修条件等）

前期では、関心のあるテーマについてゼミで輪読を進めます。同時に、論文テーマの設定、文献収集、読書ノート作りを指導します。

後期は、主に添削指導を予定しています

■成績評価方法・基準

定期的なゼミでの報告40%、ゼミ論文ないし書評レポート提出60%。

■授業の予習・復習

予習：授業課題については事前に準備しておくこと。

復習：わからないことがあれば、自分で調べておくこと。

■教科書

なし

■参考文献

各人の関心により異なりますが、さしあたって

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス（1）	授業の進め方
2 ガイダンス（2）	ゼミ論文のテーマの選び方
3 ゼミ論のテーマ選び（1）	資料収集
4 ゼミ論のテーマ選び（2）	資料収集
5 資料の輪読（1）	レポーターによる報告
6 資料の輪読（2）	レポーターによる報告
7 資料の輪読（3）	レポーターによる報告
8 資料の輪読（4）	レポーターによる報告
9 資料の輪読（5）	レポーターによる報告
10 資料の輪読（6）	レポーターによる報告
11 テーマの確定（1）	個別指導
12 テーマの確定（2）	個別指導
13 資料収集とアウトライン（1）	個別指導
14 資料収集とアウトライン（2）	個別指導
15 前期のまとめ	夏休みに向けて
16 後期のガイダンス	論文の進め方確認
17 ゼミ論文の指導（1）	個別指導
18 ゼミ論文の指導（2）	個別指導
19 ゼミ論文の指導（3）	個別指導
20 ゼミ論文の指導（4）	個別指導
21 ゼミ論文の指導（5）	個別指導
22 ゼミ論文の指導（6）	個別指導
23 ゼミ論文の指導（7）	個別指導
24 ゼミ論文の指導（8）	個別指導
25 ゼミ論文の中間報告会	お互いのゼミ論についての講評会
26 ゼミ論文の指導（9）	個別指導
27 ゼミ論文の指導（10）	個別指導
28 ゼミ論文の指導（11）	個別指導
29 ゼミ論文の指導（12）	個別指導
30 ゼミ論文の提出	ゼミ論文提出を終えて

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			4年次専門研究	
担 当 者	三幣 利夫 Toshio Sampei		対象学年	4年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

前期は、卒業論文に関連する論文や資料を精読し、テーマを決める。
後期は、卒業論文の作成に取り組む。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は、論文や資料を読み込みながら解説しつつ、議論も行う。
後期は、論文作成指導を中心に進める。

■成績評価方法・基準

ゼミでの討議の参加度と、卒業論文を総合評価する。

■授業の予習・復習

予習：事前に課された課題について各自が研究しておくこと。
復習：卒論の作成に備えること。

■教科書

特になし。

■参考文献

各自のテーマに沿って個別に指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	本年度の進め方
2 最近の日本経済（1）	貿易動向
3 最近の日本経済（2）	サービス貿易
4 最近の日本経済（3）	直接投資の動き
5 国際経営（1）	製造業の海外進出
6 国際経営（2）	非製造業の海外進出
7 業種別事例研究（1）	小売業
8 業種別事例研究（2）	物流業
9 業種別事例研究（3）	食品産業
10 中国経済（1）	対内直接投資
11 中国経済（2）	自動車産業
12 中国経済（3）	労働問題
13 アジア経済	日本からの直接投資
14 貿易体制	FTAネットワーク
15 TPPと日本	現状と課題
16 論文作成の指導（1）	課題の確認と構成
17 論文作成の指導（2）	問題提起と章立て
18 論文作成の指導（3）	課題提起と章立て
19 論文作成の指導（4）	本論の指導
20 論文作成の指導（5）	本論の指導
21 論文作成の指導（6）	本論の指導
22 論文作成の指導（7）	本論の指導
23 論文作成の指導（8）	まとめの指導
24 論文作成の指導（9）	まとめの指導
25 論文の報告会（1）	論文の発表と修正
26 論文の報告会（2）	論文の発表と修正
27 論文の報告会（3）	論文の発表と修正
28 論文仕上げの指導（1）	個別指導と最終の修正
29 論文仕上げの指導（2）	個別指導と最終の修正
30 総括	卒業論文の提出と、まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			4年次専門研究	
担 当 者	高田 洋子 Yoko Takada		対象学年	4年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

三年次専門研究に引き続いて、各自が興味を持ったテーマについて論文を仕上げることを1年間の目標にします。論文をまとめるための文献資料の集め方、編別構成、文章・注の付け方のほか、各自の進路に沿った個別指導を1年を通して行います。

■授業の進め方（履修条件等）

論文書きのための共通指導と個別指導の両方を行います。学生は各自の論文の中間発表を準備し、報告会では互いに批評し合う中からも十分に学び取ることが出来ます。

■成績評価方法・基準

中間発表および提出した論文の完成度で成績評価を付けます。

■授業の予習・復習

予習：各自の研究テーマに沿って準備してください。

■教科書

指定しません。

■参考文献

論文のテーマにより個別に指定します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ゼミ論文作成のスケジュール作り	1年間の目標・各自の研究計画・ゼミ発表のスケジュールを作成する
2 ITによる資料収集の実習	メディアセンターを利用した資料収集の方法を知る
3 学外における資料収集の実習	JETROアジア経済研究所の図書室で、研究論文・史料の検索を学ぶ
4 論文作成の準備（1）	問題意識と収集資料の発表（1）
5 論文作成の準備（2）	問題意識と資料収集の発表（2）
6 論文作成の準備（3）	論文の構成を考える
7 論文作成の準備（4）	実際の専門論文を読んでみる
8 論文作成の準備（5）	「注」の付け方を学ぶ
9 論文作成の準備（6）	実際に「注」を書いてみる
10 個別面談（1）	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する
11 個別面談（2）	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する
12 個別面談（3）	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する
13 個別面談（4）	3名ずつ個別に初期論文指導を実施する
14 中間報告会（1）	各自の論文の「序」を発表する
15 中間報告会（2）	各自の論文の「序」を発表する
16 中間報告会（3）	各自の論文の「序」を発表する
17 中間報告会（3）	各自の論文の「序」を発表する
18 中間報告会（4）	各自の論文の「序」を発表する
19 世界を見る眼（1）	卒業の準備として、国際社会への認識を高める。国内外のニュースについて議論する。
20 世界を見る眼（2）	卒業の準備として、国際社会への認識を高める。国内外のニュースについて議論する。
21 世界を見る眼（3）	卒業の準備として、国際社会への認識を高める。国内外のニュースについて議論する。
22 大学院進学希望者（留学生）への指導（1）	大学院の選択と入試の準備
23 大学院進学希望者（留学生）への指導（2）	大学院の選択と入試の準備
24 大学院進学希望者（留学生）への指導（3）	大学院の選択と入試の準備
25 論文発表会（1）	各自が本論の内容を発表する
26 論文発表会（2）	各自が本論の内容を発表する
27 論文発表会（3）	各自が本論の内容を発表する
28 論文発表会（4）	各自が本論の内容を発表する
29 まとめ：3年間を振り返って（1）	アルバム集の作成、ゼミ論文集の作成
30 まとめ：3年間を振り返って（2）	大学生生活の感想および卒業後の抱負を語り合う

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			
担 当 者	中村 圭三 Keizo Nakamura		対象学年	4 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

3年次専門研究で進めてきた研究テーマについて、さらに地域に関するデータ解析・地域調査・文献調査等を進め、卒業論文の完成まで指導する。

■授業の進め方（履修条件等）

前期には、データ解析・地域調査・文献調査、論文執筆指導を行い、最後にゼミ論文中間報告をさせる。後期には、論文執筆指導を中心に進め、卒業論文最終報告会を開催する。

■成績評価方法・基準

授業態度とゼミ論で成績を評価する。

■授業の予習・復習

予習：日頃から「卒業論文論のテーマ」に関して問題意識を持って生活すること。

復習：執筆をすすめている地域に関連する環境問題に関心を持って生活すること。

■教科書

『フィールドの環境科学』中村圭三著 青山社 2007.

■参考文献

授業の中で、適宜指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	ゼミの進め方についての説明
2 文献調査（1）	地域に関するデータ解析（1）
3 文献調査（2）	地域に関するデータ解析（2）
4 文献調査（3）	地域に関するデータ解析（3）
5 文献調査（4）	地域に関するデータ解析（4）
6 文献調査（5）	地域に関するデータ解析（5）
7 文献調査（6）	地域に関するデータ解析（6）
8 論文執筆指導（1）	地域に関する研究（1）
9 論文執筆指導（2）	地域に関する研究（2）
10 論文執筆指導（3）	地域に関する研究（3）
11 論文執筆指導（4）	地域に関する研究（4）
12 論文執筆指導（5）	地域に関する研究（5）
13 論文執筆指導（6）	地域に関する研究（6）
14 報告会	卒業論文中間報告会
15 前期まとめ	総括
16 論文執筆指導（7）	地域に関する研究（7）
17 論文執筆指導（8）	地域に関する研究（8）
18 論文執筆指導（9）	地域に関する研究（9）
19 論文執筆指導（10）	地域に関する研究（10）
20 論文執筆指導（11）	地域に関する研究（11）
21 論文執筆指導（12）	地域に関する研究（12）
22 論文執筆指導（13）	地域に関する研究（13）
23 論文執筆指導（14）	地域に関する研究（14）
24 論文執筆指導（15）	地域に関する研究（15）
25 報告会	卒業ゼミ論文最終報告会
26 論文執筆指導（16）	地域に関する研究（16）
27 論文執筆指導（17）	地域に関する研究（17）
28 論文執筆指導（18）	地域に関する研究（18）
29 論文執筆指導（19）	地域に関する研究（19）
30 提出	卒業論文提出

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			
担 当 者	水口 章 Akira Mizuguchi		対象学年	4 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

本授業では、社会空間を人間の生活実践の場としてとらえ、価値観の違いが大きい人々が暮らす空間において、どのように相互理解と信頼を育み、秩序をつくっていくかについて、政策形成の観点で考察します。したがって、本授業の到達目標は多文化共生の実践行動を身につけることです。

■授業の進め方（履修条件等）

発表者や質問者など役割分担をして授業を進めるので、責任を果たすこと。討論は積極的に参加してください。

■成績評価方法・基準

報告内容（レジュメ作成、説明、質疑応答）60%、課題レポート40%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：紹介された書籍・資料を読んでおいてください。

復習：キーワードや理論は図書館を利用し、内容を十分把握してください。

■教科書

大泉英次・山田良治編『空間の社会経済学』
日本経済評論社、2003年7月

■参考文献

オットー・フリードリッヒ・ボルノウ『人間と空間』
せりか書房、1978年1月

■授業内容

授業項目	授業内容
1 年間スケジュール・問題意識の確認	学習方針、役割分担の明確化
2 多文化理解と空間：講義	文化変容について
3 多文化理解と空間：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
4 社会空間の概念：講義	習慣、規則について
5 社会空間の概念：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
6 空間と政治：講義	政治地理学の思考について
7 空間と政治：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
8 空間と経済：講義	社会経済学の思考について
9 空間と経済：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
10 公共空間の生成とは：講義	公共政策学の思考について
11 公共空間の生成とは：自由討論	学生1名の基調報告を踏まえ、ディスカッション
12 快適な空間：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
13 快適な空間：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
14 空間監視と自由：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
15 空間監視と自由：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
16 居住空間のセキュリティ：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
17 居住空間のセキュリティ：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
18 ネット空間：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
19 ネット空間：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
20 空間管理：基調報告	学生2名による配布プリントを踏まえての報告
21 空間管理：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
22 空間結合としての交通体系：基調報告	学生2名によるテキストの章ごとの要旨報告
23 空間結合としての交通体系：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
24 居住空間の変動と住宅政策：基調報告	学生2名によるテキストの章ごとの要旨報告
25 居住空間の変動と住宅政策：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
26 都市空間と農村空間の結合と共生：基調報告	学生2名によるテキストの章ごとの要旨報告
27 都市空間と農村空間の結合と共生：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
28 コミュニティ空間と人の生活：基調報告	学生2名によるテキストの章ごとの要旨報告
29 コミュニティ空間と人の生活：自由討論	教員の解説と学生によるディスカッション
30 まとめ：空間政策について	レポート発表会

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			
担 当 者	村川 庸子 Yoko Murakawa		対象学年	4 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

ゼミ生は既に3年次に卒論・ゼミ論のいずれを執筆するか決めており、各自、執筆に向けての作業と指導を行う。適宜、クラス、グループ、個別指導を織り交ぜて実施する。他のゼミ生のテーマも共有し、一緒に考えていく経験を大切にしたい。

■授業の進め方（履修条件等）

適宜、クラス、グループ、個別指導を織り交ぜて実施する。クラスでのプレゼンテーションや相互の議論により、論文の内容を深めていけるよう、積極的な参加を臨みたい。

■成績評価方法・基準

クラスでのプレゼンテーション 30%
議論への参加 20%
論文 50%

■授業の予習・復習

論文の執筆については個別に行う。

■教科書

特に指定しない

■参考文献

特に指定しない

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	ゼミの進め方、論文執筆にむけての心構え
2 導入	論文の書き方、資料の集め方、まとめ方を確認する
3 グループ指導①	テーマの確認・作業工程作成 第一グループ
4 グループ指導②	テーマの確認・作業工程作成 第二グループ
5 グループ指導③	テーマの確認・作業工程作成 第三グループ
6 講義	アウトライン作成・検討
7 講義	まえがき問題意識・執筆・検討
8 プレゼン	第一回個人報告 ①
9 プレゼン	第一回個人報告 ②
10 プレゼン	第一回個人報告 ③
11 プレゼン	第一回個人報告 ④
12 プレゼン	第一回個人報告 ⑤
13 グループワーク①	参考図書 書評①
14 グループワーク②	参考図書 書評②
15 グループワーク③	夏休みの執筆活動予定確認
16 講義	執筆 進行状況の確認・第一章提出
17 演習	第一章 検討②
18 演習	第一章 検討③
19 演習	第二章 検討①
20 演習	第二章 検討②
21 演習	第二章 検討③
22 演習	第三章 検討①
23 演習	第三章 検討②
24 演習	第三章 検討③
25 演習	「まとめ」検討①
26 演習	「まとめ」検討②
27 演習	「まとめ」検討③
28 プレゼン	最終報告会①
29 プレゼン	最終報告会②
30 まとめ	総括

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			4 年次専門研究			
担 当 者	山本 健 Takeshi Yamamoto		対象学年	4 年	単 位	4

■授業のねらいと到達目標

4年ゼミは具体的な企業の特徴などを学び、就職活動を側面から支援する性格を有する。前期は「ガイアの夜明け」（東京テレビ）で放映された各経営者の自社紹介を素材に、経営姿勢の理解に努めます。後期はこれらを参考に、ゼミ論の執筆に向けた準備に努めます。

■授業の進め方（履修条件等）

ビデオで鑑賞した各企業の特徴をワークシートに要約させ、次のゼミで発表・検討し、全員の共通理解に昇華させる。

■成績評価方法・基準

ワークシートの提出、討論への参加度合、中間発表そしてゼミ論の提出などで評価する。原則として、出席率の規定（2/3）に達していない学生は評価外とする。

■授業の予習・復習

予習：日頃から経済ニュースに関心を持って、新聞、TVに目を通してください。
復習：ワークシートを見ながら、授業で学習したことをまとめておくこと。

■教科書

特定の教科書は使用しない。

■参考文献

『ガイアの夜明け』（日経ビジネス人文庫）

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方とグループ化について
2 ビデオ鑑賞 1	ラオックスー「日本式の接客おもてなしでの経営復活」
3 ワークシート作成 1	企業の特徴の説明と要約 1
4 ビデオ鑑賞 2	北野エースー「商品の品揃え」
5 ワークシート作成 2	企業の特徴の説明と要約 2
6 ビデオ鑑賞 3	外食産業ー「産地限定の食材を個性に」
7 ワークシート作成 3	企業の特徴の説明と要約 3
8 ビデオ鑑賞 4	アイリス大山ー「引き算経営」
9 ワークシート作成 4	企業の特徴の説明と要約 4
10 ビデオ鑑賞 5	タカラトミーー「時代に合った商品製造」
11 ワークシート作成 5	企業の特徴の説明と要約 5
12 ビデオ鑑賞 6	エフピコー「売れるトレーの開発努力」
13 ワークシート作成 6	企業の特徴の説明と要約 6
14 ビデオ鑑賞 7	星野屋ー「熱烈リピーターのハートを掴め」
15 ワークシート作成 7	企業の特徴の説明と要約 7
16 ビデオ鑑賞 8	マニーー「世界一の商品を作る」
17 ワークシート作成 8	企業の特徴の説明と要約 8
18 テーマ選び	自分の関心を探す（日本留学を決意や日本での新たな関心などを参考に）
19 ゼミ論の作成の手順 1	問題提起（自分の関心）の役割
20 ゼミ論の作成の手順 2	第1章以下の構成（起一承一転一結）
21 ゼミ論の作成の手順 3	終わりに（結論と展望）
22 ゼミ論の中間発表 1	発表（3人）
23 ゼミ論の中間発表 2	発表（3人）
24 ゼミ論の中間発表 3	発表（3人）
25 ゼミ論の中間発表 4	発表（3人）
26 個別指導 1	ゼミ論の修正（4人）
27 個別指導 2	ゼミ論の修正（4人）
28 個別指導 3	ゼミ論の修正（4人）
29 個別指導 4	仕上げ指導（最終の加筆修正）
30 ゼミ論の提出	学生全員での意見交換

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			インターンシップ	
担 当 者	キャリアセンター <i>Carrior Center</i>		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

3年生の学生諸君に、夏期休暇中の一定期間、県内外の企業・団体等で実習を行う機会を提供します。企業活動の現場を知るとともに、将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。

■授業の進め方（履修条件等）

「参加者学内選考」→「マッチング（実習先決定）」→「事前指導」→「実習」→「事後指導」の5段階で進みます。形式は、前参加者を集めて「集合研修」並びに担当教員による各学生への「個別指導」の2本立てで行います。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題で評価をします。

■授業の予習・復習

実習先企業等への提出書類、実習先の調査報告、報告書の原稿、報告会のプレゼンテーションなどについては、個別指導を踏まえて、自宅等で作業することを求めます。

■教科書

事前指導時に「講義資料」、実習に行く前に「実習ノート」を配布します。

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	4月 ガイダンス	指導方針の説明、前年度参加者の体験談
2	5月 参加者学内選考	書類・面接による選考
3	5月 マッチング	実習先への提出書類の作成、面接の練習
4	6月 事前指導	ビジネスマナー ①
5	6月 事前指導	ビジネスマナー ②
6	6月 事前指導	ビジネスマナー ③
7	7月 事前指導	グループワーク ① ②
8	7月 事前指導	プレゼンテーション ① ②
9	7月 事前指導	スピーチ 直前指導
10	8月 実習	企業・団体等での実習
11	9月 実習	企業・団体等での実習
12	9月 事後指導	実習内容のふりかえり
13	10月 事後指導	実習報告書の執筆・修正
14	11月 事後指導	実習報告会のプレゼンテーション リハーサル
15	11月 事後指導	実習報告会

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			キャリアデザイン実習	
担 当 者	キャリアセンター <i>Carrior Center</i>		対象学年	3年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

「3週間以内で何が何でも内定をとるぞ」「就職先を決める」というおなじ目標を持つ仲間とチームワークを大事にしながら取り組んでもらう3週間プログラムです。自分により合った職場を選べるよう志向や考えを認識したり、今までしなかった意外な自分が見つかったり、きっと有意義な時間になると思います。

■授業の進め方（履修条件等）

成田空港の内部を見学、求人票の味方企業への取材・コーナ企画制作企業カタログの制作取材に応じて頂いた企業を招いての発表就職エントリーの準備等、企業活動の現場を知るとともに将来の進路決定の一助としてもらうことを目的としています。

■成績評価方法・基準

レポート及びその他の課題で評価をします。

■授業の予習・復習

予習：講師より出題された課題は事前に調べおくこと。
復習：興味業界の場合は一層の業界研究をする。

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

特別なものはありません

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	事前説明会	プログラム履修希望者にプログラム参加における留意点や参加意義などを話します。
2	ガイダンス	プログラムの説明モチベーションアップセミナー
3	成田国際空港見学	成田国際空港へ行き空港第2ビル他見学チーム毎に空港での仕事探し
4	企業取材準備	「求人シート」の作成（企業の立場を理解）企業訪問をして求人に関する取材準備
5	企業取材	チーム毎に直接企業に向向いて取材
6	企業取材	取材終了後、チーム毎に取材報告書作成報告資料をパワーポイントで作成する。
7	プレゼンテーション資料作成	チーム毎に作成資料の点検完成した資料の提出
8	プレゼンテーション準備	発表会前の機会利用しリハーサルを実施リハーサル
9	プレゼンテーション	取材に応じて頂いた企業を招いての発表
10	プレゼンテーション	各チーム毎、メンバー全員が分担して発表
11	就職エントリー準備	エントリー企業の決定
12	就職エントリー準備	履歴書の作成
13	就職エントリー準備	受験対策の指導
14	就職活動	各個人が、エントリー先で就職活動を行う。
15	プログラム終了にあたって	感想文発表エールの交換

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			キャリアデザインⅡ			
担 当 者	キャリアセンター <i>Carrior Center</i>		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

産業界の研究をするためには、各種業界を知る必要があります。業界・業種を知るためには数多くの方法がありますが、業界で営業を経験したことのある方から話を聞くこと重要だと考え、営業管理職経験者を招聘します。業界研究は就職活動の基本です。

■授業の進め方（履修条件等）

外部担当講師による講義となります。業界により異なる営業のシステムを学んでいただきます。厳しい部分と楽しい部分仕事のやりがいを語っていただきます。

■成績評価方法・基準

各界ごとの感想レポートを参考にします。遅刻、途中退出は絶対認めません。

■授業の予習・復習

予習：該当業界の事前研究
復習：興味業界の場合一層の研究

■教科書

プリントを配布

■参考文献

プリントを配布

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の案内
2	機械メーカー	日本精工
3	商社	三菱商事
4	金融<銀行>	みずほ銀行
5	電子機器メーカー	(株) ソニー
6	商社<鉄鋼貿易>	三井物産
7	小売<石油>	出光興産
8	機械メーカー	ノバスシステムズ<半導体装置メーカー>
9	金融<証券>	みずほ銀行インベスター証券<法人営業>
10	食品メーカー	日本ハム
11	商社の鉄鋼ビジネス	丸紅
12	化学メーカー	三井デュボンホリケミカル
13	ファッションアパレル<繊維ビジネス>	元カネボウ興産
14	飲料メーカー	アサヒビール
15	小売<スーパーマーケット>	(株) イトーヨーカ堂

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			日本語教授法Ⅲ			
担 当 者	稲村 すみ代 <i>Sumiyo Inamura</i>		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

第二言語としての日本語を教える場合の方法について、四技能（聞く・話す・読む・書く）別にみた指導のあり方について検討します。各技能について理解した上で、具体的な教え方や教材などを紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語教授法Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。日本語を母語としない人への日本語を教えてみたい人、母語を同じくしない人とのコミュニケーションに関心がある人の受講を歓迎します。

■成績評価方法・基準

授業（態度・提出物・発表）40%
期末試験・期末レポート60%

■授業の予習・復習

予習：教授法Ⅲを受講するまでに、日本語教育について知りえたことを整理しておくこと。
復習：日本語教育実習に進んでいけるよう、実際に日本語教師として教壇に立つことを前提として指導方法をまとめましょう。

■教科書

必要に応じて授業内にプリントを配布

■参考文献

寺田和子（他）『日本語の教え方ABC』アルク
日本語交流基金日本語教授法シリーズ『話すことを教える』『書くことを教える』『読むことを教える』『聞くことを教える』
ひつじ書房

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について、イントロダクション。ラポール形成
2	四技能とは何か①	言語獲得と言語習得。言語能力とは何か
3	四技能とは何か②	第二言語習得と四技能学習
4	書き方の指導①	ひらがなカタカナの指導
5	書き方の指導②	漢字の指導（簡体字・繁体字・日本国字など）
6	書き方の指導③	作文の指導
7	読み方の指導①	「読み」に必要なストラテジー
8	読み方の指導②	初級における「読み方」の指導
9	読み方の指導③	中・上級における「読み方」の指導
10	聞き方の指導①	「聞く」とはどういうことか。音声の基礎
11	聞き方の指導②	初級における「聞き方」の指導
12	聞き方の指導③	中・上級における「聞き方」の指導
13	話し方の指導①	日本語の話しことばの特徴
14	話し方の指導②	初・中・上級における「話し方」の指導
15	総まとめ	四技能の指導の整理、まとめ

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			日本語教授法Ⅲ			
担 当 者	長谷川 頼子 <i>Yoriko Hasegawa</i>		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本語教育の方法について、四技能（聞く・話す・読む・書く）別にみた指導のあり方について検討します。各技能について理解した上で、具体的な教え方や教材などを紹介します。

■授業の進め方（履修条件等）

外国人に日本語を教えてみたい人、コミュニケーションに関心のある学生の受講を歓迎します。日本語教授法Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましいです。

■成績評価方法・基準

授業（態度・提出物）30%、期末試験70%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：これまでに学習した内容を良く復習し、思い出しておくこと。

復習：「自分が教師ならどう教えたいか」と想像しながら、授業内容を整理しましょう。

■教科書

基本的にはプリントを講義時に配布します。

■参考文献

国際交流基金日本語教授法シリーズ『話すことを教える』『読むことを教える』『書くことを教える』『聞くことを教える』
ひつじ書房

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明、イントロダクション
2	四技能とは何か①	子供の言語獲得について
3	四技能とは何か②	外国語における四技能の学習について
4	聞き方の指導①	聞くとはどういうことか
5	聞き方の指導②	初級における「聞き方」の指導
6	聞き方の指導③	中・上級における「聞き方」の指導
7	話し方の指導①	日本語の話すことばの特徴
8	話し方の指導②	初級における「話し方」の指導
9	話し方の指導③	中・上級における「話し方」の指導
10	読み方の指導①	「読み」に必要なストラテジー
11	読み方の指導②	初級における「読み方」の指導
12	読み方の指導③	中・上級における「読み方」の指導
13	書き方の指導①	ひらがな・かたかなの指導について
14	書き方の指導②	漢字の指導について
15	書き方の指導③	作文の指導について

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学			
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻	
科 目 名			日本語教授法Ⅳ			
担 当 者	稲村 すみ代 <i>Sumiyo Inamura</i>		対象学年	3年	単 位	2

■授業のねらいと到達目標

日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだことを基礎として、日本語教育における音声指導・文型指導・読解指導をとりあげ、第二言語教育をさらに詳しく検討していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語学関連の講義（言語学入門、心理言語学、日本語学、日本語教授法）をすでに履修した、または、履修中であること。日本語運用において、十分なレベルの日本語力をもつこと。留学生は、Nテスト1級合格レベル以上が望ましい。

■成績評価方法・基準

授業（態度・提出物・発表）40%

期末試験・期末レポート60%

■授業の予習・復習

予習：これまでに得た言語関連科目の内容を復習し、理解を確かめておくこと。

復習：日本語教育実習へむけて、日本語教師としての力量を確認すること。

■教科書

必要に応じて、プリントを配布する

■参考文献

松崎寛・河野俊之『音声』アルク
田中寛『日本語の教え方ハンドブック』国際語学社
東大外留学生教育センター『直接法で教える日本語』
東京外国語大学出版社

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価についてイントロダクション
2	日本語音声学の基本①	音声器官、音声・音素・音韻・音節・異音
3	日本語音声学の基本②	日本語の母音と子音 他言語との発音対照
4	日本語音声学の基本③	母音と子音 調音点
5	日本語音声学の基本④	外国人学習者の発音の問題点
6	日本語音声学の基本⑤	半母音・特殊拍・拗音
7	日本語音声学の基本⑥	拍（日本語のリズム）イントネーションとアクセント
8	文型積み上げ法による教授法①	日本語文法の整理①
9	文型積み上げ法による教授法②	日本語文法の整理②
10	文型積み上げ法による教授法③	日本語文法の整理③
11	文型積み上げ法による教授法④	日本語文法の整理④
12	文型積み上げ法による教授法⑤	日本語文法の整理⑤
13	読解教育①	日本語文化と読解①
14	読解教育②	日本語言語文化と読解②
15	総まとめ	日本語音声、文法、言語文化の整理

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名			日本語教授法Ⅳ		
担 当 者	長谷川 頼子 Yoriko Hasegawa		対象学年	3年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

日本語教育における音声指導をテーマに取り上げ、日本語の音声に関する知識を体得します。日本語教育でも音声指導は難しいものの1つとされていますが、外国人学習者に対してどのような指導を行ってあげればよいか、授業内で実際に発音練習も行いながら、項目別に詳しく検討していきます。

■授業の進め方（履修条件等）

授業の理解度に関わるので、日本語学関連の講義（言語学入門、心理言語学、日本語学、日本語教授法）をすでに履修したか、履修中であること。

■成績評価方法・基準

授業（態度・提出物）30%、期末試験70%で評価します。

■授業の予習・復習

予習：自分の発音器官、発音の仕方をよく観察しよう。
復習：学習した知識に基づいて、再度発音の仕組みを確認しよう。

■教科書

基本的には講義時に配布するプリントを使用します。

■参考文献

佐々木泰子（編）（2007）「ベーシック日本語教育」ひつじ書房
国際交流基金（2009）「音声を教える」
日本語教授法シリーズ2

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	講義ガイダンス	講義の概要・進め方・評価について説明、イントロダクション
2	基本的用語	発音器官、音素・異音
3	日本語の母音①	日本語の母音の作られ方
4	日本語の母音②	日本語の母音にみられる特徴
5	日本語の母音③	外国人学習者に見られる母音の発音上の問題点
6	日本語の子音①	子音の作られ方、調音点・調音法
7	日本語の子音②	カ、ガ、サ、ザ、タ、ダの子音
8	日本語の子音③	ナ、ハ、バ、パ、マ、ラの子音
9	日本語の子音④	半母音、撥音・促音・拗音・長音
10	日本語の子音⑤	外国人学習者に見られる子音の発音上の問題点
11	日本語の拍・リズム	拍と拍感覚について
12	日本語のアクセント①	アクセントとは何か、アクセントの式と型
13	日本語のアクセント②	外国人学習者に見られるアクセント上の問題点
14	日本語のイントネーション①	イントネーションとは何か
15	日本語のイントネーション②	外国人学習者に見られるイントネーションの問題点

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学		
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻		地域こども教育専攻
科 目 名			日本語教育実習		
担 当 者	長谷川 頼子 Yoriko Hasegawa		対象学年	3年	単 位 2

■授業のねらいと到達目標

日本語教員養成講座の総まとめとして、これまで各自が学んできた日本語及び日本語教育というものを、一人ひとりが体験的に認識することを学習の目的とします。具体的には、初級日本語教科書「みんなの日本語初級Ⅰ本冊」の各課を分担して分析を行い、発表する演習形式で行います。

■授業の進め方（履修条件等）

日本語教員養成講座科目をすべて履修していること。未履修科目を残して先に実習に参加することはできません。また、教員の資格認定に向け、高度な日本語能力が必要です。

■成績評価方法・基準

提出課題、発表内容、発表者への質問などから総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：担当する課の前後を良く分析し、形式的にも揃ったレジュメを作成すること。
復習：各課のつながりを意識し、積極的に質問やコメントなどをすること。

■教科書

スリーエーネットワーク「みんなの日本語初級本冊Ⅰ」

■参考文献

実習内で適宜紹介します。

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	実習ガイダンス	実習生紹介、実習の進め方、発表の方法、教科書について解説
2	模擬発表	「みんなの日本語初級本冊Ⅰ」第4課模擬発表、担当課決め
3	発表①	第5課
4	発表②	第6課
5	発表③	第7課
6	発表④	第8課
7	発表⑤	第9課
8	発表⑥	第10課
9	発表⑦	第11課
10	発表⑧	第12課
11	発表⑨	第13課
12	発表⑩	第14課
13	発表⑪	第15課
14	発表⑫	第16課
15	発表⑬	第17課

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			教職総合演習	
担 当 者	中山 幸夫 Yukio Nakayama		対象学年	2年
			単 位	2

■授業のねらいと到達目標

人類に共通する課題、わが国社会全体に関わる諸課題の複雑性・総合的な性格を理解しつつ、具体的な研究テーマについての分析・検討を進め、「知の総合化」をめざす。併せて、これらのテーマを学校現場（小・中・高校）で児童・生徒が学習できるように教材化の工夫を図ることを目標とする

■授業の進め方（履修条件等）

以下の取り組みを中心に授業を進める。

- ①グループで諸課題に関する研究テーマを設定し、各グループで文献、資料を収集し、テーマについてまとめ、発表する。
- ②文献・資料の収集だけでなく、インターネットを活用した情報の収集および整理、実在の人を介しての情報収集など、見通しを立てたうえでの取り組みを進める。
- ③発表においては、情報機器などを活用した効果的なプレゼンテーションが望まれる。

■成績評価方法・基準

出席（50%）、テーマ発表（30%）、レポート（20%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

グループでの発表準備。

■教科書

使用しない。

■参考文献

上杉賢士著『総合的な学習を楽しむコソー チャータースクールからの示唆―』明治図書
上杉賢士著『総合学習進化論 ―12年間で育てる学力―』明治図書

■授業内容

以下の内容を中心として、演習形式で授業を進めたい。
オリエンテーション＜教職総合演習の目的と授業の進め方＞
今日の課題と研究テーマの準備
研究テーマの設定と内容・方法の検討
（グループ発表の割り当て）
発表に向けての準備（グループ別）
研究テーマの発表と討議（グループ順）
レポート提出

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			教育実践研究	
担 当 者	奈良 明 Akira Nara		対象学年	3年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

教育実習を前に教育者としての心構えを学。学校教育に対する理解を深めるため、学習指導要領の理解、専門性など、教員としての責務、役割等について理解を深める。

■授業の進め方（履修条件等）

中学校学習指導要領解説―総則編を中心教材に、あわせて配付資料等により、実践を意識した理論学習を行う。学校参観はレポートにまとめる。実践に必要な指導方法や技術等は、講義の中で適宜指導する。

■成績評価方法・基準

レポート作成（40点）、定期試験（50点）、参観実習（10点）

■授業の予習・復習

予習：前時の内容を目を通しておく。
復習：授業内容をその都度、整理し、理解しておく。

■教科書

中学校学習指導要領（平成20年9月）解説―総則編
文部科学省

■参考文献

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、現代の教育課題
2	学校教育の条件	学校の教育機能
3	〃	学校の組織、施設、教職員
4	学校の教育活動の展開（教育課程）	教育課程の編成及び実施（基準、法則、一般方針）
5	〃	（道徳、体育、健康）
6	〃	（内容の取り扱いに関する共通の事項）
7	〃	（授業時数等）
8	〃	（指導計画の作成）
9	〃	（体験、問題解決学習）
10	〃	（生徒指導、進路指導）
11	〃	（学習活動、個に応じた指導）
12	〃	（特別支援、帰国生徒、情報教育）
13	〃	（部活動、指導の評価、地域連携）
14	学校の理解	学校参観の意義と方法（事前研修）
15	〃	学校参観実習

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			中学校・高等学校教育実習	中学校・高等学校教育実習
担 当 者	柳原 由美子 Yumiko Yanagihara		対象学年	4年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

実習校での授業の観察・参加・実習を通して、学習指導や教育に関する理論を自ら検証する。併せて、学校教育についての理解を深めながら、学校現場で教師として仕事をしていくための責任ある力量を身に付ける。

■授業の進め方（履修条件等）

余裕をもって教育実習に臨むために、参加者は事前に必要な手続きを済ませ、十分な体調管理と準備の上で実習に臨むことが求められる。実習前の「教育実習直前指導」（4月下旬）、実習終了後の「教育実習報告会」（7月上旬）には必ず出席すること。なお、必要に応じて実習前後に個別指導を行う。

■成績評価方法・基準

教育実習校の実習生評価（50%）、「教育実習直前指導」「教育実習報告会」への出席、教育実習録の内容（50%）を勘案しての総合評価とする。

■授業の予習・復習

十分な事前準備と心構えが求められる。実習後も「付録」としての各行事への出席、教育実習体験記の執筆などが課せられる。

■教科書

敬愛大学教職課程年報「教職への里程」

■参考文献

■授業内容

教室において定期的な授業を行う科目ではない。教育実習開始前の「直前指導」、「実習本体」、「実習後の総括」によって構成される科目である。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			3年次専門研究	
担 当 者	池谷 美佐子 Misako Ikeya		対象学年	3年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

教育の意味、子どもについての理解、教育における人間関係論を学び、「教育とは何か」について、自分なりの教育理念を持てるようになってほしいと思います。それをもとに、後半は小学校教育の実践に結びつく内容を取り上げ、小学校教育についての理解と、実践的な態度や能力を高めていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

課題意識を持って授業に参加することによって、教育とは何かという問いへの関心を高め、学校教育の意義や、子どもの興味・関心を伸ばす授業の大切さを具体的な取り組みを含めて理解していきます。

■成績評価方法・基準

授業における発言、発表、討論への意欲など平常点、模擬授業への取り組み方、レポート等を総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：課題に関する資料の検索と収集

復習：資料の整理

■教科書

デューイ「学校と社会」

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方について説明
2 教育哲学を学ぶ（1）	デューイ「学校と社会」1章の説明と討論
3 教育哲学を学ぶ（2）	デューイ「学校と社会」2章の説明と討論
4 教育哲学を学ぶ（3）	デューイ「学校と社会」3章の説明と討論
5 教育哲学を学ぶ（4）	デューイ「学校と社会」4章の説明と討論
6 教育哲学を学ぶ（5）	デューイ「学校と社会」5章の説明と討論
7 教育哲学を学ぶ（6）	デューイ「学校と社会」6章の説明と討論
8 教育哲学を学ぶ（7）	デューイ「学校と社会」7章の説明と討論
9 教育哲学を学ぶ（8）	デューイ「学校と社会」8章の説明と討論
10 デューイの教育哲学と今日の教育（1）	「学校と社会」をもと現代日本の教育を検証する。
11 デューイの教育哲学と今日の教育（2）	デューイの影響や課題について考える。
12 現代の日本の教育（1）	小学校教育における現状と課題について考える。
13 現代の日本の教育（2）	課題解決に向けての取り組みについて調べる。
14 現代の日本の教育（3）	小学校教育における課題解決に向けての様々な取り組みについて調べる。
15 報告会	現代の小学校教育についての調査・検討したことを報告し、討論する。
16 授業とは何か（1）	インタビュー経験者の体験談をもとに討論し考える。
17 授業とは何か（2）	小学生の実態と授業の在り方考える。
18 授業とは何か（3）	教材の工夫と教材観について考える。
19 授業とは何か（4）	指導案を作る。
20 授業とは何か（5）	授業の進め方考える。
21 授業とは何か（6）	互いの授業の見方について検討し、視点を整理する。
22 模擬授業	国語科低学年の内容の模擬授業と討論
23 模擬授業	国語科高学年の内容の模擬授業と討論
24 模擬授業	算数科低学年の内容の模擬授業と討論
25 模擬授業	算数科中学年の内容の模擬授業と討論
26 模擬授業	算数科高学年の内容の模擬授業と討論
27 模擬授業	社会科の模擬授業と討論
28 模擬授業	理科の模擬授業と討論
29 模擬授業	道徳の模擬授業と討論
30 全体討議	模擬授業から見えた課題や改善点の確認

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名				3年次専門研究
担当者	佐藤 佳子 Keiko Sato		対象学年	3年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

このゼミでは、イギリス児童文学の代表的な作品（こどもの本・絵本）を中心に読んでいきます。英語で読むことで、英語力と読解力、さらに作品の分析力の習得を目指します。特に絵本については、小学校の授業で取り上げられることが多く、小学校の教材としての扱い方についても一緒に検討していきます。後期は、授業中に取り上げた作品について、各自で設定した研究テーマに基づいたレポートを作成します。

■授業の進め方（履修条件等）

作品の輪読と各自の発表を並行してゼミ形式で進めていきます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、発表内容、課題の提出状況などを総合して評価します。

■授業の予習・復習

授業で取り上げる作品は原作（英語）になりますので、配布資料に目を通してきてください。

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期ガイダンス	自己紹介・授業の進め方について
2 イギリス児童文学について	作品と時代背景
3 絵本について	イギリス近代絵本の誕生
4 ルイス・キャロル（1）	「不思議の国のアリス」（前半）
5 ルイス・キャロル（2）	「不思議の国のアリス」（後半）
6 K. グレアム（1）	「たのしい川べ」（前半）
7 K. グレアム（2）	「たのしい川べ」（後半）
8 A.A.ミルン（1）	「くまのプーさん」（前半）
9 A.A.ミルン（2）	「くまのプーさん」（後半）
10 ディズニー作品との比較について	ディズニーのくまのプーさん
11 ピアトリックス・ポッター（1）	「ピーターラビットのおはなし」（前半）
12 ピアトリックス・ポッター（2）	「ピーターラビットのおはなし」（後半）
13 小学校英語と絵本（1）	教材研究
14 小学校英語と絵本（2）	授業と実践例
15 前期まとめ	前期：個別発表
16 後期ガイダンス	授業の進め方について
17 研究テーマについて	テーマの設定・目標
18 レポート作成について	レポートの書き方
19 文献について	資料収集の仕方
20 文献調査（1）	文献リスト例 1
21 文献調査（2）	文献リスト例 2
22 中間報告（1）	グループ発表 1
23 中間報告（2）	グループ発表 2
24 中間報告（3）	グループ発表 3
25 レポート提出	各自のレポート発表
26 詳細報告（1）	個別指導 1
27 詳細報告（2）	個別指導 2
28 詳細報告（3）	個別指導 3
29 詳細報告（4）	個別指導 4
30 後期まとめ	最終レポートの提出

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名				3年次専門研究
担当者	田口 功 Isao Taguchi		対象学年	3年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

前期は、パソコンを用いてMATLABプログラムを作成する。さらに、理科実験装置の検討授業を行います。そこでは、資料の収集も行なう。後期は、ものづくり教育に役立つ教材を開発する。さらに、MATLABを用いシミュレーション練習を行なう。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は、MATLABの基本を理解する。基本事項をマスターしてからプログラムを作成する。資料を見て実験との関連をを検討しながら、理科実験装置の検討を行なう。後期は、ものづくり教育に役立つ教材を開発する。さらに、MATLABを用い、応用としてシミュレーション練習を行なう。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。

■成績評価方法・基準

授業態度、提出物、小試験の3点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：与えられた課題についてよく資料を見て研究をして下さい。

復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

資料を配布します。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方を説明
2 MATLABの基礎知識（1）	MATLABの基本操作、コマンドウィンドウについて
3 MATLABの基礎知識（2）	MATLABによる四則演算、ベクトルと行列の作り方
4 MATLABの基礎知識（3）	MATLABによる四則演算、ベクトルと行列の作り方
5 2次元グラフィックス（1）	関数データの作成と基本的な線グラフの作成
6 2次元グラフィックス（2）	多量のデータの読み込みとグラフの作成
7 3次元グラフィックス（1）	基本的な空間曲線を描く、meshgrid命令の理解
8 数値解析（1）	方程式の数値解法 ニュートン法について
9 モンテカルロ法	円周率πの近似値
10 太陽光電池	太陽光電池の原理をインターネットで調査し、家庭の電源としてどのように使われているかを調査報告する。どのようにしたら教材に使用できるかを検討する。
11 電磁石とは	電磁石作成に対して実験状況を、避けられない、どのようにしたら安全な実験ができるかを電気部品を検討する。磁極の発生と確認、磁極の強さ、実験の難しさを体験する。
12 発電装置	電磁石の応用としての電磁誘導現象を式表示とともに理解する。静電気発電機と電池との関係についても考察する。
13 電流計と電圧計	電流計と電圧計の原理を資料をもとに検討する。
14 計器使用の注意点の検討	電気回路での電圧計、電流計を使用し検討する。さらに、計器自身についても注意点と、なぜか、ということを検討する。
15 レンズ	レンズ使用による光の集束とその基本原理を検討する。作用による基本原理を習得。
16 力	ゴムやばねを用いての力、ニュートンの法則と力
17 ふりこ	振り子の運動を実験装置を用いて作成し、検討する。糸の長さを変えてみる。変位電圧がそのまま使えない理由を調べてみる。資料を収集し、検討する。
18 静電気による発電装置	静電気による発光ダイオード点灯回路作成、トランスの原理を資料をもとに検討する。変流電圧がそのまま使えない理由を調べてみる。資料を収集し、検討する。
19 テンズリリチウム	力の安定性を考えたテンズリリチウムの説明、資料の検討および作成を行なう。
20 レンズによる像の作り方	凸レンズによる光の進み方の実際の実験装置の検討、数式的理解を資料を見ながら検討する。
21 レンズの性質	凸レンズによる光の進み方の数式的理解
22 電子部品について（1）	電子部品（LEDなど）を用いて、フリップフロップ回路を作成してみよう。ほんだやエナメル紙、糊板を用いる。資料をさがしてとにかく作成してみる。
23 電子部品について（2）	電子部品（LEDなど）を用いて、フリップフロップ回路を作成する。回路は多い、動かない場合が多いため、基礎の理解を深めて作成を行なってみよう。どの回路が良いか検討を行なう。
24 風力発電機の作成（1）	市販されている風力発電機を組み立ててみよう。
25 風力発電機の作成（2）	市販されている風力発電機を自分で購入し、風力発電装置を作成してみよう。
26 数値解析（2）	定積分の数値解法について、文献を見て数値解法の方法を調べる。誤差の検討を行なう。グラフ化し、アルゴリズムを再検討する。
27 物体の運動、放物運動	数値解法、放物運動曲線を描くプログラムの作成を行なう。運動の合成をプログラムを通して理解する。
28 3次元グラフィックス（2）	たくさんの空間曲線を描く。3次元グラフも数値解法。地図データを見つけて3次元で書いてみよう。時間をかけもデータを採ることを課題とする。
29 教員の開発（1）	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教員の開発および作成を行なう。資料を探す。
30 教員の開発（2）	理科教育において、問題となっているか、実験しにくい教員の開発および作成を行なう。資料を探す。

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名				3年次専門研究
担 当 者	武内 清 <i>Kiyoshi Takeuchi</i>		対象学年	3年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

現代の子どもと学校の現状を教育社会的に考察し、その在り方を皆で討議する。演習では、文献の購読、グループによる発表、討議、さらに自分たちでデータを集め分析することもしたい。子どもや教育の問題を、その実態をありのままに捉え、その上で、教育や教育実践のあり方を考える。同時に、視野を世界に広げ、比較し、また社会学、心理学、文学に関しても知識を広げ、教育のあり方を考える。

■授業の進め方（履修条件等）

グループでテキストの分担を決め、発表し、討議する。また、各自のテーマに関する発表も行う。

■成績評価方法・基準

演習への積極的参加20%、グループ発表40%、最終レポート40%。

■授業の予習・復習

テキストの文献を読み、A 4、1枚のコメント書き、出席すること。

■教科書

プリントを配布する。

■参考文献

授業時に指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 導入	オリエンテーション
2 教育とは	教育学の視点
3 社会とは	社会学の視点
4 人間とは	心理学の視点
5 学校とは 1	学校の歴史
6 同 2	学校の制度と組織
7 同 3	学校文化
8 同 4	学校のカリキュラムと教科書
9 子ども 1	子どもの発達
10 子ども 2	幼児期の子ども
11 子ども 3	小学校と子ども
12 子ども 4	授業と子ども
13 子ども 5	教師と子ども
14 子ども 6	生徒文化、青年文化
15 教育内容	教科書の内容分析 1
16 カリキュラム	教科書の内容分析 2
17 教育方法 1	教育技術
18 教育方法 2	メディアの使用
19 教育組織 1	学校組織の構造
20 教育組織 2	学校経営の特質
21 教育文化 1	日米比較
22 教育文化 2	日米比較 2
23 教育文化 3	学校風土、学級風土の研究
24 教育文化 4	教育の地域差の研究
25 受験	受験と競争
26 高等教育	小中高と大学の連携
27 大学生	キャンパスライフ
28 進路選択	キャリア教育
29 地域社会	学社連携
30 まとめ	まとめと討議

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名				3年次専門研究
担 当 者	田中 未央 <i>Mio Tanaka</i>		対象学年	3年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

教育評価に関連する心理学的知見を学び、心理検査や質問紙調査の実習を行う。

■授業の進め方（履修条件等）

ゼミ形式で実施する。授業内で実習を行うので、遅刻・欠席は厳禁である。

■成績評価方法・基準

発表（実習の経過報告）・授業態度・レポートによって総合的に評価する。

■授業の予習・復習

予習：与えられたテーマに関する資料収集
復習：授業の内容を整理し、まとめる。

■教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	授業の進め方、授業計画、担当の決定
2 講義①	資料収集の方法について
3 講義②	レポートの書きかた
4 講義③	心理アセスメント
5 講義④	性格検査
6 実習①	質問紙法性格検査
7 実習②	投影法性格検査
8 発表①	性格検査実習に関する報告と討議
9 レポート作成①	性格検査に関するレポート作成
10 講義⑤	知能検査
11 実習③	集団式知能検査
12 実習④	個別式知能検査（1）
13 実習⑤	個別式知能検査（2）
14 発表②	知能検査実習に関する報告と討議
15 レポート作成②	知能検査に関するレポート作成
16 講義⑥	アンケート調査の作成方法について
17 講義⑦	グループ分け、調査テーマの決定
18 アンケート作成①	調査テーマに関する先行研究のレビューを報告（1）
19 アンケート作成②	調査テーマに関する先行研究のレビューを報告（2）
20 アンケート作成③	質問項目の作成（1）項目の収集
21 アンケート作成④	質問項目の作成（2）項目の検討と決定
22 アンケート作成⑤	調査用紙と依頼状の作成
23 講義⑧	データ分析の基礎
24 データ分析①	調査データの集計
25 データ分析②	調査データの分析
26 データ分析③	調査データのまとめと解釈
27 レポート作成③	アンケート調査に関するレポート作成
28 発表②	調査に関する報告会（1）プレゼンテーション実施
29 発表③	調査に関する報告会（2）プレゼンテーション実施
30 まとめ	授業のまとめ

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名			3年次専門研究	
担当者	田村 孝 Takashi Tamura		対象学年	3年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

高校では現代史を十分に学んでいないと思われるので、昭和の初めからの歴史を学ぶこととする。特に現在にもさまざまな影響を与えている「15年戦争（アジア・太平洋戦争）」の原因や経過、また現代社会に及ぼしている影響などについて学ぶ。

■授業の進め方（履修条件等）

歴史に興味のある学生の受講が望ましい。初めに私が概説的な歴史事実を話し、ついでテキストを輪読する形式にしたい。

■成績評価方法・基準

受講の態度とレポートによる。基準はどれぐらい自学自修ができてきているか、積極的に授業に参加したのかによる。

■授業の予習・復習

課題を出した場合は、きちんとレポートを提出する必要がある。また、テキストを事前に読んで来ることが必要である。

■教科書

江口圭一「十五年戦争小史 新版（第2版）」青木書店 2940円。
やや難しいかもしれないが、将来の教師・教養人としてはこれぐらいの書物を読みこなさなければいけない。

■参考文献

そのつど指示する。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	受講上の注意
2 なぜいま十五年戦争が大事なのか	近年のニュースで十五年戦争が現代にも影響を与えている問題を、新聞の切り抜きを用いて、講義する。
3 第1章 大日本帝国	当番学生による内容報告と質疑
4 第2章 十五年戦争の発端	同上
5 第3章 戦線の拡大	同上
6 第4章 上海事変と満州国	同上
7 第5章 排外主義と軍国主義	同上
8 第6章 国際連盟脱退と熱河・河北省侵攻	同上
9 第7章 非常時	同上
10 ロスタイム（アディショナル・タイム）	時間調整（多分ここまで予定どおりに進まないのではないかと思われるので、遅れを取り戻すために予定を空白にしておく）
11 第8章 満州帝国	当番学生による内容報告と質疑
12 第9章 華北分断工作	同上
13 第10章 準戦時体制	同上
14 第11章 日中戦争の全面化	同上
15 第12章 日中戦争の行き詰まり	同上
16 第13章 東亜新秩序と第二次世界大戦	同上
17 第14章 独伊三国同盟	同上
18 第15章 日米交渉	同上
19 第16章 対米英艦隊の決定	同上
20 ロスタイム	第10回と同じ（時間調整）
21 第17章 アジア太平洋戦争（開戦と緒戦の勝利）	当番学生による内容報告と質疑
22 第18章 連合軍の反攻	同上
23 第19章 大東亜共栄圏	同上
24 第20章 中国・満州・朝鮮・台湾	同上
25 第21章 日本ファシズム	同上
26 第22章 戦線の崩壊	同上
27 第23章 ボンタム宣言と原爆投下	同上
28 第24章 降伏	同上
29 おわりに——十五年戦争の加害・被害・責任	同上
30 テキストを読み終わって	自由討論

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名			3年次専門研究	
担当者	畑中 千晶 Chiaki Hatanaka		対象学年	3年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

古典文学作品の精読を通じて、国語科「伝統的な言語文化」の指導に必要な、知識や言語感覚を身につけることが第一のねらいです。また、小学校教員に必要とされる多様な能力の涵養を目指し、実践的な活動も並行して進めていきます。

■授業の進め方（履修条件等）

テキスト輪読（模擬授業を意識したプレゼンテーション）と並行して、学校教育の課題に関する討議（模擬集団討論）や小論文の書き方・模擬授業・場面指導など、教員採用試験対策も視野に入れた実践的な活動に取り組みます。

■成績評価方法・基準

テキスト輪読の際の個人発表（発表資料作成を含む）(50%)、クラス内活動への貢献度 (50%)

■授業の予習・復習

予習：輪読の担当箇所についてレジュメを作成する。
復習：疑問点について調査・考察を行い、次週報告。

■教科書

鈴木日出男/小島孝之/多田一臣/永島弘明（2003）『古典入門 古文解釈の方法と実際』筑摩書房

■参考文献

適宜紹介。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 イントロダクション	自己紹介、ゼミの進め方について
2 イントロダクション	ノートの作成方法（教授対策用）
3 実践演習	教育課題に関するミニ・ディスカッション
4 テキスト輪読と実践演習	『万葉集』第一期・第二期、ミニ・ディスカッション相互批評
5 テキスト輪読と実践演習	『万葉集』第三期・第四期、集団討論でよく出るテーマ
6 テキスト輪読と実践演習	『古今集』、ディスカッションでの言葉遣いと方法論
7 実践演習	グループ・ディスカッション（模擬集団討論）に挑戦
8 テキスト輪読と実践演習	『竹取物語』、小論文でよく出るテーマ
9 テキスト輪読と実践演習	『伊勢物語』、小論文の書き出し
10 テキスト輪読と実践演習	『源氏物語』、小論文執筆
11 テキスト輪読と実践演習	『土佐日記』、小論文相互批評（ピア活動）
12 テキスト輪読と実践演習	『更級日記』、小論文加筆修正
13 テキスト輪読と実践演習	『枕草子』春はあけぼの、小論文執筆
14 テキスト輪読と実践演習	『枕草子』雪のいと高う降りたるを、小論文相互批評（ピア活動）
15 前期まとめ	前期の学習内容をふりかえり、課題を整理する
16 後期ガイダンス	後期の目標を設定する
17 実践演習	グループ・ディスカッション（模擬集団討論）
18 実践演習	学級経営について考える
19 テキスト輪読と実践演習	『新古今集』、模擬授業 1
20 テキスト輪読と実践演習	『平家物語』、模擬授業 2
21 テキスト輪読と実践演習	『方丈記』、模擬授業 3
22 テキスト輪読と実践演習	『徒然草』、模擬授業 4
23 テキスト輪読と実践演習	俳諧、模擬授業 5
24 テキスト輪読と実践演習	『仁鶴物語』、模擬授業 6
25 テキスト輪読と実践演習	『好色一代男』『日本永代蔵』、模擬授業 7
26 テキスト輪読と実践演習	『江戸生艶気権焼』、模擬授業 8
27 実践演習	模擬授業の改善点について討議
28 実践演習	場面指導について
29 実践演習	教育課題に関する討議
30 後期まとめ	後期の学習内容をふりかえり、課題を整理する

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名				3年次専門研究
担 当 者	山本 陽子 Yoko Yamamoto		対象学年	3年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

音楽科教育を中心に、児童の発達段階や適時性、指導の目標や内容、評価などを具体的な音楽を通して学びます。「音楽とは何か」「音楽の何を学ぶのか」という視点から、教育全般についての基本的な理解を深め、小学校教員としての資質を高めることを目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

各自もっている疑問や問題意識を大切にします。特に音楽的な技術は必要ありませんが、自ら進んで取り組む姿勢、あきらめないでやり遂げようとする力を求めます。コードネームによるピアノ伴奏法を継続して練習します。

■成績評価方法・基準

課題に取り組む姿勢、問題解決のための努力などを総合的に評価します。

■授業の予習・復習

既習の概説、指導法などを復習し、疑問や問題を整理します。

■教科書

授業内で指示します。

■参考文献

適宜紹介します。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 オリエンテーション	ゼミの進め方 内容について
2 音楽とは何か①	自分にとっての音楽
3 音楽とは何か②	音楽の発生
4 音楽とは何か③	人と音楽
5 音楽と学び①	音楽から学ぶもの
6 音楽と学び②	音楽で学ぶもの
7 小学校の音楽科教育①	学習指導要領 音楽科の目標
8 小学校の音楽科教育②	年間学習指導計画 題材と教材
9 小学校の音楽科教育③	低学年の学習
10 小学校の音楽科教育④	中学年の学習
11 小学校の音楽科教育⑤	高学年の学習
12 小学校の音楽科教育⑥	題材を選んで
13 小学校の音楽科教育⑦	学習指導案作成①
14 小学校の音楽科教育⑧	学習指導案作成②
15 前期のまとめ	指導の実際 互いに見合って
16 後期オリエンテーション	前期の総括 後期の目標
17 教材研究①	歌唱教材 低学年
18 教材研究②	歌唱教材 中学年
19 教材研究③	歌唱教材 高学年
20 教材研究④	器楽教材 低学年
21 教材研究⑤	器楽教材 中学年
22 教材研究⑥	器楽教材 高学年
23 教材研究⑦	音楽づくり
24 教材研究⑧	鑑賞教材①
25 教材研究⑨	鑑賞教材②
26 教材研究⑩	表現と鑑賞
27 小学校教育①	学校とは
28 小学校教育②	教員の役割
29 小学校教育③	なりたい教師像
30 まとめ	発表

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名				4年次専門研究
担 当 者	池谷 美佐子 Misako Ikeya		対象学年	4年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

初等教育の在り方について理論と実践を通して理解を深め、教師に必要な資質や能力に関心を高め、自身の向上に意欲的に取り組むことができるようになる。現在の小学校教育の現状について自ら関心を持ち、研究を進めることができるようになる。

■授業の進め方（履修条件等）

積極的な態度で課題解決に取り組み、小学校教育の意義や教師という仕事の内容や資質、必要な能力についての認識を高めていけるようにする。

■成績評価方法・基準

課題への取り組み意欲、周囲との積極的な関わりや討論の質的な向上への貢献などの平常点、レポートなどで総合的に評価。

■授業の予習・復習

予習：次時の内容を各自調べてくる。

復習：レポートの作成

■教科書

配布資料

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	授業の進め方について説明
2 教育実習事前指導	小学校の一日の流れについて
3 教育実習事前指導	小学校の教職員の仕事について
4 教育実習事前指導	学級担任の仕事についての理解
5 教育実習事前指導	人権教育についての解説
6 教員採用試験に向けて	教職教養についての復習と質疑
7 教員採用試験に向けて	一般教養についての復習と質疑
8 教員採用試験に向けて	小学校全科（国語・社会）の復習と質疑
9 教員採用試験に向けて	小学校全科（算数・理科）の復習と質疑
10 教員採用試験に向けて	小学校全科（生・音・図・家・体）の復習と質疑
11 教員採用試験に向けて	模擬授業用の指導案についての検討
12 教員採用試験に向けて	大学生活 4年間の活動の分析と整理
13 教員採用試験に向けて	求められる教師像についての理解
14 教員採用試験に向けて	小論文練習
15 教員採用試験に向けて	面接練習
16 教育課題研究	小学校の今日的課題についての検討
17 教育課題研究	児童の学習意欲について+
18 教育課題研究	児童の体力低下について
19 教育課題研究	学校と保護者のかかわりについて
20 教育課題研究	学校と地域のかかわりについて
21 教育課題研究	教師の心身の健康について
22 論文の書き方	課題をとらえ、計画を立てる
23 論文の書き方	調査・研究の進め方
24 論文・レポートの作成	各自のテーマと方針を検討
25 論文・レポートの作成	個別指導
26 論文・レポート作成	個別指導
27 論文・レポート作成	個別指導
28 論文・レポート報告会	発表と討論、修正点の確認
29 論文・レポート報告会	発表と討論、修正点の確認
30 卒論、レポート提出	提出と感想の発表

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			4 年次専門研究	
担 当 者	越川 浩明 Hiroaki Koshikawa		対象学年	4 年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

前期は教育実習を目指して教育の理論と現実について全般的に学ぶ授業を行います。後期は指定したテキストを中心に算数授業のやり方を研究していきます。このことを通して自ら課題を持ち研究をする態度が得られることを到達目標とします。

■授業の進め方（履修条件等）

前期は教育実習が多いため課題を各自レポートにまとめ発表するゼミ形式で進めます。後期は指定の教科書に沿って模擬授業を行ってまいります。

■成績評価方法・基準

出席状況、発表回数、レポート、模擬授業の4点により総合評価します。

■授業の予習・復習

予習：与えられた課題や模擬授業のテーマについて良く研究をして下さい。

復習：授業中に指摘された事柄などについて良く復習して下さい。

■教科書

前期はプリントを配布し教科書不使用。
後期は坪田耕三著、坪田式算数授業シリーズ③算数楽しくオープンエンド、2006年5月、教育出版。

■参考文献

文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」、2008年8月、東洋館出版社。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期ガイダンス	ゼミ内容と進め方について
2 教育の理論と現実	教育の理論と現実について学ぶ
3 教育実習事前指導（1）	心構え、指導案作成
4 教育実習事前指導（2）	板書練習、指導案作成
5 教育実習事前指導（3）	模擬授業と相互批評
6 教育実習事前指導（4）	模擬授業の反省点を生かした指導案作成
7 教員採用試験に向けて（1）	一般教養（弱点克服）
8 教員採用試験に向けて（2）	教職教養（弱点克服）
9 教員採用試験に向けて（3）	小学校全科（弱点克服）
10 教員採用試験に向けて（4）	模擬授業用の指導案作成
11 教員採用試験に向けて（5）	模擬授業実践と改良
12 教員採用試験に向けて（6）	自己分析と面接練習
13 教員採用試験に向けて（7）	小論文練習
14 教育実習事後指導（1）	実習記録を踏まえ、自己分析
15 教育実習事後指導（2）	実習内容を生かした小論文作成
16 後期ガイダンス	ゼミ内容と進め方、発表担当の決定
17 オープンエンド・マスとは	算数授業におけるオープンエンド・アプローチについて
18 オープンエンドの問題の作り方	6種類の作り方について
19 逆の問題	数と計算の例、分数の例
20 条件不足の問題	足し算と平均の例
21 構成活動的な問題 1	タングラムとコンパスを使った例
22 構成活動的な問題 2	立体図形の例
23 関係や法則を見つける問題 1	動き詰り問題
24 関係や法則を見つける問題 2	体積・整数の見方
25 分類の問題 1	式の感覚を磨く例
26 分類の問題 2	図形の感覚を磨く例
27 数値化の問題 1	ゲームを使った問題例 1
28 数値化の問題 2	ゲームを使った問題例 2
29 まとめ 1	レポート発表 1
30 まとめ 2	レポート発表 2

シ
ラ
バ
ス

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名			4 年次専門研究	
担 当 者	佐藤 佳子 Keiko Sato		対象学年	4 年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

このゼミでは、小学校英語教育について、これまでの背景と現状をしっかりとらえたうえで、今後のあり方・課題について検討していきます。前期は、教育実習に向けての事前指導を中心にいきます。後期は、各自の実習の体験をもとに、さらに英語の授業についての理解を深めることを目的とします。各自で英語教育についての研究テーマを設定し、最終的にはレポートを完成を目指します。

■授業の進め方（履修条件等）

各自の発表を中心としたゼミ形式で進めていきます。

■成績評価方法・基準

授業への積極的な参加、発表内容、課題の提出状況などを総合して評価します。

■授業の予習・復習

予習：各自で資料収集し、課題（テーマ）を探す。

復習：文献リストの作成・レポート作成。

■教科書

必要に応じて適宜資料を配布します。

■参考文献

■授業内容

授業項目	授業内容
1 前期ガイダンス	ゼミの進め方について
2 教育実習に向けて	教育の理論と現実について
3 教育実習事前指導（1）	指導案作成①
4 教育実習事前指導（2）	指導案作成②
5 教育実習事前指導（3）	模擬授業①
6 教育実習事前指導（4）	模擬授業②
7 教育実習事前指導（5）	模擬授業③
8 外国語活動の教材研究（1）	目標について
9 外国語活動の教材研究（2）	タスクの設定
10 外国語活動の教材研究（3）	反省点・今後の目標
11 教育実習事後指導（1）	教育実習のまとめ
12 教育実習事後指導（2）	教育実習のまとめ
13 教育実習報告	前期実習体験者による発表（前半）
14 教育実習報告	前期実習体験者による発表（後半）
15 前期まとめ	夏季休暇中の課題について
16 後期ガイダンス	ゼミの進め方・後期の目標について
17 研究テーマについて	テーマの設定
18 レポート作成について	レポートの書き方についての確認
19 文献について	資料収集の仕方
20 文献調査（1）	文献リスト例1
21 文献調査（2）	文献リスト例2
22 中間報告（1）	グループ発表（1）
23 中間報告（2）	グループ発表（2）
24 中間報告（3）	グループ発表（3）
25 レポート提出	各自のレポート発表
26 詳細報告（1）	個別指導
27 詳細報告（2）	個別指導
28 詳細報告（3）	個別指導
29 詳細報告（4）	個別指導
30 後期まとめ	最終レポートの提出

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名			4年次専門研究	
担当者	武内 清 Kiyoshi Takeuchi		対象学年	4年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

卒業に向けて、教員としてまた社会人としての資質を高める。

■授業の進め方（履修条件等）

①教育実習に役立つ知識、技術の習得、②教員採用試験に向けた一般教養、教職教養、教科の知識の習得並びにプレゼン能力の向上、③自分の問題意識に基づく研究テーマの設定、資料の蒐集、ゼミ論文の作成

■成績評価方法・基準

討議への参加20%、模擬授業20%、ゼミ論文発表20%、ゼミ論40%。

■授業の予習・復習

毎時間、予習、復習を行うこと。特に、発表前の予習は重要。

■教科書

授業時に指示。

■参考文献

授業時に指示。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 教育実習の準備 1	教育実習に必要な知識、技術の確認
2 同 2	教育実習の模擬授業 1
3 同 3	同 2
4 同 4	同 3
5 一般教養 1	国語領域（漢字、文学、評論）
6 一般教養 2	社会領域（歴史、政治、経済、社会）
7 一般教養 3	理数領域（数学、理科）
8 教職教養 1	法律関係
9 教職教養 2	教育思想
10 教職教養 3	学校経営関係
11 教職教養 4	教師－子ども関係
12 教職教養 5	教育改革
13 プレゼン能力 1	資料の蒐集の方法
14 プレゼン能力 2	資料のまとめ方
15 プレゼン能力 3	プレゼンの方法
16 プレゼン能力 4	模擬 1
17 プレゼン能力 5	模擬 2
18 自分の研究 1	問題意識
19 自分の研究 2	テーマの設定
20 自分の研究 3	資料の蒐集
21 自分の研究 4	論理的展開（章構成の方法）
22 自分の研究 5	発表 1
23 自分の研究 6	発表 2
24 自分の研究 7	発表 3
25 自分の研究 8	発表 4
26 自分の研究 9	発表 5
27 自分の研究 10	発表 6
28 自分の研究 11	発表 7
29 自分の研究 12	発表 8
30 まとめ	教育と教職についての議論

年度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科目名			4年次専門研究	
担当者	山口 政之 Masayuki Yamaguchi		対象学年	4年
			単位	4

■授業のねらいと到達目標

このゼミでは魅力ある授業づくりのための諸準備として、学習指導要領の解釈や指導案の作成、模擬授業等を行います。国語科の授業における原理や方法について、具体的な実践例を検討しながら、理論について考察を深め、具体的な実践方法を考察し、学習支援の方法を理解していくようにします。

■授業の進め方（履修条件等）

国語科の各領域ごとに課題を設定し、授業づくりを行います。その際、実践記録を読み、国語科授業の実際を知ることを重視します。そこから授業の原理や方法を考察し、子供に対する学習支援の方法を議論していきます。

■成績評価方法・基準

提出された指導案、出席の状況、課題への取り組み、発言等をふまえて総合的に評価します。

■授業の予習・復習

予習：課題に関する文献や資料を収集し、読み込んでおきます。復習：領域毎にレポートを作成します。

■教科書

『小学校学習指導要領解説国語編』

■参考文献

授業の中で適宜紹介していく。

■授業内容

授業項目	授業内容
1 ガイダンス	教材研究と模擬授業による演習を中心とした1年間のゼミの進め方を理解し、参観の予定や発表の順番等を定める。
2 話すこと・書くこと①	学習指導要領に示された指導内容の系統
3 話すこと・書くこと②	教材研究、2年「きき方名人になるう」6年「バネルディスカッション」
4 話すこと・書くこと③	指導案の作成（本時の展開を重点的に）
5 話すこと・書くこと④	模擬授業（導入を中心に）
6 書くこと①	学習指導要領に示された指導内容の系統
7 書くこと②	授業展開例から学ぶ
8 書くこと③	教材研究、1年「めいじで」じこしようかいしよう」5年「コラムを書こう」
9 書くこと④	指導案の作成（単元の指導計画を重点的に）
10 書くこと⑤	模擬授業（記述中の学習支援を中心に）
11 読むこと①	学習指導要領に示された指導内容の系統
12 読むこと②	教材研究、2年「さげがおおくなるまで」4年「花を見つける手がかり」
13 読むこと③	指導案の作成（教材観を重点的に）
14 読むこと④	模擬授業（読み取りの場面を中心に）
15 読むこと⑤	学習指導要領に示された指導内容の系統
16 読むこと⑥	教材研究、3年「わすれられないおくりもの」5年「雪わたり」
17 読むこと⑦	指導案の作成（教材観を重点的に）
18 読むこと⑧	模擬授業（音読と鑑賞を中心に）
19 伝統的な言語文化に関する事項①	指導内容の系統、教材研究、4年「故事成語」
20 伝統的な言語文化に関する事項②	指導案の作成（中学との連携を重点的に）
21 伝統的な言語文化に関する事項③	模擬授業（音読指導を中心に）
22 言葉の特徴やきまりに関する事項①	指導内容の系統、教材研究、5年「和語・漢語・外来語」
23 言葉の特徴やきまりに関する事項②	指導案の作成（とりたて型の指導）
24 読書指導①	学習指導要領に示された指導内容の系統
25 読書指導②	授業展開例から学ぶ
26 読書指導③	公立図書館が行っているブックトークを参観する
27 読書指導④	教材研究、1年「おはなし どうぶつえん」をつくらう」と4年「本の世界を広げよう」（世界の民話）
28 校内研修の実際①	組織的な研修のあり方を先進校の取り組みから学ぶ
29 校内研修の実際②	研修の方針を受けた学級経営のあり方を考える
30 校内研修の実際③	公開研究会に参加し、理論と実践の関係を考える

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名				教育実践研究（事前・事後指導）
担 当 者	山口 政之 Masayuki Yamaguchi		対象学年	3年
			単 位	1

■授業のねらいと到達目標

教育実習では授業を行うだけでなく、休み時間には子供と遊び、放課後には担任の先生の仕事の手伝いをし、自分の授業の準備をします。子供と指導教諭から謙虚に学ぶという心構えと具体的な行動・判断の仕方を学んでください。あなたの教師としての資質・人間性が総合的に問われています。

■授業の進め方（履修条件等）

この授業では学生を教育実習生と見做します。資料に基づいてグループで話し合ったり、意見交換をしたりします。実習生ですから、無遅刻無欠席を求めますし、飲食・携帯操作は厳禁です。

■成績評価方法・基準

課題への取り組み、発言、定期試験等をふまえ総合的に評価します。遅刻・熟睡は大きく減点し、ガイダンスの欠席者は履修放棄とみなします。

■授業の予習・復習

予習：新聞を読み、教育関連の話題には意見が言えるようにしておく。

復習：資料やノートを読み返し、授業内容の理解に努める。

■教科書

授業中、適宜印刷物を配布します。

■参考文献

灰谷健次郎『兎の眼』角川文庫

■授業内容

	授業項目	授業内容
1	ガイダンス（欠席者は履修不可）	教育実習で何を学ぶのか（立場やマナー等の理解）
2	発問と机間指導	国語の模擬授業を通して教師の役割を理解する
3	机間指導と指名計画	算数の模擬授業を通して教師の役割を理解する
4	自己紹介	自分の長所を端的に表現し子供の心をつかむ
5	児童理解のために①	教室で花瓶が割れた時、嘔吐があった時等の対応
6	児童理解のために②	放課後の備品から（机、ロッカー、靴箱から）
7	指導案	指導案作成上の留意点
8	生活指導の実際	授業以外の場面で教師はどんな指導をしているのか
9	実習記録簿の書き方①	記録簿の役割と記載事項を理解する
10	実習記録簿の書き方②	日々の実践記録として実践場面を描写し考察する
11	4年生4月・教育実習の事前指導	教育実習に関する事務的な手続きを確認する
12	4月・実習期間中の教科指導の教材研究	実習先の年間指導計画から、自分が担当する教科の単元を把握し、教材研究を進める
13	5月・精練指導案の作成	学級の児童の実態を踏まえて指導案を作成し、指導を受ける
14	6月・教育実習報告会	教員採用試験の前に、教育実習で把握した課題や、仕事へのやりがい等を報告する会に参加する
15	7月・教育実習記録簿提出と面談	実習校より記録簿が返却されたら、すみやかにゼミ担当に実習の報告をする

年 度	11・12年度入学		09・10年度入学	
区 分	国際学科	こども学科	国際学専攻	地域こども教育専攻
科 目 名				教育実習
担 当 者	池谷 美佐子 Misako Ikeya		対象学年	4年
			単 位	4

■授業のねらいと到達目標

教育実習は大学で履修し、学んだ、教育に関する科目・教職に関する科目・専門に関する科目等、すべての集大成として行うものです。小学校での実習を通して、初等教育全般への理解を深め、教師としての資質を確かめる貴重な経験となります。年度の初めに「教職ガイダンス」、実習後に「教育実習報告会」を行うほか、4年次専門研究で事前・事後の指導を行います。

■授業の進め方（履修条件等）

教職の意義に関する科目、教育の基礎理論に関する科目、教育課程及び指導法に関する科目、生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目、総合演習などの所定の単位を一定以上の成績で取得し、教職課程委員会より教育実習を認められることが条件です。

■成績評価方法・基準

教育実習校の評価、実習記録簿、大学における報告会、事前・事後指導への参加、レポート等を総合して評価します。

■授業の予習・復習

予習：実習中は翌日の教材研究や教育活動の準備を確実に行う。
復習：実習記録簿は毎日、その日のうちに必ず書き、実習の反省を行う。

■教科書

参考資料プリントを配布

■参考文献

必要に応じて紹介

■授業内容

教育実習事前指導参加。教育実習説明会参加。教育実習校との連絡。実習校での4週間の教育実習。教育実習事後指導参加。教育実習簿の作成・提出。教育実習報告会参加。レポート作成。